

平成十五年三月  
津山郷土博物館紀要第十六号

天明六年（一七八六）  
天明七年（一七八七）

# 津山松平藩町奉行日記 十一

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 十一

# 目次

町奉行御用日記 天明六年 後藤守助

同 七年 後藤守助

69  
}

150

1  
}

67

# 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」天明六年および同七年を収録した。  
一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 噁あつかう 歟か 喧嘩けんか 音物いんもつ 稠敷ちひしく 又候またぞろ 風ふと 風おろし 舩せがれ 鹿そ 持かせぐ 糶こうじ 綺いろう

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

右（より）、メ（して）、ト（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（ゞ）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていない文字を記してあるものは、その箇所に○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は尾島治が担当した。

天明六丙午年 正月ヨリ  
十二月迄

御用日記

三十九 後藤守助

(表紙)

正月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

玉置源五兵衛

御年寄小須賀一学殿

大御目付田中八郎左衛門

朔日卯ノ中刻登城 雪五寸計 日蝕九歩午ノ初刻カ  
かけはしめ非音既

一 於桜ノ間御帳付畢而松ノ間於御縁側御家老丹後殿御受礼御年寄衆

大目付御出席也御用所江も相揃罷出御祝儀述之

一 若殿様江植木左士を以御祝義申上候

正月二日 晴 登城但四時

一 御用初御祝儀御酒御吸物於七間廊下日参御役人被下置之候大目付

八郎左衛門挨拶畢而御礼之儀ハ大目付中へ申述ル

一 町奉行勘定奉行郡代御藏奉行御金奉行御作事奉行御用所へ罷出御

用初御祝申上ル御用番中へ町方御静謐之段申上ル

一 旧臘晦日到来先触之伏見宮御使者通行ニ付取計佐用駟承合尚又今夜勝間田駅止宿之義同所承合候処粗御代官衆通行例ニ相聞其段郡代中江も通用之上一学殿へ相窺大目付江も達候

一 大年寄札元諸吟味年頭為祝儀対面孟遣ス

正月三日 晴

一 伏見宮様内西村主殿与申仁通行雲州松江へ使者相勤候由御用之由長持式棹繼駕籠鎗上下七人計同心組兩人先払保頭先ニ立長持先払ニ青竹杖突式人宿々宿迄出候村々庄屋案内八人つゝ人足出候間屋継人足四十人計賃錢ハ半払之由相濟御届申上候

一 大年寄三人江為年礼廻勤尤申込

一 御藏米五拾六匁町米五拾式匁

正月四日 晴

一 御藏米五拾五匁町米五拾壹匁

一 小川喜右衛門儀用事相濟帰申度伺出一学殿へ相窺候処勝手次第被仰聞其旨申渡候

正月五日

一 小川喜右衛門出立之旨届出候 同八日一学殿江御届申達大目付同断

一 乃井野福居市郎左衛門津田与一左衛門白棚与一年頭祝書并去歳中

錢相場書之儀申来調遣ス

一 坪井陣屋草野六左衛門方年頭祝書到来

正月六日 晴

一 町々年寄共年礼請之小頭部屋目付相詰ル大年寄諸吟味同断間屋大保頭目明是又謁候

正月七日 昨夜夕雪六寸余

一西川斎藤六藏田中兼左衛門方祝書到来

一去ル二日夜徳守宮散錢櫃之錠前を捻切り米錢盜取候由材木町甚右衛門借家三之丞与申者之由昨夜同心組兩人目明差添町内へ入込逐吟味候処及白状先手鎖懸預置候其段一学殿へ御届申達大目付同断一惣而御条目通相守猶又来ル十四日十五日左儀長はやし今已上川を隔候様町触出候

正月八日 雪 登城

一祇園三位御祈禱札上申度藏合孫左衛門伺出大目付中へ達御門通行之義中奥目付へ通用今日孫左衛門持参相収候

一来ル十六日町医大年寄札元諸吟味御藏元御用所謂之儀書付ヲ以同候大目付士へも達御門通行之儀中奥目付士へ覃通意候

一御藏米五拾四匁町米五十目

一安岡町年寄扇屋兵助病身ニ付役免願差出承届ル

正月九日 晴

一新魚町市右衛門桶屋町布屋喜八手鎖追込指免候其段御用番中へ御届申達大目付同断

一材木町甚右衛門借屋三之丞召出遂吟味候徳守宮斎錢盜取候義相違無之牢舍申付候是又御用番中へ御届申達大目付士同断

正月十日 晴

正月十一日 晴

正月十二日 晴 登城

一如恒例大般若御祈禱ニ付相詰ル畢而御用所江罷出恐悦申上候御札

御供物頂戴

正月十三日 昨夜夕雪昼方晴 登城

一去ル十日玉置源五兵衛実父三津屋和友相果忌中引込月番斎藤孫右衛門勤ル源五兵衛忌中引込之儀御用番中江御沙汰申上置候

一当年人别改之儀惣町へ相達先格之通取計候様申付ル四月中旬帳面出来差出請取置候

一愛宕坊使僧正元坊上下式人旦廻宿二階町堺屋伊右衛門宿切手出ス  
一勝山渡辺仲方年頭祝書到来覃相答候

正月十四日 晴

正月十五日 晴

正月十六日 五半時登城 晴

一御具足御祝儀ニ付諸士登城当役宇治橋ニおいて頂戴御祝儀後大年寄札元医師御用所被謁左之通

松之間御縁側北向東筆頭並居  
入口外東大目付西町奉行御家老  
御年寄出席ニ而被謁年頭御祝儀  
申上候段取合不及名披露

醫師

岩佐孝順

中嶋宗元

阿部周益

大年寄

藏合孫左衛門

斎藤孫右衛門

茂渡莊右衛門

山本与市

茂渡藤右衛門

川口藤左衛門

中口東向北筆頭鍵ノ手ニ並居  
銀鷲ノ間敷居外入口町奉行  
御家老御年寄中出席ニ而  
之謁名披露役名ニ不及年頭  
御祝儀申上候段取合候相濟御用  
所御障子之内へ入座其跡へ  
諸吟味是又名披露相濟  
為引取直御退出也  
但大目付ハ銀鷲ノ間敷居内南入口  
同所外郡代町役人相濟大庄屋共

札元

南ノ筆頭ニ並居取計同斷

見習

山本平右衛門

玉置三四郎

玉置源五兵衛武田七郎兵衛玉置卯左衛門妹尾平兵衛三船八郎右衛門植月孫四郎姫路屋彦兵衛熊野屋文五郎右八人不参ニ付書付御用所并大目付士へも差出

一 大年寄三人歳末御祝義御肴一種ツ、差上披露相濟候段江戸御奏者中返輪到来其段申渡ス

一 町方夜廻御家中非人加廻之儀旧臘相窺申付置候処盗人沙汰も無之ニ付差免候様相伺申付ル大目付士ニも達候

一來ル十八日廿八日倉鋪ニ万人講有之由市郷申諫之上下方不参候様触達義伺申付ル

一 例年之通組中牢屋三軒屋年頭為祝義盃遣候事

正月十七日 薄雪

正月十八日 雪 登城

御用向無之候

正月十九日 晴

一 昨十八日英田郡倉敷村において船頭町福本屋升五郎細井重郎右衛門養父兵治儀先年蟄居被仰付候後飯岡村後藤伴左衛門方へ病氣為養生罷越居候処右升五郎兵治与及刃傷兩人共手負候由目明忠助申出一学殿へ罷越右之趣申上取計之儀相窺候処今七時過差凶有之用意申付置候ニ付同心組四人福田甚藏中村善次竹内兵助室井新平差向双方共無事故相渡候ハ、請取可来申渡遣候然ル処細井重郎右衛門父兵治為見廻罷越度御断相濟候由大目付田中八郎左衛門方被申

聞猶又船頭町升五郎組合年寄為迎差越候組四人兩具持忝人路用銀等相渡候

正月廿日 晴

一 御藏米五十三匁町米四拾九匁

一 船頭町年寄共右申越候ハ細井兵治与升五郎内濟致双方無申分親類共方へ引分レ候由因是升五郎為尋杉本那次中山金藏非人兩人差添召捕候様申含遣ス尤一学殿へ其段申上候大目付士へも達候兩具持忝人路用相渡ス

正月廿一日 晴

一 昨夜船頭町年寄組合罷帰年寄藤右衛門申出候ハ海内領猪臥村義右衛門と申者升五郎親類之由にて此者方引退候様相聞則藤右衛門組合銀兵衛罷越義右衛門へ相尋候処十九日晚方ニ参候得共喧嘩之様子も「手負と相見候ニ付差留不申候処路銀貸呉候様申候故銀札少々取替遣候而昨廿日朝義右衛門方を立出候由義右衛門申聞候ニ付段々及理談候得共右之通相違無之旨申ニ付相違無之一札相認させ取帰候由一札差出候然ル処義右衛門方ニ隱シ置候事無覺束依之預り組之内野田敷右衛門見定伝治義右衛門方ニ隱置候段心懸ニ付詮議之事申含海内役所へ添翰認遣ス兩具持忝人路用相渡右之趣一学殿へ相窺候処尤ニ見え候大目付士へも達候

一 暮六時過福田甚藏中村善次竹内兵助室井新平四人罷越候処尋不当ニ付猶又甚藏新平申付倉敷へ差向升五郎召捕候様申付路用銀兩具持相渡一学殿へ申上大目付士へも達候 戌刻差立ル

一 細井兵治義飯岡村ニ隠れ居候趣為聞候得共難相知趣一学殿へ申上

候処猶又同心組差向忍ひを入後有所相知候ハ、愈々可致註進候様被仰付目明なと差添遣候中村善次竹内兵助差向路用雨具持彦人渡

正月廿二日 晴

子刻差立ル

一 升五郎儀倉敷川半道計下ニ而細井重郎右衛門手先ニ而討留候御徒目付河村市兵衛下目付彦人為檢使差向当役方同心組三船孫八差向見分為濟候ハ、升五郎組方年寄遣請取帰候様被仰渡其段取計候  
一 升五郎父新右衛門并同人女房升五郎女房三人とも手鎖預ケ申付ル組合ハ死骸受取ニ遣候ニ付町内他組預候一学殿へ御届申達大目付士同断

一 今夜中不残差出候組罷帰候

正月廿三日 晴 登城

一 勝田郡湯郷村へ致出役候同心組三船孫八方小頭へ来状乃井野役所へ一件訴出候ニ付差図之上可相渡申ニ付手間取候旨申来ル

一 乃井野御預り所役人中方勘定奉行中拙者名宛ニ而来状細井重郎右衛門岩田甚右衛門湯郷村地内において当町升五郎を討留候由村役人方訴出依之今朝役人右場所へ差向候間此方方も役人差出候様申来栗田唯士方一学殿へ被相窺候処拙者方及返翰可然思召候段御同人方被仰聞即刻及返書候大意徒目付河村市兵衛已下役人共差向置候ニ付此者共へ御談御取計被下度旨及返答候但来状印判ニ而来猶又印判ニ而返書遣ス

一 旧臘中町方生死人別出入書上左之通

出生十式人男七人女五人別入六人人別除彦人死失九人差引而八人増懐胎五人

一 細井兵治有所未知此儘ニ而も如何ニ付同心組彦人聞合ニ差出候様一学殿方被仰聞大目付士へも申談候上中村善次へ申付雨具持彦人路銀為渡候翌廿四日聞合帰候ニ付委細一学殿申上候

正月廿四日 晴

一 今夕五時於湯郷村升五郎檢使相濟同心組三船孫八引取同刻升五郎死骸其組合年寄共請取帰候死骸取捨之儀一学殿へ相窺候処思召無御座候旨組合年寄共取捨之儀申付候及深更取捨候段届出候尤葬ト申筋ニも無之候湯郷へ乃井野出役人左之通取計代官之四一武左衛門并手代塚田和乎太右武左衛門へ御徒目付河村市兵衛懸ケ合今九半時於其場立会見分有之細井重郎左衛門并岩田甚右衛門方一札取之候由年寄組合一札是又差出然ル処親類不罷出候ニ付帰着之上諸親類申分無之一札同村莊屋へ可差出申聞其内孫八方武左衛門宛ニ及び書付相渡帰る右之趣一学殿御届申上候大目付士同断

正月廿五日 晴

一 御蔵米五拾式匁町米四拾八匁

一 伏見宮様御使者西村主殿雲州松江へ先日被差越候処向方相濟帰京昨夜坪井之駅泊ニ而今日御当地通行此間先触状到来ニ付取計先日之通伺置候ニ付去ル三日之通取計申付ル先弘甚蔵金蔵四時無滞通行相濟兩様方へ御届申達候

一 橋本町綿屋善兵衛当国土屋能登守殿領田熊村へ出職致罷有候処罷帰猶又来ル申ノ才迄三ヶ年出職相願承ル

正月廿六日 晴

正月廿七日 晴

一 田安中納言様御後室宝蓮院様御病氣之処去ル十三日御逝去被成因是今日方来ル廿九日迄三日之内鳴物高声御停止尤普請者不苦候旨御触書到来町中并組中牢屋三軒屋高石垣番江も相触ル

一 播州福沢村似札懸合武八弟其七儀似札板元文珠院備中足守辺罷有由昨日訴出候処相糺ニ可申出申渡置候ニ付後文珠院備中ニ居候ハ、召捕ニ差向可申様勘定奉行へも相談候上御用番一学殿へ相窺年番ニ申付置候

正月廿八日 晴 登城

一 御藏米五拾壹匁町米四拾七匁

一 吹屋町作人喜平次役介いよ去ル廿五日七月振女子出生然ル処月足不申候虚弱ニ而同夕相果候ニ付吟味申付候処紛敷義無之一札取差出今日一学殿へ差出候処聞届候様被仰出候

一 安岡町北側ニ而久米屋岩吉家屋敷表口壹間半裏行拾四間但式歩五厘役也五人組相談候上町内福輪屋伊助へ代銀六拾匁ニ売渡願出承届候事二月十三日売券状差出ス

一 去ル廿五日夜材木町本琳寺長屋ニ而紛失物有之書付寺社取次中右被相廻吟味之事目明へ先申付ル

一 昨日其七罷婦備中阿蘇ト申処ニ而文珠院事承合候処旧臘廿六日備前札似せ候ニ付岡山へ被召捕津山銀札板行も所持有之候処備前へ一緒ニ取帰候由ニ相聞今日其段申上尚又備前之事聞合ニ目明忠助

差越候様伺之上申付ル

一 西々条郡吉原村重藏与申者持牛西今町鳥羽屋源次郎店先ニ而病死取捨度旨相伺勝手次第ニ申付尤重藏申分無之候一札取差出披見之

上差下ル

正月廿九日 晴

博奕止ル  
同年三月廿四日五十日  
ニ付差免ス

(挿入紙)

二月 御月番

一 御家老安藤丹後殿御年寄本多左門殿大御目付平井郷左衛門

月番大年寄

斎藤孫右衛門

朔日 晴

二月二日 晴

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜左衛門半兵衛善助小作二階町堺屋伊右衛門宿切手

三月三日

晴

朝之内雪みそれ登城

一 備前へ差越候目明忠助昨日罷婦候処文珠院備前へ被召捕候義相違之趣申出尚又今日左門殿へも及御噂候

二月四日

雪みそれ昼方晴

二月五日 晴

一 安岡町岡崎屋善吉博奕咎之儀先達而窺置候処御差図有之今日呼出手鎖懸追込過料五貫文申付候立合例之通相濟左門殿へ御届申候大

目付同断

一 当春別而風立候ニ付火之元甚無心元此節陽氣ニ向候ニ付町方火之用心入念小借家等大家々随分心付候様可申付旨孫右衛門へ申渡候

二月六日 晴

一 勝間田町南側高野屋伊介家屋敷表口三間裏行拾七間但本役也五人組相談之上代銀札三百式十匁ニ相究新職人町松屋伊介へ売渡申度相願承届候同十日売券状差出ス

一 堺町北側関屋喜八家屋敷表口式間半裏行拾式間半但壹歩六毛役也五人組相談之上代銀札百五拾匁ニ相究町内稻実屋義七へ売渡申度相願承届候同十九日売券状差出ス

一 新魚町年寄竹嶋屋嘉兵衛病身ニ付役義難勤退役相願無扱趣ニ付而承届候尤跡役之儀ハ檉野屋茂一へ申付ル

一 錢相庭百四文通用ニ相成候

二月七日 晴

二月八日 晴 登城

一 遂敬再吟味之儀左門殿窺濟

二月九日 雨少

一 錢相庭百五文ニ成ル

一 御蔵米四拾九匁五分町米四拾五匁五分

一 遂敬再吟味牢屋敷於詮議吟味取計爪判取之寺社方へ及懸合候尤委細者 左門殿へ罷越申上候

一 中ノ丁面屋治三郎借家東屋理七郎昨晚方初午ニ付稻荷宮へ参詣致候処同所河原ニ七歳計之男子連ニはくれ候哉鳴々吟ひ罷有候ニ付

尋候而も相分不申候得共不憫ニ存連帰昨夜已来尋候而も相分不申候ニ付捨子ニ而も可有之哉之段訴出左門殿へ御届申上大目付中同断古川村弥七弟捨候由粗相聞郡代中ニも吟味も有之度談置候

二月十日 晴

一 妙法寺再吟味寺社方へ被仰付候ニ付遂敬一件吟味書付不残松岡治部助へ相送ル大目付郷左衛門対談之上相廻候

二月十一日 晴

一 中ノ丁東屋理七郎方へ連帰候捨子弥古川村市太郎と申者ニ而請取候様郡代所ニ而可申渡之由郡代中ノ申聞村方相渡候様昨日申渡候処昨夜村方引渡一札取之差出左門殿へも御届申上候大目付土同断

一 京町南側にて堺町阿部川屋源左衛門家屋鋪表口三間裏行十七間但半役也五人組相談之上堺町関屋喜八へ代銀札六百匁ニ相究メ売渡申度相願承届候事同十九日売券状差出

一 三船八郎右衛門改印承届候但判鑑出候

一 安岡町伊勢屋左吉弓削村山手屋宇助方へ来ル西年迄丸三年切奉公相願承届ル

一 西新町北側伊崎屋長左衛門家屋敷表口七間裏行十七間但大溝切但壹軒式歩役也五人組相談之上同町冲屋庄介取次ニ而銀札壹貫七百

匁家質願承届ル三月五日本証文出候

二月十二日 晴

一 御蔵米四拾八匁五分町米四拾四匁五分

一 妙法寺再吟味被遂候由吟味書郷左衛門方被相廻及相答候

二月十三日 晴 登城

一御蔵米四拾八匁町米四拾四匁

二月十四日 晴

一遂敬為再吟味詮議場罷出ル

一御蔵米四拾七匁町米四拾三匁

二月十五日 晴

一大阪南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛藥種卸売二階町堺屋伊右衛門宿切手

一新魚町魚住屋太郎右衛門請込之絹屋宗仲後家元所持之米買宿屋株船頭町柏屋八十兵衛へ讓願承届ル

一鍛冶町鍛冶藤次郎所持家屋鋪表口式間半裏行十七間但六歩役也五人組相談之上銀札六百匁坪井町かわら屋次助取次質入願同十六日本証文出ス

一三丁目久美屋十右衛門所持自国請酒株来ル亥年迄丸五年借受願宮脇町松野屋伝助差出

一播州加古川ねしわく細工人九郎兵衛長次郎与申者式人参当二月中旬迄逗留願二階町嶋屋藤吉願

二月十六日 雨

二月十七日 晴ル

二月十八日 晴ル 登城

一西今町高松屋多助盼是藏先月下旬出奔行衛不相知趣断出昨日百日之尋申付ル其段御用所へ及沙汰候大目付士へも達ス

一御蔵米四十八匁町米四拾四匁

二月十九日 不正

一遂敬再吟味取計口書爪判取之

二月廿日 不正

二月廿一日 小雪

二月廿二日 晴

一大坂山本町忠兵衛手代与右衛門後兵衛源助与申者小間物卸売坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手出ス

一京町南側表口五間裏行十七間但老軒役也多賀屋鶴次家屋敷五人組寛政十一年五月毎日元利相續し請返し候段断出ス相談之上下紺屋町紙屋乙七取次ニ而銀札四百目家質願承届ル同廿四日本証文出ス

一大年寄三人年頭御祝儀窓町同断披露相濟候段御奏者中一步方来状其段申渡候尤差上物代金式百疋相廻候様小勘者方申来ル

二月廿三日 晴 登城

一当正月中町方人别出入左之通書出候  
出生十人男七人女三人人别入七人入人别除四人死失十一人差引而式人之増懐胎十式人

右之通左門殿へ書付差出候

一遂敬再吟味一件左門殿へ相達候処御裁許窺候様被仰聞候  
一去已歳中人別増減左之通書上候

一出生百七十五人内男九十六人 女七十九人  
一他所方引受五十四人内男廿三人 女三十一人

×式百貳拾九人

一死失百八十六人内男九人 女七十七人  
一他所江引越九十一人内男五十一人 女四十八人

〆式百七十七人

差引而四十八人減

一 臍胎合六拾三人辰歲產殘

一同去已歲中百六拾式人

〆式百式拾五人

内百七十五人 出產

老人病氣ニ極ル

十人死体流産之類老人病死

〆百八拾七人

残而三十八人未産分

右之通去已年中町方人別出入臍胎之女相改書上申候以上

午正月

後藤守助

一 東新町鍛冶右衛門所持家屋敷南側表口三間裏行十七間但三歩七

厘五毛役也代銀札壹貫目ニ相極積屋理介へ売渡願承届ル同廿七日

売券状差出

一 小性町下横町東側ニ而伏見町紙屋宇介家屋鋪表口式間五尺七寸五

歩裏行十三間五尺五寸但半役也五人組相談之上代銀札七百目ニ相

極林田中ノ丁芦田屋佐助へ売渡願承届ル

同廿九日売券  
状差出候

一 東新町大盛源七借屋出雲屋伝七郎横死後養子伊吉も相果候ニ付諸

道具等大家組合ニ預置候処伊吉実父西新町中嶋屋伊兵衛へ預ケ具

候様右組合共々相願承届ル

二月廿四日 晴

一 厩札師文珠院備中出部村修驗田城院玄龍ト申兩僧方ニかくし置候

様相聞勘定奉行中対談之上左門殿へ相達同心組福田甚藏松本郡治  
非人兩人を添差向候明早天出立申付ル

二月廿五日 晴

一 元魚町西側ニ而神喜屋伊助家屋敷表口式間式■裏行六間半但五歩

役也五人組相談之上代銀札三百目ニ相究町内トよ屋喜兵衛へ売渡

申度相願承届ル同三月二日本証文出ス

一 西新町北側ニ而作人嘉七家屋鋪表口式間半裏行十七間但三歩役也

五人組相談之上質物ニ書入東新町安永屋武助取次銀札四百五十匁

借入願承届ル三月五日本証文出候寛政二戊極月相済

一 御家老組中井喜藤太拝領御敷家守幸助方へ昨夜這入候盜人長右衛

門与申者役所へ受取候様大目付平井郷左衛門と被申聞無程喜藤太

召連役所へ出ル吟味之上籠舎申付ル左門殿江御届申達大目付同断

二月廿六日 雨

一 追廻嘉右衛門与申者昨日入牢盜人長右衛門懸り合吟味之義作事方

被相達候様勘定奉行中へ懸合古林田与三郎も同様ニ相聞是又郡代

中へ懸合候

二月廿七日 昼時々雨晴ル夜雨

一 宮脇町北側土佐屋金十郎所持家屋敷表口三間裏行十一間但式歩五

厘役也五人組相談之上代銀札壹貫目ニ相究町内かと屋庄助へ売渡

申度相願候聞届ル同晦日売券状差出ス

一 西今町桑屋安右衛門大坂賢齋橋筋鍵屋甚右衛門方奉公ニ參居候処

年切相済尚又三ヶ年切奉公相願候

一 西今町田丸屋何平助真嶋郡垂水村古見屋宇八方年季奉公參居

候処年限濟尚又三ヶ年相願候

一 船頭町三五郎盗人長右衛門為泊候事も有之趣相聞候ニ付吟味申付候

一 備前岡山小畑丁風屋甚八元結御売二階町堺屋伊右衛門宿切手出ス

一 大坂北久太郎町松屋甚兵衛手代平兵衛小間物御売宿切手右同人

一 大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛挑灯張替宿切手右同人

一 昨廿六日夜安岡町古川屋多兵衛方へ盗人入込藏之錠をねじ切衣類

数品盗取られ候旨断書差出吟味之義申付候翌廿八日及御沙汰候右同てらた屋万吉方へも這入候得共紛失物ハ無之候よし断書出ス

二月廿八日 雨 登城

一 盗人長右衛門吟味書差出ス

一 御用所御普請ニ付柳ノ間(ママ)でい引間御用所ニ相成ル大目所山吹ノ間

御右筆所焚火之間今日々所替り候

一 安岡町北側ニ而西原屋宗十郎家屋敷表口三間裏行十四間半但六歩

役也五人組相談之上代銀札三百目ニ相極町内古川屋八百吉へ売渡

度旨相願承届ル三月売券状差出候

一 大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門唐弓弦卸売東新町因幡屋新七宿

切手出ス

二月廿九日 晴

一 灰吹銀其外潰銀類銀座并下売之ものへ売渡銀具下銀入用之者共銀座ニ而買請他所ニ而売買致間敷(金目) 銀箔之儀銀座各株札并下かね

相渡於京都職人共打立世上売出候処紛敷義相聞安永四未年相触候

処又々猥ニ相成不届之旨「儀御触達候旨大目付廻状到来具支配方

へ相触ル

二月晦日 雨

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉小間物売中ノ丁小山屋与三左衛門宿切手出ス

三月御月番

御家老安藤丹後殿

大年寄月番

御年寄本多左門殿

玉置源五兵衛

大御目付渡部惣右衛門

朔日 雨

三月二日 雨 盗人丈八郡代所入牢

三月三日 少雨

三月四日 時々雪降

三月五日 晴

一 御藏米四拾九匁町米四拾五匁

三月六日 晴

一 西新町大黒屋五十郎所持之土蔵一ヶ所石垣共船頭町今津屋伊右衛門買取備前長船村迄積下し売払度相願承届ル

一 志保井村忠藏勝部村新吉右両人入牢被申付候よし郡代所手形相

廻ル

一 膺札師文珠院昨日五日備中国銅山之内吹屋村与申所にて召捕夜通シ連帰候段途中より人差返シ暮時着一ト通遂吟味候上夜中之儀牢

番預ケニ申付ル膺札板行所持シ罷有取帰ル尤途中捕之義何方懸り  
合も無之

三月七日 晴

一 式拾五疋宿馬大年寄於宅例年之通遂吟味毛付帳差出立会小頭部屋  
目付出ル

三月八日 晴 登城

一 牢舍人何々之咎ニ而入牢ト申儀年月日相記差出候様一学殿ヲ被仰  
聞候

三月九日 晴

一 文珠院并法釈院且武八為吟味詮議場へ罷出ル

一 去月廿七日夜国分寺村喜藤治下男部屋盗人這入紛失物有之候色目  
書大目付士ヲ被相渡町触取計候

三月十日 晴

一 大坂嶋之内大宝町万屋善次郎皮足袋するのふ金返シ売宿中ノ町福  
茂屋武助切手出ス

一 播州網干新在家村加賀屋善七弟忠次郎小間物卸売右同人切手出ス

三月十一日 晴

一 御藏米五十目町米四拾六匁

一 茅町北側打穴屋幸吉持分地所表口五間裏行十間但七歩五厘役也右  
之内東西三間南北式間式尺五寸之処五厘役付代銀札三拾目ニ相究

町内国嶋屋茂兵衛へ売渡願承届ル同廿一日売券状出ス

一 東新町玉屋伊右衛門新職人町増田屋茂一右兩人年寄役申付ル

一 安岡町北側作人李太夫家屋敷表口四間裏行五間但三歩役也五人組

相談之上代銀札三十匁ニ相究町内作人小右衛門後家へ売渡申度相

願承届ル 同廿日売券  
状出候

一 三丁目南側猿屋吉左衛門家屋敷表口五間裏行十七間八歩役也元来  
京町菊屋藤藏買主之処此度本主へ名代付替申度相願承届ル

一 小性町南側ひち家屋敷表口三間壹尺七寸裏行十七間但九歩役也五  
人組相談之上代銀札百六拾目ニ相究伏見町藤屋弥次郎へ売渡願承  
届ル同廿日売券状出ス

一 安岡町坪屋和助所持自国請酒株来ル西ノ二月迄四ヶ年借受商売致  
度西新町岸田屋忠助願承届ル

一 雲州侯為御参勤来ル十四日御元御発駕無御滞候へハ来ル十七日  
御当地御通行被成候旨御先触状到来但繙馬三拾四疋繙人足百五十

三人之由手合申付ル右之趣左門殿へ相達候大目付中同断右ニ付宿  
馬不足之分那代所江被仰付候様大目付士江申達候

一 雲州侯御通ニ付先格之通町方触書出ス尤御道見分小頭大年寄罷出  
ル

三月十二日 雨

一 摂州豊嶋郡池田村月野木町植木屋平兵衛植木売新魚町鳥屋与三兵  
衛宿切手出ス

一 錢通用百三文ニ相成候段届出候

三月十三日 雨 登城

一 材木町元屋長八妻去ル九日八月キ振男子死体を産候ニ付早速吟味  
申付候処紛敷儀不相聞依之一札取左門殿へ御沙汰申候

一 半屋番和田保治不快引込ニ付代御使組ヲ罷出候様大御目付士申遣

候

三月十四日

晴

三月十五日

(マ)

一 播州網干馬屋彦右衛門小間物御売同国同所余陸屋宗七八百屋物御売同国同所塩屋伊兵衛弟助三郎共ニ式人荒物塩物御売右四人中ノ丁高尾屋新藏宿切手出ス

一 播州網干風尾屋六三郎荒物類并塩物類御売同国同所余陸屋武兵衛八百屋物并鯉節売同国同所平松屋宗九郎小間物并晒臘売右三人中ノ丁小山屋与ニ右衛門宿切手出ス

一 去春播州長谷領福沢村治兵衛方ニ而文珠院津山銀札贖致候ニ付懸ケ合ニ相成候処此度文珠院召捕吟味口を以尚又懸ケ合候様左門殿相伺候処尤ニ思召下案御下ケニ付小勘者中へ飛脚申談候上明日差遣候旨大御目付士へも達候

三月十六日

晴

一 林田町田部屋治助借家孤独長兵衛与申者一昨十四日昼後与風致他出晚方迄不致帰宅候ニ付相尋候而も行衛不相知然ル処去々辰四月右長兵衛与風罷出古林田宇才谷焼場へ参自焼死可致覚語之由申之候処組合共見逢候故なため候而連帰候得共又候相企候義無覚束と組合共申合宇才谷焼場へ参候処少々煙も立候様子ニ而傍ニ平常長兵衛持杖煙草道具等有之焼死之様子と相見灰なとかき除候而も骸も焼失一向相分不申候へ共長兵衛所持之物も傍ニ有之候へハ全焼死と相見候段昨日申出右場所番人付置耽と遂吟味申出候様申渡候処書付差出今朝為見分三船孫八差向組合年寄立会之上遂見分一札

取之差出左門殿へ相達候大目付士へも相達ス

三月十七日

折々小雨

一 出羽守様御通行ニ付五時出宅立宿坪屋藤十郎方へ罷越相扣天王ヶ端遠見註進ニ而妙法寺東角ニ而御目見申上ル尤御供頭名披露有之候御目録金式百疋被下町分無御恙御通行相濟候註進を以引取左門殿へ御届ニ罷越大目付士へ以紙面相届候但供立人馬例之通御貸渡有之候

〔寔死〕一 御先弘小頭平組兩人馬駒同心組目付一人平一人何れも被下物例之通

三月十八日

晴 登城

一 林田町田部屋次助借家長兵衛自焼死ニ付大家組合等吟味申付候処組合等ハ不及申隣町ニ而も申分致候様之義無之心懸り之義無之旨吟味口書差出候処不便之事ニ思召孤独之義ニも候へハ大家施主ニ相成弔遣候様心付遣可然思召候条左門殿方被仰聞其段源五兵衛江申渡尤大家次助へ百疋遣候尤旦那寺浄円寺ニ而寺社取次中ニも及引合取置候事 御届申 達候

一 御藏米五拾老匁町米四十七匁

一 福渡町沢田屋伊助真嶋郡垂水村塚谷屋宗左衛門方へ三ヶ年奉公相願尤家役之儀ハ町内久米屋伊助へ相頼候旨断出承届ル罷帰候旨届書出候尤天明九酉二月

一 美濃職人町傘屋伊助伴義三郎真嶋郡垂水村豊国屋源介方へ三ヶ年切奉公相願届候

一 上紺屋町新屋庄七持来候古道具取売株美濃職人町傘屋伊助讓受願

承届ル

一 美濃職人町作人次助借家福合屋伊助久世村三原屋七郎左衛門方へ

一ヶ年奉公相願承届ル

一 阿州板野郡永富村重藏手代多七郎兵内藍玉売吹屋町沢屋惣左衛門

宿切手出ス

一 元魚町米屋喜兵衛借家大室屋藤兵衛伴善兵衛大坂天満市場魚屋喜

兵衛方三ヶ年切奉公相願承届ル

一 桶屋町桶屋太郎右衛門及老年年寄役難相勤赦免之儀相願無執趣ニ  
相聞候故役免申付候様達候尤役中致出精大儀之旨申渡候様相達候

三月十九日 晴

一 錢相場百五文通用ニ成候

一 林田町焼死長兵衛義地所之儀ニ付郡代所可懸合処無其儀依之無念

之段大御目付渡部氏を以相窺候処差扣ニ及不申段岸権六へ御達有

之候

一 銀札式拾九匁三分三厘上紺屋町里ん吹屋町まつ孤独扶持三月分受

取相済候

三月廿日 晴

三月廿一日 雨

一 船頭町船本屋佐助家屋敷表口沓間六尺裏行六間九寸但半役也右家

屋敷玉置常三郎へ先年質物ニ入置候処此度請返シ五人組相談之上

代銀札百五拾目ニ相究町内新屋忠次郎へ売渡申度相願承届ル四月

十五日売券状出候

一 新魚町北側若葉屋伊八家屋敷表口四間裏行拾貳間但本役也五人組

相談之上町内角屋平吉取次ニ而銀札四百目家質願承届ル四月十四

日本証文出候

一 西今町福場屋源兵衛西川山崎治藏三ヶ年切奉公相願承届ル

三月廿二日 晴

一 新魚町横丁西側ニ而かと屋利助所持家屋敷表口三間裏行十七間但

半役也五人組相談之上代銀札三百目ニ相究町内魚屋市郎右衛門江

売渡申度相願承届ル四月十四日本証文出候

一 船頭町福本屋舛五郎一件先達而窺置候処江戸表思召之御書付を以  
左之通御裁許被仰出候旨御用番左門殿々被仰渡大御目付中江も達  
之上於役所申渡兩御方へ御届申達候

船頭町福本屋

新右衛門

(マ)

其方舛五郎於倉敷細井六治と及刃傷逃去候処同性十郎右衛門打

捨多人之教訓不宜処々御家中へ対し手向ニ及ひ候段上を不重働右

罪条ニ依而居私

同人女房

右之通夫新右衛門へ申渡候間町内立去申付ル

家財之義ハ組合遣シ候

舛五郎女房

御文段前条之通右罪条ニ依而御領分追払院庄御境目ニ而當時庄屋

為立会追払候出番六助金藏

三月廿三日 晴 登城

一 牢屋御膳所書付差出大御目付士江申達候

一御蔵米五拾貳匁町米四拾八匁

一二月中町方生死人別出入書上左之通

出生五人男三人女貳人 人別人三拾六人人別除十三人死失十四人

差引而十四人増

懐胎十人

一牢番和田保次痛風全快今日方出勤届出代り御使組引取候様相達大

御目付士相達候

三月廿四日 晴

一播州長谷松平内匠頭殿役人中る昨晚来状似せ札師文珠院懸り合播

州福沢村治兵衛文珠院と相語い贗札致候義相違無之候依而家法之

通仕置可申候旨申来候ニ付今日相答返翰之儀相同取計候然ル処家

法之通と申而も死刑等ニ相成候事も如何敷存候ニ付此方取計之粗

返翰ニ申越候委細ハ文通扣ニ有

一安岡町国嶋屋善吉手鎖追込差免両御方江御届申達候但大年寄於宅

申渡立合小頭部屋目付

三月廿五日 晴

三月廿六日 晴風

一勝部村新藏牢屋為吟味下代差出候由立合同心組彦人差向候様郡代

中々申来兵助出ル

三月廿七日 雨

一戸川村橋本正意借家作人喜兵衛去月晦日出奔昨日断出百日尋申付

翌廿八日御断申置

三月廿八日 登城 晴

一贗札師文珠院懸り合武八弟其七文珠院尋手ニ入相働候依働武八差

免之儀御用番一学殿へ相伺候処考之通差免候様被仰渡候大御目付

中へも達弟其七呼出候様小頭へ申達

一高野宮拜殿床下ニ捨物有之候心当りも有之哉町ふれ出候様大目付

士方達之取計候

三月廿九日 風午半刻方未半刻迄雨

一播州網干余子浜菊屋弥七郎粉源次郎小間物卸売中ノ丁甲屋幸助宿

切手

一播州網干新在家伊部屋清六塩物鯉節卸売宿右同人

一大坂南本町三丁目小法師利兵衛墨筆売中ノ丁福茂屋武助宿切手出

ス

一昨日相窺候武八義今日弟其七罷出候ニ付武八出籠申付其七へ引渡

候上御用番一学殿へ御届申達候大御目付士同断

四月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

藏合孫左衛門

御年寄本多左門殿

大御目付田中八郎左衛門

朔日 風折々小雨

一上紺屋町年寄中浅屋丈助伊右衛門与改号承届ル

四月二日 不正

一雲州神門郡中山村茂助与申者夫婦娘共三人去年西国順礼ニ罷出於

京都茂助夫婦共厄病煩相果娘老人相殘同所帰懸候処播州三ヶ月之

駅ニおいて宿送相願候由ニ而勝間田方送越坪井駅へ送達夜中之儀

ニ付翌三日御届申達候

一御姫様御病氣ニ付播州加古川小兒和松野狐洞与申医御呼ニ成新魚  
町鳥屋与三兵衛へ宿申付今日来着河合憲之元案内登城候由

四月三日 晴 登城

<sup>147</sup>御用無之

四月四日 晴 四月五日 晴

一小須賀一学殿今朝江戸出立

一中須賀ニ而芝居有之由ニ付市郷申渡之上不参候趣触書出左門殿窺

濟大御目付相達候尤目明老人ツ、彼地へ差向候様小頭へ申渡候

四月六日 晴

一錢相場老錢目ニ百六文ニ成ル

一奈良今并国崎源助粉惣兵衛墨壳ニ階町桶屋平五郎宿切手出候

四月七日 晴

一信州木曾筑磨郡藪原宿古着着者木櫛壳宿中ノ町小山屋与三右衛門

切手出候

二三丁目一文字屋伊三郎父茂兵衛京都方昨夜相越十日計逗留相願承

届候

一福渡町東横丁沢田屋伊助家屋敷表口三間裏行三間但式歩五厘役也

五人組相談之上町内挽屋次助母へ代銀札百廿匁ニ相究壳渡申度相

願承届候同十日日本証文出候

一元魚町加茂屋長七借家かつと申女去月廿日夕出奔断出百日尋申付

候翌八日御断申置

四月八日 晴 登城

一町医井上道可躬給左衛門不行跡ニ付親類組合打寄異見加候得共不

相用其上近来致家出何方ニ而いヶ様之義仕出候ノ義難計依之義絶

勘当相願御聞届被成候大目付士へも達

十二日本証文  
出候

一当月万人講建札ちらし之儀相願今日伺候処御聞届被成候大目付

士へも達候

四月九日 晴

一錢相庭百七文ニ相成候

一但州七美郡丹戸村嘉市与備中国方送り者候ニ而御領分へ送来町分

無事送出候

一明十日松野狐桐へ玉置源五兵衛於宅御料理被下候旨平井八左衛門

被申聞其段申渡候御料理向小勘者中右被取計候

四月十日 晴

一今日於源五兵衛宅松野狐桐へ式汁五菜御料理被下御目録銀五十枚

被下候由無滞相濟

四月十一日 曇夜雨

一林田町田辺屋次助勝山兼田市郎右衛門方へ来ル申才迄三ヶ年奉公

罷越家役之儀ハ粉芳三郎相勤させ候断

一一宮市町ニ付触書例年之通差出

一例年之通筆触書差出

四月十二日 雨晴ル

四月十三日 晴 登城

一 坪井町三舛屋伊兵衛粹亥之助八ヶ年已前不行跡ニ而義絶勘当致候得共當時心底取直赦免相願候ニ付差免申度相願今日御用所へ相同候処御聞届被成候大目付士へも達候  
一 川部村庄屋九平次下男部屋へ盗人入込去ル九日夕盜ミ取候品々書付大目付士へ被相渡町ふれ出候

四月十四日 晴

一 京都烏丸六角下ル丁二文字屋九兵衛手代清次郎宇兵衛善之助呉服売京町海老屋長右衛門宿切手出候

一 遂敬義今日之惣牢へ申付候様昨日左門殿へ被仰聞今日惣牢へ入替賄之義も定之通ニ申渡候左門殿并八郎左衛門へも相届候

四月十五日 晴

一 坪井町大津屋七郎左衛門所持之古道具取売株三丁目草津屋孫三郎讓受願承届ル

四月十六日 晴

一 例才之通昨今町方溝見分取計候小頭部屋目付大年寄罷出ル  
四月十七日 未刻雷雨并氷降ル

一 橋本町浅元屋源藏後家屋敷表口四間裏行拾貳間但壹軒役也并横町借家表口十一間裏行十式間但貳歩五厘役也伏見町い出屋太助へ

質物ニ書入銀札五百目借用相願聞届ル 同廿五日 本証文出候

一 西今町直屋政所持自国請酒株西新町久米屋清助来ル酉年迄三ヶ年借受願承届ル酉八月株主へ差房ス

四月十八日 登城 午刻雷雨少氷交ル

一 先達而申遣候龍吐水從大坂着新魚町江預ヶ置御曲輪近出火之節別

而早く罷出候様可申付旨相窺候処取計候様左門殿被仰聞大目付中へも達候新魚町へ預置候

一 去ル十二日夜更廻甚蔵権七差出候処桶屋町而貫抜不メリ遂吟味候処月処月行事甚助不念有之二階町而貫抜不メリ而是又遂吟味候処月行事不念無之番人長七不念有之右兩人三百文ツ、過料可申付旨相伺大目付士へも達候

一 一宮市町ニ付参懸り人形芝居十二人連於彼地興行致候依之世話之儀被相頼候段相願承届一札申付ル福渡町皆木屋甚助斷

一 堺町米屋平兵衛十人連参懸り輕業世話致度相願承届一札申付候一戸川町紙屋嘉助参懸り万歳芸八人連右市町中致世話度相願承届一札申付候  
四月十九日 昼方雨晴ル

一 元魚町北原屋長七一宮市町ニ付参懸り淡路恵美須屋門十郎座芝居彼地ニおいて興行世話致度相願承届一札申付候  
四月廿日 晴

一 今西ノ半刻比林田東新町今岡屋忠助後家裏家ニ住居候処近辺罷〔〕候留守ニ而出火類焼無之候早速出馬候得共消留即刻引取候左門殿へ御届申達大目付田中江者途中方為届組者遣候  
四月廿一日 晴

一 今岡屋忠助後家自火相違無之書付今朝差出慎之儀申付候右書付を以左門殿へ申上候大目付士江者以手紙相達候 同廿四日追込差免御届 申遣候類焼無之三日先例  
一一宮田植祭ニ付同心組差向ル  
四月廿二日 晴

一 一宮市町ニ付同心組差向候

四月廿三日 晴 登城

一 右同断

一 三月中町方生死人別出入書上左之通

出生十人男八人女式人人別入六人

人別除十五人死失十四人差引而十三人減

臙胎十式人

一 撰州兵庫津はりま屋千助弟久兵衛真嶋郡一瀬村にて相煩歩行不相

叶送者ニ相成町方無滞送出候

四月廿四日 雨

四月廿五日 晴ル

一 松平左兵衛佐様御病氣之処去ル十四日御卒去被成候依是今日方来

ル廿七日迄三日之内鳴物高声御停止触出ル

一 加茂川御留場元築場方本郷村植田迄之間建札之内網殺生御停止被

仰出候

右両条町方并組中牢屋三軒屋相触候事

四月廿六日 雲ル

一 御蔵米五拾壹匁町米四拾七匁

四月廿七日 晨雨即時晴ル

一 吹屋町木屋伝七一宮市町中□□十五人連芝居興行世話人願承届ル

尤一札申出ル

一 美濃職人町作人治助借家憲保屋伝蔵粉伝八備前金岡松本屋次右衛

門方三年切奉公願

四月廿八日 晴 登城

一 越中富山舟橋町松本屋源兵衛粉伊八并手代吉兵衛上下三人反魂丹

壳ニ階町桶屋平五郎宿切手出候

四月廿九日 晴

四月晦日 晴

五月御用番

御家老安藤丹後殿

御年寄本多左門殿

大御目付太田舎人

朔日 晴

一 一宮市上り例之通触書出候

一新魚町年寄姫路屋彦兵衛改印願承届ル

二日 晴

一 一宮市町小頭出役

五月三日 晴 登城

一 当春文殊院召捕ニ備中江差越候節去才牢破文七手懸り之儀頼置候

処七日市村義平与申者手懸り承参候ニ付組言人目明差添可遣哉之

趣左門殿へ相窺候御聞届被成大目付士も申談候

一 当午人別改帳調之上辻目録帳郡代所へ相廻候御用所へ差出候義も

有之候へ共近来市郷合帳連判を以御用所へ差出候形ニ相成大目付

士へも申談候而於御城岸氏へ相渡候

大 年寄月番

斎藤孫右衛門

六月十四日清帳出来大目付士可相渡当役郡代中印形相調猶又大目付士江差出

町惣人別合六千八百七拾八人 天明六丙午年  
四月改当歳以上

内 男三千五百八拾六人

女三千貳百九拾貳人

僧 壹人

山伏 七人

社男 五人

座頭 四人

安永九子年改当午改百四拾四人減

五月四日 晴

五月五日 晴

一江戸表を飛脚到来

殿様倍御機嫌克被成御座先月廿二日為上使福嶋左兵衛殿御出御国

許江之御暇被仰出御拝領物被成從大納言様々茂為上使別所孫右衛

門殿御出御拝領物被成候段申来恐悦之御事候依之明六日辰中刻方

巳中刻迄之内為御歎御帳付候段御奏者廻状到来具夫々へ相達候

一右同廿三日御暇之御礼首尾能被仰上恐悦候段申来是又夫々へ相知

候

一先月末方御姫様御不例ニ付今日迄日々若殿様へ御機嫌相伺候

一宮市町出役同心組日々弁当代十七匁五分小頭へ相渡候

一牢破文七手懸りニ付備中矢懸迄同心組中村善次目明吉人差添今日

差立ル路用銀相渡候同九日帰着間違候而引取候同十日相達ス

五月六日 朝之内少雨 登城

一御帳付登城御用所へも恐悦申上ル若殿様江も恐悦申上候

五月七日 未刻方雨

五月八日 昼方晴ル 登城

一小姓町作人利八妻はル朔日七月か振男子出生之処虚弱ニ而色々療

治加候得共不相叶同四日相果吟味申付候処紛敷義相聞不申依之一

札取候左門殿へ今日差出被披見相渡候

一材木町方二階町裏通石垣草取候儀断出大目付士へ相達御作事方へ

も及通用候

一越中富山板屋理兵衛役介伊助重助当十一月差置候願京町菊屋清左

衛門

五月九日 晴

一二階町山手屋弥三郎借家くま不埒之儀願立候ニ付理「可申聞と大

年寄共方へ呼出候処難決申立不罷出依之先組合預ケ申付候左門殿

大御目付士へも達候

五月十日 午刻方雨

五月十一日 未刻雷雨申ニ晴ル

一御姫様昨夜様子御勝不被成候ニ付辰刻過若殿様江為御機嫌伺罷出

ル未下刻御病氣被為差重御大切ニ付尚又御機嫌相伺候

一夜中廻状到来左之通

於貞様御病氣之処御養生不被為叶今申ノ中刻御卒去被成候自是

今日方来ル十五日迄五日之内鳴物高声御停止之事ニ候御葬送相

濟候迄普請其外諸事可相慎候

「」御奏者廻状

於貞様御卒去被成候ニ付為同御機嫌御帳付候間明十二日辰刻五分刻迄之内登城可有之候

右御触書之趣横町并組中籠屋三軒屋番へ相達候小頭支配之者へも達候様申渡

一魚鳥商売之儀御家中振売不致候様鳳殿院様御卒去之節伺之上申付候ニ付尚又大目付太田舍人へ申談候処晴雲院様惣生院様御卒去之砌も同様候ハ、此度も申付候様ニとの御用所思召ニ候旨被申聞魚鳥御家中ふり売御停止ニ申渡市郷ふり売密々ニ致候様申渡候自身番勿論之事触書扣ニ有

一御藏米五拾壹匁五分町米四拾七匁五分

一大坂屋次郎助所持他国請酒株来ル申ノ歳迄西今町柏屋義兵衛借受願聞届ル

五月十二日 登城

一御機嫌伺御帳付登城一様御用所へも罷出ル

若殿様江御機嫌伺罷出ル明朝立ニ而御道中迄御機嫌伺飛脚被差立候ニ付披露状差出ス

一為御先番御小納戸稻垣茂士御小姓兩人着

一信州筑摩郡福嶋宿品川屋利右衛門手代作兵衛次左衛門塗物類卸売

宿堺町西川屋善助切手

五月十三日 晴 登城

一来ル十五日未刻

御姫様御葬送作事御門々尾上八十七前夫より服部重兵衛前竹之馬場大番所蘭田町通泰安寺へ被為入候鳳殿院様御葬送之通町方取計

候様御用懸り渡部惣右衛門方被申聞御通筋掃除可入念申付御見通横町小路町々人留年寄裁許致物静ニ取計候様申付二階町元魚町下紺屋町細工町宮脇町西今町右之趣孫右衛門へ申渡候触書留置候

一江戸表方飛脚到来

殿様益御機嫌能被成御座当月二日江戸御発駕被遊無御滞候へハ来ル十七日土居御泊十八日御城着之御積之旨申来候火之用心之義前後別而可入念御城内可為人込候間喧嘩相慎候様被仰出廻状到来組中并牢屋三軒屋番へ相達候町方先例之通触書差出候

一尾州神職吉田左右上下三人永見造酒助殿用向ニ付十五日計逗留願堺町西川屋善助出承留ル十五日加日

一佐野儀八拜領家鋪垣ニ龜末成三徳一ツ差込有之候趣留守請込内山甚五郎方断出候由自是右之品役所へ御渡被成候旨大御目付士被申聞甚五郎方請取候然ル処右三徳林田町龍野屋喜助方ニ而紛失物之由書付出色品引合候処相違無之依而使へ可引渡哉と舍人へ申談候処承知ニ付引渡候

同十五日一札取之置候

五月十四日 曇

五月十五日 折々小雨

一御姫様御葬送之節成道寺前宗賢寺前繩張人留先例を以役筋方取計候ニ付寺社構之義ニ付惣右衛門江相達寺社取次中へ及通用候

一未ノ刻過御出棺泰安寺江被為入御先弘竹内兵助中村善次麻上下半股立無杖ニ而御先相勤成道寺前人留繩張之所へ開ベリ取計候宗賢寺前三船藤八麻上下ニ而罷出繩張ベリ取計候申刻過御葬式相

濟候様子見請引取届出ル

五月十六日 雨 登城

一 先格之通今日より日參被仰出候

一 御藏米五拾二匁町米四拾六匁(マ)

一 於貞様御法号

真鏡院様与奉唱候此段為相知候様御用所被申ニ付相逢候由大目付

廻状

一來ル廿一日

晴雲院様十七回御忌被為当此段為相知被仰出候旨大目付廻状

一新魚町河本屋伊之平儀去春親類組合共願ニ付出牢之上預ケニ申付

置候処去月十八日致出奔同廿六日夕妻子も出奔致候段斷書出安永

八亥十一月船頭町今津屋孫十郎弟繁藏親類組中出奔百日之間急度

相尋「」其上御裁許被仰出候右之類例ニ可取計哉之旨左門殿相同

置候

一 伏見之駅より飛脚到来

殿様益御機嫌克被成御旅行来ル十八日御城着被遊候間部屋住ニ到

迄已上刻登城例格之場所へ相詰候様御奏者廻状到来組中籠家三軒

家番并大牢寄江茂為相知候

一 当午人別改帳郡代中連印ニ而権六より御用所へ差出候

人数合式万六千六百拾五人 老方四千五百六拾四人 男  
老方式千五百拾五人 女

但当才以上天明六丙午年四月改

内訳

男三千五百六十九人 城下町人下男共

女三千式百九十式人

男壹万百三拾九人

女八千式百式拾三人

僧百廿四人

尼四人

山伏四十人

神主并  
神職之者 百十五人

神子三十六人

座頭十人

男六十七人

女五十七人

男五百人

女四百三拾九人

右妻子召仕共

百姓名子家来共

右妻子召仕共

(城下在中寺持  
弟子同心者共)

在中同心者共

町在中

右同断

右同断

右同断

石屋栗箸作共

右妻子

穢多

右妻子

五月十七日 晴 登城

一 昨日相窺置候新魚町河本屋伊之平并妻子尋之義窺之通申付候様被

仰渡先三十日限ニ尋申付ル大目付士へも達候

一 御帰城ニ付明日例格之場所へ罷出候段左門殿へ申上大目付士へも

達人馬之儀申達候

五月十八日 晴

一 為御迎五時出宅立宿東新町茂渡藤右衛門方へ罷出河辺御立触之註

進ニ而玉琳舛形江罷出先格之場所ニ而御目見申上名披露有之直ニ

御跡方登城夫々江相届候御用所へも恐悦申上若殿様江恐悦申上御

次江も罷出御小納戸中を以申上候今日同心組出役左之通

御先掃小頭平組兩人掃除見分同兩人京町人留一人町分御懸り註進

老人京町へ御懸り註進老人供立馬口付中間式人若童兩人走人組老

人手人鎗挾箱合羽箱草履取兩人

五月十九日 晴 登城

一船頭町三五郎当春盗人理右衛門吟味之節同人方ニ留置吟味相懸候

処町人別ニ無之兼而人柄不宣者ニ相聞立去申付候様相窺候処相濟

今日立去申付候立合例之通出番ニ不及三五郎組合年寄無人別之者

差置候段不念ニ付叱禁足申渡大年寄宅ニ而取計是又伺之上申付相

濟左門殿大御目付士へも御届申達候

一播州姫路南町大村屋平吉墨筆并反物御売中ノ丁甲屋幸吉方へ参来

候処不勝手ニ候得罷越不申依之幸吉親類撰州有馬辻堂茂兵衛与申

者墨筆商売罷越申度申之ニ付宿之義幸吉相願承届ル

五月廿日 雨 登城

一長日出仕隔日ニ被仰出明日休日ニ相成候

五月廿一日 霽

一船頭町年寄三五郎組合禁足指免御届申達候

五月廿二日 曇夕方雨 登城

一先月中町方生死人別出入書上左之通

出生拾人男七人 女三人 人別入拾人人別除七人

死失十一人 差引而式人増 臍胎十三人

一御前江被為召御留守中様子御尋被遊候相応之御請申上候尤類役中

も同様之事

五月廿三日 雨

一例年之通宮川橋京橋筋違橋今町橋ニ而涼候義停止触出候

五月廿四日 晴 登城申刻白雨

一宗門改証文張案詞佐藤彦右衛門方被相廻直ニ大年寄へ相渡候

五月廿五日 晴 五月廿六日 晴 登城

一大般若御祈禱ニ付例刻登城御場所へ相詰ル

御拜被遊畢而何茂拜相濟御用所へ罷出恐悅申上候御礼御供物頂戴

一播州姫路町木綿屋勝右衛門三丁目古手屋久次方廿日計願聞届ル十

五日加日願聞届ル

一京町ミと屋清六兵衛倅忠藏京都菱田善左衛門方へ来ル申才迄渡世

為見習差越候断書聞届ル

五月廿七日 晴

五月廿八日 晴 登城

一備中平松秀次郎定右衛門庄左衛門玉置源五兵衛由緒有之為見廻参

十日計承届ル

一材木町年寄三家屋幸三郎病身ニ付役免相願承届ル快全候ハ、帰役

可申付候事

一戸川町年寄福永屋藤助役免願被差留候

一大坂玉水町尾張屋七兵衛手代権兵衛上下七人京町わた屋源七宿断

承届ル

一御前御用所へ被為入相揃罷出ル

一石松院二階町兼任所不動堂鎮守燈明ともし候儀来月七日迄同十四

日迄除疫祈禱挑灯断寺社方引合之上承届ル

一 下紺屋町不動院来月七日方十四日迄祇園会御戸開断書寺社方引合承届ル

一 下紺屋町万性院於法前金比羅除疫祈禱来月八日方十日迄承届ル尤引合之上

一 撰州有馬辻堂茂兵衛墨筆壳中ノ丁甲屋幸助宿切手差出候

五月廿九日 晴

一 明朔日

御目見被仰付候間辰中刻登城候様御奏者番中ノ廻状到来

六月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

玉置源五兵衛

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付平井郷左衛門

朔日 晴 登城

一 於松之間御目見被仰付諸士登城

六月二日 雨 登城

一 茅町態野屋源八年寄役申付ル

一 式丁目猿屋吉左衛門借家作人弥内田村意得与相改針術執行仕せ度相願承届ル

一 福渡町北側品屋勘吉家屋敷表口三間裏行十七間但七步五厘役也五人組相談之上代銀札百目ニ相究静虎屋利兵衛へ壳渡申度願差出承届ル同廿二日壳券状出候

一 戸川町北側今出屋長右衛門家屋鋪表口裏行五間半但壹步三厘役也代銀札三拾匁ニ相極福本屋佐助へ壳渡願承届ル同七日壳券状差出候

六月三日 雨 六月四日 折々雨 登城

一 真鏡院様御早世被遊候為御弔御布施頂戴仕度十里四方座頭暨女共相願候段配当方申出桃園院様御早世之御例調へ候処此度限ニ御布施被下置其段相窺候処御聞届相済大鑑所江も相達已来不被下段申渡一札取之可差出旨源五兵衛へ申渡佐五兵衛相詰ル

六月五日 晴

六月六日 晴 登城

一 御用所において大目付平井郷左衛門立合左之通被仰出候

安岡町坪屋和助儀母親江孝行之趣寄特之事候御聽ニ達之上米壹石指遣候此段可申渡

西新町丁子屋源左衛門両親へ孝行之趣寄特之事候達御聽之上米壹石差遣候此段可申渡

石差遣候此段可申渡

戸川町打穴屋長七家業出精之趣寄特之事候達御聽之上米壹俵差遣候弥相励候様可申渡

白銀屋安兵衛家業出精ニ付二人扶持差遣候此段可申渡

右四人之者共呼出於役所立合之上申渡相済与兵衛殿へ御届申達候大目付同断

一 大道具御挨拶御駕籠之者被召抱候相望候ハ来ル廿日迄ニ御手廻小頭へ可申出旨相触候様大目付方被申聽候

六月七日 雨

一 御藏米五拾式匁町米四拾八匁

一 明八日五半時御供揃泰安寺本源寺妙法寺御仏參被仰出候旨中奥目付土岐唯助通用有之夫々へ申渡候猶又大目付中右類役連名為知手紙到來

六月八日 霽 登城

一 御仏詣被遊候ニ付御先掃差出候

一 御帰城ニ付大年寄共御目見之儀郷左衛門へ相窺置候

一 上紺屋町灰屋善十郎借家多右衛門兼而馬飼之義切者之由御小姓頭

小嶋新五右衛門右申談有之候ハ、其趣を以御用申付候様与兵衛殿

右被仰聞多右衛門大年寄於宅御用向申付ル

一 孤独松并りん御救扶持式拾五匁四分三厘請取三月分相渡

一 和助源左衛門長七御褒美米ハ七俵請取相渡ス

一 出生ハ赤子を産所にて直ニ殺候国柄も有之不仁之至ニ付右躰之儀

無之様相互ニ心を付候様明和四年從公儀被仰出有之去ル丑年出産

臙胎等之儀心を付候様触達其後人別人之者も有之候へハ心得違無

之様町々年寄組頭借家元ハ大家右心付候様市郷共触候儀相同候処

取計候様与兵衛殿右被仰渡大目付士へも相逢候尤文段等者扣張記

置候

六月九日 未中刻雨

六月十日 雨未刻過少雷 登城

一 安岡町作人清藏女房出産月取間違不調法之段相断叱置已後入念候様申渡候

六月十一日 晴

六月十二日 晴 登城午刻過地震

一 船頭町高瀬屋勘右衛門前ニ單羽織捨有之取上ケ置昨夜断出今日及御沙汰東西橋貫拔張紙致置候様申付大目付士へも相断候十一月六日窺之上勘右衛門へ遣候

六月十三日 雨

一 雲州大原郡阿用村利右衛門娘妙隨同村甚兵衛娘とめ西国順礼ニ罷

出候処病氣ニ而国所へ難帰播州飾東郡八重畑村右送出候由当町無

恙送出候

一 明十四日五半時泰安寺御仏詣被仰出候旨秋元三左衛門右通用夫々

へ相逢候

六月十四日 晴 登城

一 御仏參被遊候ニ付御先払差出候

一 御帰城ニ付大年寄三人明十五日被為御礼請候旨郷左衛門被申聞源

五兵衛へ申達候差上物之義勘者中申談候

六月十五日 晴 登城

一 式日御礼被為請諸士登城当役於御居間申上ル

一 大年寄三人松之間御縁座敷ニ而首尾好御礼申上候白木台鯛三十枚

ツ、差上自分披露

一 御役替左之通

御家老当職御城代兼帯永見造酒助殿当職御免拜領物有之由佐久間上総殿御年寄見習山田富次郎殿御年寄見習被召出御擬作式百石佐久間武四郎殿大御目附役所見習被召出御擬作十人扶持小須賀織部

伊達頼母

六月十六日 晴 登城

一明十七日夜観音参詣群集ニ付例年之通宮脇町貫抜四時迄開置番人付置候段御用所へも相達候大目付中同断

一明十七日地藏院御社参被仰出中奥目付方通用元魚町河岸御見通へ相触候様申渡候

六月十七日 晴

一新魚町姫路屋彦兵衛通り札町内魚屋与八江貸致登城候処与八義ハ御用ニ罷出候ニ付御門通行之義中奥目付方差凶有之候処間違ニ相成彦兵衛与八共ニ追込申付候様大御目付平井郷左衛門方被申聞御日柄ニ付晚方取計郷左衛門へ相届ル

六月十八日 晴 登城

一戸川町福永屋藤助借家喜太郎父源助十一ヶ年已前借銀増長ニ付無擧致出奔其後倅喜太郎家財売払銀主方相济當時備前岡山ニ罷有候処病氣ニ相成当春来別而不相勝依之御憐愍之上徘徊御免被為成下候ハ、折々御当地へ罷越乍腰懸養生為仕度喜太郎相歎候先年二丁目浜本屋喜助御免之例も有之候ニ付与兵衛殿へ相窺候処御聞届被成候大目付士へも達候

一元魚町肥後屋佐七娘大坂北浜町俵屋与平次方へ差遣置候処病氣為養生罷越当十一月迄逗留相願候

一坪井町南側鍵屋吉兵衛家屋鋪表口四間裏行十七間但彦軒役也五人組相談之上裏家建物不残代銀札壹貫目ニ相極ニ二丁目伏見屋茂七へ売渡申度相願聞届ル同廿五日売券状差出候

一新魚町河本屋伊之平家族共出奔致候ニ付三十日切尋申付候得共今

以行衛相知不申段断書出猶又三十日切尋申付ル同廿日御用所へ及御沙汰尚大鑑士(ツ)へも達候

六月十九日 未刻過雷雨

一新魚町うを屋与八追込差免候様郷左衛門被申聞今晚取計候様大年寄へ申付尤御同人へ相届ル

六月廿日 不正 登城

一有徳院様御証月ニ付地藏院御参詣被遊候

六月廿一日 不正

一姫路屋彦兵衛追込今晚差免候様郷左衛門被申聞取計同人へ相届ル  
一吹屋町木屋喜介妻出産月取間違断書出以後入念候様此度ハ叱置候

六月廿二日 不正 登城

一先月中生死人別出入左之通書上候

出生六人男四人女式人人別入十式人人別除壹人死失十四人差引而三人増

懐胎十四人

六月廿三日 雨

六月廿四日 不正 登城

一東新町鍛冶忠右衛門家屋鋪北側表口式間裏行十七間但三步三厘役也五人組相談之上代銀札四百目相極町内広戸屋理兵衛へ売渡申度相願承届ル同廿六日売券状出候

六月廿五日 雨

六月廿六日 雨 登城

一町人共近来芝居芸を仕組他領江も参候由粗相聞右躰之趣ニ而者河

原者も同然之儀他評之処も如何敷遂吟味咎等可相親義ニも可有之候得共多人数ニも相聞候ニ付此已後相慎候様町触取計可申哉之段与兵衛殿へ以書付相伺候処尤之由被仰聞触書出候文段扣ニ有之大目付士へも申達候

一御堀掃除料銀札貳百八十九匁五分五厘作事方西村治大夫へ相渡候  
一中ノ町芦田屋佐助所持家屋敷南側表口四間裏行十七間但彦軒役也  
五人組相談之上代銀札八百目ニ相極町内玉野屋藤五郎へ売渡申度相願承届ル七月二日売券状出候

六月廿七日 折々雨夜大雨

一 大坂北久太郎町菱屋理兵衛手代宇八小間物売宿堺町小鳥屋次郎右衛門切手

六月廿八日 雨 登城

一 茅町木屋伊右衛門悴亀之助兼而不所存者親類共申合異見加候得共相用不申我儘相働<sup>(剩力)</sup>去ル十八日致家出居所相知不申依之親類一同義絶勘当相願及御沙汰候処御聞届被成候大鑑所へも達候本証文出之

一 御蔵米五拾三匁米四拾九匁  
一二階町山手屋弥太郎借家くま五月九日預ニ申付置候処京町板本屋十蔵役介ニ付差免之儀相歎及御沙汰候而差免候大目付士へも達候

六月廿九日 雨

御家老永見造酒介殿

蔵合孫左衛門

御年寄本多左門殿

大御目付渡部惣右衛門

朔日 晴 登城

一月次之御札被為請当役於御居間御礼申上ル

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代又五郎新七長佐茶碗類売宿京町田戸屋惣七郎切手

一 増尻右門被為召御使番格與取次只今迄之通御使番兼帶被仰付候

一 今日御対面所江被為入類役何れも被為召罷出

七月二日 登城 雨

一 廿五人之馬持共被下置候御扶持大豆壹疋ニ壹俵ツ、拝借相願今日相伺候処御聞届被成候大目付士へも相達勘定奉行中へも及通用候

七月三日 晴

一 明四日五時泰安寺御参詣被仰出候

七月四日 晴 登城

一 上紺屋町灰屋善十郎借家守清吉支配孤独三と申女極老其上病身ニ罷成歩行不叶及鶴命家主組合方心付遣候得共何れも困窮者ニハ行届不申依之御救之義相歎御用所へ相伺候処御聞届相濟大目付士へも達候

一 御前御用所へ被為入候

七月五日 晴

七月六日 晴 登城

七月七日 未刻雨 登城

七月御月番

月番大年寄

一七夕御礼被為請諸士登城當役御居間において御礼申上ル御用所へも罷出御祝義申述候

一明八日五時泰安寺御参詣被仰出候

七月八日 登城 未刻大雨雷少

一御仏參被遊候ニ付御先掃差出候

一元妙法師弟子遂敬并同人父武田七郎兵衛御裁許之義先日相窺候処

今日窺之通被仰出候尤大鑑中申談取計候様左門殿被仰聞明九日

取計候様申談夫々へ申渡置候

一盆中ニ付諸法度町触例年之通孫左衛門へ渡

一來ル十八日方同廿三日迄町方宗判取之儀書付出寺社取次へ懸ヶ合

置候

一雲州母里領并尻町善右衛門西国順礼婦路紀伊国にて相煩送者ニ相

成町無滞在へ送渡候

七月九日 晴

裁許

一今六半時於牢屋敷前遂敬義師を欺悪事色々相仕候依科百敵之上親

七郎兵衛永預ヶ申渡立会御徒目付中尾嘉兵衛下目付老人当役所小

頭部屋目付平組兩人書役説渡取計五時於役所武田七郎兵衛遂敬一

件ニ付叱之上役免追込申渡七郎兵衛病氣ニ付名代茂渡莊右衛門川

口藤左衛門畢而七郎兵衛妻并娘兩人別居ニ而扶助不行届之趣不埒

ニ付七郎兵衛へ引取申付且又遂敬所持金子十四兩一步并銀札廿四

匁九分因州懸り合有之金之由可有内済旨申渡取計相濟左門殿へ御

届申達候大鑑中同断 金子請取手形  
書役單箇へ入置

一御近領盜賊沙汰相聞町方銘々盆前之事別而致用心候様申触猶又非

人加廻一組申付ル翌十日及御沙汰候八月二日方相止ル

一御藏米五拾四匁五分町米五拾匁五分

七月十日 晴

一盆中之夜町方惣側貫拔并西大番所脇共九時迄聞置候様例年之通申

付御用所大目付士へも達候

一來ル十四日例年之通町廻之儀及御沙汰候尤御貸人馬之義大鑑所へ

達候

一牢屋入用之内盆前弘立三拾六匁八分六厘小頭佐五兵衛へ相渡候

七月十一日 晴

一陰陽師高橋伊豆并手代共式人且廻宿境町小鳥屋次郎右衛門

一錢通用百九文町方へ相触候段申出ル

一明十二日五時御仏參被仰出候夫々へ申渡

七月十二日 登城

一京町北側宮嶋屋新六娘家屋鋪表口四間裏行十七間但御堀切六歩役

也五人組相談之上代銀札七百目ニ相究町内吉田屋喜八へ売渡申度

旨相願承届ル翌十三日売券状出ス

七月十三日 晴

七月十四日 晴 出仕無之

一今日御仏參可被遊之処少々御異例被成御座候付御延引被仰出候

一例年之通盆中ニ付廻町ニ罷出何之相替候義無之五時過相濟婦懸左

門殿へ御届申達惣右衛門江途中方為届組遣又供立左之通

口之者式人高高張二ツ高脇式人鎗挟箱合羽箱一ツ草履取箱挑灯兼

ル 善次  
金藏

七月十五日 雨 出仕無之夜ハ霽ル

七月十六日 出仕無之

一安岡町幸右衛門筋定七妻月取間違斷書差出叱置已後入念候様申付ル

一金谷村浅右衛門所持之船株此度船頭町高瀬屋勘右衛門へ讓請之願差出承届ル尤株札名前相改渡候様大年寄へ及差図候

七月十七日 不正

一地蔵院御社参五時被遊候

七月十八日 不正 登城

一豆腐直段去々辰年<sup>上ケ</sup>文十九文ニ只今迄仕商売候処大豆直段高直ニ相成其上錢相場下直ニ相成旁売立引合不申今<sup>上ケ</sup>文上ケ相願遂吟味候処無余儀趣ニ相聞依而御用所へ相窺候処御聞届被成候大鑑所へも相達候

一先達而考子御賞詞有之右行状委敷書上候様左門殿<sup>レ</sup>被仰渡下方へ申渡候

七月十九日 霽

七月廿日 不正 登城

一御藏米五拾五匁米五拾一匁

一小鷹ノ清藏与申盗人去年安岡町久米屋友七方へ這入候由南小原ニ而昨日召捕今日遂吟味候処相違無之ニ付御日柄故牢番預ケ申付追々入牢取計候事両御方へ御届申達

一近年金銀融通不宜諸家差支之趣ニ付従公儀左之趣被仰出之大意諸国寺社山伏宮門跡方尼御所相除其余分<sup>者</sup>本寺本山并重立候様社家

ニ而取調其末々之趣ニ随ひ上之分一ヶ所ニ而金十五兩と相定其已外相應之出金

諸国御料私領百姓持高百石ニ付銀二拾五匁ツ、於大坂表御用金差出候ものハ除之

右同断町人間口<sup>者</sup>間ニ付地主<sup>方</sup>銀三匁ツ、但於大坂御用金差出候ものハ除之

右者当年<sup>方</sup>来ル戊迄五ヶ年間年々前書之通出金銀被仰付従公儀も御金被差加七朱之積を以諸家へ御貸付被致候御用相濟次第会所入

用引之元利共被下候由御触有之委細御文段ハ扣帳ニ有翌廿一日町触取計候尤従公儀<sup>者</sup>出金銀廿日限ニ差出候様被仰出候得共取立之儀<sup>者</sup>追而可及差図候様触達候様御用所<sup>方</sup>被仰聞候事

七月廿一日 霽

一左兵衛佐様御家督恒吉様与称申候右御名差合候ハ、相改候様被仰出大目付廻状到来町方并組中牢屋三軒屋江も相達候

一盗人清藏今日入牢手形遣候<sup>翌廿二日及御届候</sup>

一町方小間割合銀高書上候様被仰渡左之通書上候

六千三間半但一間三匁割ニ<sup>レ</sup>八匁拾匁五分

七月廿二日 暁雨 登城

一六月中人別出入左之通書上候

出生七人男式人女五人人別入六人人別除三人死失七人差引而三人増胎胎十五人

一於江戸表大和守様之御裡方様御病氣之処御養生不被成御叶去ル十日御卒去被成候旨申来依之今一日鳴物高声御停止被仰出町中并牢

屋三軒屋江も相触候

〔雜〕伊藤采女家来荒木義右衛門与申者江戸表において御膳方相勤候内

紛失物有之義右衛門へ御不審相懸り当役へ御渡被成候ニ付吟味取

計候様於御用所被仰渡惣右衛門へ申談候処采女へも被仰渡候間懸

合受取揚り屋入置候様ニ申聞未刻過刀差三人中間言人差添義右衛

門被差出玄關前ニ而帶刀受取手鎖懸白洲ニ而上り屋申付候段申渡

左門殿へ御届申上候惣右衛門へも達

七月廿三日 晴 暑強

〔貼紙〕一荒木義右衛門今日於詮議場遂吟味立会小頭部屋目付出番権七新平

五時与八時相濟口書翌日差出

七月廿四日 晴 登城暑強

一三船孫八儀病身ニ付奉公難相勤番代相願無余義趣相聞承届候

七月廿五日 晴 暑強

一御蔵米五拾七匁五分町米五拾三匁五分

一越中富山船橋町松井屋源兵衛反魂丹売宿二階町わけ屋平五郎

七月廿六日 晴夜雨 登城

一御膳方足輕青井義藏吟味書左門殿へ御渡被成候

一福渡町北側柴屋嘉介家屋鋪表口七間裏行十二間但本役也元来坪井

町三船八郎右衛門持主候処此度名前付替相願承届候

七月廿七日 晴夜雨

一荒木儀右衛門再吟味詮議場ニおいて取計候

七月廿八日 晴 登城

一盜賊御裁許相伺候

一御蔵米六拾壹匁五分町米五拾七匁五分

一二階町石松院宿坊北側塀覆修覆ニ付御堀へ足代おろし候断寺社取

次中占引合有之但上達之義向方ニ而相濟役所承置

一三津屋平右衛門改印断承置候印鑑出候

一西今町玉屋吉右衛門所持旅人旅籠屋株来ル申ノ年迄同町松尾屋源

八へ預願承届ル

七月廿九日 晴

一元魚町伊丹屋七郎兵衛追込差免之儀昨日相窺候処御聞届ニ付今日

差免御届申達候

一坪井町山際屋清兵衛所持自国請酒株安岡町安次郎凡三年貸借願承

届ル

七月晦日 晴

八月御月番

大年寄月番

御家老安藤丹後殿

斎藤孫右衛門

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付田中八郎左衛門

朔日 雨 登城

一八朔御礼被為請諸士登城当役於御居間御目見申上候御用所江も相

揃罷出ル

一今日被為召候面々左之通

格式御使番天野郡太御刀番川崎外内柴山〔〕兵衛格式番外上原彦藏

御近習勤越野権四郎

一新魚町へ日々参候肴種類問屋共ニ為書上候様被遊度旨御小納戸石

田新次方被申聞

八月二日 雨 登城

一備中国松永と申所ニ牢拔文七手懸相聞召捕之義与兵衛殿へ相達大目付へも申談候路用内貸小玉銀百五十目受取小頭へ相渡甚蔵兵助

并目明忠介非人一人差添ル明朝立之積同十六日夜帰ル

一同心組病人多ニ付備中行留守中使組兩人加人大目付へ申立前原才

次田下祐助受取

八月三日 雨

一荒木儀右衛門再々為吟味詮議場罷出ル

八月四日 登城 雨

一御仏参御延引被仰出候

八月五日 晴

[雜] 一江戸表於御膳所銀御葉鑑つると口有之候義ニ付右足輕青井義蔵鈴

木助蔵吟味之義昨日与兵衛殿方被仰渡今日呼出遂吟味口書印形取

之御使組小頭部屋目付立会罷出縁側ニ差置但無刀ニ而差出

八月六日 小雨 登城

一町方宗門改帳差出尤案詞帳及返却候

八月七日 雨昼方晴ル

八月八日 登城 晴

一六時泰安寺御仏参被遊御先払出候

一銀札百六拾目六分懸ケ合問屋冥加銀相収受取手形差出候

八月九日 雨

八月十日 登城 晴

一公儀方先頃被仰出候寺社山伏并百姓町人出金銀之儀承知之日方廿

日を限り差出候様被仰出候得共日数少ク候而ハ差支之場所も可有

之ニ付承知之日方五十日限差出候様追触有之町方へ相達候様田中

八郎左衛門方被申聞相触候尤取立之儀ハ先日相触候通追而可及差

図尚又追紙相触候

一宮牛馬寄ニ付御法度触書孫右衛門へ渡候

八月十一日 晴

八月十二日 雨 登城

一伯州久米郡下田中村与兵衛妻きく同妹はる右式人西国順礼帰路播

州三ヶ月駅ニ而病氣付宿送ニ相成昨夜及深更申出今日香々美新町

へ送渡候段申出御用番中へ相届候大御目付士同断

八月十三日 晴

一於江戸表酒井越前守殿御養母嶺松院様御病氣御養生無御叶去月廿

四日御卒去被成候殿様御從弟女之御統ニ付御定掛之御忌服被為請

候段御届被成自是今日方来ル十日迄鳴物高声御停止之事候尤普請

者不苦之旨大御目付廻状昨十二日日付ニ而今晚到来即刻町方并支

配方ニも相達候

一右ニ付御用所并御次向御機嫌窺有之候由ニ付類役何茂緞子肩衣着

用御次へ罷出御小納戸石田新治を以御機嫌相窺候

八月十四日 晴 登城

一御蔵米六拾式匁町米五拾八匁

一作州勝北郡上町河村利八申者四国遍路帰路足痛讚州丸亀方送出御領分へ送来町方無滞在方へ送渡候

八月十五日 晴 登城

一 式日御礼被為請諸士登城当役於御居間御礼申上候

一 御家中家筋調被仰付候別紙ケ条書之趣認可差出以来ハ每暮支配頭

へ委細書出候様被仰出候

系図并古キ書付類姓氏苗字古来家之紋所本国生国由来被召出已前

何方へ相勤代々妻女兄弟姉妹何方方来ル何方へ遣本腹妾腹別家并

部屋住被召出代々名乗改变隠居名家督番代跡式御役替格式并御役

免式之不座本高御加増并減地御判物有無拝領物御賞詞又ハ御叱御

咎旅勤加役御譜代家筋上使被下物遺物差上幼少家督添屋敷御紋押

着古參家筋番代跡式

右者御ケ条之大意相記置候委曲御書付写之触書扣ニ記置候

八月十六日 晴 登城

一 安藤丹後殿来歳御参勤御供被仰付候由大御目付方為知有之類役相

揃罷出及御挨拶植木左士来歳若殿様御出府被遊候ニ付御用懸り并

御供被仰付候

一 新魚町南側松屋清右衛門所持家屋敷表口三間半裏行十式間但本役

也五人組相談之上代銀札八百目ニ相究町内油屋庄之助へ壳渡申度

願出承届候同十八日壳券状差出候

一 下紺屋町南側作人善兵衛家屋鋪表口四間裏十七間但半役也五人組

相談之上代銀札三百目ニ相究町内かと屋平六へ壳渡申度相願承届

ル同廿一日壳券状出ス

一 西今町山際屋和兵衛所持之自国請酒株当午八月方来ル申才迄京町福嶋屋弥吉借受願承届ル

一 備中へ牢拔召捕ニ遣候同心組今夜罷帰候処松永と申所ハ無之備前

ニ松嶋と申所有之其嶋へ渡相尋候得共手懸り無之旨申出同十八日

与兵衛殿へ申上候大御目付士へも達候

八月十七日 晴

八月十八日 晴 登城

一 去ル九日夜九時貫拔不申候月行事桶屋町桶屋弥七三百文過料同

御家中西大番所脇番人和兵衛是又不不ニ付三夜之番賃為過意取上

与兵衛殿へ相達御目付士へも達申渡

一 町家ニ而御医師へ療治相頼候節ハ其手寄を以相頼候趣粗達御聞差

支ニも可相成ニ付爾来病用之儀ハ直ニ罷越相頼候様相触候様与兵

衛殿より被仰渡候尤御医師方へも被仰渡候由市郷同様ニ付郡代中

へも申談同様相触候様大御目付士被申聞候

八月十九日 晴

一 一宮村方病犬出人馬共ニ怪我有之非人申付遣候段孫右衛門申出夜

ニ入一宮村ニ而打殺候段申出ル

八月廿日 晴 登城

一 明日天氣能候へハ木山寺へ日帰參詣致候旨大御目付田中へ相届ル

尤留守之儀者御郡代中頼置候旨申達

一 石名佐五兵衛妻出産女子出生候段届出ル

八月廿一日 晴

一 昨日相届候通他出夜ニ入帰宅

八月廿二日 晴 少雨登城

一御藏米六拾四匁町米六拾目

一七月中町方生死人別出入書上左之通

出生十六人男五人女十一人入五人別離三人死九人差引而

九人増膿胎八人

右之通与兵衛殿へ書付出候

一盗人理右衛門長右衛門三之丞御裁判相同置候処大御目付立合与兵衛殿之通被仰渡且郡代所之候無宿者御裁許取計之儀右同様被仰渡權六伺書ニ少々間違有之日限追而相究候様被仰聞候

一勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代莊次郎紺屋形壳宿堺町西川屋善助

一林田町山本弥吉所持他国請酒株来申ノ八月迄丸二年元魚町ちとせ

屋儀右衛門賃借連印相願承届ル

一階町組屋源左衛門所持他国請酒株当十月迄三ヶ月三丁目和田屋

九兵衛賃借願承届ル〔一〕月

一明廿三日四時御供揃ニ而若殿様妙見山へ御出被成候依之殿様御出之通諸事取計候様大御目付士之申来尚又中奥目付士之御道触申来大年寄へ申付且御先私申付ル

八月廿三日 晴

一若殿様御出ニ付御先私京橋御門外へ差出尤此已後共御出之節ハ此

例を以取計候様大御目付士被申聞候事

一御藏米六拾六匁町米六拾式匁

八月廿四日 登城晚方之雨

一御藏米六拾九匁町米六拾五匁

八月廿五日 雨

一南河原請場請取渡相濟小頭罷出ル

一三丁目并筒屋信三郎所持請酒株当十月迄元魚町浜本屋利右衛門借用相願候間十月四日相濟候

八月廿六日 登城

一御藏米七拾壹匁五分町米六拾七匁五分

八月廿七日 晴

八月廿八日 登城 晴

一河原町作人十兵衛娘しな先達而狂氣ニ付拝借牢相願候処此節病氣快出牢之義相願御用所へ相窺候御聞届被成候大目付士へも達候

一新魚町河本屋猪之平并家族共当五月出奔致候ニ付三十日切尋三度申付候得共行方相知不申旨断出依之親類組合不埒ニ付叱追込相同候処相濟今日於大年寄宅小頭部屋目付立合申渡相濟御用番中へ相届ル大目付士〔一〕

一御年貢米先私御停止之旨町触与兵衛殿より御渡被成下方へ相触候

一備前国津高郡品田村光信寺役介三好又四郎与申者謠之指南致候ニ付西今町直屋山三郎方ニ毎月廿日計ツ、逗留為致度相願御用所相候候御聞届相濟大御目付士へも達候〔一〕 翌正月廿二日相止 候断相〔一〕

八月廿九日 卯半刻方大小風大雨

一今已半刻宮川大川満水之旨注進即刻御貸人馬之義田中八郎左衛門

へ申遣出役殊之外出水ニ而船頭町堤筋水越候場所土俵等申付宮川

大橋江参候処別条無之ニ付東新町堤筋参候処殊之外百間敷上ノ雁

木水越難防土俵等申付漸防留候得共藪之肩水越内へ水入西新町迄

水入東新町裏通ハ四尺五寸未中刻水落引取与兵衛殿へ為御届罷  
越委細申上每度町方水入候而ハ難相濟前々之通水除被仰付度申上

候処御聞届之旨被仰聞大目付八郎左衛門へも右同様申談置候

一元魚町藤野屋多吉家守二階町浜屋藤藏当国真島郡垂水村豊国屋源  
助来ル申才迄三ヶ年切奉公相願承届ル翌未七月勝手ニ付罷帰候旨  
届出ル

九月御月番

月番大年寄

御家老永見造酒介殿

玉置源五兵衛

御年寄本多左門殿

大御目付太田舍人

朔日 登城 晴

一月次御礼被為請諸士登城当役於御居間御礼申上候御用所へも罷越

当日申「」

一今般刃傷ニ相臨候節心得御条目被為張候ニ付罷出拜見相心得候様

大御目付士演達有之候

一盗人岩太郎牢死之段小頭相届ル左門殿へ相届ル大御目付士へも達

候

一上三軒家式軒昨日風雨ニ破損御修覆申出大御目付士へ申立候

一林田町龍野屋喜介儀佐々木弥大夫江对無礼之儀有之禁足申付具候

様被申聞大年寄へ申渡

九月二日 晴 登城

半

一牢死岩太郎死骸今未刻為檢使御徒目付中丸加兵衛下目付壹人当役  
小頭部屋目付立合見分之上兼田河原へ取捨ル相濟左門殿へ御届申  
達大目付士へも達候

一御藏米七拾目町米六拾六匁

一下紺屋町龜介借屋佐助妻

一坪井町福得屋伊三郎妻

一鍛冶町長三郎妻

右三人之者懐胎四ヶ月ニ可相届処及延引不埒ニ付已後入念候様叱

置候様源五兵衛へ相達ス

一二かい町浜屋藤藏持来候式步中買株宮脇町生駒屋次右衛門へ讓願

差出承届ル

九月三日 雨

一錢相庭百七文

九月四日 晴 登城

一泰安寺へ仏詣被遊候ニ付御先私差出候

一牢番足輕和田保治不快ニ付引込代り之義大御目付申立御使組一人  
相廻ル

九月五日 晴

一今九時御共揃見山へ被為入京町御門五鍛冶場へ被為入御渡船被

遊候由中奥目付と通用有之御先私并掃除申付ル

九月六日 雨 夜半北風烈

一今六半時於牢屋敷前盜賊御仕置左之通取計申付ル為檢使御徒目付

裁許

中尾嘉兵衛下目付一人当役所小頭書役部屋目付出番三人

盗人三之丞五十敲之上父材木町喜助へ引渡候盗人長右衛門百敲之上御領分追私盗人利二百敲之上御領分追私盗人幸助百敲之上御領分追私盗人平兵衛百敲之上御領分追私盗人丈八五十敲之上御領分追私

三之丞父喜助兼而三之丞教訓不宜候ニ付呵追込但大年寄於宅取計申付右盗人五人院庄御境外へ追私村庄屋見届一札取之帰ル左門殿へ御届申達候大御目付同断

一 右追込候喜助義兼而病氣ニ候処相果候段断出取捨之儀左門殿へ相親候処夜分竊ニ取置候様可申付被仰聞大御目付士へも相達候

一 林田村六右衛門并元院庄当時無宿十兵衛郡代所方出牢被取計今日出番方出会候

一 荒木儀右衛門拷問取計小頭部屋目付書役出番立合水責ニ申付候得共不及白状左門殿へ申上大目付士へも達候

九月七日 昼時 晴

一 昨夜之風雨ニ而洪水之趣乍遠方被遊御覽町方床之上上水乗候様ニも候ハ、可被遊御覽候ニ付様子為見候而可申上御出被遊候へハ御供被仰付候旨御小納戸山田兵助方申来即刻水為見候処未註進石方下之石へ水へ懸り登城之上申上候御見合被遊候内風雨も静ニ成御出御延引被仰出候

一 船頭町土橋下地損所有之ニ付出水故往来今日差留候左門殿へ相届大御目付士へも達候

一 昨夜之風ニ御城裏手大木菅本たおれ候段三軒屋番断出大御目付士

へ相達

一 御藏米七拾貳匁町米六拾八匁

九月八日 霽 登城

一 先頃従公儀被仰出候町在寺社出銀之義下方及困窮可為難義ニ付其旨公辺江被達右代り上被差出相濟候ニ付銘々差出候ニ及不申候令安堵家業出精候様被仰出候尤追而従公儀利銀被下置候へハ其節ハ可被下置旨被仰出候旨御書付を以大御目付方御達有之町方へ相達候様源五兵衛へ申付ル

一 丁子屋源左衛門坪屋和助孝子行状御書付町方支配方へ申聞候様被仰出相達候

一 江戸表洪水ニ付夫食不自由ニ付諸国々米麦雜穀何にかきらす相廻候而も不苦旨従公儀御触有之町方へ相達候

九月九日 霽 登城 大綱宮祭礼ニ付警固 四人差出候

一 重陽御礼被為請諸士登城当役於御居間御目見申上候御用所へ相残罷出ル

九月十日 霽 登城

一 西岸院様御証月ニ而御仏參被仰出候御延引被仰出候

一 御藏米七拾四匁五分町米七拾目五分

一 京都烏丸通り六角下ル町二文字屋九兵衛手代太助呉服商宿京町海老屋長右衛門切手出候

一 上田邑北村嘉右衛門方ニ日履差置候処品々取逃ニ達候色目書付出候由町触取計候様大御目付方申来相触候

一 錢相庭百九文

九月十一日 霽

九月十二日 昼時少雨 登城

一先達而金銀融通のため諸国下方出金之儀公儀が被仰出候処關東出水其外出水ニ而向々難渋之趣相聞依之出金銀一統被差止候旨從公儀被仰出候由書付大目付士が被相渡町方へ相触ル

一公方様御不予之御沙汰有之候ニ付鳴物諸事相慎候様大御目付廻状到来町方并組中牢屋三軒屋へ相触ル

一東新町裏前々有来候梓なげ再興ニ付普請方入札ニ相成郡代中町方相望候者ハ郷中普請方役人中へ入札差出候様被申聞相触ル

一播州網干馬屋彦右衛門小間物卸売同国同所余陸屋惣七八百物卸売同国同所塩屋伊兵衛手代助三郎荒物塩物卸売右三人之者中ノ丁高尾屋新蔵宿切手出ス

一播州網干余陸屋武兵衛八百物并鯉節売同国同所平松屋平九郎小間物并晒蠟売同国同所丸屋六三郎荒物類并塩物卸売宿中ノ丁小山屋与二三右衛門切手出ス

一播州網干余子浜菊屋弥七郎悴源次郎小間物卸売播州網干新在家伊部屋清六塩物并鯉節卸売中ノ丁甲屋幸助宿切手出ス

九月十三日 晴

九月十四日 霽 登城

一今日御仏參御延引被仰出候

一鍛冶町宗道宮祭礼ニ付神楽之儀相同候処鎮守之義ハ神楽等不相成神前燈明計其余夜ニ燈候事不相成候旨舍人被申聞候

一明十五日少々御風邪被為入候ニ付不被為御礼請候旨御奏者廻状到

来

一先達而被仰出候通三十歳以下素読被為聴候日限之義ハ追而可被仰出候旨大御目付廻状到来

一根井新兵衛江戶表が罷越候ニ付諸礼之儀致稽古候ハ、勝手之由大目付廻状到来

一錢相庭百七文

一銀札場が錢川下手形裏判申来候

九月十五日 晴

一夜九時急御用場有之段大御目付が類役連名為知手紙到来ニ付即刻出仕八半時引取

一去ル八日於江戸表御女中出産御男子様御出生被成候段申来恐悅之旨為御知大御目付廻状出ル右ニ付御次向平服ニ而此節之義故御内々恐悅申上候旨ニ付御小納戸を以類役一統恐悅申上ル

一公方様去ル八日薨御被遊候旨飛脚ニ而被申来候趣ニ相聞候得共未早追參不申候ニ付御触出無之

九月十六日 曇夕方小雨 登城

一今已下刻駒并守吉為早追到着直ニ登城大御目付へ御用状被差出候処去ル八日公方様薨御被遊候旨依之町触先格調へ下案差出候様舍人被申聞先格調へ差出候処左之通近例を以相触候様御用番左門殿被仰渡候町触

被仰渡候町触

一公方様去ル八日就薨御自是鳴物高声并普請之儀御停止之事ニ候一火之用心別而大切ニ裏借屋之者共迄入念候様申付尤自身番昼夜共ニ一町切相勤可申事

一町中表店之分不残両部共ニをろし可罷有事

一殺生之儀家職たり共一切御停止之事

一魚鳥商売之儀店売振売共ニ御停止之事

一往還ニ而子共たり共高声為仕間敷事

右之趣横町裏借屋末々迄急度相慎候様可被相触者也

午九月十六日

後守介

大年寄中

覺

一諸職人宿々ニ而細工鳴音仕候義仕間敷候竊ニ細工仕候義ハ其通之

事ニ候鍛冶屋細工も右同断

一魚鳥之外諸色振物之<sup>品</sup>々々家之内へ入売可申候往還ニ而高キ売声仕間敷事

一不及申候得共振舞ケ間敷事仕間敷候仏事等仕候とも人集メ申間敷事

一から卯踏ミ申とも鳴音不仕様踏せ可申候事

一わた打申義も表之方ニ而ハ遠慮仕表遠キ所ニ而打可申事

一うとんの粉おろし候儀も右同断

一古物さやし売仕間敷候事

右之外一々相触不申候間何事によらず音高く相聞候事方々相慎可

申事

午九月十六日

後守助

大年寄中

此覚書七ヶ条ハ触書ト申ニ而ハ無之候半切  
紙認玉置源五兵衛へ相渡

覺

<sup>半紙</sup>一鳴物高声御停止之事ニ候

一小家之火之用心入念可申事

一御家中并町方へ罷出鳴物歩等之儀者不及申高声仕間敷候事

一殺生仕間敷事

一普請ケ間敷義仕間敷事

右之趣□□□非人頭江入念可被申渡候

午九月十六日

後守助

大年寄中

右三通月番源五兵衛呼出相達候葬具用桶など拵候義ハ誠無扨義大年寄承届候様申付尤其旨左門殿江先例申上大御目付士へ申談候

一<sup>縦紙</sup>大御目付廻状左之通写組中牢屋三軒屋相触候様小頭へ書付相渡候

是鳴物高声普請御停止之事ニ候

但日数之儀者追而可申渡候

一他出之儀当分無用之事

一火之元之儀此節別而可入念事

一月代当分下々迄無用之事

右之趣同役并支配方江も可被相達候已上

九月十一日

<sup>半紙</sup>公方様覽御二付月代当分無用之儀又ものニ至迄剃申間敷旨及演達候之様御用所被申二付申達候

右之趣同役并支配方江も可被相達候已上

九月十六日

大目付

一御藏米七拾八匁町米七拾四匁

一錢相庭百五文

九月十七日 晴 午刻雷同半刻雨少

一田中八郎左衛門東武為御侮御使者今朝出立之由

一錢相庭百三文

一因州八上郡下船岡村長吉四国扁路帰路備中黒土村ニ而相煩送者ニ相成当所へ参町方無恙送出候

九月十八日 晴 登城

一惣町明日々上蔀明候儀御先格之由相窺候処春米之義も無扨義ニ思

召候条差免候様被仰出候ニ付左之通ニ相触候

明十九日々上蔀明ヶ候儀指免候間其段可被申渡候尤下蔀者其儘

をろし可罷有候

一春米之儀昨日々指免候尤小歌うたひ高声仕間敷候

右之趣横町中へ可被相触候已上

午 九月十八日

後守介

大年寄中

一 下紺屋町長瀬屋勤兵衛後家屋敷表口式間半裏行十壹間三歩三厘役

也五人組相談之上代銀札百五十匁ニ相究同人借屋大工伊介へ売渡

申度相願候ニ付承届ル同晦日売券状出ス

一 下紺屋町同人所持家屋敷表口式間半裏行十一間三歩三厘役也五人

組相談之上代銀札百六拾目ニ相極町内作人忠吉へ売渡願承届ル同

晦日売券状出ス

一 美濃職人町北側作人重介家屋敷表口三間半裏行拾七間但七歩半役

也五人組相談之上代銀札五百目ニ相究町内杉屋伊兵衛へ売渡申度相願承届ル同廿一日売券状出ス

一 二階町山手屋弥太郎改印願承届別判鑑出候

一 三丁目平野屋広藏町内佐加屋新次郎所持之造酒株来ル申ノ八月迄

借受願差出承届ル

一 三丁目南側平野屋助左衛門家屋敷表口九間半裏行十七間但式軒役

也五人組相談之上質物書入二丁目小倉屋茂兵衛取次ニ而銀札「賈

目借用相願承届ル同廿九日売券状出ス寛政三亥年返済届ル

一 橋本町武藏屋源次後家所持旅籠屋株東新町延屋十次郎へ相讓申度

願出承届ル同晦日本証文出ル

九月十九日 霽

一 錢相庭百文ニ立替町触候段申遣承置

一 三津屋平右衛門病死ニ付玉置源五兵衛忌中引込右ニ付月番藏合孫

左衛門相勤

一 田原船ニ宮尾米積津山河岸ニ懸ヶ相慎罷有出船之義相窺候他所船

之義ニ付相伺候処勝手次第之旨被仰出候

一 古川屋佐七中買株甥八百吉へ相讓申度相願承届候事

九月廿日 霽 登城

九月廿一日 霽

一 錢相庭九十文立替

一 御藏米八十式匁町米七拾八匁

九月廿二日 雨 登城

一 先月中総町生死人別出入書上左之通

出生十人男三人女七人別人別入九人別人別離七人死失十五人差引而三人減シ臍胎十五人

一御藏米八十目町米七十六匁

一錢九十五文立替

一前々之通紺屋共表向干物明日差免候義御用番中へ相窺左之通相触半紙ル惣町紺屋共表向干物仕候儀明廿三日指免候尤事静ニ仕候様可

被申渡候已上

午 九月廿二日

後守介

大年寄中

一船稼之儀相窺候処明廿三日勝手次第ニ可被申付候様左門殿被仰渡候右両条大御目付士へ達

船之儀者触出候事ニ者無之大年寄とも方御藏元ともへ申渡但文照院様御之節触書扣之内船稼之儀相見候得共差免日数不知其後時節ニ寄候哉無之

一大御目付廻状到来明廿二日下々ニ至迄月代不苦他領江參候儀も無扱用事ハ不苦候得共御中陰中遊山ケ間敷儀可相慎旨御用所被申ニ付被相達候由且又御中陰中式日御礼不被為請諸役人肩衣着用ニ不及右廻状写組中牢屋三軒屋番へ相達候

九月廿三日 快晴

九月廿四日 くもる少雨 登城

一錢相庭九十八文ニ立替申出ル

一御藏米七拾九匁町方七拾五匁

一明後廿六日方町方指免之品々相窺触書孫左衛門へ相渡左之通但明

廿五日之日付ニ而相渡

半切一惣町片部をろし罷有候儀明廿六日指免候間不殘明ケ商売可致候事

一油しめ候儀是又明廿六日方差免候尤小歌謡ひ高声仕間敷候事

一船持共船繕物師鑄物細工明廿六日方差免候尤高声不仕火之用心大切ニ可仕候事

一木工桶屋檜物屋木挽鍛冶屋鋸柄屋其外諸職人宿ニ而細工仕候儀

明廿六日方差免候尤高声不仕火之用心大切ニ可仕候事

一魚鳥之外諸色振売之物御家中惣町往還ニ而売声致候儀明廿六日方

差免候事

但魚鳥其外商売之儀追而可及指凶候夫迄ハ商売仕間敷候事

一手習子供集候儀明廿六日方差免候

但謡うたい申間鋪候諸随分事静ニ可仕候事

右之通差免候間其段被申渡随分高声不仕火之用心等大切ニ可仕之

旨惣町中へ可被申渡候以上

午 九月廿五日

後守助

大年寄中

九月廿五日 晴

一錢相庭百文ニ立替申出ル

一懸合問屋之儀相伺候ニ付明日方諸職人宿々ニ而致細工候儀被差免

候へハ右之類例を以随分事静ニ致商売候様孫左衛門へ申達

九月廿六日 雨 登城

一三浦備後守様去ル十六日江戸御出立来月二日当所御止宿之旨先触

到来之段申出然ル処去月廿九日式之触状ニ付覺御前之義ニ候へハ

御延引と拝察心得共間も無之候ニ付勝山表承合候様大年寄共へ申達尤其段左門殿大御目付士へも相達候

一安藤丹後殿来歳御參勤御供詰江戸被仰付有之候処御用向ニ付御免被成御代り本多左門殿へ被仰付候段大御目付と為知有之候御中陰之義ニ付於御席悦申述候義者差扣候様ニとの事

九月廿七日 雨

九月廿八日 くもる 登城

一三浦備後守殿江戸御立之儀勝山江承合候処就薨御延引之旨返翰来ル今日御月番中へ及沙汰候大御目付同断

一酒直段上之儀惣酒屋共々相願割合書付を以式分上ニ相同候処御聞届被成候尤寒造之時節直段相定可申候処米価高直ニ相成惣酒屋及難義無扱趣其上去年此節米価下段ニ相成候節式分下ケ相願御聞届被成候ニ付相窺候尤寒造之時節ニ至米下段ニ相成候ハ、尚又直段下可願出候由願書ニ有之候事大御目付士へも達

一明後晦日ハ被差免候品々蝕書左之通相伺御聞届被成候大御目付士へも達

覚

一魚鳥見世店ニ而商売之儀明晦日ハ指免候

但御家中惣町魚鳥振充致候義者追而可及指図候事

一家職ニ而殺生致候義明晦日ハ指免候但家職之外殺生仕間敷候事  
右之通差免候間其旨可被申渡候已上

九月廿九日

後守助

大年寄中

一坪井町沢野屋伝六家屋敷表口四間裏行拾七間但本役也五人組相談之上代銀札壹貫目ニ相究町内紙屋与一ハ壳渡申度相願承届ル翌晦日壳券状出ス

一福渡町皆木屋甚兵衛所持式步中買株元魚町古川屋忠兵衛へ相讓申度旨相願承届ル

一御引米御戻被下候儀未思召ニ不被為任候得共諸色高直別而難渋可相暮候ニ付彼是御取關被成先御手当被成下候委曲者勘者奉行へ承合候様勿論弥以致儉約御奉公可相勤旨大御目付廻状到来右ニ付御用懸り御礼廻勤

九月晦日 雨折々早旦雷少北山雪ふる 登城

一大坂北久太郎町播磨屋莊兵衛手代長四郎腰物小道具壳堺町小鳥屋次郎右衛門宿切手出ス

一林田町北側藤本屋長八後家家屋敷表口四間裏行十五間但本役也五人組相談之上東新町鍋屋甚太郎取次ニ而質物ニ書入銀札五百目借用相願候十月十八日本証文出ス

一大年寄札元岩佐孝碩木屋太兵衛塗師勘平白銀屋安兵衛御家中同様御手当米被下置其旨申渡候

一美濃職人町延屋源助持来候古道具取壳株三丁目余野屋与七讓受願承由ル

一橋本町松屋忠助役介かつ臍胎月取間違断書出御中陰明叱取計候様相達

十月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

藏合孫左衛門

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付平井郷左衛門

朔日 晴

一御蔵米七拾七匁町米七拾三匁

十月三日 晴 登城

西上刻雷下刻白雨

一御蔵米七拾五匁五分町米七拾壹匁五匁

一銀札式拾七匁六分五厘四毛孤独御救扶持代請取孫左衛門へ相渡但

松輪三共三三人分

十月三日 晴

十月四日 小雨 登城

一魚鳥御城下振売且又普請之儀文照院様之御例を以明五日迄廿日二

相成明後六日廿一日ニ相成候故今日御指免之儀相同候処相濟大御

目付士へも達候

覚

一町方普請之儀明六日ノ差免候不及申候得共此節之儀ニ候間声高

騒々敷無之様可致申付候

一魚鳥御城下振売之儀明六日ノ不苦候間其段可被申渡候以上

十月五日 晴

〽

後守助

大年寄中

但普請御差免市郷計御家中者  
御免無之旨大目付士ノ承候

一御蔵米七拾四匁五分町米七拾目五分

一播州加古川ねし梓細工人九郎兵衛長次郎二階町嶋屋藤吉方ニ当午

十月逗留仕度願承届ル

十月五日 昼ノ晴

十月六日 登城

一惣町自身番御触出方廿四日目ノ昼計差免候先例ニ付相同候而来ル

九日ノ差免書付孫左衛門へ相渡

覚

一惣町自身番相勤候儀明九日ノ昼計指免候夜者只今迄之通無懈怠可  
相勤候

右自身番久々相勤骨折之事候不及申候得共昼夜共火之用心無油断  
入念候様惣町中へ可被申渡候以上

十月八日

後守介

大年寄中

一三浦備後守殿去月廿八日江戸御発足来ル十四日当所御泊之由御先

触状到来候段申出御用所江も申上大御目付士へも達候

一今六日ノ普請之儀勝手次第之旨大御目付廻状到来組中并牢屋三軒

屋へ相触候様小頭へ申渡

十月七日 晴

一世上病犬有之候由雖御中陰無遠慮為捕候様被仰出候旨大御目付士

ノ申来即刻□□へ申付候様孫左衛門へ申達元魚町ニ而早速捕留候

十月八日 晴 登城

一御蔵米七拾五匁五分町米七十壹匁五分

一殿様御用所へ被為入候諸国酒造米之儀半数造候様公儀御触書与兵

衛殿々御渡被成候御書付左之通

諸国酒造米之儀元禄十五年定数迄ハ新酒寒造勝手次第ニ致シ休  
酒屋之儀も酒造申度分ハ其所之奉行且御料ハ諸代官私領ハ地頭  
江相届酒造候義可為勝手次第旨宝曆四戌年相触候処近年米穀下  
直之年柄無之当年之義も米直段高直ニ而末々之者共及難儀候趣  
相聞候間米穀下直ニ相成追而及沙汰候迄ハ諸国共是迄造来候酒  
造米高之内半石ハ酒造相止半石分ハ銘酒造且休来り候酒株之分  
酒造候義可為無用候若隱造致候においてハ其者ハ勿論其所之役  
人迄吟味之上急度可申付候間心得違無之様御料者其所之奉行御  
代官并御預り所私領ハ領主地頭ニ而是迄之酒造高逸々遂吟味半  
石造之積ニ可申付候

九月

十月九日 雨

十月十日 不正 登城

一 昨日被仰出候酒米半石造之儀惣町造酒屋共不残当時休候共酒株  
有之者江之酒改立合之上公儀御触書之趣申渡候様孫左衛門へ申達  
候

一 浦備後守殿御止宿ニ付先格之通町触出ス

十月十一日 晴

一 備後守殿御様子未相知ニ付佐用御泊明朝立ニ而承合候様孫左衛門  
へ申付

十月十二日 晴 登城

一 五時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參御先払出候

一 此間町方へ鹿出候節騒々敷有之右ニ付触書相窺候処左之通取計候  
趣被仰出候ニ付大御目付士へも達候

御城下へ此間鹿出候節大勢立寄騒々敷有之候由相聞御中陰之儀  
ニ候得者事静ニ致し尚又不依何事相慎心得違無之様可有之候乍  
然人を害し又は作物ニ障り候等之類ハ時ニ臨て相当之取計可致  
義勿論ニ候事

右之趣惣町中へ可被相触候以上

十月十二日

後守介

大年寄中

一 公儀々之御触書左之趣大御目付士々被相渡町触ニ出候大意

浅草心月院門前

家主与一

右之者山藪ニ生候草薺之苦味を抜粉ニ製し候方食物并糊ニ致し割  
麦之如く製候方者米麦等交夫食ニ相成尤毒無之品之旨申出吟味之  
上在方助ニも可相成品ニ付願之通山草薺問屋株売物差免依之京大  
坂其外国々江も出店差出売弘右製法習請度旨望候者者最寄之出店  
へ申聞次第礼物に不及教遣候筈候由

十月十三日 霽

一 備後守殿佐用御聞合九時帰候処水口駅ニ而一日御滞留明後十五日

御止宿ニ相成候旨申出与兵衛殿へ御届申上候大御目付士同断

一 戒善院様御証月ニ付御仏參被遊候付御先払差出掃除申付ル

一 備後守殿御宿割下村治部右衛門与申仁參候旨申

十月十四日 霽 登城

一五時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參被遊候ニ付御先払差出候

一新職人町丸山屋又八女房去ル八日出産女子出生殊之外虚弱ニ而同

十日相果見分紛敷義無之一札取之差出今日与兵衛殿へ差出候

一杉本郡治部屋目付申付小頭同道罷出ル

十月十五日 霽

一御藏米七拾六匁五分町米七拾貳匁五分

一錢百貳文通用立替

〔講通行〕

〔二枚内〕

一備後守殿当所御止宿ニ付七時出宅藏合孫左衛門方立宿罷出夜ニ入

本陣玉置源五兵衛方へ御着源五兵衛案内ニ而御旅宿江為御窺罷出

伴要助と申仁江出向及応対候処別人大須賀金右衛門と申仁方御出

之趣備後守江申聞候処入御念候而御出恭被存候差而之用向も無之

間勝手次第引上候様ニとの事畢而御目録金百疋被下之退出猶又立

宿ニ扣暫時相見合引取候ニ付与兵衛殿并大御目付士へ以手紙御届

申候

馬口付 箱挑灯二ツ 老人八手人 金藏 鎗扶箱

御先払十四日甚藏権七同十五日郡次新平立宿申付ル

馬式人 老人御賃人 若堂二人 新平 草履取 合羽箱

馬式人 箱挑灯二ツ 老人八手人 金藏 鎗扶箱

御使者村井庄藏被相勤御使者宿齊藤孫右衛門備後殿御使者隠岐丈

左衛門御取次村山縫殿丞兼田川御船出ル院庄川ハ橋ニ付御船不出

十月十六日 霽 登城

一備後守殿今曉無御滞御出立出役人共引取候而届出ル出仕之上与兵

衛殿江御届申候大御目付士同断昨夜備後守殿方御目録等被下候趣

大御目付士へ達候

一暮田村平八方へ盗人這入襟物廿八品去五日紛失町触取計候様大御

目付士方書付被相廻取計候色目書付扣帳ニ有

〔門〕一天明元丑年盗人御入り之ため御家中并町方関貫建物等相改申付候

処町方関貫当時相減し候付其後工面を以取建申度候得共未任其意

依之三歩銀之内壹貫目拝借被為仰付被下候ハ、返而取建申度旨申

立候処御聞届相済大御目付士へも相達候翌未九月今五ヶ年上納延

引之断御聞届也

一当月十五日万人講御中陰ニ付延引ニ相成来月十五日興行致度建札

ちらし之義講元共々相同及御沙汰候処御聞届被成候大御目付士へ

達候

十月十七日 晴

十月十八日 夜雨 登城

一備後守殿御止宿之砌問屋場并御先掃差出候ニ付為御会釈五十疋ツ

、三包本陣源五兵衛方同心組へ相廻候段申出大御目付へ達候

一信州木曾築磨郡藪原宿古屋善吉木櫛売中ノ町小山屋与三右衛門宿

切手出ス

十月十九日

今日方武芸勝手次第被仰出候以来稽古之義ハ普請同様相心得候様

被仰出候尤昨十九日日付ニ而大御目付廻状相廻ル写組中并牢屋三

軒屋番へも相達

十月廿日 晴 登城夜雨

一籠舎人仕着せ相同御聞届被成代銀札七拾六匁請取相渡但八人分

万助左兵衛文殊院法釈院松次郎文藏和七清藏

一眼医岩佐孝碩去ル十七日病死悻孝順へ眼和伝来致候段申出今日与兵衛殿へ申上大御目付士へも達候

十月廿一日 晴

一出雲大社中官西村神太夫与申御師上下四人旦那御当地へ罷越宿坪井町桔梗屋莊右衛門

十月廿二日 快晴 登城

一来ル廿七日ニ而御中陰相濟候ニ付先格之通町触古案を以相窺候処左之通ニ而来ル廿六日相触候様与兵衛殿方被仰渡候

覚

御中陰明廿七日切ニ付明後廿八日方惣町夜自身番引取候様ニ可被申付候久々之義無何事相動骨折之段年寄共へ可被申渡候

一惣町鳴物御停止之儀明後廿八日方被差免候間平日之通可相心得候  
右之趣惣町中へ可被相触候以上

午十月廿六日

後守助 大年寄中

右之通ニ而廿六日ニ相触候様与兵衛殿方被仰渡猶又覺御一件別記ニ仕立出候様被仰聞差出候

覚

非人共物賈小歌鳴物之義明後廿八日方差免候其段非人頭へ可被申渡候

午十月廿六日

後守助 大年寄中

右之趣前段同様之事

一 九月中惣町生死人別出入書付左之通

出生十三人男五人女八人別入八人別除式人死失式拾四人差引而五人減臈胎十一人

一 御藏米七拾七匁五分町米七拾三匁五分

一 肥州伊都郡田中莊西大井村長三郎諸国巡拝ニ罷出足痛ニ而送出候由当町無恙在方へ送渡候

十月廿三日 晴

十月廿四日 晴 登城

一 御藏米七拾八匁五分町米七拾四匁五分

一 京町堺町二丁目三丁目同所南横町坪井町右六ヶ所元関貫有之場所再興申付ル御用番中并大御目付士へも達候

十月廿五日 晴

一 久世御代官守尾弥惣右衛門殿町方通行ニ付先例之通掃除并同心組両人先私申付ル東々西々被通候無滞相濟両御方江御届申達候

門

一 城代町出口関貫番人長七病身ニ付代り之者差出度相願承届ル下紺屋町紙屋勝五郎借家吉助与申者差出候間小頭代り郡士立合請書申渡印形当人請人方取置之

一 御藏米七拾九匁五分町米七拾五匁五分

十月廿六日 晴

一 大御目付廻状到来写左之通組中牢屋三軒屋番相達候

御中陰明廿七日切ニ候此段可被得其意候尤同役并支配方江茂可被相達候以上

十月廿六日

大目付

一 御藏米八拾壹匁町米七拾七匁

十月廿七日 初雪

一 町作御年貢不納有之候へハ町家之者差懸手鎖可被申付旨先格案内

手紙御代官中カ来ル

一 御藏米八拾三匁町米七拾九匁

十月廿八日 晴 登城

一 撰州有馬辻堂茂兵衛墨筆卸売中ノ丁甲屋幸助宿切手

十月廿九日 晴

一 若殿様院庄へ被為入御先私今町カ安岡町迄相勤ル

十月晦日 登城 晴

一 東新町今岡屋忠助後家所持家屋鋪表口式間裏行十七間御役三歩五

人組相談之上銀札三百匁ニ相究山本平右衛門へ売渡願出承届候事

閏十月三日 売券状出ス

一 越中富山河原町松井屋佐兵衛反魂丹売中ノ町小山屋与三右衛門宿

切手出ス

一 御前御用所江被為入候

一 御藏米八拾貳匁町米七拾八匁

大御目付渡部惣右衛門

朔日 登城 曇

一月次御礼出仕之上少々御風邪被為入候ニ付御延引被仰出候御用所

江被相揃当日御祝義申述候

閏十月二日 晴時雨 登城

一 新職人町みの屋佐七倅大坂へ明日売用出立ニ付御用状大御目付御

小姓頭中被相廻申付ル

閏十月三日 晴

一元荒木義右衛門御吟味一件ニ付御小姓頭カ差出候書付御用之由ニ

付大御目付惣右衛門カ返候様差越為持遣候

閏十月四日 晴 登城

一 御藏米八拾三匁町米七拾九匁

一 牢屋御膳所并揚り屋之内新ニ板打候義牢番足輕和田保治勝手ニ付

番代致度旨相願候ニ付承届ル番代人ハ渡部惣右衛門家頼寺岡勘七

一 五時御供揃泰安寺へ御仏參被遊御先掃差出候

閏十月五日 晴

閏十月六日 晴 登城

一 若殿様五時御供揃ニ而川辺辺へ被為入京町御門外カ東新町迄同心

組御先掃差出候

一 豆腐直段之儀只今迄尅挺ニ付廿錢ニ商売仕候処大豆直段下段ニ相

成錢相も高直場欠カニ相成等ニ付十七文売三文下ケ相願御用所へ相窺候

処御聞届被成大御目付士へも達候

一 当十一月十八日万人講建札ちらし之儀先格割合を以窺出依之御用

閏十月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

斎藤孫右衛門

御年寄本多左門殿

所へ相達候処御聞届被成候大御目付士へも相達候

一来ル十五日万人講興行ニ付拜借道具書付指出大御目付士へ書付出候高札之儀ハ郡代中へ及懸合候

一牢番寺岡勘七目見請之盃遣候小頭病氣ニ付部屋目付召連出ル

一摂州池田植木屋平兵衛植木商売新魚町鳥屋与三兵衛宿切手出ス

一伏見町能勢屋源介所持自国請酒株当月々来ル申九月迄西新町福富

屋保治貸借願承届ル 寛政元西七月

一東新町岸根屋伊八借家久米次郎去月廿日ふと罷出行方不相知旨断出百日尋申付候及御沙汰候

一式丁目福永屋藤助所持他国請酒株当月々来ル未年三月迄東新町樽

屋清八貸借願承届ル

閏十月七日 晴

閏十月八日 晴 登城

一五時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參被成候ニ付御先払出ス

一来ル十五日万人講ニ付町触如先格差出ス

閏十月九日 晴

閏十月十日 晴 登城

一二階町組屋源左衛門持宮川落合水車場抱分少しの藪ニ三四寸まわり之竹子式本出候由珍事ニ付註進致候段孫右衛門申出及註進候上

ハ番人付置候様申付出仕之上御用所へ申上候処持主存寄次第之旨

被仰出其旨申渡

〔役義〕 一同心組神田順治義先達而番代願之通申付候此度和田保治与申者番

代差出度相願承届ル

一御藏米八拾四匁五分町米八拾目五分

一今般諸役所勤方書上候様被仰出候間町奉行役勤方書付差出候様平井郷左衛門被申聞

一明十一日亥猪之御祝被下置候間申ノ中刻登城候様尤嫡子同事之旨

御奏者番衆方廻文到来

一銭相場百四文通用ニ相成候

閏十月十一日 晴

一玄猪御祝被下置諸士登城然ル処殿様少々御風邪被遊御座候付御手直ニふり不被下御具足之御祝義之通被下候由被仰出当役宇治橋間

ニおいて御祝被下置候御用所へも罷出御祝恐悦申上候

閏十月十二日 登城 晴

一二階町組屋源左衛門横山分ニ抱分畑有之候処初俵一俵捨有之候由届出郡代中へ引合候処向方々御用所へ被申上候処大御目付与町触

取計候様被申聞町触取計候

一御藏米八拾五匁五分町米八拾壹匁五分

一神田保治目見請之盃遣ス

閏十月十三日 不正

一御藏米八拾四匁五分町米八拾目五分

閏十月十四日 雨 登城

一御藏米八拾三匁五分町米七拾九匁五分

一上紺屋町灰屋菊藏借家伊兵衛と申者妻娘家内三人とも当月朔日出

奔致候断書出百日尋申付ル今日及御沙汰

十一月伊兵衛増候断  
十一月四日叱同候

閏十月十五日 晴

一少々御風邪被成御座候ニ付式日御礼御延引被仰出  
一御蔵米八拾四匁町米八拾目

一城州正法寺万人講興行ニ付出役町奉行郡代岸権六御徒目付河村市  
兵衛下目付小頭平組井口惠左衛門同心組十人大年寄大庄屋  
寄札高壹万六千六百九十七枚但五匁札

此銀札八拾三貫四百八十五匁内廿五貫四拾五匁五分

三步引

残而五拾八貫四百三拾九匁五分

此銀札五十番ニ割

一壹番三貫三百三拾九匁四分拾番三貫五匁四分六厘廿番同三十番拾  
貫拾八匁貳分四十番三貫五匁四分六厘五十番六貫六百七拾八匁貳  
分間々六百六拾七匁貳分一厘ツ

變義

一講場において今日大道具幸七并忰十助兩人とも御手廻ニ而候処群  
集之中ニ而及刃傷候由ニ而立騒同心組差向吟味申付候処幸七八脇  
差之身を落鞆計差し十助ハ面部ニ打疵少々血なかし相見小座村清  
藏与申者右之眼ノ上ニ疵有之面部血ニまみれ三人共口上承候処喧  
嘩之様子ニ不相聞打人も無之趣脇差之身ハ□□幸藏河原ニ而捨ひ  
取候由差出致吟味候処血付候事も相見不申弥相手取候様子ニ無之  
候へ共御家人御制禁場へ參及變義候故御手廻仲ケ間同道部屋へ引  
取候様申付小座村清蔵庄屋宿へ引取候様郡代中々被申付候凶事之  
場所居合候商人共及吟味候処群集之場所故一向委細之様子不存候  
由棟突非人穢多等之者とも及吟味候処様子一向不存候由申出右之  
趣引懸ケ左門殿へ罷成御届申達大御目付平井郷左衛門へも申達候

閏十月十六日 雨 登城

一昨日万人講割合書付左門殿へ差出候

一残札渡場へ小頭代り杉本郡治平組兩人差出不残「」へ相渡

一今日昼夜同心町廻病人代り御使組言人請取候大御目付惣右衛門へ  
申談候

閏十月十七日 晴

一江州多賀成就院使僧玄乘坊上下式人廻旦三階町塀屋伊右衛門宿切  
手出ス

一当十月米平均相庭之儀閏十月有之候へハ初メノ十月十五日ノ閏十  
月十五日迄之相庭書取之御代官所御預り所并御私領等へ相廻候先  
格寛延元辰年之通当年も取計相廻候久世御代官所乃并野御預り所  
坪井目木西川小坂部勝山今日迄いつれも相濟候委細者文通扣ニ有

閏十月十八日 晴 登城

一 大田村興善寺鐘鑄来ル廿六日当村において有之候由ニ付東西橋建  
札之儀願相濟候段寺社取次ケ申聞御用番中大御目付士へも及御沙  
汰大年寄へ相移

一 院庄村才助方へ去ル十四日夜盜賊入込被盜物色品書付大御目付ケ  
被相渡町触取計候

一 石名佐五兵衛兼而癩氣有之候処不相勝小頭役義難相勤赦免之義相  
願無捩趣ニ付願之通承届ル

役儀

一 德守宮祭礼九月十九日ハ御中陰ニ付相延今日より明十九日祭礼致  
候由ニ付警固出候処大御目付士ケ被申聞例之通警固差出スツ道具  
御幕出候万人講ニ而受取置候故大御目付士へも及噂相用勘者へも

申談ル

閏十月十九日 雨

一 去ル十五日万人講場ニ而御手廻凶事一件ニ付□□非人取計「遂吟味候様左門殿方昨日被仰聞大年寄へ吟味申付候処左之趣申出

群集之中ニ而喧嘩と申騒立候ニ付早速駈付候処血にまみれ候者と拔身ニ而罷有候者有之候ニ付切付候と存拔身を打落し拔身を

取申候処へ御同心様方御出被成御糺之処拔身を持候御方ハ御家人様之由恐入候処鞘走り候由被仰候故其御詞ニ随ひ拔見ハ拾ひ

候よし其節申上候得共御吟味被為仰付候故有躰限り申上候幸藏口上之趣口書取之出

一 徳守宮祭礼ニ付警固出ス夜ニ入引取届出其旨左門殿并大御目付士へ相届ル

閏十月廿日 晴 登城

一 神社へ呪詛之儀ニ付神木へ釘打候事邪願之筋甚不埒至極ニ付左様之儀無之様市郷共御触等被成可然哉否町奉行郡代申談申上候様左

門殿方被仰聞畢竟御政教之不行届処々之儀ニ候へハ御触之義ハ先御見合被成候而可然被存候ニ付其段書付を以左門殿へ申上ル尤町

奉行郡代名前相記

一 玉置三四郎内庭ニ去ル十五日打かいニ銀子一包入落有之心当り者可尋来哉と相待候得共今以来候者も無之ニ付書付出候由御用所へ

申上大御目付へも達候上東西橋関貫張紙申付ル尤来月万人講之節棚ニ而も致披露候様申付ル

一 昨日□□非人吟味申付候書付惣右衛門へ差出委細者左門殿へ申上

候尤幸藏ハ他参留申付ル

一 鍛冶町中田屋甚兵衛娘御法度之衣類致着用徳守宮致参詣同心組方届出先他参留申付ル

一 □□村穢多和吉同村又吉□□村太助□□村佐助牢番ニ罷出牢舍人飯之売買取次等致不埒至極ニ付穢多頭方叱以後之ため一札取之差出

一 紀州高野山宝蓮院上下式人那廻材木町桶屋忠右衛門宿切手出ス

閏十月廿一日 晴

一 御藏米八拾五匁町米八拾壹匁

一 今七半時頃今町中ノ横丁角田原屋善郎手□不詳まちニ而少々床焼候得

共屋根へ燃上り不申早速消留近町火消茂出不申候ニ付慎之義不申付候

一 今夜四時過東新町地子居長右衛門自火焼失早速出馬町火消出ル早

速消留引取懸左門殿へ相届ル大御目付士江者組之者为届差遣ス

一 昨夜四時過元魚町福増屋善兵衛後家方ニ盗人這入襟□不詳八ツ銀札被

盗取書付出ス即刻尋申付ル翌廿一日御用所大御目付士へも及御沙汰候

閏十月廿二日 晴 登城

一 東新町地子居長右衛門出火届書差出慎之儀御用所へ相伺候上申付ル大御目付士へも達

一 鍛冶町中田屋甚兵衛娘法度之衣類致着用不届ニ付過料尅貫文追込年寄胡太郎佐七追込組合叱明和二酉正月福渡町五兵衛娘御法度破候咎之類例を以相窺猶又右ニ付町方一統触渡之義相窺候処是又同之通取計候様被仰渡候右取計大年寄へ申付相濟御届申上候申渡文

段扣帳ニ有 其兵衛十日  
年寄三日

一先月中惣町生死人別出入書上左之通

出生十五人男八人女七人別人別入七人別人別除三人死失十五人差引而

五人増懐胎十五人

一窓而紛失物書付幾品と申メ且又代積之凡役所ニ而考を入候而申上

候様左門殿方被仰渡候

一去ル十五日於講場及凶事候御手廻幸七重助於役筋遂吟味候様左門

殿方被仰渡尤中間頭立合被仰付旨被仰聞候退出後於役所遂吟味口

書印形取之立合中間頭三浦伴左衛門御手廻小頭大畑甚七部屋頭柳

田庄右衛門当役所書役小頭部屋目付出番一組小頭甚七八縁側部屋

頭庄衛門ハ白洲ニ薄縁敷候而差置

閏十月廿三日 晴

一東新町松本屋新六役介小池正の娘かね久世村森道順方へ申歳迄三

ヶ年縫物師ニ差越度相願承届ル

閏十月廿四日 晴 登城

一御手廻幸七重助吟味書左門殿へ差出候処御裁許相窺候様被仰聞

一此間町方出火有之候且又盜難等有之候間内町十一町宛ニ組関貫廻

申付外町八一町切夜廻申付ル

一三船孫八番代人市村但見家来神田新治与申者相願但見へも引合候

処故障無之旨ニ付承届ル

閏十月廿五日 晴

一鍛冶町年寄胡太郎佐七追込東新町焼失長右衛門追込今日差免左門

殿江御届申達候大御目付士同断

一三船新治目見受之盃遣ス小頭部屋目付相詰ル

一香々美多右衛門綾部佐市来ル十一月廿五日夜うちめき申候各様御

立合可被成候以上と紙ニ書記竹ニ付宮川大橋ニ建有之候橋本町方

差出郡代中へ相渡候上左門殿へ其段申上惣右衛門江も申達候

閏十月廿六日 晴 登城

一浚明院様御布施頂戴之儀座頭暨女共相願窺候処被下置候段被仰出

候大御目付士へも達勘定奉行江も及通用候 十一月二日於配当  
場相渡

一福増屋善兵衛後家方紛失物代積銀札共ニ合百五十匁余ニ相当左門

殿へ申上候

一鍛冶町中田屋甚兵衛娘御法度之衣類致着用不届ニ付右甚兵衛并町

役人組合共夫々咎等申付依之町在江も御法度之趣堅相守不致忘却

候様相触候御家中者猶更之儀ニ候間下々ニ至迄急度被仰出之趣堅

弥可相守候右之趣大御目付廻状到来組中牢頭三軒屋へも相触候

閏十月廿七日 晴

閏十月廿八日 少雨 登城

一茅町熊野屋源八并弟万吉去月廿九日出奔断出百日尋申付左門殿并

大御目付士へも相達候

一米綿掛合間(屋力)合去々辰ノ十一月相願申付候処近来時節柄悪敷御座候

故商向不最通ニ付当分休申度旨両中買方書付出候ニ付承置候旨左

門殿へ申上尚大御目付士へも達候

一松平淡路守様上野介様与御改被成候旨大御目付廻状到来組中并牢

屋三軒屋へ相達候

一細工町大工治助妻去ル廿四日胎動有之候月足不申死躰出産遂吟味

候処紛敷趣相聞不申一札取差出候ニ付御用所へ及御沙汰候

閏十月廿九日 少々氷雨

一山野十郎兵衛飼犬病犬ニ相成□□へ申付候様大年寄へ申付然ル処内山下へ這入候由ニ付大御目付士へ相達候処作事方へ被申付追出候ニ付非人共小原村ニ而捕留候

閏十月晦日 雨 登城

〔觸〕一米穀買入候得者高直ニ相成候様末々ニ而ハ心得違演説申ふらし妨

をなし候者も有之趣粗相聞此節之出来を商人共買留置不申候ハ、来才ニ至候ハ、末々ハ猶以身詰ニ可相成候ニ付左様之者ハ曲事ニ可申付買入勝手次第ニ可致去ル卯ノ十月相触候処忘却も可致哉ニ付猶触達候且又町方含米も多クハ無之趣入米故障ニも可相成候得共川下米多有之候ニ付船積勿論陸荷共正米津出差留申度旨右兩条共一紙触書ニ認左門殿へ窺候処尤ニ思召相触候様被仰渡大御目付士へも達候

一雲州杵築多久十太夫上下三人且廻塚町小鳥屋次郎右衛門宿切手出ス

一新職人町研屋新九郎粉万吉播洲姫路坂本丁多助与申方研見習ニケ年差遣度願承届ル

一二階町山本屋弥兵衛赤子去ル廿五日夜相果七夜之内ニ付吟味申付候処胎毒ニ而兩便不通療治不相叶紛敷趣不相聞一札取候而差出御用所へ差出候

十一月御月番 月番大年寄 玉置源五兵衛

御家老永見造酒助殿 御年寄伊達与兵衛殿 大御目付黒田織江 朔日 晴 登城

一月次御礼被為請諸士登城当役御居間において御礼申上候御用所へも相揃罷出ル

一西今町ゆた屋太郎左衛門方ニ去ル廿九日夜盗人入込紛失物十一品凡代積三百九十匁計右書付差出御用所へ及御沙汰大御目付士へも達候

一物窓ニ付非人加廻式組ツ、夜相廻候様申付候段及御沙汰大御目付士へも達候上申付ル外町東西宮川筋御家中へも廻候様申付ル

十一月二日 曇 登城

一玉置三四郎庭ニ去ル十五日落有之候銀子落主勝北郡矢田村伊助与申者之由銀子色目等申口符合ニ付材木町半三郎請人ニ而手形取相渡候段申出ル同日御用所江及御沙汰大御目付士同断

一諸国盲僧共青蓮院宮御支配ニ被成候儀ニ付右改役人巡国御差出被成候由右役人印鑑相廻候ニ付町奉行那代江書付大御目付士方被相渡尤口上書之旨趣者書長ニ付不相記町方ニ者盲僧無之去ル卯十一月無之旨大御目付中へ書付差出候然ル処郷中ニ盲僧老人有之万端郡代中被心得候様大御目付中へ申達候

巡行役人印鑑 片岡隼人(印) 南 司馬(印)

十月

知事院代  
見明院(印)  
青蓮院宮坊首  
鳥居小路式部卿

一博奕沙汰有之候ニ付為吟味昨夜同心組差出候処鍛冶町繁藏方ニ而  
参会之席へ踏込召捕夫々預置候小姓町伊勢松三丁目沢屋新次郎下  
人甚左衛門坪井町折屋甚吉并悴理八勝山徳兵衛宿繁藏右六人之者  
預置候段一通リニ与兵衛殿へ御届申置候大御目付士同斷

一鍛冶町中田屋甚兵衛追込差免御届申達候

一大豆百三拾九俵船積改竹内兵助出ル

一去月廿五日京町阿波屋弥兵衛并同町保頭弥兵衛病氣ニ付妻右兩人

江未進人ニ付代官中手鎖被申付候段京町年寄届出然ル処届無之ニ

付算十平へ申談候処彼是申紛被致候ニ付先格役所へ届有之候ニ付

無扱可及御沙汰之段同役藤懸義兵衛へ申談候処全心得違役所へ届

無之筋ニ者無之候旨被申聞已来者相届可申候段義兵衛方挨拶ニ付

承置候

十一月三日 晴

十一月四日 晴 登城

一五時御供揃ニ而御仏詣被遊御先私差出ス

一安岡町生綿屋治助訴状大御目付士方被相渡付紙を以同六日同士織

江へ達

十一月五日 晴 寒

十一月六日 晴 寒 登城

一去ル朔日夜致博奕参会候鍛冶町宿繁藏坪井町おり屋甚吉并同人悴

理八新魚町伊勢松過料錢壹貫文手鎖追込廿日向三軒兩隣月番年寄

博奕各  
四廿六日  
差免ス

平兵衛藤次郎新兵衛六太郎伊三郎  
胡太郎

叱追込三日去々辰八月元魚町油売理七博奕御咎之例を以相窺候処  
相濟今日申渡右参会之席ニ居候三丁目沢屋新次郎下人甚左衛門八

惣社村人別之由ニ而雇人ニ付村方へ引渡咎之儀ハ那代中の方相窺候

咎ニ申談候旨申上候勝山領本郷分徳兵衛与申者鍛冶町方懸合候処

村所人別紛無之ニ付町内方右村方へ懸合委細之訊申談向方へ引渡

咎之儀向方心次第之事是又同之通相濟候何も取計為濟与兵衛殿へ

御届申達候大御目付中同斷

一 来ル廿二日就吉辰若殿様御宮参被遊候右ニ付火之元之義兼々被仰

御吉  
出候事共前日当日八別而可入念大目付廻状写組中牢屋三軒屋番へ

も相触ル

一 若殿様御宮参前日当日役筋候内山下御家中町方火之廻被仰付候旨

御用懸り左門舎人方被申渡候

一金剛小倉屋弥三郎へ被下米六十俵川下勘定奉行近藤伊左衛門申聞

御藏元へ申渡

一 荒木儀右衛門御裁許之儀大目付織江立合与兵衛殿方被仰渡来ル九

日執計候様申上候処儀右衛門母悴御引渡被成候間織江へ申談取計

候様被仰聞刻限等同人へ申談書付請取候当九日之書記ニ有之候

一去月十五日講場喧嘩一件再吟味被仰付□□非人再吟味大年寄へ申

付 同九日大年寄宅  
二而吟味取計

十一月七日 雪一寸一晴ル寒

十一月八日 登城 寒曇

一 俊明院様御仏参被遊夫方泰安寺御仏参被遊御先掃出ス

一式町目南側林田屋又次郎家屋敷表口三間半裏行拾七間但壹軒役也

五人組相談之上三谷屋与三左衛門取次ニ而質物ニ書入銀札壹貫目借用相願承届ル同廿二日本証文出ス

一安岡町播磨屋利八借屋しけ忰十吉先月十五日与風罷出行衛不相知断書出百日尋申付及御沙汰候同十二日

十一月九日 晴

一西一宮村善太与申者郡代所方入牢立合保治

一元荒木儀右衛門御裁許左之通申渡立合小頭部屋目付兼福田甚藏書役申渡出番兵助〔一〕次

元荒木儀右衛門申渡

其方儀当春於江戸表銀之御薬糴紛失候砌腹痛暗キ事共上を不重段不届之至ニ候乍去証拠無之ニ付以憐愍助命御領分追払申付候立帰於令徘徊者可為曲事者也

一右儀右衛門母伊藤采女長屋に罷有町奉行江引渡候様采女へ被仰渡案内有之候上刀差兩人差添役所へ被引渡請取候上左之通申渡

元荒木儀右衛門母へ申渡

其方忰儀右衛門当春於江戸表不届之儀有之候ニ付御領分追払被仰付候依之其方儀も御領分追払申付候立帰於令徘徊者可為曲事者也  
一右儀右衛門忰兵藏古市兔毛方ニ罷有町奉行へ引渡候様被仰渡候由案内有之即刻刀差兩人差添御役所へ被差出左之通申渡

荒木兵藏へ申渡

一其方父元荒木儀右衛門当春於江戸表不届之儀有之候ニ付御領分追払申付候依之其方儀も御領分追払申付候於令徘徊者可為曲事者也  
右三人共古城村御境外へ追払村役人立合〔一〕一札申付取帰ル与兵

衛殿御届申達大御目付士同断

一鍛冶町月番年寄胡太郎并繁藏向三軒両隣五人之者追込大年寄於宅差免是又両御方へ御届申達候

十一月十日 晴 登城

一来ル十二月五日城州正法寺万人講建札ちらし講元共方窺書差出御用所へ差出候処御聞届相済大御目付士へも達候

一御駕籠之者被召抱候間相望候者ハ来ル廿日迄ニ割場部屋頭迄可申出旨相触候様大御目付織江方被申聞中奥目付士懸合之上触書差出ス

一万人講場境建札致置候様町奉行郡代へ与兵衛殿方被仰渡木札相調置候様講元共へ申付候様大年寄共へ申付

一於觀河原近々万人講有之可為群集候間建札見通し之内へ役人并下々ニ至迄不参様御用所被申候ニ付被相達候由大目付廻状到来組中籠屋三軒屋へも相触ル

十一月十一日 雨

一智円院様御証月ニ而御仏参被仰出候処御延引ニ相成候

十一月十二日 晴 登城

一若殿様御宮参ニ付町触之儀相窺候処伺之通被相究但御用懸太田舎人对談

来ル廿二日就吉辰若殿様御宮参被遊候右ニ付火之元之儀兼而被仰出候得共前日御当日ハ勿論別而入念可申候  
右之趣被仰出候間惣町中へ可被相触候以上

十一月十二日 後守助

大年寄中

別紙御触書之趣可被得其意候右ニ付御宮参前日ノ御当日火用為御示内山下始御城下町奉行相廻候様被仰出町方者勿論之事

一 御宮参前日ノ御当日火用手当致置昼夜二三度程一町切年寄共相廻り夜分ハ関貫番所立番申付通行心を付可申事且又右兩人共自身番申付喧嘩口論諸事相慎可申事

一 前日ノ御当日大年寄保頭召連町方火廻り可申事

一 非人加廻可申付候事

右之趣書付を以大年寄玉置源五兵衛へ申渡候

十一月十二日

一 御宮参之節相廻候場所左之通伺相濟

廿二日五時出

二 階町御門江入永見造酒助殿前表冠木御門前夫ノ御通り筋田町御門江出御通り筋椿高下高石垣関貫迄夫ノ福田荒太前長沢右源次前種村紋太夫前竹之馬場西今町ノ安岡町迄引返シ妙法寺前ノ泰安寺前關田通り宮脇町夫ノ本町通り東新町迄廿一日九時出右ニ准シ相廻可然哉奉窺候

一 同心組九人内七人鳶口持殘兩人高脇召連右之通伺候処舍人差図有之但玄閑ハ書役詰候様申付且又御当日御帰殿不被遊候内ハ引取候義可見合哉と申窺候処御出前相廻濟候ハ、帰宅勝手次第之由舍人被申聞候

一 安岡町大坂屋喜代八妻親新魚町姫路屋彦兵衛方へ為見廻参候処与風産氣相催去ル九日出産女子出生候処虚弱ニ而翌十日相果吟味申

付候処紛敷義無之ニ付組合并彦兵衛兩隣共一札取之御用所へ差出

一 坪井町北側福得屋伊三郎家屋敷表口四間裏行十七間但壹軒役也五人組相談之上下紺屋町福住屋吉左衛門取次ニ而實物ニ書入銀札壹貫目三割年賦借入相願承届ル同十八日本証文出ス

一 小性町下横町倉敷屋喜八家屋敷表口式間裏行拾五間但三歩役也五人組相談之上代銀札貳百匁ニ相究芦田屋佐助へ売渡申度旨相願承届ル同廿八日売券状差出ス

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代宅兵衛治吉茶碗売京町田戸屋惣十郎宿切手出ス

一 奈良今井町岡嶋源助墨売堺町美濃屋平五郎宿切手出ス

十一月十三日 雪少

十一月十四日 登城 不正

一 桶屋町桶屋弥七妻九月振ニ而去ル十一日出産月足不申虚弱ニ而同日相果吟味申付候処紛敷趣相聞不申一件吟味一札御用所へ差出

十一月十五日 晴 登城

一 式日御礼被為請当役於御居間御礼申上ル御用所へも相揃罷出ル一昼後御手廻十助再吟味取計吉田文右衛門立合入来小頭大畑甚七部屋頭柳田庄右衛門差添出ル口書印形取之翌十六日御席へ差出ス  
一 町会所において今日下ケ札取計有之候

十一月十六日 晴 登城

一 船頭町高瀬屋勘右衛門前ニ捨有之候単羽織窺候上同人へ遣候大御目付士へも達候

一 来ル廿二日若殿様御宮参被遊候為御歎御帳付候間午ノ中刻未ノ

中刻迄之内登城有之様御奏者廻状到来大年寄へ為相知候

一若殿様御宮參為御祝義赤飯吸物御酒被下之候間来ル廿三日小従人已上四時大役人已下坊主迄八時登城可有之候尤年始八朔登城相濟候嫡子へも被下置候右之趣大目付中廻状到来

一来ル十八日万人講之場所へ市郷之者罷出何歟願立候様風聞有之旨御目付筋言上有之候由郡代町奉行出役之事ニ候へハ心得可有事之由拙者権六兩人江於御用所与兵衛殿方被仰聞右ニ付風廻物頭江も密々御移有之組廿人被召連興行相濟候迄東大番所ニ被相見合候筈ニ被仰渡候由講場穢多非人相増候積申談置尚同心組江も相心得候様申渡

一十八日講場出役御賃人馬之儀織江へ申達置加人之義申達候棚之上加人三人但彦人ハ病人代り式人ハ供六人当日町廻り致候の場四人ハ十五人出人之事も相達ス

一札元玉置卯左衛門儀年罷寄不覺其上眼目薄罷成勤向無覺束御赦免之儀相願勘定奉行中へも及対談候処指支も無之ニ付今日御用番衆

江差出候御請取置被成候

廿八日願之  
通御免

一若殿様御宮參之節御城下相廻候砌途中において芥子之間已上会釈之儀舎人を以相窺候御用先之断会釈ニ及不申候旨被申聞候

十一月十七日 晴

一今四時御供揃ニ而地藏院御社參被遊夫方惠照院様御証月ニ而泰安寺へ御仏參被遊候ニ付御先扨同心組出ス

一万人講之節他方ハ獵師共鉄砲持參候由兼而物頭中杯風廻之節被及見講場持參候而ハ不宜候宿ニ差置候様目明共心を付候様大目付士

より被申聞郡代へも申談目明共へ申付

一吹屋町まつ上紺屋町りんまん右三人孤独扶持銀札八拾九分式厘七毛請取源五兵衛へ相渡

一久世御代官所御廻米宮尾河岸方積下シ中揚場番人之儀郡代中通用有之申付

一京町年寄菊屋清左衛門悴藤藏親名之通相改度願出承届ル

一三丁目神代屋和平持来候古道具取売株坪井町小塩屋茂右衛門江讓願承届ル

一安岡町小ケラ屋七右衛門所持請酒株材木町はりま屋代介へ来ル申歲迄貸渡願承届ル

一元魚町江見屋伝次郎西今町直屋山三郎所持他国受酒株来ル西年十

一月迄借受願承届ル

一材木町北側藤五郎家屋敷表口式間半裏行十七間但御堀切半役也五人組相談之上代銀札式百目ニ相究町内古金屋三之助へ売渡申度願出承届ル同廿七日売券状出ス

一阿波国名西郡高原村直兵衛手代平左衛門同国杉野郡成瀬村曾右衛門同国同郡川端村清兵衛同国同郡高房村新兵衛右之者共藍玉売宿船頭町今岡屋浅右衛門切手出ス

一久世御代官所御米相納船頭町今津屋伊右衛門へ御蔵元当年も被仰付候由火用手当申付具候様手代茂手木代八々来状先格之通町火消申付ル

十一月十八日 晴

一万人講興行ニ付出役町奉行郡代添役松岡治部助御徒目付中尾加兵

衛目付組小頭平孝人同心組十人大年寄大庄屋其外例之通  
寄札高式万式千七十八枚 但五匁札

此銀札百拾貫三百九十匁

内三十三貫百十七匁 三步引

残而 七十七貫式百七十三匁 六十番割

壹番三貫三百十匁 七十分番式貫式百七匁 八分二拾番同三十番十

三貫式百四十六匁 八分四十番式貫式百七匁 八分五十番同六十番五

貫七十七匁 九分四厘間々八百八拾三匁 壹分式厘

右之通興行無滯相濟引取与兵衛殿へ為御届罷越大御目付士へ以手

紙相届ル

一御使組方加人相廻無滯相濟当日切何も引取せ候

一備中小坂郡水谷信濃守殿内近藤政藏中島幸右衛門方書状当十月米

平均相庭書江戸表御屋敷へ相廻候挨拶申来ル且又釜敷紙式束到来

及相答候

一下高倉村多左衛門郡代所方入牢被申付立合兵助差出ス

(薄板挿入)

齊藤治部左衛門へ当役被蒙仰候

天明四辰八月十四日

十一月十九日 晴

一安岡町生綿屋治助疏状差上寄持之事ニ被為思召候得共当時委ク御  
取用も難被遊此已後御為ニも相成候事存付候ハ、可成丈ハ夫々ニ

可申出旨役人立合之上申渡有之趣大御目付織江方此段被申聞今日  
取計候

十一月廿日 晴 登城

十一月廿一日 雪 登城

一今日出仕有之九時出役ニ付及御断退出

御告  
諸御出

一 九時出内山下田町椿高下惣町相廻七時帰宅御用懸太田舍人へ相届  
ル

馬口付式人馬脇式人其藏郡治 鎗杖箱合羽籠ニ荷草履取薦持同心組七人  
先ニ立ル

先ニ立ル

一 明廿二日六半時御供揃ニ而若殿様御宮參被遊御通拜見不苦御家中  
并役介下々迄門内或ハ横丁ニ而薄縁等敷平伏拜見市郷共不苦旨御

触書到来町方江も相達組中并牢屋三軒屋同断

一 明日御出之節元魚町河岸御見通之儀舍人江申談候処御平常之通閑

貫ハ為打可然旨被申聞

十一月廿二日 昼方晴

十一月廿二日 昼方晴

一 六時過出内山下始田町椿高下惣町相廻四時帰宅昨今中休大年寄宅

へ立寄尤御神忌之節先役致中休候例有之候御用懸舍人へ相届ル

一 御宮參為御歡御帳付候処昨今嚴寒ニ得不相勝ニ付無扱不參御断類  
役中へ相頼候

役中へ相頼候

一 若殿様五半時過御出被遊御道筋冠木御門方田町御門夫方大熊殿横

御堀端真直ニ椿高下へ被為人高石垣関貫夫方地藏院へ御社參被遊

夫方八幡宮御宮參被遊御帰懸永見造酒助殿へ被為寄御機嫌克七時

前御帰殿被遊候

十一月廿三日 晴 登城

一御宮參為御祝小従人已上四時登城御赤飯吸物御酒被下出仕御小姓頭格<sup>ノ</sup>御使番格迄於桜ノ間御祝頂戴御礼大御目付中へ申上ル御用所江も類役一統罷出ル若殿様江も御附上原彦藏を以恐悅申上候尤御次江も罷出御小納戸為口武助を以恐悅申上候

一支配之者江も御祝被下置候旨大御目付士被申渡其段部屋目付へ申渡何も例之通役所へ罷出頂戴右御礼御用番中へ廻勤

一京都愛宕山長床坊使僧柳意坊旦廻宿小姓町肥地屋茂八切手出ス

一勢州朝岳熊明王院使僧宝藏坊休嘉坊悦中坊休中坊上下八人旦廻宿切手右同人

一城州正法寺使僧溪月庵来着

十一月廿四日 晴 登城

一閏十月中惣町生死人別出入書上左之通

出生十式人男七人女五人別人別除老人死失十六人差引而

老人減シ懐胎廿人

一京都新町通田町浅田屋専右衛門合葉商売仕御当地へ御出入仕候処

不勝手ニ而致中絶然ル処播州姫路西塩町松藏屋宗助与申者専右衛

門親類ニ而同人代りニ腰物古道具商売仕御当地へ御出入仕度旨申

之依而宿仕度候段堺町小鳥屋次郎右衛門願書差出承届ル

一小麦十式俵大豆三俵高松屋夫兵衛小豆六拾俵和泉屋銀兵衛船積ニ

付為改金藏罷出

一撰州池田月野木町植木屋平兵衛手代理左衛門植木壳宿新魚町鳥屋与三兵衛宿切手出ス

十一月廿五日 晴夜小雨

十一月廿六日 晴 登城

殺害  
突死

一昨夜八時大年寄源五兵衛罷出申聞候ハ美濃職人町岡田屋嘉助を切殺酒銀札百目計并単司ニ有之候銀札五百匁都合六百目計取逃候様子尤戸川町野本屋藤右衛門今朝立登坂ニ付為見立四時迄嘉助參居四時<sup>ノ</sup>嘉助母代り合候而藤右衛門方へ參嘉助計宿ニ居九時頃母

歸見出近辺へ為相知候上註進申出候由即刻申切切関貫立番往来改御家中関貫江も同心組相廻為改候中仕切西十三丁在ケ切申付部屋

目付甚藏郡治為檢使差向置与兵衛殿へ御届申上大御目付黒田へも

相達平組不殘加入十五人申立中仕切十三丁腰物衣類軒別ニ入込改させ候処疑敷義も無之ニ付惣町不殘同様改させ候得共今夜半迄相

濟疑敷義無之候翌廿七日疑敷義無之旨御届申達ス

一今朝檢使引取疵所首を後口<sup>ノ</sup>切咽之皮少計懸り有之あをむきニ倒

れ即死之躰壳炭を斤量ニ而懸ケ候処を切付候様子向三軒兩隣其外近辺不殘遂吟味候処一向様子相知不申候何茂書付印形取之差出与

兵衛殿へ相達候

一去月十五日講場凶事一件ニ付非人共申渡之儀窺置候処今日与兵衛

殿<sup>ノ</sup>御差凶有之来ル廿九日御手廻并清藏御取計有之ニ付同日申渡

候様被仰渡

一於江戸表先達而御出生之御男子様御七夜之御祝儀被為在候自是為御歡御帳付候間来ル廿八日辰中刻<sup>ノ</sup>巳中刻迄之内登城可有之旨御

奏者廻状到来組中并牢屋三軒屋江も相達且又大年寄廻勤之面々江も相達候様源五兵衛へ申渡

一 美濃職人町岡田屋嘉助を何者共不相知切殺候ニ付被遂御詮議候間  
下々迄心懸之儀遂吟味申出候様大目付廻状到来

一 惣町一町切夜廻り申付ル与兵衛殿へ相達大目付中江も達ス

一 鍛冶町繁蔵坪井町折屋甚吉并悴理八新魚町伊勢松手錠追込差免御  
用番中大御目付士へも相届ル

十一月廿七日 晴

一 横死人嘉助取置之儀与兵衛殿へ御窺相濟勝手次第被申付寺社取次  
松岡治部助へ及懸合候大御目付士へも達ス日那寺大円寺

殺害  
變死

一 藤井甚内悴和平次并孫善吉此兩人今度之人殺ニ付疑敷相聞依之其  
段与兵衛殿相伺候処何れニも稱敷御詮議被仰付候義ニ候へハ慥成  
義無之共遂詮議可然様被仰聞小田中村分ニ付御郡代中へ懸合之上  
手鎖ニ而呼出跡家財不残相改腰物も取上及吟味先村預ケ申付同心  
組目明差添遣ス右与兵衛殿へ御届申上候大御目付士同断同十二月  
十一日兩人共差免但順士白状ニ付取計

一 町家ニ而出奔者有之候ハ、早速其町内方追手差向連帰訴出候様触  
書出ス与兵衛殿へ相窺候上取計候大御目付士同断

十一月廿八日 晴暖 登城

一 御出生様御七夜御祝儀被為在詰合之面々江為御祝義赤飯吸物御酒  
御肴二種被下之御用所江も相揃罷出御次江恐悦申上候若殿様江も

同断

一 御出生様御名徳丸様と奉称候号字名乗等一字ツ、付候義不苦旨月  
番居残ニ而大御目付士方演達

一 昨晚与兵衛殿方一名打懸御奉書ニ而今日御呼出登城致候処御用所

において大目付出席与兵衛殿被仰渡候者御宮參之節風廻り相勤候  
段太義ニ思召候段御意被成下候旨被仰渡御礼廻勤

一 此間町家人殺盜賊之義ニ付家来長屋もの等此已後出奔もの有之候  
ハ、早々可申出旨御触書到来組中牢屋三軒屋へも達

役義

一 札元玉置卯左衛門及老年不覺役義難相勤御赦免之義相願去ル十六  
日願書差出候処今日於御用所大御目付出席之上与兵衛殿被仰渡左  
之通ニ付以奉書同人子供召出役所ニにおいて申渡而御方へ御届申達  
候

年罷寄不覺其上眼力 玉置卯左衛門

薄役義難相勤旨相願無拗趣ニ相聞依之役義被差免候尤卯左衛門依  
勤功悴三四郎札元本役申付候様被仰渡三四郎父子共へ右之趣申渡

十一月廿九日 雨夜半風烈

一 御手廻幸七重助中間頭於宅追払被仰付同心組差出候様大御目付士  
方被申聞此節手組御用番ニ付加人請取兩人手鎖為持相廻

一 山田富次郎殿家来神田順治人殺之義ニ付御不審相懸召捕遂詮議候  
様今夜与兵衛殿方被仰渡然ル処風雨烈夜難取計ニ付明早更之積組  
中へ申談候

一 戸川町桶屋和助去ル廿四日朝二丁目横丁福寄屋新兵衛溝ニ而切手  
拾候彦斗五合大石半次宛所五舛割場宛所二枚右之趣断出御郡代所  
落切手有之由承候ニ付懸合之上落主山北村善吉へ相渡御定法通四  
歩一受取候様申付但双方不及御沙汰候

一 阿州名西郡桑島村武右衛門手代与一兵衛同郡同村平次兵衛手  
代吉兵衛同郡板野郡中留村兵助手代平兵衛藍玉壳京町今出屋半兵

衛切手

一勢州伊勢内宮藤波神主手代松井左兵衛日廻二階町堺屋伊右衛門切手

一元魚町笹屋友次所持旅人旅籠屋株二株之内一株西新町福富屋保治来ル戊歳迄預り願

十二月御月番

御家老安藤丹後殿

大年寄月番

御年寄本多左門殿

藏合孫左衛門

大御目付太田舎人

朔日 晴 御用ニ付不参

一神田順治召捕御詮議筋有之間吟味中揚り家申付兩御方江御届申達候

一鍛冶町伊賀屋伝八并同人父和兵衛順治方へ其夕参候義ニ付先組合へ預ケ申付ル父子共吟味書印形取置

一順治妻悴此吉組合原田屋市太郎江預ケ申付諸道具組合為立合相改組合へ預ケ置候

一妙願寺役介岡山浪人三宅藤左衛門内職ニ刀研致候由右之者へ順治心安祐定之刀一腰研相頼候由ニ付右藤左衛門吟味筋之儀寺社取次

松岡治部助へ懸ケ合吟味有之候処去月廿五日順治へ刀相渡廿七日ニハ研致候由藤左衛門弁様も跡先ニ相成懸り合ニ付御詮議揚り家

被仰付候間役所へ請取候様大目付舎人々被申聞夜中請取揚り家へ

入置候兩御方へ御届申達候

十二月二日 晴 御用ニ付不参御断

一牢屋敷詮議場へ罷出順治藤左衛門詮議取計候

一坪井町福得屋伊三郎家屋敷北側ニ而表口六間裏行十七間但壹軒半役也右之家屋敷妹へ讓願差出承届ル同廿八日讓本証文出ス

一御藏米八拾五五分町米八拾壹五分

一三丁目金多屋与七屋敷南側裏通戸川町分空地東西三間五尺五寸南北九間六尺右之空地五人組相談之上戸川町打穴屋長七へ売渡申度

願承届ル代銀百目ニ相究 同十四日亮券状出ス

十二月三日 晴

一五時御供揃ニ而川向へ被為入京橋御門々今出屋横丁船頭町今津屋前土橋迄同心組御先私相勤候

一三宅藤左衛門妻下女梅呼出遂吟味候処下女梅先日寺社方ニ而最初吟味申口相違偽之趣ニ付入牢申付寺社足輕棍間政次立合印形申付

右之趣兩御方へ御届申渡ス

一九時前牢屋敷詮議場へ罷出藤左衛門順次詮議之上順次左藤左衛門江対決相望申付候処順治非分ニ候得共有躰不申之ニ付拷問申付候

一順治親福渡町四蔵山田富次郎殿家来候由相聞候ニ付相尋候処家来ニ而ハ無之由山田殿被仰候旨ニ付組合預ケ申付ル兩御方江御届申達候

十二月四日 晴 登城

一四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏参被仰出御先掃同心組差出ス

一西新町北側ニ而住田屋伝右衛門家屋敷表口三間半裏行十七間但大

溝切半役也五人組相談之上代銀札四百目ニ相究同町江見屋久米吉  
へ壳渡願承届ル同十八日壳券状出ス

一西新町北側住田屋伝右衛門家屋敷表口式間半裏行十七間但大溝切  
半役也五人組相談之上代銀札三百匁ニ相究同町江見屋久米吉へ壳  
渡申度相願承届ル同十八日壳券状出ス

一上紺屋町灰屋菊藏借家伊兵衛当閏十月朔日家内共行衛不相知候段  
同十四日相断百日尋申付置候処備前国津高郡親病氣之段申越為見  
廻罷越候節不断出不調法之旨相叱書付差出去已九月二階町くまと  
申女尋中帰候趣粗同様ニ而其節叱置候ニ付右例を以窺相済明日取  
計候様孫左衛門へ申渡

一明五日講ニ付出役之義申上候御貸人馬之儀舍人へ申達加人も去月  
十八日之通申達ス然ル処明後六日御詮議取計ニ付同心組加人請前  
後町廻七人申立候

一戸川町灰屋伊兵衛所持家屋敷表口式間裏行八間但半役也五人組相  
談之上代銀札八拾目ニ相究福渡町文右衛門へ壳渡申度之旨相願承  
届候同十四日壳券状出ス

一桶屋町東側大坂屋平藏家屋敷表口一間半裏行拾壹間但半役也五人  
組相談之上代銀札百目ニ相究吹屋町作人坂之丞壳渡申度相願承届  
ル

十二月五日 晴

一万人講ニ付建札見通し之内下々迄不参候様大目付廻状昨夜遅ク到  
来組中并牢屋三軒屋へも相達候

一万人講ニ付例之通出役拙者御郡代中八松岡治部助以下先日之通

寄札高六千四百四拾式枚但五匁札

此銀札三十式貫式百拾匁

内九貫六百六拾三匁三步ニ引残而式拾式貫五百四拾七匁六十  
番割

一番九百六十六匁三分拾番六百四拾四匁式分二十番同三十番三貫  
八百六拾五匁式分四十番六百四拾四匁式分五十番同六十番壹貫四  
百八拾壹匁六分六厘間々式百五十七匁六分式厘ツ、

十二月六日 雨 御用ニ付仕御断

一牢屋敷詮議場へ罷出ル

一廿五人之馬持とも馬扶持拝借之儀相願近藤伊左衛門を相頼御用所  
へ差出候処大豆式俵半宛拝借御聞届相済

一新魚町保頭佐次郎去月廿七日在所へ参候由ニ罷出廿九日迄も婦  
不申先方相尋候而も行衛相知不申書付出候処此度人殺心懸リニ而  
も有之趣ニも不相聞候得共急度尋申付今日御用所へ及御沙汰  
一昨日講寄札高勘定書御用所へ差出候

十二月七日 雨

一押入村百姓磯右衛門与申者従郡代所入牢被申付立合兵助

一牢屋敷詮議場へ罷出ル順治拷問取計候

一安岡町北側村永屋恵助家屋敷表口四間裏行十七間但半役也五人組  
相談之上茅町作人るいへ質物書入銀札百匁借用相願承届ル同十二  
日本証文出ス

十二月八日 晴 登城

一四時御供揃ニ而地藏院泰安寺両院御参詣被遊御先扨同心組差出ス

一玉置三四郎左衛門と改号親宇左衛門ハ惠吉与改号为致候旨願書  
差出与兵衛殿へ相窺候処承届候様被仰聞大目付士へも達札元役中  
無恙相勤候右ハ帯刀被差免惠吉義も帯刀之義相窺候処是又御聞届

濟大目付士へも達

一 小豆四拾六俵船頭町和泉屋銀兵衛大豆百俵小豆貳拾壹俵高瀬屋勘  
右衛門川下改出役甚蔵

十二月九日 雨

一籠屋敷詮議場江出順治拷問取計候

一三宅藤左衛門女房揚屋へ遣候義昨日窺相濟寺社方懸ヶ合申上今日  
請取揚り家申付

一先月廿五日去ル朔日迄之内小札取交銀札凡五六百匁程無故預り  
候者も有之候ハ、可申出旨町触之儀与兵衛殿へ相窺尤御家中并在  
方江も御触流有之度申上候処是又御聞届被成候大御目付士へも達  
候

十二月十日 晴 御用ニ付不參

一籠屋敷詮議場江出順治拷問申付候処今日及白状候申口大略左之通

町飛脚野本屋廿五日夜飛脚仕廻候ニ付岡田屋兄弟之事故家内見  
立ニ可参と存四半時頃岡田屋様子を外方窺候処靜ニ御座候ニ付  
浪人三宅藤左衛門方へ誘候処同人も出懸ヶ右之様子を語り候処

万一之義も有之候ハ、と存其元祐定之刀自分差参候由兩人連立  
岡田屋へ参順治内を窺候処亭主宿ニ居候ニ付兩人相談之上炭買  
候躰ニ而藤左衛門内へ這入嘉助を切殺シ銀札を取出し順治ハ外  
を固メ人參候ハ、相凶致可申示合指道等藤左衛門へ教候由銀札

有所之義ハ藤左衛門へ渡候故不存候得共岡山一家の方へ遣候由  
申候其後藤左衛門方へ参候而も人目多一向申合不仕候段白状之  
大意

右之趣及白状候ニ付藤左衛門を遂詮議候得共不相分対決被申付候  
得共不相分今夕夜も更候故引取与兵衛殿へ御届申達候大目付へ以  
手紙相達ス

一順治親田蔵并同人女房順治女房悴此吉入牢申付是又御届申達候

十二月十一日 晴

一籠屋敷詮議場へ出順治再吟味取計申口左之通

申口昨日之通相違無之然ル処命を懸ヶ盜取候銀札を藤左衛門へ  
任せ置候義甚不審相懸藤左衛門同類と差候義ハ偽ニ而無之哉と  
尋候処順治答候ハ御尤之儀奉存候へ共全藤左衛門嘉助を切殺候  
段相違無御座候是非ノ陳シ可申と奉存候日々御責被成最早落  
命可仕と奉存候ニ付左候而ハ私老人死無是非事と奉存候ニ付白  
状仕候位之義ニ候へハ中々此上偽毛頭無御座候旨申口

一右之通順治申口ニ付弥藤左衛門陳シ候段明白ニ相見候ニ付今日者  
不及詮議拷問可申付と揚り家方引出シ候処士官も致候身分浪人な  
からも未練者不仕候ニ付有躰白状可仕旨申ニ付詮議場へ出藤左衛  
門申口左之通

委細者順治方申上候通相違無御座候私切殺シ候義相違無御座候  
銀札有所御尋被成備中倉敷坂本屋源蔵と申者方へ同所紺屋手間  
喜次郎と申者帰候由ニ付右之者へ相頼源蔵方へ預ヶ候依之手鎖  
暫時御免被下候ハ、源蔵へ一封遣申度存候へハ銀ハ早速戻申候

變死  
之内  
三枚

旨申之候任其意書狀為認披見之上今夜八時立目明忠助備中江為  
聞合差立候

右藤左衛門白狀之趣与兵衛殿へ申上候大目付士へも達右ニ付藤左  
衛門悴清蔵入牢之義相伺候取計候様与兵衛殿被仰聞寺社方松岡  
治部助へ懸合請取入牢取計而御方へ御届申達候

一若殿様御宮參御祝義頂戴之儀十里四方座頭警女共相願窺候処被下  
置候段被仰渡候

十二月十二日 晴

一安岡町北側真嶋屋定吉家屋敷表口式間半裏行十四間半但式步五厘  
役也五人組相談之上代銀札百匁ニ相究町内与一へ壳渡申度相願候  
付承届ル壳券状差出ス

一東新町北側唐戸屋利兵衛所持家屋敷表口式間裏行十七間但式步三  
厘役也五人組相談之上町内かち屋市郎兵衛取次ニ而質物ニ書入銀  
札三百五十匁借入相願承届ル同十五日本証文出ス

十二月十三日 雨

十二月十四日 晴 登城

一五十四艘之船持共時節悪敷舟積荷物無之必至ニ及難渋来未秋御  
登せ米舟賃米ニ而御立用被下当時船一艘ニ御米三俵ツ、拝借之義  
歎書出遂吟味候処相違も無之至而難渋之趣ニ相聞御用所へ相窺候  
処御聞届被成候大御目付士へも達候

一去ル十一日中ノ丁二月屋弁右衛門女房出産候処女子死体ニ而御座  
候依之吟味申付候得共紛敷義相聞不申年寄組合立合見分一札取之  
差出今日与兵衛殿へ書付出候

一去ル十二日茅町吉屋本二郎女房出産候処女子死体ニ而吟味申付候  
得共紛敷義相聞不申右同様一札差出与兵衛殿へ差出

一四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參被遊御先払出

一大年寄共歳末御祝義献上之義御奏者中へ相窺候処勝手次第と被申  
聞

火災

一八時林田玉琳松原出火ニ付即刻致出馬町火消不残出ル軒数凡十四  
五軒焼失尤自火之由七時過鎮引取懸与兵衛殿へ為御届罷越御大御目  
付士同心組差遣ス

一元魚町美濃屋彦兵衛江大阪道修町三丁目伏見屋半右衛門方菜種壳  
懸式貫六百式拾式匁九分八厘差滞右濟方訴状差出候ニ付先月廿八  
日東御番所小田切土佐守殿ニ而御渡六十日限濟方申付候様舍人方  
被申聞彦兵衛病氣ニ付代住屋市兵衛へ申渡

一西今町山際屋和兵衛所持之自國請酒株京町福嶋屋弥吉へ貸置候処  
此度取戻候断

一三丁目横丁浜野屋重郎兵衛家屋敷表口三間七步五厘裏行六間但式

步五厘役也五人組相談之上代銀札三百目ニ相究真砂屋平六へ壳渡

申度願之趣承届ル壳券状出ス

十二月十五日 雨 登城

喪死

一昨夜備中倉敷へ為聞合遣候目明忠助罷帰候処藤左衛門偽ニ而坂本  
屋源蔵方ニ預り候覚無之段相聞罷帰ル右ニ付藤左衛門順治立合吟  
味之義相窺候御徒目付荒井安左衛門下目付長谷川新蔵罷出此間  
中兩人白狀之趣再吟味之趣兩人承届退出其後右兩人家族共遂吟味  
候得共一向不存候旨申口ニ付爪判取之

一月次御礼被為請當役於御居間御礼申上候

一詮議場へ罷出候ニ付退出

十二月十六日 晴

一詮議場へ罷出藤左衛門順治遂吟味候へとも紛失之銀札相分不申其段与兵衛殿へ申上候処拷問懸ケ候而も吟味詰候様被仰渡候

一上高倉村清助方へ去ル十一日夜盗人這入切手彦俵紛失町触取計候様舍人被申聞取計候

一西今町安田屋清助先達而烏散成者留置候処盜賊之由ニ付携も有之候哉と預置相糺候処携候趣ハ不相聞依之烏散之者留置候叱追込五日伺之上取計之義大年寄へ申付尤大目付士へ達候同廿一日差免而御方へ御届申達候

十二月十七日 晴

一四時御供揃御社参被遊候

十二月十八日 雨 御用ニ付仕御断

一詮議場へ罷出藤左衛門拷問申付偽ニ而今日不相分

十二月十九日 晴

一詮議場へ罷出藤左衛門拷問申付候処是迄色々偽候得共無是非及白状候由左之通申由

盜取候銀札ハ仙波門大殿へ其夜妙願寺門前ニ而相渡預ケ置申候 嘉助を切殺候刃物之義ハ門大殿則光脇差を借り候而奉書紙ニ包

羽織之下ニ隠持参切殺申候順治義ハ岡田屋へ手引致候迄ニ而銀札落着之義ハ不奉存候弁相多候得共略之大意而已記置候具之義

ハ吟味書ニ有之候

右ニ付詮議場方御用番与兵衛殿へ罷越白状之趣相違不輕義ニ付御

目付立合再吟味之義相伺候御徒目付中尾加兵衛下目付安井九藏被差出再吟味猶又拷問懸候得共申口相違無之加兵衛承届候段申聞

之ニ付引取同道ニ而太田舍人へ相届尚又与兵衛殿へ御届申達候処今夕門太儀仲ケ間預ケ被仰付候間舍人へ申談候而相濟候内ハ門太

屋敷廻同心組取巻他参候ハ、差留若手向候ハ、搦捕候様被仰渡候ニ付舍人へ申談同心組八人兩人ツ、四ヶ所長沢石源土角太田舍人

門前太田官平村上清太夫角宮地文助前五時頃門太御取計相濟候段舍人方被申聞即刻引取候様及差凶候但御用挑灯一張ツ、為持差出

十二月廿日 晴快 登城

一若殿様御宮参御祝義十里四方座頭瞽女共へ去ル十八日被下置一札差出御用所へ今日差出

一城州正法寺寺納銀九貫目相渡一札取之候且又御用所へ差出

一藤左衛門一件懸り合ニ付今泉五郎左衛門家来宇佐美宗助遂吟味候様与兵衛殿方被仰渡五郎左衛門へ懸合候他行之由断掃次第取計候趣被仰渡候夜ニ入四時頃宗助罷出遂吟味書付与兵衛殿へ持参差出候

一今夕仙波門太田舍人於宅御吟味有之途警衛同心組差出候様舍人被申聞郡治安治出ル

十二月廿一日 雨

一字佐美宗助再吟味被仰付今日七時前後之内宗助夫婦共呼出遂吟味申口舍人へ差出候

一錢相庭百五文

十二月廿二日 晴

一十一月中惣町人別出入左之通書上候

出生十三人男子五人女子八人外一人死体式人赤子死人別入三人人別除三人死失十人差引而三人増懐胎七人

一仙波門太三宅藤左衛門対決被仰付候間拙宅において取計可申尤御番頭組頭相組被差添御番頭黒田織江町奉行後藤守助御使番村山縫殿丞組頭鈴木忠之進中奥目付秋元三左衛門御徒目付河村市兵衛目付組

門太義ハ無刀駕籠ニ乗せ道中警衛同心組式人御番方藤堂忠右衛門千本繁頭渥美愛次郎対決之席へも御取方差添出ル門太ハ本間へ出ル藤左衛門ハ白洲同心組四人書役小頭縁側右相濟兩人共為引取対決詰合之弁相書取候而御用番与兵衛殿へ差出但右書付之奥ニ立合之名前書付出ス織江対談之上取計候

一東新町岸根屋伊八町内玉屋伊右衛門所持請酒株来ル申年中迄借受願

十二月廿三日 晴 不時御用場出仕

一今晩与兵衛殿方呼ニ来参候処宇佐美宗助再吟味被仰付偽候ハ、上り屋申付候様被仰付六時取計両御方へ御届申達候勿論主人方へ被仰渡ハ太田舍人方被相達候

一藤左衛門宗助へ対決被仰付河村市兵衛目付組被差出候由詮議場へ出候処宗助藤左衛門対決可申付処藤左衛門病気差重り今日難取計其段申達候

一伏見町南側近江屋和助家屋敷表口四間裏行廿六間并土蔵三ヶ所但

半役也五人組相談之上能勢屋市次郎取次銀札壹貫五百目家質願承届ル同廿八日本証文出ス翌未九月濟

一順治父母円蔵てふ及老年囚獄不便ニ被思召候ニ付順治御裁許迄之内親類預ケニ申付候様被仰出上紺屋町嘉七後家円蔵娘之由ニ付預ケ申付候而御方へ及御届候

十二月廿四日 晴

一三宅藤左衛門病気差重り療治北山修斎へ申付ル水責後腹状等為御見被成候よし御同役増尻右門宇田川玄随被差越同心組兩人差越候一仙波門太三宅藤左衛門対決之節立合候御役人銘々存寄書上候様被仰出書付大目付舍人へ差出候

一京町南側辻屋五三郎家屋敷表口三間裏行七間但五歩五厘役也代銀札六百五十匁ニ相究町内米子屋文次郎へ売渡申度願承届ル同廿八日売券状出ス

一去ル十四日美濃屋彦兵衛へ訴状濟方申渡候段大坂通用之義致失念其段申来候ニ付明朝態立而大坂へ飛脚遣候 (同廿八日返到来同廿五日向方へ達)

一御蔵米八拾七匁米八十三匁

一去ル廿二日安岡町松屋佐助妻流産致吟味一件書付御用所御披見相濟

十二月廿五日 雨 不時御用場出仕

一藤左衛門吟味被仰付詮議場へ罷出御徒目付荒井安左衛門下目付安井九蔵吟味書与兵衛殿へ差出候

一字佐美宗介再吟味被仰付詮議場出ル口書与兵衛殿へ差出候

十二月廿六日 出仕 晴雨

一 熱田數馬藤左衛門宗助申口懸り合ニ付遂吟味口書取之候

一 西川右通谷紙千枚坪井右鯉節二十例年之通到来及返翰候

一 惣酒屋共当秋已来米高直ニ而酒造込甚難渋ニ付売立引合不申依之  
今考分上ケ相願候近例無之候高直ニハ候得共造酒之砌ケ様高直成  
義猶又近例無之候ニ付願之趣無扨相聞候故御用所へ相窺候処御聞  
届被成候大目付へも相達

十二月廿七日 晴 御用日ニ相成候

一 宗助再吟味被仰付六半時詮議場罷出立合御徒目付河村市兵衛目付  
組老人口書取之与兵衛殿へ差出

一 河原町社人熱田大藏妻去ル廿四日流産致遂吟味候処疑敷義相聞不

申一札取差出候ニ付与兵衛殿へ差出候

一 当冬万人講ニ歩銀諸差引相濟候残銀札四拾三貫四百五十匁又七分

也右之通御金藏へ相納証文取置候

上下

一 諸組一統勝手向難渋之段相歎拜借米申立候よし達御聞支配之組如  
何取揃候哉申立ハ無之哉と此間大目付中右被申聞先達而内々申立  
候得共差押置候処若御惠之御沙汰も御座候ハ、諸組同様被仰立被  
下度申達候処弁書出候様舍人被申聞此間差出置候処今日織江右被  
申渡候ハ御時節柄之儀ニ付銀札三十匁宛被下置候段被仰渡組中并  
牢屋三軒屋番へも右之趣申渡候

一 仙波門太揚り屋ニ被遣候間大目付へ申談手合為仕旨尤其後吟味筋  
取計候様於御用所与兵衛殿右被仰渡舍人へ手合申談候今七時舍人  
宅へ同心組四人相廻左之通被仰渡相濟於玄關袴懷中物取式台ニ而  
同人組前付ニ致駕籠ニ為乘繩懸揚り屋へ入置為見届御徒目付藤田

弥一目付組江田多七大小并袴懷中物右同人右於詮議場請取小頭部  
屋目付封印ニ而牢番へ預ケ置候

仙波門太へ申渡

其方儀御吟味筋有之此間三宅藤左衛門与対決被仰付夫ニ付其後  
其外懸り合之者共御吟味有之候処其方申口之内虚実有之依之格  
式被召放揚屋へ被遣候猶御吟味被仰付候

右相濟詮議場江罷出吟味口書判取之立合中奥目付浜田平太夫御  
徒目付河村市兵衛目付組江田多七右引取帰懸与兵衛殿へ為御届罷  
越天御目付士へ者以紙面相届ル

十二月廿八日 晴 不参

一 先日未進ニ付入牢之百姓共相濟出籠被申付手形相廻同心組老人立  
合差出

雜

一 久仁屋宇兵衛義先年御用銀差出候処當時家屋敷等売払誠ニ必至之  
及困窮家内諸共及渴命依之御用銀御差下被下置候様相歎候処右歎  
書之通御取上有之候而ハ例ニも可相成候ニ付歎書ハ御取上無之候  
共少々御赦等無之候而ハ難叶物ニ付近藤伊左衛門へ相頼右之趣御  
用所へ申上候処甚六ヶ敷何分春へ成御評議も可有之候間其内ハハ  
ケ様共取計置候様与兵衛殿右被仰聞歎書ハ差下少々大年寄共右出  
方ハ何れともなく銀札少々遣置候様孫左衛門談候

一 西新町南側余野屋彦三郎表口三間裏行十七間但三歩三厘役也銀札  
六百目町内丸屋嘉七取次質入願承届本証文出又戌二月廿七日濟  
一 小姓町北側藤吉家屋敷地表口式間裏行十間但五歩役也五人組相談  
之上代銀札五匁ニ相究堺町豊屋喜左衛門売渡願承届ル

一 小姓町北側同人家鋪地間敷同断同人へ壳渡願承届ル

一 小姓町元藤野屋十兵衛屋敷地表口式間半裏行十間但四步役也九年  
已前戌年入札御扱地ニ相成候処望人無之然ル処今度代銀札七匁ニ

相究堺町豊屋喜左衛門買取申度相願承届ル但此家屋敷元米銀札場

家質ニ相成夫ニ付委細者孫左衛門方同所奉行中へ相伺候様申付候

処何之存所も無之由ニ而喜左衛門方買券状出ス

十二月廿九日 晴

一 一宮村善太出牢被申付郡代所方手形相廻立合差出候

十二月廿日 晴

一時節悪敷町方一統不安心之趣被相聞辻々立番式人ツ、出候而夜中

懸ケ行燈及深更ニ迄ともし置候様触書出度旨相伺候候御用所思召

も無御座候ニ付大鑑所へも達之上取計

人別  
出入  
他符

午正月

一 京町田原屋伊兵衛俸孫七妻林田村長三郎方へ離縁差返人別除引合

聞届ル

一 安岡町福輪屋伊助細川丈助長屋五兵衛与申者親類ニ付家内三人引

受人別入

一 西今町桶屋市右衛門俸辰次郎村上清太夫組相勤候暇被差出候ニ

付又人別入

一 元魚町灰屋佐右衛門俸久米助妻ニ円宗寺村瀬助娘を貰置候処此度

離縁人別除引合聞届ル

一 乃井野御預所英田郡倉敷村豊久屋治兵衛娘西今町浅嶋屋茂兵衛妻  
ニ引請人別入御断済

二月

一 西今町柳屋茂吉借屋平三郎後家俸莊吉土井大炊頭殿御領分久米南

郡原田中村平十郎養子ニ差遣人別除御断相済

此分正月へ入

一 東北条郡田邑北村分忠太郎并妻娘家内三人安岡町戸嶋屋長太夫引

受人別入引合済

一 小須賀一学殿ニ相勤居候喜八并同人妻俸ともニ家内三人元魚町加

茂屋長七引請人別入

一 林田上ノ町亀藏姉ミを新魚町姫路屋彦兵衛役介引受人別入

一 東北条郡田邑平田村治助粉伊吉安岡町作人忠六養子人別入

一 西今町沢田屋佐助粉源太郎院庄村助次方へ養子人別除引合済

一 久米南条郡古城村兵藏東新町大笹屋佐助方へ引請人別入引合済

此分正月へ入

一 東南条郡林田村伊兵衛孫かめ宮脇町倉敷屋喜平次粉伊三郎女房ニ

引受人別入引合済

一 大久保加賀守殿御領分久米北条郡中北上村孫右衛門粉龍藏桶屋町

中田屋十兵衛養子引受人別入御断済

一 大田村善右衛門粉喜兵衛桶屋町吉田屋平吉方へ引取人別入引合済

一 茅町仁右衛門娘さと東南条郡野村伝藏妻ニ差越人別除引合済

一 西北条郡原村原村多助并同人女房共ニ西人安岡町岩松引受人別入

一 東南条郡林田上ノ丁又兵衛役介ます新魚町「田屋孫三郎借家小山

屋治助妻ニ引受人別入

一 大久保加賀守殿御領分久米北条郡三明寺村八十八弟定次郎坪井町

一瀬屋与一養子ニ引受人別入相願十三日及御沙汰候三月十九日本証文出ス

一伏見町近江屋和助商用ニ付十六日迄上京夫々伯州倉吉へ罷越当十

二月迄逗留願

一戸川町播磨屋七左衛門甥義助西々条郡上田邑南村茂市養子ニ差遣人別除引合済

一西々条郡二宮村市左衛門借家伊右衛門并同人女房同娘家人三人戸

川町紙屋嘉助方へ引越人別入引合済

一林田町灰屋磯右衛門方江関十治長家平介盼友吉養子引取人別入願

一岩田甚右衛門長屋佐助并同人女房家人内式人下紺屋町作人龜之助方

へ引取人別入

一林田町松田屋平七借家正屋忠八儀御藏番上原忠兵衛渡屋鋪江引越

人別除

一元魚町肥後屋佐七借家備中屋忠兵衛并同人女房家人内式人勝手ニ付

備中国阿賀郡些部村親類方へ引取人別除御断十八日済

一鉄砲町森口大助地子居忠助与申者上紺屋町五郎兵衛方へ引取人別

入

一安岡町久米屋友七弟岩吉并同町岡屋安兵衛廿四日立往来六十日四

国扁路願

一久世御代官所構東北条郡加茂道祖谷村源藏盼忠助家内三人西今町

元屋佐吉引受人別入御断済

本証文出ス  
廿三日

一福渡町佐田屋文助借家幾世屋兵八去冬出奔人別除御断済

一備前国磐梨郡田原村伝藏娘東新町延屋重次郎妻ニ引取人別入御断

済廿三日本証文出ス

一西川領久米北条郡福田上村源兵衛娘戸川町中屋権八妻引取人別入御断廿三日

一西川領久米北条郡通谷村七左衛門妹下紺屋町大工仁右衛門盼佐助

妻呼取人別入御断済廿三日本証文出ス

一東北条郡下横野村長八盼兵八安岡町三右衛門後家養子ニ貰置候処

此度離縁人別除引合済廿三日

一茅町忠介家内四人広原村喜介方へ引越人別除引合済廿三日

一嶋田辰之丞長屋八十七并同人母共家人内式人坪井町かと屋孫兵衛引

取人別入

一堺町福嶋屋吉次父茂八儀作事中間相勤罷有候処御暇取人別入

一西新町桶屋官次借家四郎兵衛及老年渡世難送依之土岐美濃守殿御

領分英田郡峠村勘兵衛由緒有之ニ付引越申度人別除御断申達廿八

日本証文出ス

一乃井野御預り所英田郡倉敷村十次郎盼定七ト申者東新町わら屋与

七郎引受人別入御断廿八日達

一播州赤穂郡浜市村長右衛門弟五兵衛ト申者元魚町花屋多助由緒ニ

而引受人別入御断廿八日達本証文出三月三日

三月

一鍛冶町山形屋太郎左衛門六日立四国遍路往来百日計

此分二月分へ入

一勝山金田方右衛門娘斎藤孫右衛門由緒ニ付引受人別入御断八日

一雲州意宇郡東岩坂村吉右衛門伴与一与申者鍛冶町鍛冶又兵衛由緒

有之ニ付引受人別入御断十三日

四月朔日本証文  
出候

一 東新町松本屋源七弟定吉兼々不所存者ニ而親類組合打寄異見加候  
而も不相用剩近來致家出居所不相知依之義絶勘当相願十三日四月  
十日日本証文出候

一 橋本町豊後屋定八去十月出奔人別除御断十三日

一 斎藤孫右衛門父治左衛門撰州有馬入湯十四日立往來五十日

一 下紺屋町一文字屋市六林田村三右衛門娘国妻ニ引請人別入此分二  
月之寄へ入

一 材木町大工八郎左衛門妹とよ大田村弁平方へ引越人別除

一 中ノ丁福茂屋武助役介ぬい播州姫路下白銀町小倉屋善兵衛由緒有  
之候ニ付差遣人別除御断相濟廿三日

一 因州鳥取片原三丁目茗荷屋平兵衛与申者船頭町今岡屋浅右衛門役

介引受人別入御断申候十八日 四月朔日本  
証文出候

一 備前国赤坂郡周匠村浅右衛門倅助太郎与申者三丁目喜多屋武右衛

門役介引受人別入御断申候十八日 本証文  
出候

一 万年七郎右衛門殿御代官所備中国阿賀郡佐伏村理右衛門倅新兵衛  
与申者鍛冶町岩介由緒有之引受人別入御断申候十八日四月十一日

本証文出候

一 桶屋町宝珠屋其治役介佐吉甲州身延参廿六日立八十月計

一 京町二物屋源四郎甥万吉中山金藏方差越候人別除

一 西新町谷屋喜八後家借家庄五郎家内五人林田村甚吉方へ引越人別

除引合濟

一 材木町福中屋多介後家借屋三之助并妻倅共家内三人去已霜月出奔

人別離願廿八日

一 安岡町徳次郎并母共式人守保惣右衛門殿御代官所大庭郡湯本村塗  
師屋与平次由緒ニ付引越人別除

一 元魚町徳山朴也母夫理左衛門上京人別相除候節母も人別除御願申

候処御聞届被成其後同人方ニ罷有度候段是又御断相濟候処利左衛  
門相果候ニ付朴也母婦住人別入相願候廿八日

一 船頭町舛五郎妻追弘人別除ニ成ル

四月

一 安岡町村永屋恵助妹守屋弥惣右衛門殿御代官所久米南条郡錦織西  
村次郎右衛門養女遣置候処離縁ニ付人別入相願候三日御断濟

一元魚町久里屋善兵衛坪井町一紙屋与一四国遍路十五日立八十月計  
此分三月へ入箇

一 中ノ丁米屋善右衛門妹村上清太夫組河野林士妻差遣人別除

一 西北条郡田邑平田村伝助後家娘茅町坂本屋宇八妻引取人別入引合  
候十三日

一 伯州米子岩倉町石灰屋伊兵衛与申者娘はな中ノ丁山西屋要助家守

作人七兵衛妻ニ引取人別入十三日御断同廿七日日本証文出ル

一 坪井町三舛屋伊兵衛粉亥之助勘当願下シ人別入十三日御断

一 京町井上道与倅二文字屋徳左衛門勘当人別除ケ

一 橋本町黒栗屋伊之介去極月中旬出奔定法之通尋候得共弥行衛不相

知人別離組合共より相願十八日御断濟

一 東北条郡下横野村理八舩平吉中ノ丁栗本屋善吉養子引取人別入願

引合十八日

一 京町味噌屋清六父宗平人別入願承届ル

一 森对馬守殿御預り所英田郡土居村文左衛門娘坪井町小塩屋文右衛

門妻引取申度人別入廿三日御断同晦日本証文出候

一坪井町浜野屋嘉一郎借家米屋善右衛門夫婦西々条郡西一宮村善五

郎方引越人別除一

一小姓町藤屋弥四郎借家女ひち御旗組一藏方へ引越人別除

一新職人町塗師喜平次娘林田鍛冶喜七養女差遣人別除引合廿八日

一備前国和氣郡奥塩田村宗三郎娘并出生男子二才母子共京町滑屋庄

七方へ引受同人躬藤藏妻子ニ仕度人別入廿八日御断

一土井波江長屋住藤十郎家内三人戸川町赤崎屋文四郎借家藤藏方へ

引請人別入

五月

一土井波江長屋藤十郎家内三人戸川町藤藏方へ人別入

一三船八郎右衛門母車屋七郎右衛門母七日立京都妙覺寺參詣七十日

計

一宮脇町かと屋庄介七日立甲州身延參七十日

ハカリ

一吹屋町木屋伝七借家文助妻悴四国扁路八日立百廿日計

一仙石鉄之助殿領分当国勝南郡百々村松右衛門兵藏二階町三保屋

弥兵衛家守卯八借家大工多介由緒有之ニ付引受人別入相願廿六日

御断同六月廿五日本証文出候

一西々条郡寺元村勘助家内四人安岡町一由緒候付引受人別入

引合承届ル六月一

一西北条郡一宮西山方村儀右衛門悴德藏茅町一養子引取人別入引

合承届ル六月二日一

六月

一上紺屋町中津屋伊右衛門妹当国勝山岸屋右助女房ニ差遣人別除及

御沙汰候六月二日此分五日へ入

一雲州意宇郡上意東村伝兵衛悴利助本証文出与申者西新町吉武弁歩由緒御座

候付引受人別入御断四日此分五月 江入候

一森对馬守殿御預り所作州倉敷村常盤屋新藏娘元魚町灰屋佐右衛門

躬久米介妻引取人別入御断 此分 六月 五月入

一松平伊勢守殿御領分播州佐用郡平福裏町桑野長七娘并同人悴又吉

共二人戸川町うた屋平六方へ引取人別入御断六日本証文出候

一上紺屋町善七戸川町伝三郎妻七日立四国扁路往来百日計十月加五

十日承届之

一西今町高松屋多助悴是藏当正月出奔尋定法日数相濟人別除御断八

日

一桶屋町大坂屋次郎助家守宇之助借家吉兵衛七日立四国扁路百日計

十月加日五十日承届之

一京町阿波屋弥兵衛後家悴龜太郎小嶋新五右衛門一人別除

一森对馬守殿御預り所勝北郡広戸村市場并二娘安岡町岡崎屋伊兵衛

妻ニ引取人別入御断廿四日相濟七月十四日本証文出候

一茅町木屋伊右衛門悴龜之助義絶勘当人別除御断相濟廿八日

引合濟廿八日

一地部孫太夫長屋文四郎美濃職人町田中屋文助家内へ致度人別入

一守屋弥惣右衛門殿御代官所勝南郡塩氣村利八悴久米次郎東新町岸

根屋伊八方へ引請人別入七月二日御断 本証文同八日出候

七月

別人別除

一 当国勝山河内屋八兵衛娘元魚町米屋喜兵衛借家大室屋藤兵衛盼善兵衛妻引取人別人別除 十二日本証文出候

一 備前和氣郡益原村文太郎兄權太郎西今町橋本屋義八養子引取人別人別除 本証文出候十七日

一 元魚町加茂屋長七借家かつ申女当二月出奔人別除御断

一 戸川町橋本正意借家喜兵衛出奔人別除

一 柴田喜一長屋惣七林田町鍵屋勘七引請人別人願出候

一 御使組植田喜三次役介眼療植有友輔并同人妻共二人福渡町惣七方人別人

一 京町田原屋伊兵衛娘山田富次郎殿家来石丸半弥妻へ差遣人別除

八月

一 西新町稲屋忠次郎借家五郎右衛門并同人伴善吉共式人林田上ノ丁

岩吉方へ引越人別除 六日引合

一 下紺屋町長松因州行六日立九十日計

一 林田村鍛冶七右衛門娘西今町玉屋吉右衛門妻ニ引取願引合濟廿日人別人

一 上原彦藏長屋嘉助与申者同人妻子共家内三人西今町下直屋まさ方

へ人別人

一 三浦備後守殿御領分真嶋郡鹿田村保治家内四人新職人町高角屋莊 本証文出又

兵衛由緒ニ付引請人別人 廿四日御断

一 〔一〕太夫長屋長兵衛与申者伏見町帯屋伝次方へ人別人

一 宮脇町松田屋五郎左衛門養子英田郡倉敷村嶋屋清佐伴七郎兵衛離

一 伴部長屋弥兵衛家内六人上紺屋町中山良意方へ引請人別人

一 京町田原屋伊兵衛并伴孫七十二日立出坂逗留六十日

一 小姓町田中屋甚次郎世伴富藏御駕籠之者ニ被召抱人別離

一 細江武助長屋弥五郎与申者同人妻共ニ式人鍛冶町横野屋故太郎家

守江戸屋源次郎方へ人別人

十月

一 北郷門兵衛長屋文六家内四人共福渡町井口屋庄藏家守市右衛門方へ引請人別人 〔貼り紙〕

一 森村馬守殿御預り所当国久米南條郡福渡村国姓文吉兄甚之介小姓 〔貼り紙〕

町いせ屋平吉方へ引請人別人廿八日御断 閏十月十日日本証文出又

一 土井大炊頭殿御領分久米南條郡原田中村孫右衛門伴知吉与申者船

頭町瓜生原屋仁左衛門養子ニ引取人別人

一 東南條郡川崎村宗助伴望吉材木町幸助後家養子ニ引取人別人引合

承届ル廿八日

一 西今町直屋山三郎借家守市平支配佐次郎父子共ニ二人佐藤彦右衛門組河合伴介伴領屋敷へ引越人別除

閏十月

一 西新町舛屋加平次兄甚八割場中間御奉公ニ差出人別除

一 土岐美濃守殿御領分英田郡田原村源助与申者娘材木町万屋才吉家

守はりま屋代助妻ニ引取人別人廿六日御断相濟十一月六日本証文

出又

一 森村馬守殿御預り所英田郡倉鋪村与八郎弟吉兵衛与申者美濃職人

町たゝの屋清藏由緒有之引請入別人 廿八日御断

一 林田上ノ丁六兵衛借家作人権七夫婦上紺屋町喜助方へ引請

十一月

一 京町瀧山屋惣兵衛伴弁藏村上藤七と改安藤丹後殿出入奉公ニ出入  
別除

一 新職人町塗屋喜平治粉辰吉佐々木清見出入奉公ニ出入別除

一 御城代組勤居申候坂本孫兵衛暇取候而戸川町岩次郎方へ人別入

一 元魚町肥後屋佐七娘大坂堂嶋中西屋与次兵衛養女ニ遣置候処離縁  
致出生当才吉太郎連帰兩人共人別人御断十二月四日

一 安岡町大黒屋理兵衛弟喜兵衛妻離縁致候院庄村伊助方江帰候旨人  
別除

十二月

一 遠藤初弥長屋忠藏夫婦共家内二人中ノ丁西屋治三郎借屋へ引越人  
別人

一 林田上ノ丁作人六兵衛借家権七夫婦共家内二人上紺屋町河本屋吉  
兵衛家守喜助引受人別人

一 院庄村伊介娘安岡町大黒屋理兵衛弟喜兵衛妻ニ賞置候処離縁人別  
除

一 東南条郡太田村幸助伴多助材木町福中屋多助後家養子引取人別人  
一 森対馬守殿御預り所英田郡倉敷村与八郎弟吉兵衛ミの職人町たゝ

一 ミ屋清藏役介ニ引取候処存寄ニ不叶依之差返人別除廿八日御断  
一 大久保加賀守殿御領分福田上村源兵衛娘義戸川丁中屋権八妻ニ仕

置候処此度離縁人別除御断同日

一 三浦備後守殿御領分真島郡郷原村福本屋「藏伴長次郎東新丁肥  
後屋長助養子引受人別人御断同日証文出ス

一 右同御領分同郡下方村喜助与申者夫婦娘家内三人東新町源藏方へ

引請人別人御断廿二日 本証文  
出ス

一 因州鳥取<sup>同本証文同廿九日出ス</sup>府西町豊屋善六伴五郎左衛門上紺屋町かと屋庄右衛門

方へ引請人別人御断同日

一 中山良意伴中山八十次小沢又右衛門へ奉公ニ出入別除

一 伴部長屋佐助家内三人戸川町清右衛門借屋へ引越人別人

一 中ノ丁山西屋要介借屋七兵衛夫婦式人田淵宇源太長屋へ引越人別  
除

一 安岡町甚右衛門伴太七御厩中間被召抱人別除

一 桶屋町宇之助借家量助御手廻被召抱人別除

一 桶屋丁勘兵衛借屋弥五右衛門御手廻被召抱人別除

一 橋本町柳屋多七借屋平七後家林田村九太郎方へ引越人別除

天明七丁未年 正月右  
十二月迄

御用日記

四十 後藤守助

(表紙)

正月御月番

月番大年寄

(空白)

御家老永見造酒介殿  
御年寄本多左門殿

大御目付平井郷左衛門

朔日庚午 晴 登城

一如御嘉例於松ノ間御流被下置中奥組以上登城右相濟御用所へ  
御役人相揃罷出ル

一若殿様御祝義申上候御取次江も右同断罷出ル

正月二日 晴 登城

一大役人已上御流被下置松之間御椽座敷相詰ル

一御用初ニ付町奉行勘定奉行郡代御藏奉行御金奉行御作事奉行御用所へ罷出御用初之御祝儀恐悦申上ル畢而町方御静謐之段御月番左門殿へ申上ル於七間廊下御吸物御酒被下置大目付郷左衛門挨拶右

相濟一統御礼大鑑所へ申達候

一御藏米八十九匁五分町米八拾五匁五分

正月三日 晴

一明四日四時御供三ヶ寺御社參御仏參被仰出同心組御先払上下着用之処平常之通羽織袴ニ相成ル

正月四日 晴 登城

一東新町ニ去ル二日古脇差風呂敷ニ包番所之下ニ隠有之候処年寄方へ取上置断出候ニ付御用所へ申上東西橋関貫当町三ヶ所ニ張紙申付候様取計候大目付士へも達候

一御藏米八十八匁町米八十四匁

正月五日 晴 出仕

一寺社方御礼被為請五時登城例之場所相詰候  
一乃井野御預り所役人中ノ年頭祝書并去午年中錢相庭書之義申来相調遣ス

正月六日 晴 出仕ニ付不參

一町々諸年寄御藏元問屋目付大保頭問屋目明年礼請之大年寄小頭部屋目付諸吟味出席

一詮議場において仙波門太遂吟味申口爪判取之左門殿へ差出ス立合中奥目附浜田平太夫御徒目付河村市兵衛目付組江田多七出番式組小頭書役大目付士へ手紙届

一三宅藤左衛門病躰同様ニ付吉武修学へ転葉申付ル

正月七日 晴

一坪井伊藤郡兵衛方祝書到来及相答候

一粟田只治飼犬病犬ニ相成昨今狂ひ廻非人申付今日捕留候

一旧冬町方夜廻申付置候処盜賊沙汰無之其段御用所へ相達候上差免候

正月八日 晴 出仕

一御仏詣御延引被仰出候

一仙波門太三宅藤左衛門御日柄ニ而ハ候得共承候様ニと左門殿方被

仰聞詮議場へ出ル尤今日急度立不申ニ付御目付立合無之口書ハ左門殿へ差出候

一病犬所々有之由ニ付非人而三人御城下相廻見合次第捕捨候様申付

御用所大御目付士へも及御沙汰

一西川斎藤六藏勝山渡辺仲方年頭祝書到来及相答候

一祇園三位御札例年之通藏合孫左衛門方差上候大御目付士へ相伺即日申付御門通行之義御中奥目付士へ達候

一地織ちりめん元入銀拝借之儀直屋市郎左衛門豊屋喜左衛門高尾屋

藤助申立四貫目御貸被成候処引合不申稼相止候ニ付元銀上納致度申出勘定奉行中へ銀札四貫目相渡手形取戻消被下候上手形夫々差

下候左門殿へ相達大目付士同断

一高松屋夫兵衛大豆五十五俵川下見届一札取之差出ス

正月九日 晴

正月十日 晴 出仕

一正米不自由ニ付先達而他へ出候義停止申付候処猶又雜穀類何にか

きらす差留候義御用所へ伺之上申付ル触書文段別帳ニ有尤大鑑所へも相達ス

一新職人町小村屋庄八借家桶屋登佐旧年方家内不残疫病相煩類組

合色々致世話候得とも冬之儀行届不申及渴命候ニ付御慈悲を以御

救被下置候様大家組合共方歎書出御用所へ相伺候米式俵為御救

被下置大御目付士へも相達勘定奉行中へ手形相廻請取相渡

一常憲院様御証月ニ付四時御供揃地蔵院へ御仏參被遊元魚町河岸御

見通ニ付申付ル

正月十一日 晴

一御藏米八十九匁五分町米八十五匁五分

一備中倉敷御代官万年七郎右衛門殿手代杉田忠助鳥山喜三郎方来状

上書ニ御名御役人中様と有之候ニ付致開封候処三宅藤左衛門義備

中窪屋郡倉敷村無高百姓喜兵衛と申者此者藤左衛門と致変名津山

美濃職人町岡田屋嘉助を切殺当所銀札盜取候ニ付被召捕入牢御吟

味中と承弥相違も無之哉と申来然ル処右藤左衛門事妙願寺人別ニ付大目付舍人御用番中御差因之由ニ付寺社方方請取遂吟味候様被

仰渡候故人別否之義ニ付役筋可懸り合訳無之候間寺社方松岡治部

助江相渡候処大御目付平井郷左衛門方呼ニ參急參候処右来状返翰

之儀申談可相伺旨左門殿御差因之由被申聞難及即答申置候

正月十二日 晴

一大概若御祈禱ニ付六半時登城宇治橋之間へ相詰畢而御用席へ罷出

恐悦申上ル例之通御札御供物相廻り頂戴

一備中御代官所へ返翰之儀遂吟味自是可取遣旨申遣尤名前ハ松岡部

部助方差遣追書ニ藤左衛門吟味口之義ハ追而町奉行役之者方可為

御懸ケ合旨申遣今夜返書ハ飛脚へ夫方相渡

一 備中窪屋郡倉敷村人別ニ有之由相違も無之哉と三宅藤左衛門遂吟味候処若松屋佐兵衛家内ニ慎罷有候へとも立退候節人別除呉候様佐兵衛へ相頼罷出候由申之候口書取之差出

一 仙波門太遂吟味立合中奥目付浜田平太夫御徒目付河村市兵衛下目付江田多七是亦口書取之差出

一 仙波門太弥不及白状候ハ、拷問被仰付候様御用所一決之由造酒介殿与兵衛殿(マ)被仰聞御用取次を以被相窺候義手間取候間拙者義御前へ罷出相窺候様被申聞御前江其段申上候処御同案ニ被為有候由被遊御意猶又御用所申達候処弥明日ハ門太拷問ニ相極大御目付郷左衛門へ申達ス

正月十三日 七時前雨

一 仙波門太拷問被仰付候ニ付取計立合中奥目付浜田平太夫御徒目付河村市兵衛目付組江田多七拷問透見被仰付候由御用取次増見右門細江武介河内安次郎門太拷問白状申口左之通

藤左衛門申口之通相違無御座候銀札有所之義御吟味被成妙願寺門前ニ而藤左衛門カ請取宿へ取帰戸棚へ入置候へとも銀札有之候而ハ事可相頼と存候ニ付午十一月廿八九日頃夜更ニ而大川へ落し申候

右之通口書取之左門殿へ差出大御目付士へ以手紙相達ス

一 久世御代官守屋弥惣右衛門殿登坂ニ付當町通行先弘同心組兩人通町払除申付相濟左門殿御届申達大御目付士同断

一 御藏米九十石五分町米八十七石五分

正月十四日 雪雨 出仕

一 泰安寺妙願寺御仏參被遊候御先払出ス

一 仙波門太再吟味被仰付詮義場出役立合浜田平太夫御徒目付河村市兵衛下目付江田多七吟味書左門殿へ出候

一 ■■■藤左衛門下女梅吟味申入牢申付置候処藤左衛門吟味詰り候ニ付而申上之上寺社方へ引渡妙願寺へ預ケニ被申付候尤左門殿へ相同御聞届済大目付へも達候上執計候

正月十五日  
一 今泉五郎左衛門家来宇佐美宗助仙波門太懸り合ニ付入牢申付置候処門太御吟味詰候間出牢之上主人へ引渡請人預被申付候様左門殿へ相同候処尤被思召其旨郷左衛門へ被仰渡五郎左衛門へ御差函有之出牢之上同人へ引渡受人預ニ相成ル右宗助妻さが門太脇差夜中請取候ニ付他參留申付ル是ハ町人別ニ付大年寄カ取計候様申渡右町ハ宮脇町家名代石川屋岩助河野屋助次郎借家住

一月次御礼被為請當役於御居間御礼申上候御用席へも相揃候上出ル一 仙波門太三宅藤左衛門申口双方合候様而懸吟味被仰出詮議場へ出ル大方双方吟味詰り口書左門殿へ出ス尤立合中奥目付浜田平太夫御徒目付河村市兵衛下目付江田多七

正月十六日 晴 登城

一 御具足御祝儀諸士登城當役宇治橋間において御祝頂戴御奏者番以下芥子之間御用番中へ向御礼申上ル

一 御祝義前大年寄大庄屋町医師之類御礼被為請左之通  
下段 大年寄

鯉節三十白木代居

自分披露

藏合孫左衛門  
齋藤孫右衛門

下段

町総代

一 玉置源五兵衛

鯉節五十箱入

披露番中川紋治

藏合孫左衛門

右同

札元

差上同断

茂渡莊右衛門

茂渡藤右衛門

川口藤左衛門

妹尾平兵衛

右同

札元見習

見習も差上物同様

妹尾平吉

醫師

上段差上物無之

中島宗元

阿部周意

右相済中ノ口御通り懸ケ

諸吟味 久米屋勘八

坪屋藤十郎

御藏元

右同

熊野屋文五郎

当病不参札元山本与一山本平右衛門玉置外左衛門御用達三船八

郎右衛門植月孫四郎御藏元姫路屋彦兵衛

一例年之通大年寄共へ雉子三羽つゝ被下置候由郷左衛門々被申渡

夫々へ申渡拙宅へ相廻り何も頂戴

一 御藏米九十式匁五分町米八十八匁五分

正月十七日 昼時る雨

一 四時御供揃ニ而地藏院御社参八幡稻荷御参詣被遊元魚町河岸橋本

町宮川大橋材木町人留申付ル

一 仙波門太再吟味御日柄ニ而候得共差懸候故取計候様被仰出詮議場

へ出ル立合中奥目付浜田平太夫御徒目付河村市兵衛下目付江田多

七今日之吟味偽多手戻候様ニ相成吟味詰候内取昇せ乱心躰ニ相見

候故今夜者先引取其段左門殿へ御届申達候大目付士同断

正月十八日 雨 登城

一 仙波門太詮議筋之儀ニ付段々御評議も有之拙者存寄も御尋候ニ付

何れニも一旦白状之上手戻ニ而ハ難相済又候拷問被仰付可然様奉

存候旨申上候処色々上思召茂御座候得共町奉行存寄ニ任せ候様被

仰出直ニ詮議場へ罷出拷問可申付之処是迄色々偽候得共今日ハ有

躰及白状候旨申之不及拷問致白状口書手形取之左門殿へ差出大目

付士へも達候立合昨日之通

一 鍛冶町清助女房去ル十三日七月キふりニ而女子死躰出産遂吟味候

処心懸之儀無之一件吟味書差出左門殿相達候

正月十九日 晴

正月廿日 晴 出仕

一 三宅藤左衛門妙願寺引讀同廿四日夜讀取書取之癖ル之儀ニ付御札御座候処出九太夫請合ニ而

差置市村但見役介浪人森本鉄次郎茂同様請合候由右兩人も御札御

座候処庭瀬家中広村与右衛門与申仁猶又請合候由ニ候へ共此者儀

ハ当時倉敷江帰村いたし広島屋松之丞与申候由出九太夫森本鉄次

郎不吟味ニ而妙願寺人別入願立不埒ニ付藤左衛門ハ向方ニ而百姓  
元喜兵衛与申者之由依之倉敷御代官所へ御引渡被成人別糺之義ハ  
寺社取次松岡治部助之懸ケ合尤藤左衛門并役介之者共迄引渡候義  
ハ役筋之懸ケ合候様御評議相決大御目付士へも達書状相認飛脚村  
上吉右衛門へ相渡明廿一日早朝立之積

一三浦伴左衛門義備中御代官所へ藤左衛門御引渡之節差添被仰付候  
御内意有之候由案内被申聞

正月廿一日 晴

一広瀬橋之下ニ而野伏十五六才之男子昨夜狼喰殺大半肉を喰遁候由  
承之

正月廿二日 晴

一西今町直屋山三郎方へ備前品田村高德寺役介三好又四郎毎月廿日  
ツ、参謠指南致候義相止候段断書出御用所へ及御沙汰御聽置被成  
候大御目付士へも達候

一備中御代官所へ藤左衛門引渡之節差越候同心組福田甚藏中村善治  
室并真平三船新治内意申付ル右之外式人使組方加人式人申立手組  
四人留守中四人加人は又申立都合六人大御目付郷左衛門承相知済

正月廿三日 晴

正月廿四日 少雨

一久世御代官守屋弥惣右衛門殿從大坂帰路ニ而今日当町止宿之由昼  
過時先触到来之段大年寄源五兵衛申出即刻左門殿江相達候処先格  
之通取計候様被仰聞尤町奉行爲見廻旅宿江可罷越被仰聞先扨同心  
組東新町へ兩人出ス通町払除申付右先扨之者旅宿近辺夜中相詰大

文字挑灯一張立置弥惣右衛門殿新魚町鳥屋与三兵衛方止宿近町五  
丁夜廻火用申付ル暮時着ニ而旅宿江夜ニ入爲見廻罷出候処手代茂  
手木大八と申者応対ニ而弥惣右衛門殿逢被申相応及会釈候処段々  
被爲入御念忝被申聞相濟退出御使者渥美愛次郎御進物有之候由  
右拙者見廻相濟左門殿并大御目付士へ以手紙相届ル供立馬鎗挾箱  
若堂式人箱燈灯式張着服裏付上下出火之節退場東大信寺西本源寺  
右大御目付郷左衛門へ申談

正月廿五日 晴

一今五時守屋殿出立先扨出無滞相濟左門殿并大御目付士へ御届申達  
候

一御蔵米九十四匁五分町米九十目五分

一備中倉敷御代官所方来状三宅藤左衛門并家内之者とも請取方之儀  
者江戸御勘定奉行所へ窺之上可請取旨申来此書状即刻左門殿へ差  
出候尤飛脚者請取書相渡候而差帰ス

一仙波門太三宅藤左衛門浅路唯治三人にて吟味詰メ始末落着口書手  
形取之候ニ付立合中奥目付浜田平太夫御徒目付河村市兵衛下目付  
江田多七右書面左門殿へ差出ス

正月廿六日 晴

一亥刻林田玉琳出火又兵衛と申者裏家焼失付火之由外類火無之致出  
馬候早速鎮ル引取左門殿御届ニ罷越大御目付士へ爲届組遣ス

正月廿七日 晴

正月廿八日 晴

一木山寺参詣二宿泊口上書栗田只士相頼差出候処御聞届被成即刻出

立美ハ御内御用御座候ニ付久世御代官所へ罷越候

正月廿九日 雨

一夜ニ入木山寺ヲ罷歸即刻平井此相届ル

正月晦日

一内御用ニ付江戸表江急ニ出府被仰付候

一右ニ付松岡治部助町奉行仮役被仰付候

一備中倉敷ヲ三宅藤左衛門妻并悴清藏下女梅等糺之義頼来り居候ニ

付治部助牢屋敷江罷越夫々相尋罷歸り候而下決之趣ニ取合口書相認候

一倉敷江去ル廿三日之返書下案相認藤左衛門家内口書与一所に夜九

ツ時分本多左門殿江治部助持参伺置候処七ツ時分下り即刻相認守

助印形ニ而認出来

一明朝立倉敷江之飛脚大目付郷左衛門江達置候

一七ツ過時分守助出立

二月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

斎藤孫右衛門

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付黒田織江

朔日 晴

一六ツ過時分郷左衛門江罷越出立之旨噂ニ及ひ昨夜申達置候飛脚即

刻相廻り候様談置候

一左門殿より備中江之返書下案并藤左衛門家内口書差出候様申来り

差遣候且又備中飛脚未出立不致候ハ、差留置候様申来差留置候

一於御城守助七ツ過時分出立之旨織江江相届ル

一町方六ヶ所関貫昨晦日迄出来之旨勘八申出候ニ付御用番与兵衛殿

江申達大目付江も同断

一備中江之返書文段之内少々思召も有之御直ニ御座候ニ付其段守助

江可申遣備中返書も守助印形を用ひ認直し可遣飛脚之義ハ大目付

江達置候旨与兵衛殿被申聞候

一下城之上備中返書写し添状認御飛脚拙宅江相廻り八ツ過時分相渡

ス備中返書ハ又六ニ認申付是又飛脚江七ツ時分相渡ス飛脚之義ハ

大目付并

一勘者江御城ニ而談置候

一藤左衛門一件場所絵図兼而出来之分江戸表江持参ニ付今一枚相認

候様孫右衛門江申達置候夜分差出

一安岡町横野屋長四郎線綿拔荷躰之事有之届出候旨右咎之先例相調

候様織江被申聞候

一御蔵米九拾式匁町米八拾八匁

二月二日 晴

一上紺屋町里んと申女年七十九去ル辰ノ十月ヲ孤独扶持被下置候処

去月廿九日病死致し同日ヲ御扶持方相止候段与兵衛殿江申達候処

書付差出候様被申聞候ニ付其段相認差出大目付江も噂ニ及

一六ヶ所之関貫何方ノと申書付致し差出候様織江被申聞候

一殿様と奉称候処向後大守様与可奉称旨類役江演達可致織江被申聞

候即刻夫々江及通達郡代岸権六江申談市郷江之取計織江へ及相談候処御家中江も為御知ハ無之ニ付触ニ不及願類下方上候事なと有之候ハ、其節役筋心得ニ而大守様と為認可申旨申談尚又権六江も致通用候

一 大年寄源五兵衛出去月末之願書類差出請取置候

一 大年寄孫右衛門出病犬ニ付非人二組昨今申付候処今日二疋共打殺候旨申出承り置候

一 御條目通り者勿論之事御停止之衣服別而ハ博奕當時自分仮役中ゆるミ候而者甚不相済且又去々年も相触候遊女躰之もの之事此節何となく風来ものも致徘徊候哉ニ相聞候右両様ベリ之義相触候ニハ無之候自分存寄を相合其方手前江町々年寄共呼寄ベリ急度申渡裏借屋末々迄行届候様取計可申旨孫右衛門源五兵衛江申渡ス

一 博奕遊女躰之もの之義右同様此節ゆるミ無之様廻り之もの杯申合

心懸り之場所ハ踏込召捕可申無油断申合候様又六甚蔵江申渡ス

一 御触書出内御印之事病犬之事ニケ条夜廻り組之者江相渡大年寄江遣ス但し病犬之ケ条者文段取調町方江相触候事

二月三日 曇昼後雨

一 大年寄孫右衛門罷出関貫之書付差出ス

一 勝北郡広戸市場村又左衛門与申もの馬昨二日掛木売罷出候処東新町広戸屋利兵衛方ニ而相煩裏江牽入致養生候処相果候ニ付馬主一

札取之取捨之義伺出候ニ付勝手次第之旨申渡ス一札は一覽之上差戻ス

一 明四日御仏詣之義申来り中奥目付手紙昼廻り組江為持大年寄江差

越候御先弘之義も甚蔵へ申渡し置

一 三宅藤左衛門吉武周格今日迄廻り服用致し候処致相応候ニ付今暫同人薬相用申度藤左衛門願候旨牢番申出候ニ付組昼番之帰り大年寄江遣候

二月四日

一 東新町岸根屋伊八借屋作人久米次郎与申者去年十月廿日出奔百日尋申付候処今以行衛相知レ不申候ニ付人別除願之趣与兵衛殿江申上御聞届相済願書大目付江相渡置候事 正月分へ入

一 茅町熊野屋源八同人弟万吉右兩人去年十月廿九日出奔ニ付人別離之義右同様申上御聞届相済尤正月末差出し候へ共守助繁多ニ付今日申上候段も及御沙汰候 正月分へ入

一 西今町直屋山三郎伯父備中倉敷東本町油屋丈助病氣為養生三十日計逗留為致度願出承り届候

一 中ノ町福井屋養蔵母はま弟多七兩人去ル辰歳相願午歳迄ニケ年福井村孫右衛門引請ニ而罷越居候処猶又当未ノ歳々西ノ歳迄願書差出し承届候

一 小性町作人庄助悴庄吉御厩中間被召抱候ニ付町内人別離之義願出承り届候尤此日国嶋唯七方も噂有之候事 正月分へ入

一 二階町鉄炮屋惣左衛門甥吉義去午二月願勝山富沢屋万右衛門方江奉公罷越候処勝手ニ付罷帰候段届出承り置候

一 鍛冶町かちや庄助悴浅三郎去ル巳ノ歳相願勝山かちや吉兵衛方江奉公ニ遣候処年数相立罷帰候段相届承り置候

一 関貫場所書付并綿米抜荷咎調書付織江江相渡

一西今町紺屋太郎兵衛大坂江廿日計りの逗留ニ而罷越し度願之趣月番大年寄孫右衛門承り届候段願書持参ニ付承り置候

二月五日 晴

〔盗人〕一桶屋町勘兵衛倅嘉平次与申者先年勘兵衛勘当相願其後願下ケ致し候処又候出奔致し人別相除候もの候処今般立帰り小盗致候ニ付一昨三日目明召捕非人共江相渡吟味為致候処今朝小刀を以致自滅候段申出承り置候

一美濃屋彦兵衛来ル十三日頃ニ而六十日之限り相濟候処病氣ニ付快氣致し候迄今暫日延願出候ニ付奥印添状致し大坂村尾彦右衛門江差遣尤福永屋助右衛門明六日大坂江出立致し候ニ付書状大年寄江相渡ス

一三町目福永屋助右衛門商売用向ニ付往來日数廿六日計りの逗留ニ而大坂江罷越度願出承り届候

一三町目佐和屋新次郎商売用向ニ付明六日立四十日計りの逗留ニ而大坂江罷越申度願書差出し承り届候

一四ツ時分倉敷飛脚罷帰り返書出来与兵衛殿江持参入御覽候処明日返書下案相認一所ニ差出候様被仰聞候

一盗人嘉平次義自滅之趣及御沙汰候見分為致候而尚又可申上旨申上置候

一嘉平次事大目付織江江以手紙達し置候

一嘉平次吟味口自滅之趣目共書付為致部屋目付為見届差越候処申出候通相違も無之疵口も小ク候旨承り置候

一七ツ時分守助方江遣候飛脚罷帰り明石之少し先ニ而追付大蔵谷迄

一所ニ参り同所々之返書持帰ル

一右飛脚罷帰り候段与兵衛殿江申達候返書入御覽候且又盗人嘉平次見分為致候段も申達候処右取計方「明日伺候様被仰聞候

一倉敷飛脚并守助方江遣候飛脚も追々罷帰候段并嘉平次義も明日可達之旨織江江以手紙申達候

一昼廻りの組伏見町古金屋九十郎与申者頭巾着シ候義見咎候処悪口致候ニ付町内年寄江召連罷越候処猶又雜言致候ニ付年寄江預ケ置候段被聞承り置候

一博奕沙汰有之候ニ付今夕組之者申合踏込召捕候手段申合罷出ル

二月六日

一朝組之者不残罷出昨夜中ノ町北原屋利七与博奕宿致し参会之者左之通召捕夫々取計置候段申出其段与兵衛殿江及御沙汰大目付中江申達候尤御手廻り之義ハ勤者江も申談候且又林田上ノ町之者ハ郡代権六江申談村方江請取候様取計引渡候様大年寄江申渡置候

中ノ町北原屋利七

同町 源八

元下紺屋町隅田屋喜右衛門

林田上ノ町 和助

右者町内年寄次右衛門江相渡町内預ケ置候

御手廻り 松太郎

右者御手廻り部屋頭柳田庄右衛門江相渡ス

一与兵衛殿被仰聞候者盗人嘉平次変死之義ニ候へ者立合檢使ニ而宜筋ニ者無之候哉類例も有之候哉之趣ニ付牢屋ニ而之死人者御徒目

付下目付立合候使之例も有之候へ共□□□□□□ニ而之義ハ例も無之段申達候処例も無之事ニ候へ者已後之例ニも相成筋ニ候へ者立合候使も有之候而可然哉猶考之上後刻申聞候様との義ニ付相考候処行倒者等ニても病氣ニ候へ者□□□□□□江相渡候義共も御座候ケ様之者ハ病死ニ候へ者大保頭見届差遣し大年寄承り届候事抔も御座候變死ニ而も町方ハ町方在方ハ在方一手切之見分ニ而相濟候事ニ御座候へ共是等は一札取り帰り之事ニ而御座候へ共非人小屋之儀ハ一札取り不申事故ペリも無御座候様ニ御座候へ共全躰嘉平次義ハ出奔人別除之者ニ而其後何方之人別ニも入不申候者ニ御座候へ者能々相訳り候無宿者ニ而何方ノ何之差構も無之ものニ御座候へ者見届之義者役筋部屋目付差出候而可然奉存候旨存寄申上候処考之通ニ而可然之旨ニ付取り計方左之通御同申上候

無宿盗人嘉平次義者元桶屋町勤兵衛与申者悴ニ而親勤兵衛去ル安永二巳年十一月勘当相願天明二寅十二月勘当願下ケ仕候然ル処又候天明四辰四月出奔仕候而同八月除帳仕候者ニ御座候然ル処今般立帰り所々盗仕候ニ付去ル三日目明共召捕非人共ニ為致吟味候処昨五日朝自滅仕候右之通立帰聊之盗仕候者ニ御座候へハ假令存生罷在候而遂吟味候共追払相当之者奉存候右ニ付死骸取捨被仰付候而可然様奉存候

別紙

目明并非人共盗人類取扱之義ハ常々稠敷取ヅ置候義も無御座候乍然今般嘉平次取計之儀ハ非人共無念手扱之処より自滅仕候義ニ御座候へハ不調法之至ニ御座候間大年寄共方急度叱之

上已後入念候様為申付候而可然様奉存候

右之通同候処自滅嘉平次為檢使組之者差越非人共申口具ニ承糺シ一札之振合ニ差出候組之者ニ認させ重而可差出候尤取捨并非人共咎之義ハ同之通被仰付候間檢使相濟候□勝手次第御取計候様被仰聞候甚蔵檢使ニ差遣承り糺し書付相認差出ス取捨并叱之義ハ月番大年寄孫右衛門江申達候

編

一安岡町横野屋長四郎義去ル正月上旬綿綿拔荷伯州江送り出シ候ニ付運上所吟味之趣長四郎書付被相渡旧例十日之追込申渡候様与兵衛殿被仰聞候尤不及一覽候間先例相考申渡候様被仰聞候ニ付罷帰り申渡文段取つゝり大年寄月番孫右衛門江申渡立合小頭部屋目付兼甚蔵差越申渡相濟

一右嘉平次取捨之義并横野屋長四郎追込被仰付候之段於御城大目付中江達し置候

一備中倉敷返書下案来状共与兵衛殿江差出候処少々御点作も有之文段相定り八日仕廻而九日立江戸并倉敷江飛脚被差立候様ニ相極り其段大目付中江も申達し来状返書下案共入一見置候事

一明七日御証月ニ付御仏詣中奥目付ノ通用有之大年寄江当番ノ為申渡候事

一茅町大工政兵衛家屋敷表口五間裏行式拾四間三步二厘役代銀札式二百目ニ相極組合小太郎江売渡申渡願出承届候十三日売券状出ル

一戸川町作人藤八家屋敷表口三間裏行十七間半役代銀札式二百目相極メ福渡町久米屋佐平江売渡申度願書承届候十三日売券状出ル

一新魚町備前屋勤兵衛家屋敷表口式間裏行拾式間三步役新職人町松

野屋甚助取次ニ而質物ニ書入銀札式百目当未ノ四月切一ヶ月式歩  
利足ニ而借用致し度願出承届候廿八日証文出ル

一安岡町岡崎屋善吉家守市郎兵衛借屋に居申候尾上屋久平家内四人  
広原庄屋竹兵衛方へ引越申度町内人別除願出承り届候 正月分へ  
入

二月七日 晴

一安岡町横野屋長四郎追込申付寔死嘉平次取捨非人叱大年寄と為申  
渡候段昨夜ニ入候故今朝与兵衛大目付江手紙ニ而相達候

二三町目浜野屋重郎兵衛悴音四郎去ル辰歳と午ノ歳迄三ヶ年相願京  
都罷越居候処罷歸り又候当年と来ル酉年迄三ヶ年差越し度願出承  
届候

一材木町伊勢松妻妊娠五ヶ月ニ相成去月可届出之処兼而経行不順ニ  
付及延引候段断書差出承り置候

一元魚町中野屋五兵衛悴佐次郎去ル巳ノ春割場中間ニ成去午十月相  
願御暇被下置候然ル処兼々不所存ものニ御座候処旧冬罷出歸り不  
申候ニ付方々相尋候へ共行方相知不申此之後何方ニ而如何様之儀  
仕出し候も難計ニ付義絶勘当願書差出し請取置候

二月八日 晴

一去ル五日之夜召捕候博奕宿参会之者咎之例以御伺申上且又去ル二  
日大年寄共江申渡候訳も申上候而申渡シ之言葉ニ其段相加可申奉  
存候旨御伺申上候処申渡文段相認重而相伺候様与兵衛殿被仰聞候  
一柳屋多七訴状伺之通被仰付候

一小性町作人安次借屋ニ罷在候作人勝助并妻悴三人去ル正月十一日

朝宿ニ居申候ニ付方々相尋候得共行方不相知候段届書差出候百日  
尋申付候

一浅路順次妻腹痛ニ付針治願牢番罷出大年寄江申達  
一役筋方御役人杯江殿付ニ而文通致し来り候例有之哉大目付中と尋  
之趣権六方通用有之

一去ル五日之再返答今晚仕廻ニ付明九日立飛脚備中倉敷江差立候事  
尤勘定者江申談暮方請取来ル

一備中倉敷と五日前着之返書写明九日差越候再返答写共同様明九日  
立ニ而江戸表後藤守助江相廻シ候事尤御届之義者御席と申達有之  
由

二月九日 晴

一京町鳥取屋茂三郎親類之者ニ付因州知頭郡用ケ瀬村黒菜屋善兵衛  
悴又兵衛与申者来ル十二月迄滞留為致願書差出し承り届候

一二階町坪屋伊右衛門邑久郡牛窓大工六人例年之通細工罷越宿手形  
差出承り置候

二月十日 曇

一博奕一件申渡之文段相認差出候処追付先日申渡置候ニ付咎方例之  
通も尤ニ相聞候へ共不べり成趣ニも有之候ハ、年寄并向隣等之者  
江も過料等申付候而も可然哉尚相考明後日伺候様被仰聞候

一小性町作人庄助并同人妻悴三人去ル正月十一日罷出相見江不申候  
段届出候ニ付百日尋申付置候旨及御沙汰候

一元魚町中野屋五兵衛悴佐次郎御中間相勤候処去年相願御暇被下置  
候兼而不所存者ニ付親類組合意見を加江人別人別入御願可申存候処旧

冬罷出相見へ不申ニ付方々相尋候へ共行衛相知不申依之勘当願書差出シ及御沙汰御聞届相濟候事廿四日勘当証文出ル

一新職人町坂本屋政次郎縁類ニ付久世御代官所守屋弥惣右衛門殿御支配久米北條郡足山村喜助俸九兵衛引請人別人相応之度世為仕度寺手持持參之旨願出及御沙汰御聞届相濟候事 二月四日 証文出ル

一中之町かふとや幸助方江大坂淀屋橋筋梶木町河内屋定七手代宗兵衛挑灯張替罷越候ニ付宿切手差出承り置候

一斎藤孫右衛門方江勝山金田方右衛門妻小兒兩人召連罷越十四五人逗留為致度申出承り置候

一東新町佐伯屋与三兵衛印形改差出候

一東新町因幡屋茂市家屋敷表口三間裏行十七間五步役并式間ニ三間之土藏佐伯屋銀藏取次ニ而当十一月切實入三百目利足月式歩之定願書差出候承り届候

一安岡町久間屋儀八商売用事ニ付備中足守木錦屋三郎兵衛方江明十日罷立十二日計り之逗留ニ而罷越度願書差出候承り届候

一安岡町扇屋兵助為渡世俸三助当年未年々来ル酉年迄又候ニケ年差遣倉吉三好屋善五郎方江差遣置度願書差出候承り届候 伯州

一牢番罷出藤左衛門追々快方ニ付服薬今日切ニ而相止可申旨申出承り置候吉武周格も孫右衛門方へ届出候段是又申出承り置候

二月十一日 曇

一盗人嘉平次盗物五品三町目浜野屋方ニ有之由承り置候

二月十二日 曇

一京町米子屋文次郎借屋辻屋五三郎家内三人英田郡倉敷村平野屋惣

助与申者内縁御座候ニ付引越申渡人別除願出及御沙汰御聞届相濟去ル九日差立候備中倉敷江遣候飛脚今九ツ過時分書状請取を取り罷歸り与兵衛殿江其段申達大目付中右同断

一先達而牢屋ニ而眠り候穢多守助乃郡代権六江通用有之郡代所ニ而吟味致し候処其節行方不相知候処罷歸り遂吟味候御年貢未進も有之親類之方江罷越居候旨牢屋ニ而者横ニ者成居候へ共寢入候事

ニ者無之なと申之旁不埒ニ付追込申付最早三十日ニも相成候旨此間権六承之部屋目付江も様子承り今日追込差赦出勤為致候様權六与申談其段甚藏江申聞せ置候

一吹屋町木屋伝七立願有之ニ付四国遍路当月十五日罷立往来百日計り逗留ニ而罷歸り申度願書差出候承り届候同六月五十日追願

一下紺屋町作人龜之助借屋ニ居申候作人安兵衛与申者家内六人村山三立長屋江引越度人別離れ願書差出し承り置候

一細工町大工勘六由緒有之ニ付吉田喜助長屋ニ罷在候伊助并母家内兩人引越相応之渡世為致度人別人願書差出し請取承り届候事

一御藏米九拾目町米八拾六匁

一二階町堺屋伊右衛門印鑑此間差出ス

一小性町屋根屋喜助印形紛失ニ付印鑑改此間差出ス

二月十三日 雨

一東新町いなはや茂市家屋敷表口三間裏行拾七間五步役并式間ニ三間之土藏老ヶ所同町佐伯屋銀藏取次ニ而当十一月切月式歩質ニ入三百目借り受証文差出ス同十二月相濟

一美濃職人町豊後屋角右衛門俸宇兵衛儀大庭郡落合村垂水屋長十郎

方江来ル酉ノ歳迄又候三年奉公差遣し度願書差出候承り届候

一戸川町年寄福永屋藤助印形紛失ニ付改差出

一三宅藤左衛門針治笹岡休意昨日迄二廻り之処相応致し候ニ付又候

相届候由ニ付休意江申付候段孫右衛門申出承置候

一浅路順次積氣不食ニ付針治相願牢番申出則孫右衛門江申遣候事

一明十四日御仏詣申来り大年寄江申達候処御延引申来り猶又申遣候

事

二月十四日 晴

一元魚町加茂屋長七借屋作人作右衛門与申者此度室井玄昌与相改針

術修行致し度願書差出与右衛門殿江申達候処承置候様被申聞候

一元魚町伊丹屋安次郎家守花屋太助借屋文藏家内三人正月廿三日罷

出相見江不申候段申出百日尋申付置候段及御沙汰候

一近來町方近在遊女躰之者致徘徊候風聞有之候ニ付権六共申談去ル

二日下方江も急度申渡置目明等も追払候様申付追々立去候様ニ相

聞候処又候一昨日ハ徘徊之様子も粗相聞組之者目明等も心付候処

昨日一向居不申候趣申出候処夜前又候立歸り候段相聞候ニ付組之

者差越橋元町松井屋和七与申者方ニ三人親方共申様成もの罷在候

ニ付右躰之者ハ早速追払申候且又同町福市屋茂兵衛後家方ニ昨夜

居申候由ニ付組罷越候処是ハ宵之内ニ而立去候共右後家申之候ニ

付右和七并後家共手鎖組合預ケ申付置候段与兵衛殿江申達大目付

中同断

一桶屋町大坂屋次郎助所持之他国請酒株去午歳相願西今町柏屋義兵

衛江貸渡候処此度取戻し申候旨断出承り置候

一中ノ町博奕取計伺之通被仰付候其段大目付中江申達明後十六日朝

取計可申旨大目付中江申談猶又郡代権六江も申談置候事

一盗人嘉平次盗もの三町目浜野屋方ニ有之候ニ付夫々江差戻し候段

与兵衛殿江申達候

一宗助取計方之義相考候様与兵衛殿御噂有之

一明十五日五ツ半時御供揃ニ而若殿様川向辺江御出被仰出中奥目付

中ノ通用有之田町御門ノ御仏參御道筋蘭田町鉄炮町江御通被遊候

ニ付御先并右之段大年寄江申達候

一孫右衛門罷出浅路順次妻昨日迄六日野山正軒針治致候処不快ニ付

断申出倉見宗全江申達候段申聞且又順次積氣之旨昨日申出針治相

願候ニ付同人江申渡候段申聞承り置候

一牢番罷出順次妻不快ニ付服薬相願孫右衛門申達候

二月十五日 晴

一東新町ニ而元魚町河内屋与七役介新七家屋敷表口式間半裏行拾七

間式歩三厘役十ヶ年以前十二月鍛冶屋六右衛門方江質物ニ書入銀

札五百目借用致候処此度元利六右衛門方江返済請返し申候ニ付断

書差出候承り届候

一右同家屋敷鍛冶屋善右衛門江代銀札七百目相極売渡し申度願書差

出候承届候廿一日売券状出ル

一元魚町久里屋善兵衛弟茂兵衛大坂本町壱丁目小川屋利兵衛方江今

三ヶ年奉公差遣し度願書差出候承り届候

一神原庄藏牢番加人ニ参居候処外御用ニ付更り梶間政次罷出候段牢

番申出ル勘定奉行ノ噂有之

一 晚方七ツ半時分御勘定奉行栗田唯次見江御手廻り周助と申もの仲ケ間之者之銀札盜取遣候処悪札ニ而残りハ燒キ捨候旨右同様之銀札京町御門出候昼屋西隣湯原屋庄助と申者所持致候旨右周助申口ニ付及通用候由承り置早速組之者老人呼出し急成事故当番指添捕りニ遣候処間もなく暮ニ及ひ候処他出致シ帰り不申候趣ニ付追々人数も増し差向且又在目明シ文太町仮役目明甚と申合せ二ノ宮桜町ニ罷在候右庄助親類由尋ニ遣委細申含候夜中色々心懸候へ共相見江不申候

二月十六日 晴

一 早朝与兵衛殿江罷越昨晚栗田唯次通用ニ付湯原屋庄助与申者即刻捕りニ遣候処相見江不申夜中種々手配り等致し候へ共相見江不申候此上他邦迄も尋ニ差出し候様ニも取計可申哉之旨相伺候処其通り可然之旨被申聞候左候ハ、随分手分致し可申付申上置候帰り栗田唯士江罷越御使組加入四人被相廻候様申達候夫より黒田織江江罷越右ノ段申達シ加入之義先同人御使組相廻り候様御差函御座候様ニ申達置候尤唯次江も懸合置候段噂ニ及一加入左之通相廻り夫々申付候事

東 倉敷 湯合 勝間田 土居 佐用迄者

神田保次 非人老人 衣笠伸助 雨具持

南 皿村ノ岡山迄

室井真平 目明老人 河村久藏 雨具持

西 落合ノ 備中アサイ 之方

中山金藏 非人老人 渡部忠藏 雨具持

久世ノ湯原之方

三船真次 非人老人 笠岡与兵衛 雨具持

因州路并香々美之方

在中目明 文太 町源八

一ノ宮辺沼近在

昨晚庄助通 行之間合昼後

杉本那次 日下勇助

一 組更り又候四人目付中江申達し御勘定奉行江申談左之通相廻ル

妹尾安次 寺坂幸八 日下勇介 高木理八

一 京町湯原屋庄助組合江尋申付ル

一 鍛冶町伊賀屋和兵衛庄助引請ニ付尋申付ル

一 伏見町俵屋佐助上請人ニ付尋申付ル

一 三町目備前屋喜七下請人ニ付尋申付ル

一 湯原屋庄助妻手鎖組合預ケ申付候処組合江尋申付候故町内江預ケ

番申付ル道具荒方相改ル

一 此間同相濟候博奕一件咎今朝申渡ス北原屋利七宿候付過料式貫文手鎖追込申付ル三好屋源八参会ニ付過料壹貫五百文手鎖追込申付ル利七東隣わかさや源藏向日上屋義助松原屋長七高尾屋新藏右四人過料壹貫文追込申付ル月番年寄西屋治右衛門大年寄宅ニおいて追込申付ル利七西隣桶屋勘九郎ハ先達而相願伊勢参宮留主中之事故咎ニ不及尤大年寄宅ニ而已後氣を付候様為申渡候

一 右之者共申渡シ之上已来年寄組合共教訓怠惰有之候間數旨申渡ス

一 元下紺屋町ニ罷在戸川町ニ罷在候節去午二月出奔信田屋喜兵衛立

一 歸り参会致し候ニ付御領分追払申付候右皿村江払出候真平久藏相

兼出ル

一博奕参会林田上ノ町和助郡代所ニ而過料志貫五百文追込申付ル

一同断ニ付御手廻り松太郎暇

一先日下り候訴状柳屋多七尋書付取ル

一安岡町横野屋長四郎追込昨日迄十日ニ付差免

右之段者今日取計候段与兵衛殿大目付江申達ス尤柳屋多七事ハ今

日不申上候事

一御手廻り周助似せ札吟味之義勘定奉行江も申達置候間猶町方懸り

合之者等追々吟味之義申談取計可申ツト御差凶無之旨被仰聞

候

一栗田唯次江懸合候処元魚町相生屋江質請銀札違ひ候旨有之尤追而

正札と引替候旨為指懸り合ニも無之ニ付大年寄江吟味申付ル

一大御目付中下田邑川東齊之丞被盜もの相触候様書付被相渡大年

寄江申渡ス

一戸川町打穴屋長七倅種村方妻引請人別入今日伺相濟申渡ス三月六

日住宅証文出ル

一先日相届置候遊女躰之者差置候宿叱追込七日被仰付可然之旨伺置

候事

一下城かけ与兵衛殿江罷越三宅藤左衛門倅清蔵浅路道次妻子上賄ニ

可申付申達相濟

一明十七日清蔵揚り屋賄順次妻子牢屋賄之義牢番江申付ル大年寄

江親類賄差免之義申渡ス

一清蔵上賄之義平井郷左衛門江申達候妙願寺江も申達候此段ハ寺社

取次取計也

一中ノ町福茂屋武助播州網干新在家村加賀屋善七兄弟ニ而忠次郎与

申者例年之通小間物おろし宿切手昨日差出候承り置候

一錢百六文通用大年寄方申越候

一目明源八夜四ツ時分帰ル

二月十七日 晴

一安岡町福輪屋伊助家屋敷表口式間半裏行拾四間半半役十ヶ年以前

百八拾目質入ニ願候処今般元利相濟請返し候段断出承り置候

一京町北山周斎倅脩伯大坂方罷帰り候段断書差出

一吹屋町かな屋新右衛門持分家屋敷表口十間裏行十七間五尺七步役

代銀札九百目相極桶屋町備前屋甚兵衛江売渡し願書差出候承り届

候廿五日売券状出ス

一細工町垂水屋新六徳守宮江普請ニ参り大工道具警護番所ニ入置候

処内六品紛失之旨届出承り置候尤徳守宮神主方も届出目明共江申

渡置候

一京町湯原屋庄助屋内闕所申付一札取罷帰ル尤懸り之品無之

一目明文太昼過帰ル

一東江差向候神田保次衣笠仲助夜ニ入帰ル

一大坂村尾彦右衛門方去ル五日申遣候美濃屋彦兵衛病氣断去ル十日

小田切土佐守殿御番所江罷出口上書を以申達候旨申来ル

一先比組廻り之者方申出候伏見町古金屋九十郎義ハ組共取計も不行

届候様被存候旨拙者存念委細又六江申聞せ部屋目付組中江熟と申

聞せ候様申達置候処一昨日孫右衛門罷出九十郎義其日は酒ニ給酔

一向前後も不相覺其後も持病相勝不申候処追々快罷成候而甚恐入候旨町内年寄申出候条申聞候依之今日孫右衛門江申聞候ハ九十郎義兼而横道無礼もの共相聞候今般之義ハ当手之組共見咎候事故却而格別ニ咎不申付候已後惣而無礼がさつ無之様可相慎旨町内年寄方九十郎熟と合点参り候様為申聞候様可取計段委細申渡候

二月十八日 晴

一湯原屋庄助妻之親二ノ宮桜町花屋久次と申者方江去ル十五日夜御手廻り常右衛門と申者罷越躰庄助似せ札之事ニ付出奔之趣久次妻江申聞せわらしニはきかへ西江走り候趣在目明文太聞出候花屋久次妻相糺夜前申出其段栗田唯次江申通候常右衛門吟味有之候様談置候

一二町目伏見屋茂七妻去ル十六日九ヶ月ノ振男子死胎出産ニ付遂吟味候処紛敷義も無之候段今日及御沙汰候

一橋本町松井屋和七同町福市屋茂兵衛後家遊女躰之者差置候ニ付叱追込七日一昨日伺置候処伺之通被仰付今日大年寄宅ニ而申渡ス甚藏権七差出ス伺済之趣大目付中江も申達候

一岡蔵夫婦上紺屋町とく江預ケ申付置候処甚手狭老人難渋之趣も相聞岡蔵妻之弟宮脇町田中屋喜助かち町伊賀屋伝八岡蔵又甥とく為ニ孫ニ付右三人江預ケ申付何連之方ニ成共差置候様可申付是又一昨日伺置候処今日相済孫右衛門江申達ス

一順次道具岡蔵道具先達而組合預ケ番申付有之候処数十日之義難義ニも相聞右諸道具封印之儘順次分ハ原田屋市太郎江預岡蔵分ハ町内年寄方江成共何れ江ベリ吉キ方江預ケ置候而双方共組合番之者

為引候様孫右衛門江申渡候尤諸道具改明日組之者差向不申候条其段相心得可申渡条孫右衛門江申渡ス尤近火臨時組合心付候様申渡候

一御駕籠并御箱之者被召抱候来ル廿七八日迄ニ可申出相触候様大目付織江被申聞其段触出候様ニ又六江申聞候

一湯原屋庄助義北江罷出候様相聞候今曉立郡次才次目明文太差向加茂筋因州江之越道嚴敷承り糺道筋相知れ候ハ、因州江も越候様申含遣ス

一錢通用百八文之旨孫右衛門当番江申越

二月十九日 晴

一岡蔵并順次諸道具改預ケ申付候ニ付甚藏保次差出改帳闕所帳取り歸ル

一牢番罷出順次夫婦快氣ニ付針止候間相届ル

一万助病氣ニ付針相願孫右衛門江申達ス

一栗田唯士江常右衛門申口承合候処小頭部屋頭方勤七在所江遣之候由申来ル

一西江差出し候金藏忠藏八ツ半時分帰ル

一同真次与三兵衛夜ニ入帰ル

一北御門方上ノ町通り二ノ宮辺御鷹野御出申来り大年寄江遣候

一新魚町鳥屋与三兵衛撰州植木屋平兵衛植木売昨日罷越宿切手差出ス

一下紺屋町松長屋長松讚州丸亀兒玉屋与一兵衛方江廿二日出立八十日計り之逗留願差出承届候

二月廿日 雨

一安岡町村永屋恵助母弟妹両人都合四人播州佐用村佐七内縁引請候ニ付遣し度願御聞届相済

一材木町はりま屋代助養子友七先月廿日罷出相見江不申ニ付百日尋申付候段今日及御沙汰置

一去年御下ケ有之候寺院敷之もの権六申合付紙致し差出候

一御使組四人今日差戻し候段大目付中勘定奉行中江も申達候

一万助針治笹岡休意江申付候段孫右衛門申出ル

一川下筋わけ赤穂杯之方江非人幸藏伊勢松差向ル

一南江差出候真平久藏八半時分帰ル

一茅町坂本屋佐助松田縫次渡り屋敷ニ罷在候七助家内三人引請相応之渡世為致願書承り届候

一三丁目并筒屋幸助義同町并筒屋弥三郎所持之請酒株当二月々来ル

一戊ノ二月迄借り請商売致し度願出承り届候

一坪井町浜屋源右衛門所持之家屋敷表口六間裏行拾七間老軒役代銀札壹貫五百目ニ相極静虎屋利兵衛江売渡し申度願書差出候承り届候廿四日売券状差出ス

一安岡町久米屋義八昨日足守ノ帰宅之旨申出ル

一御蔵米八拾八匁五分町米八拾四匁五分相場書出ル

一大豆壹俵江戸表上田吉之丞江飯塚弥代ノ川下昨日申越候ニ付孫右衛門江申渡候

一美濃屋彦兵衛大坂返書之趣孫右衛門江申聞セ快氣次第罷登筋付候様可申渡旨達し置

一明廿一日天崇院様御証月ニ付御仏詣被仰出御先并孫右衛門江申達候

二月廿一日 雨

一林田町川のせ屋岩右衛門雲州松江たはこ屋市助方江廿三日出立三十日計之逗留罷越大年寄承り届候段申出ル

一御蔵米八拾七匁五分町米八拾三匁五分相場書出ル

一二階町丸尾屋長兵衛海老原助市長屋宇助申もの内縁ニ付引請相応之渡世為致人別願承届ル

一元魚町相生屋今吉手代吟味書孫右衛門差出ス

一北江差出候郡次才次文太夜ニ入帰ル

一久世之方ニ少々手懸り有之目明甚助在目付庄七差出

二月廿二日

一今町紺屋太郎兵衛大坂ノ罷帰ル

一坪井町桔梗屋庄右衛門大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門弥兵衛源助三人小間物おろし売昨日参り宿切手差出

一吉村国助米四俵江戸廻し川下之義申聞孫右衛門江申聞候

一宮原衛士ノ江戸表吉田権平江米五俵相廻ス川下申越候ニ付孫右衛門江申聞候

一拙者ノ大場治右衛門江相廻ス大豆壹俵之義も孫右衛門江申聞候

一二丁目福寿屋久米吉家守戸川町作人新内倅太三郎中西太三郎与改号黒田右近江出入奉公人別除相願承り届候

二月廿三日

一御蔵米八拾五匁町米八拾壹匁相場書出ル

一茅町熊野屋まつ家屋敷表口五間裏行拾七歩役代銀札五百三拾目ニ相極町内芳屋平次郎へ売渡候願書差出承り届候廿八日売券状出ル

一江戸表守助方々昨夜御用状到来去ル十日酉刻過江戸御屋敷江着其夜御留主居岡村要助江以書面懸合翌十一日小須實一学殿御宅江三原金太夫殿御越要助も罷越一件初発方御聞被成久世殿植楯殿公用人江内容申込有之筈此元方持参之書面類取調要助江相渡候旨十四日之日付ニ而申来り今朝与兵衛殿江罷越右之段申達候

二月廿四日

一茅町広原屋善吉土屋能登守殿御領分勝北郡田熊上村次兵衛娘たみ妻ニ引請申度願書差出今日及御沙汰承り届候尤人別入住宅証文三

月朔日出ル

一当正月中町方生死書上左之通

出生拾五人男七人女八人別人別入拾七人

人別除九人死失拾三人差引ノ四人増

懐胎拾五人

一江口衛助米拾俵江戸廻し川下相頼孫右衛門江申達候

一御駕籠周助御手廻り勘吉似せ札之儀吟味中入牢被仰付候勘定奉行

江申談請取候様与兵衛殿被仰渡明日取計可申旨申達置候

一御飛脚仕廻ニ付江戸表守助江一昨日之返書遣ス

一徳守宮地内ニ而大工新六紛失もの有所相知レ取返し相濟候旨申出

承り置候

一順次妻病氣ニ付針葉相願且又盜賊文蔵病「服葉相願候旨牢番申出

無扱趣ニ付孫右衛門江申渡ス

一栗田唯次方御駕籠周助御手廻り勘者兩人賄之儀同全ニ付宿賄ニ申渡有之趣及返答候

一久世辺江差遣候目明シ兩人罷帰ル

一遠藤陽平磯野捨四郎米三俵ツ、江戸廻し川下之儀相頼其段孫右衛門江申渡ス

二月廿五日 晴

一湯原屋庄助妻呼出シ吟味取計

一御駕籠之者周助御手廻り勘吉似せ札一件ニ付支配方方請取一通り吟味之上入牢申付ル

一昨廿三日之夜二階町備前屋新七倅新吉与申者去午三月江戸表江

稼罷越此度帰国致し懸ケ撰州西成郡北長柄村ニ而病氣之旨次送り

河辺迄送り来り候由郡代権六方申来町方吟味致させ候処元二階町

ニ罷在候へ共先年人別相離レ江戸表江罷出御厩中間被召抱其後出

奔致し候様ニも相聞候旨孫右衛門昨日申出候ニ付御厩北島唯七江

承合候処御厩者番代致し何之申義も無之由相聞候へ共町方人別ニ

無之もの故送り返し之義申付候処小性町煙草屋久米次与申もの右

新吉親類ニ付「養生致し遣度相歎候ニ付其段与兵衛殿江及御沙

汰承り届遣候依之林田村迄送り来り居申候ニ付右場所江久米次罷

越請取候様取計可申旨孫右衛門へ申渡シ候処七ツ前時分請取候旨

届出右之段并入牢両人之取計共御用番与兵衛殿大目付黒田織江江

以手紙相届ル今日郡代権六一宮江御供ニ付右送りもの之義一所ニ

相届ル

一米三俵平沼平馬式倭馬場半助三俵佐々木清見拾俵小嶋五右衛門江戸秋山新藏中嶋半弥江三浦伴左衛門より四俵ツ、相廻し度川ケ之下欠カ義申来り孫右衛門江申達

一川下筋江差向候非人兩人罷帰ル

二月廿六日 晴

一湯原屋庄助妻吟味書御駕籠周助吟味書元魚町相生屋吟味書差出候処周助申口博奕之事も有之候之間郡代申談吟味致し追而吟味書差出候様与兵衛殿被仰聞候ニ付權六江申談置候

一庄助妻申口者直ニも相聞候へ共勘吉との申口も合不申候何れ急と

者吟味詰り申間敷元より庄助居不申候処より勘吉も申張候様ニ被

存候何分急ニ落着不仕候事ニ御座候へハ庄助妻手鎖者差赦番等入

念申付候様仕度旨相伺候処考之通取計候様被仰聞孫右衛門へ右之

段申渡シ夜ニ入郡次并夜廻り之組差遣手鎖差免

一中ノ町博奕向隣年寄咎昨日迄十日ニ相成候ニ付今朝差赦候段与兵

衛殿織江申達候

一孤独三人分十一月迄正月迄仕切并二月迄三月迄二人分内借り証文

印形取計

一孫右衛門方江滞留致し候勝山金田万右衛門妻子罷帰候段申聞承り

置候

一藤左衛門并万助針治笹岡休意相勤候処藤左衛門ハ快候ニ付相止メ

申候休意久々相勤候ニ付万助針治者余人ニ申付ル四廻り一廻り

一牢番罷出万助淋病ニ付外治相望先達而も香々美宗林与申者療治相

応致し候由相聞候ニ付郡代權六江右宗林罷出候様取計之義申遣候

一東新町かちや善右衛門所持之家屋敷表口壹間裏行拾七間壹歩六厘役弟善六江相譲り申度願出承り届候譲り証文廿九日出ル

一安岡町岡屋安兵衛表口五間半裏行七間六歩六厘役二階町品屋恵十郎取次ニ而当月々来申ノ二月迄式割之利足ニて元分式百五拾目質

入致し度願書差出承り届候三月四日証文出ル

一似せ札懸り合京町加茂屋平左衛門組合預ケ申付候

一昨日久世村ノ目明共江申越候訳ニ付新次并非人幸藏湯原ノ米子辺

江差遣尤目明も久世迄召連今朝出立且又新平并町方孫兵衛と申も

の召連是は久世江忍ながらニ罷越候昼前出立

一今朝与兵衛殿江罷越加茂屋平左衛門昨夜組合預ケ取計并今日牢屋

敷江罷越勘吉吟味仕候旨組兩人西筋江差遣候段申上ル

一勘吉吟味相済帰宅之後加茂屋平左衛門呼出シ吟味取計

一右之趣并組差出候ニ付御使組助為申達織江江出かけ罷越候処登城

之由ニ付以手紙申達ス栗田唯次江も以手紙懸合候処日下勇助川村

久藏兩人相廻ル

一林田町一手持和助妻去七月妊娠ニ付十月可相届之間月取間違間十

月相届其段先達而断出候処先頃出産致し七夜相立候ニ付月取届間

違之由先例之通可申渡孫右衛門同ニ付取計候様申達候

一橋本町松井屋和七福市屋茂兵衛後家追込廿八日差赦し取計可申

旨孫右衛門江申渡ス

一二町目福永屋藤助所持之他国請酒株去十月相願東新町樽屋清八江

貸置候処此度取戻シ申候旨断書差出候承り置候

一

一

一 下紺屋町万性院一乘院吹屋町持福屋上紺屋町四乘院吹屋町熱田數馬例之通金毘羅參詣願書大年寄承り届持參致候ニ付寺社方故障之義無之候ハ、勝手次第之旨申渡ス

二月廿八日 晴

一 似せ札一件吟味書差出ス

一 東新町嶋屋十兵衛役介長七同人娘右兩人林田上ノ町伊右衛門後家家屋敷相求同村勘七引請候ニ付引越度人別除今日引合相濟承り届候

一 橋元町松井屋和七同町福市屋茂兵衛後家追込今朝差赦候段与兵衛殿織江へも申達候且又右兩人義ハ去ル十八日追込七日御同相濟同日追込申付候然ル処十日与御同申上候様与風心得違仕候而昨日迄十日ニ相成候ニ付今朝差免申候不調法之義恐入候段申上郡代權六を以差扣相伺候処窺ニ不及候段被仰出候

一 御蔵米八拾四匁町米八拾目相場書出ル

二月廿九日

一 中之町小山屋与三右衛門大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉小間物売ニ

昨日罷越宿切手差出ス

一 御蔵米八拾三匁町米七拾九匁相場書出ル

一 二階町堺屋伊右衛門備前岡山畑町嵐屋甚八与申者元結卸売ニ昨日

罷越宿切手差出ス

一 二階町堺屋伊右衛門京都伏見海道五条上ル町森下町近江屋勘兵衛

小間物きせる卸売昨日罷越宿切手差出ス

一 四蔵入用之品鍛冶町伊賀屋和兵衛江昨廿八日相渡し遣候立合甚蔵

金蔵罷出ル請取手形有

一 川崎外内上米川下ケ昨夜申来り孫右衛門江申達候

一 美濃職人町作人仁三郎家屋敷表口四間半裏行拾七間六步役五人組相談之上代銀札式百五拾目相極元魚町藤野屋多吉江売渡し申度願書差出し承り届候三月四日売券状出ル

一 船頭町新屋藤助所持之船株此度同町船元屋佐助江譲り申度断書差出候承置候

一 元魚町作人仁助田中郡蔵ニ相勤候文吉与申者縁類之者ニ付養子致し度人別人相願承届候

一 京町あわや弥兵衛後家倅龜太郎義午六月ノ小嶋新五右衛門江出入奉公為致候処今般暇取候ニ付引受渡世為致度人別人願書承届候

一 京町綿屋源七太坂玉水町尾張屋七郎兵衛手代權兵衛御用ニ付夜前来着断孫右衛門差出ス

一 藤左衛門下女梅義ニ付夜分与兵衛殿江御内談申上ル

三月御月番

月番大年寄

御家老永見造酒助殿

蔵合孫左衛門

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付平井郷左衛門

朔日 晴 例之通御礼無之

一 孤独扶持正月迄三人分仕切并二月ノ兩人分内貸相渡候孫左衛門請取手形考人分之正月迄端之分致返納差出請取置候

一江戸表守助る去月廿三日ニ者出立之積り之旨荒方一件之儀申来り  
与兵衛殿江即刻申上ル

一御蔵米八拾目町米七拾六匁相場書出ル

〔諸通行〕一三浦備後守殿御判物明二日通行勝間田泊り之旨先触到着之旨孫左

衛門申出宝曆十二年関小十郎殿御判物止宿之例を以与兵衛殿江申  
達候郡代権六江も及通用候処在分ハ取計無之事町方通り筋掃除保  
頭差出候様孫左衛門江申達置

一若殿様明二日七時半時御供揃ニ而誕生寺江御出被仰出御通筋孫左  
衛門江申達御先私も申付候

一材木町万屋才吉家守代助借屋作人彦四郎妻六月振男子出産断書出  
ス

一茅町玉湯屋八十七林田上ノ町作人惣吉妻伴右三人引請渡世為致度  
人別入引合相濟承り届ル 二月分へ入

三月二日 朝曇昼後雨

一昨夜及深更候ニ付今朝備後守殿判物通行之段大目付江以手紙相届  
ル

一渡部其助江戸廻米拾俵川下ケ之儀申聞候ニ付孫左衛門江申達置候

一安岡町久米屋岩吉家守はりま屋利八借屋ニ罷在候重吉去午十月出  
奔百日余ニ相成人別除願出今日及御沙汰候承り届ル 二月分へ入

一元魚町朝屋太助伴義助大坂京橋五丁目守口屋五郎右衛門江養子ニ  
遣し度人別除右同断 二月  
分へ入

一坪井町小嶋屋平兵衛備前和氣郡益原村喜七郎与申者養子致し度人

別入相願右同断 二月分

証文二月十八日出ル

一三宅藤左衛門下女梅先達而妙願寺預ケ取計有之候処又候吟味筋有  
之ニ付牢番預ケ申付候様与兵衛殿被仰渡郷左衛門江も申談牢番預  
ケ揚り屋賄ニ申付ル

一藤左衛門煎葉相止針相望候ニ付孫左衛門江申達候

一元魚町福永屋幸三郎借屋ニ罷在候其吉与申者嶋田五右衛門与相改  
小嶋新五右衛門江出入奉公為致度人別除願出承り届ル

一戸川町八木求馬金毘羅參詣願書孫左衛門承届持参ニ付承り置候

一小林主水金毘羅參詣願書熱田市正同断承置

〔諸通行〕一三浦備後守殿御朱印通行ニ付先私内町計り差出大番所ノ引取孫左

衛門も無滞通行之旨相届ル

御朱印 持歩三人 足軽三人 守護戸村源五右衛門

若堂三人 駕籠三人 鍮草履取挾箱具足櫃両懸挾箱

右無滞通之旨与兵衛殿郷左衛門江以手紙相達ス

三月三日 曇

一例年之通御礼被為請候

一江戸廻米八俵川下ケ根井新兵衛同拾俵河内安次郎与申聞孫左衛門  
江申達置

一明四日御仏詣御延引

一後藤守助今日暮時分江戸表方帰着郷左衛門へ相届御用状相渡ス

一西新町南側福富屋安次裏八出村地子居作人文吉ハツ時分出火之処  
早々鎮り不罷出候

三月四日 曇

一昨夜之出火届書差出其段及御沙汰追込三日相同取計候様被仰付候

尤大目付中江も申達候孫左衛門へも申達ス

一 明後六日六時御朱印出立ニ付例之通先弘等も取計候様黒田織江被

申聞孫左衛門江申達候

一 去午歳中町方人別増減左之通与兵衛殿江差出ス尤去月取調置候ニ

付月付違候段申達候

一 出生百三拾三人内男六拾六人 女六拾七人 一 他所方引請人別人

百貳拾五人内男六拾八人 女五拾七人 〆貳百五拾八人

一 死失百七拾七人内男四拾四人 女三拾三人 一 他所江引越七拾人

内男四拾四人 女貳拾六人 〆貳百四拾七人

差引〆拾壹人増

一 懐胎合三拾八人巳歳産残り

一同去午年中百六拾壹人

〆百九拾九人

内百三拾三人 生産

〆 〆 出奔

拾二人 死躰流産類

〆 〆 他所江引越

〆百四拾七人

残而五拾二人未産分

右之通去午年中町方人別出入懐胎之女相改書上申候以上

未二月 松岡治部助

一 東新町松屋吉兵衛伴吉太郎妻去ル朔日六月振男子出生月取問違断

書差出ス七夜之後叱

一 牢番助交り合妹尾安次可児政助并汲庄平吉田織次罷出ル

一 例月之御仏詣相止之此已後御証月計り被遊御參詣候段被仰出候

一 西今町直屋山三郎伯父備中倉敷油屋文助病氣為保養罷越候処今以

不相勝候ニ付今五六十日逗留為仕願書願之通承届候事

一 御藏米八拾貳匁町米七拾八匁相場書出ル

三月五日 晴

一 備中倉敷内懸合ニ付三浦伴左衛門出立

一 備中倉敷方藤左衛門并同人家内之もの取計方伺候処御代官所ニ而

吟味之上伺候様御差図ニ付右之者共可差出旨申来り返書相応伺済

守助及返答候

一 三浦伴左衛門兼差添も被仰付有之候ニ付内懸合粗様子も相知れ候

ハ、早速可罷帰被申遣此段も伺済申遣候

一 明六日五ツ時御供揃杉山辺江被為人御道筋京橋御門方掃除御先弘

例之通申付ル

一 町馬見分大年寄宅江甚蔵郡次差出候

一 材木町河内屋武兵衛京都近江屋七三郎江廿日計り之逗留罷越度願

書差出候承届ル

一 三町目井筒屋幸助大坂梶木町松屋甚兵衛江三十五日計逗留願書大

年寄承り届当人持參承置候

三月六日 晴

一 船頭町今津屋伊右衛門親孫十郎儀宿願ニ付甲州身延山房州小湊誕

生寺へ參詣百日計り之逗留願出候処存寄有之ニ付承り不届候願書

差返ス

一坪井町三船八郎右衛門妻備後福山深津村天満屋仙右衛門方江三十日計り逗留願差出候承り届候

一坪井町浜屋源右衛門右同所へ同断逗留願承届候

一東新町橋本屋家守紙屋佐七家主橋本屋甚左衛門後家去午十二月病死仕相続人無之御家老組山本茂次右衛門娘孫ニ付引請相続致度人別入

一藤左衛門備中倉敷江被差出候ニ付差添遣候組等以下取調へ置候様与兵衛殿々守助江被仰聞駕籠二挺孫左衛門江申付候同心組并助御使組等之義も申談置候

一今朝御朱印出立無滞相濟御先扨兩人町方掃除申付保頭差出候御守護渡部其助并河瀬官兵衛可児

一二階町河内屋政次郎坪井原川原屋治助西今町常屋文兵衛其外大衆金毘羅參詣願大年寄承り届当人願書持參承り置候

一御藏米八拾三匁町米七拾九匁相場書出

一西今町永野屋安之丞摂州大坂梶木町玉子屋九兵衛方江四十五日計之逗留願大年寄承届差出ス

一西今町公文屋清左衛門右同所江三十日計り逗留大年寄承届当人持參承り置候

一去ル三日之夜出火文吉追込今晚差免

三月七日 曇晚方雨

一中ノ町北原屋利七三好屋源八手鎖追込差免候昨晚文吉差免共両様与兵衛殿郷左衛門へ以手紙相届ル

一御免駕前例年之御触書孫左衛門へ相渡ス

一坪井町三船八郎右衛門妻備中江罷越候ニ付中女兩人川筋道行両番所裏判取計

一今日昼廻り牢さらへ差出無別条

三月 朝曇夕晴  
(日付込)

一当正月々雜穀類川留申付置候追々直段も引下ケ候ニ付小麦小豆両品差免可申伺相濟大目付中江も申達候触書孫左衛門江申渡ス

一布原村被盜もの書付大目付江被相渡触書之義孫左衛門江申付ル

一二階町々材木町迄表通り草取り之義大目付江申達シ明後十日草取致し候様孫左衛門へ申聞候御作事江者明日申達候積り

一昨夜伴左衛門江返書来り与兵衛殿へ以手紙差遣ス伴左衛門昨夜帰着

一本役守助藤左衛門吟味立合備中倉敷江罷越様被仰聞候伴左衛門藤左衛門引渡し差添被仰付候

一京町えひ屋長右衛門二文字屋九兵衛手代清次郎惣兵衛昨日罷帰候旨届出ル

西六月歸返ス

一中ノ町玉野屋藤十郎所持之家屋敷表口四間裏行十七間本役林田町福吉屋音右衛門へ質入銀札五百目借受申度願書承り届候  
十四日 証文出ル

一上紺屋町米屋政右衛門去ル已歳大坂江奉公ニ罷越年数相立罷帰候段届書差出ス

一上紺屋町河本屋吉兵衛借屋喜助御厩往来中間被抱人別除相願承り届候

一安岡町岡屋忠七養父先達而町分立去申付候処今般浚明院様薨御ニ付寺院歎ニ付立去御免被仰付候段郷左衛門申聞候依之右忠七明晩

七ツ時呼出し孫左衛門へ申達候

三月九日 晴

一今日御首途ニ付四ツ時登城

一東新町松屋吉兵衛倅吉太郎妻妊娠月取間違叱置

一牢番罷出文蔵快氣ニ付療治相止候旨申出ル順次妻猶又針治相願御

年寄江申遣候

一中ノ町小山屋与三右衛門網干余陸屋武兵衛同所丸尾屋六三郎同所

平松屋惣九郎宿切手ニ通差出ス

一今日道見分甚蔵差出ス尤大年寄諸吟味罷出ル

一安岡町岡屋忠七養父理助町分立去御免申渡シ与兵衛殿郷左衛門江申達候

一新次新平西より罷帰ル

一御蔵米八拾四匁五分町米八拾目五分相場書出ル

三月十日 晴

一下田邑川東齊之丞被盜もの東新町玉屋伊右衛門方ニ有之候ニ付取

上齊之丞江相渡候段与兵衛殿へ申達候処書付ニ而差出候様被仰聞

書付差出ス木綿袷木綿布子有之実綿無之

一上紺屋町桔梗屋庄右衛門借屋新兵衛林田鍛冶伝四郎方江養子聳差

越度人別除引合相濟承届候

一安岡町古川屋太兵衛持家西新町商側家屋敷表口六間半裏行十七間七步役代銀札老

貫目相極同町舛屋勘助へ売渡度旨願書承届候十四日証文出ル

一西新町舛屋勘助所持之家屋敷表口四間半裏行拾七間代銀札九百目

ニ相極高松屋孫市江売渡度願出承届候十四日証文出ル

一京町大村屋源右衛門商用事ニ付大坂心齋橋桐木町玉子屋九兵衛方

江十三日立三十日計り逗留罷越度願書差出候承り置候尤大年寄承

届

一錢相場百六文通用届出ル

三月十一日

一鍛冶町かち六郎右衛門今早朝出火東隣之境方煙揚り早速消留表通

家並者焼候様ニ不相見近町火消罷出ル拙者出馬与兵衛殿江相届郷

左衛門へ以手紙ニ而届ル昼届書差出候与兵衛殿江申上追込申付御

同人并郷左衛門江手紙届

一雜穀船積ニ付改甚蔵出ル小豆七俵小麦百拾四俵瓜生原屋平吉

一貳町目林田屋又次郎大鼓打中村庄右衛門無滞暇ニ付引受人別ニ入

度相願承届候尤又次郎父也

一藤左衛門荷物妙願寺ニて取分置候分今般遣候ニ付取寄扶箱二ツニ

詰メ置入記有之

一本伝寺夜題目修行寺社方願濟通用有之例之通申付候

三月十二日 朝曇夕雨

一三宅藤左衛門荷物妙願寺并牢屋ニ有之候品々包并雨具のため琉球

口数船綱等大年寄江申付

一問屋小指付添晚方七ツ時分差越候様同様申付ル

一本馬老正九ツ時牢屋江輕尻老正守助方江同様申付ル

一御使組兩人今日請取候字次老人八下地參候義昨日差戻候此段大目付中

江申達御勘定奉行江申談候

一東新町久米屋伊兵衛久米北条郡中北下村善六縁類人ニ付引請人別

入願及御沙汰承届ル 十六日 証文出ル

一 洪紙壹枚小口より五ひろ藤左衛門大小袴懐中もの包のため手形ニ  
而請取ル且又守助方ニ入用青繩三わ請取り差越候  
一 陣笠金ニ黒大文字七ツ黒ニ朱輪ニツ十請取ル是者守助手形御使番  
村山縫殿丞宛

一 大豆壹俵飯塚弥代々江戸大沢長左衛門へ相廻し申付ル

一 太田村善兵衛被盜もの書付大目付々被相渡触之義孫左衛門江申付  
ル

一 水練申もの両人之事小嶋新五右衛門と承り大年寄へ承り差し出候  
様申付ル

一 玉置卯左衛門江備中矢掛中西与四郎右衛門与申者親類ニ付昨夜罷  
越五六日逗留願出承り届候

一 あたらしや忠治小麦三拾五俵川下善次見分

一 去々年牢拔一件御裁許伺書連名ニ而差出ス

三月十三日 朝雨昼曇

一 水練之者孫左衛門江申出新五右衛門江申談置候

一 今朝六ツ時藤左衛門備中倉敷江差立五ツ前時分守助出立藤左衛門

江三浦伴左衛門差添藤左衛門出立之趣与兵衛殿へ同様并守助出立

共郷左衛門江相届ル

一 昨今追々金毘羅参詣之もの帰相届ル

一 鍛冶町かちや六郎右衛門追込晩方差免与兵衛殿郷左衛門江手紙ニ

而達ス

三月十四日 曇

一 御発駕之節宿馬之儀一昨日勘定奉行左之通

伏見迄式正佐用迄廿三疋勝間田迄四疋都合廿九疋之旨ニ付大年寄  
江申達置候処寄馬九疋之由申出候ニ付昨日岸権六江及通用今日郷  
左衛門江申達ス尤一昨日権六江通用致候段ハ郷左衛門へも談置候  
事

一 小嶋新五右衛門と水練之者被召連候義格別御用ニ立候も無之趣ニ  
付相止候旨被申聞孫左衛門江申聞置候

一 御使組人少ニ付組助之義御勘定奉行へも談之上牢番助兩人ニして  
隔日ニ相勤此方へ参候分も又壹人減シ左之通勇助久藏差戻ス代り  
勘藏来ル牢番助政助庄平織次戻ス民治来ル

一 石田新次々米式俵川下ケ頼来リ孫左衛門へ申聞候

一 御藏米八拾五匁五分町米八拾壹匁五分相場書出ル

一 坪井町福恵屋伊三郎大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計り逗留

罷越度願書大年寄承り届当人持参

一 中ノ町平岡屋忠右衛門右同所へ四十日計り逗留同断

一 岸権六々下田邑齊之丞被盜もの請取差越相渡ス

一 御発駕之節奉行所立宿山本平右衛門御先手立宿花屋権兵衛御先払

組戸屋伝吉へ申付候旨大年寄申出ル

三月十五日 朝曇昼より雨

一 御前江召御意有之

一 御発駕之節出役并惣而去々年之通取計候様ニ郷左衛門被申聞候

一 茅町芳屋平次家屋敷表口五間裏行拾壹間七步役坪井町山際屋平六

取次ニ而銀札五百目質入願書差出候承り届候十九日証文出ル

一 福渡町あかや助次郎借屋文助同人妻悴三人川崎外内長屋へ引越申  
度願出承り届候

一 去ル十二日差立候備中倉敷江之飛脚請取取り罷帰り候

三月十六日 雨

一 雲州出頭郡下あこ村善吉四国遍路罷出候処足痛ニ付勝間田々送り  
出し河辺村江送り申付候旨岸権六々通用有之大年寄江申渡し送り  
出し相濟候段晩方届出与兵衛殿郷左衛門へ相達ス  
一 御前江造酒助殿与兵衛殿郷左衛門拙者被為召候而人殺一件御裁許  
御評義粗有之御尋之義共も有之申上ル

一 牢拔御裁許伺之内他州一国追払之義先例御尋有之申上ル

一 与兵衛殿牢拔一件他州一国之追払之義御意も有之通ニ付御領分追  
払ニして其以下夫ニ准し引下ケ明朝伺書差出候様被仰渡候

一 牢舎人バ甘人罪名を頭ニ記し左門殿江差出ス

一 孫左衛門罷出土居勝間田駅々大年寄三人宛例之通宿馬之義頼来り  
返書も例之通取計可申下案及一覽候

一 東新町かちや善右衛門家屋敷表口式間半裏行十七間三步七厘役鍛  
冶屋忠助方江質入銀札五百目当月借受度願出承り届ル廿一日証  
文出ル

寛政十一年  
受返し元

一 東新町黒田有朴後家家屋敷表口七間裏行十七間壹軒役西新町妹尾  
平吉江代銀札式貫百目売渡し申度願出承り届候廿一日売券状出ル

一 東新町鍛冶屋善六家屋敷表口式間裏行十七間三步三厘役高原屋甚  
七方へ質入ニ申候て銀札三百五拾目十月迄借り受願出承り届候廿  
一日証文出ル

寛政十四年  
請返し候段断書出ス

一 中之町広戸屋伊右衛門悴伊之助御手廻り御奉公為致度人別除願出  
承り届候

一 三浦伴左衛門備中倉敷る七ツ時分帰着去ル十四日七時分守助も到  
着之上引渡し相濟藤左衛門妻子下女共一通り吟味之上藤左衛門ハ  
入牢申付家内三人ハ宿預ケニ被申付吟味之節立合ハ吾人ニ而相濟  
旨ニ付伴左衛門ハ罷帰候由委細申聞即刻与兵衛殿江申達候伴左衛  
門弁書相認明朝御城ニ而差出候様被仰聞其段伴左衛門江通用申達  
候

三月十七日 雨

一 三浦伴左衛門昨日申聞置候備中振合之弁合ヶ条書差出候請取与兵  
衛殿江差出ス

一 浅路順次備中江呼出之程も難計ニ付御徒目付差添被仰付もの御内  
意有度旨郷左衛門談置候承知之旨藤田弥市江御内意有之

一 御発駕ニ付今夕材木町東口二階町上下元魚町上下戸川町中横町鍛  
冶町東壹ヶ所以上七ヶ所関貫小門開置立番為致候段与兵衛殿郷左  
衛門へ申達候尤例歳之事故昨日孫左衛門江ハ申達置候

一 明朝出役ニ付例之通御貸人之儀并灯燈持吾人之儀も勘者江申談置  
候御貸馬之義北嶋唯七江申談置候

一 昨夜備中へ帰り候組之者御使組不残差返ス手前江参り居候勘藏今  
日差返ス其段御勘定奉行江申通候

一 東新町平まや兵藏宮尾村重助娘妻ニ引請人別入願及御沙汰承り届  
候廿一日証文出ル

一 備中倉敷守助方飛脚差越手代鳥山喜三郎へ昨十六日昼後内懸合致

し存外之六ヶ敷振合も有之候ニ付江戸御留主居へも急ニ申遣可然  
之旨申越九ツ前時分御城ニ而披見早速与兵衛殿江申上岡村要助江  
之文通下家同濟郷左衛門江も申談候守助江之返書并妙願寺へ引請  
之書付朝守助江遣し置可申談下城之上岡村江之飛札七ツ過ニ為  
持御城江差遣ス大坂江二日切江戸江五日切之守助江之返書も荒方  
与兵衛并郷左衛門江申達暮過迄ニ認濟守助之飛脚江相渡ス明朝  
七時出立致し候由申聞候

一 牢拔御裁許之義律令之文書指添与兵衛殿江御次ニ而懸意をも申上  
昨夜申渡文段認置候分差出シ伺相濟候尤書付者追而御渡し有之筈  
一 岡田屋嘉助母并組合近家之者備中呼出し之義難計ニ付内意岡町年  
寄江申聞置下江者不申聞町内年寄差心得候様委細孫左衛門江申含  
置候

一 浅路順次差出し候得者駕籠別為入用心積り之義も孫左衛門江申含  
置候

一 二階町伊勢屋庄右衛門商売向用事ニ付京柳天場四条上ル近江屋七  
三郎方へ十八日出立四十日計り滞留願出大年寄承願書持参承り  
置候

一 安岡町村永屋吉右衛門妻去ル十三日九ヶ月振ニ而女子出産之処虚  
弱ニ而一昨十五日相果吟味申付候処紛敷儀無之段及御沙汰

一 玉置源五兵衛備中早島那須義兵衛方へ十九日出立十日計り之逗留  
相願及御沙汰候承り届候

一 新魚町作人市郎右衛門借屋喜八御手廻リニ被召抱候ニ付人別除相  
願承り届候

一 牢舎松次郎病氣ニ付本道願阿部周軒へ申付ル  
一 順次妻兼而不快中村益庵へ懸越薬願申付候

三月十八日 雨

一 御発駕ニ付七ツ半時出役立宿東新町山本平右衛門六ツ半過御発駕  
被遊玉林舛形ノ内右之方ニ而御目見御供頭田中仲名披露大年寄三  
人舛形外右之方江罷出ル御先弘小頭替り甚藏平組軍次着掃除見分  
兵助権七人留<sup>京町 御使細助</sup> 又兵衛右場所引取与兵衛殿江相届郷左衛門江  
手紙ニ而届ル

供立例之通口之者式人馬箱挑燈二張<sup>老人者御貸人 若堂新平 御使細助 数</sup>  
右衛門弓張挑燈鎗挟箱草履取合羽籠

一 尾張屋権兵衛今朝出立届出ル  
三月十九日 雨

一 元魚町灰屋与七郎用事ニ付大坂心斎橋梶木町玉子屋九兵衛方江廿  
日出立廿日計り逗留願承届候

三月廿日 曇小雨

一 二丁目紙屋長右衛門撰州大坂玉子屋九兵衛方へ廿二日出立三十日  
計逗留願承り置候

一 小性町かきや伊助妻昨十九日六月振男子出生母子共肥立月取間違  
断書差出ス廿六日叱り置候

一 堺町豊屋喜左衛門大庭郡湯本村江廿二日出立廿日計り逗留ニ而入  
湯願書差出候承り届候

一 福渡町浜野屋嘉一郎家守忠助借屋清吉宿願ニ付四国遍路廿三日出  
立九十日計り逗留願承り届候

一火ノ用心之義兼而被仰出候得共近來出火繁々有之何となく火早ニ有之候ニ付別而銘々火之元入念候様被仰付置候旨昨十九日廻文到來依之右触書大年寄江相渡候今般之義ハ格別ニ被仰出候義惣町年寄共呼寄急度申渡シ裏借屋迄暍と行届銘々格別ニ相守り候様可申渡且又博奕之義兼々稠敷停止申付置候得共今般之席猶又弥嚴重ニ申渡候様委曲申渡ス

一金井伝七々山田孫四郎正米式俵江戸廻し且又渡部惣右衛門々入江多仲江同六俵廻米川下申來り孫左衛門江申渡し置候

一船本屋庄吉小豆拾五俵小麦三拾俵積下し見分兵助又兵衛差出ス無別条

一播州ウハヅ川洪水ニ付佐用駅御逗留之旨馬間屋平六昨八ツ時出立同駅々罷歸り候段申出候ニ付其段与兵衛殿江申上候

三月廿一日 雨

一大守様今七ツ時佐用駅御発駕之旨使組同駅々罷歸り候段伊左衛門々通用有之

一同心組助数右衛門々來ル廿五日大坂出立ニ付明日引取度旨申候ニ付右代り之義并牢番も兩人ニ而隔日相勤難成之旨申出其段も申遣候

一揚り屋さらへ今日甚蔵善次真平権七差遣候

一坪井町市勢屋与市大坂玉子屋九兵衛方へ廿三日出立三十日計り逗留罷越度大年寄承り届申出ル

三月廿二日 晴

一御藏米八拾七匁五分町米八拾三匁五分相場書出ル

一林田町年寄治兵衛印形相改印鑑差出ス

一林田町作人甚六借屋作人長七御城代組并汲甚右衛門渡り屋敷伊助与申者引請渡世為致願出承届候

一林田町中村屋平兵衛立願有之四国遍路四月朔日出立往来百日計り逗留願出承り届候

一御使組数右衛門大坂江罷越候ニ付今日揚ヶ人ニ取計右替り登八來ル牢番

三月廿三日 晴 登城

一御用所江大目付郷左衛門立合先達牢拔之節番人等御裁許伺之通被仰付候近日之内申合取計候様被仰渡右ニ付大目付并郡代御勘定奉行粗及対談置候

一東大番所御制札場北之方壁破損有之候取繕申付候様ニ郷左衛門被申聞候

一茅町鉄山屋六太郎妹きさ倅亀次郎二ノ宮村勘三郎妻ニ遣し置候処今般離縁人別入引合相濟承り届ル

一美濃職人町常盤屋善兵衛林田蓮光寺家來幸吉并同人妻兩人引請渡世為致度人別入願承り届ル

一高松屋夫兵衛小麦四拾七俵買請船積見分善次差出ス

一晚方与兵衛殿江罷越牢番足輕大谷甚兵衛妻勝手次第立退候様可申付哉以書付相同候処先例之通取計可申被仰聞候且又盗人松次郎同文蔵御裁許之義先達而同相濟居申候処牢拔ニ付少々懸り合御座候故取計延引仕居申候今般右御裁許ニ付兩人之ものも同し取計可申段も申上候御承知ニ而取計候前日甚兵衛妻并盗人兩人何ニ取計

候与申義相届候様被仰聞候尤文藏ハ郡代所同之者之由も申上右ニ付權六ノ別段不申上候段も達し置候粗廿七日取計候積り

三月廿四日 雨昼後晴

一 備中倉敷守助ノ飛札到来廿二日ニハ吟味有之格別手間取無之無相

濟仙波門太浅路順次口書御代官所ニ差出候右申口之趣を以喜兵衛吟味取計有之候旨申来り即刻与兵衛殿江持參申上指たる義ニも無

之相応返書取計候様被仰聞候尤来状ハ御席御廻達之旨御返却之筈

一大目付郷左衛門江罷越右来状之趣相咄且又昨晚与兵衛殿江申達候甚兵衛妻松次郎文藏等取計之義も達し置尤粗廿七日可取計旨且又

同心組加人御勘定奉行中へ御差函有之候様ニ盗人兩人取計ニ御徒目付下目付立合之義も申達置候

一小嶋新五右衛門麦彦倭江戸廻し川下ケ村上治太夫申来り山田孫

四郎米式倭今并伝七ノ川下ケ之事申聞両様共孫左衛門へ申付候

一 順次妻医療今日ノ渡部三隅笹岡休意

一 瓜生原屋平吉買請小麦式百拾俵船積見分新平罷出ル

三月廿五日 晴

一 御藏米九拾目五分町米八拾六匁五分相場書出ル

一 元魚町麴屋伊助大坂玉子屋九兵衛江廿六日出立四十日計り逗留願

大年寄承り届当人持參承置候

一 二階町木屋太兵衛右同日同所江三十日計逗留右同様

一 新職人町山本屋借屋作人清八妙願寺長屋江引越人別除願出承り届候

一 東新町小池かね家屋敷表口式間裏行拾七間四歩役町内松本屋新六

江代銀札三百五拾目売渡願出承り届候四月朔日証文出ル

一 船頭町大工七左衛門家屋敷表口三間三寸五歩裏行八間壹尺九寸本役町内作人善五郎へ代銀札百五拾目売渡願出承り届候四月朔日証文出ル

一 牢内江他之事能聞候通路も付候様ニ何となく相聞且又先達而門太順次藤左衛門などちり紙ニ書付を致し申かわし候事杯も有之様ニ粗相聞右躰之もの何れ形チモ見付候ハ、遂吟味ペリ付可申委細申含去ル廿一日揚り屋さらへ甚藏善次新平權七差出候処何も無之旨申出候処今日郡次罷出右揚り屋さらへ之砌門太方ニ紙ニ書候もの有之順次方ニ墨ノ切レ有之候処甚藏此書付ハ自分ニ書付遣し候旨告て引さき焼捨墨之切レハ放捨候旨残り三人之者共其後致相談何れ相届不申候而ハ不相濟候旨致決定其余仲ケ間之もの江も申聞弥相届候ニ決定致し郡次兵助兩人甚藏江差詰り候上申出候ニ付其段委細与兵衛殿江申上追込申付候尤常躰役所存寄之事ニ候へ者追込等之義不及御沙汰候へ共兼而粗は牢内不ペリ之趣なとも与兵衛殿御噂も有之候事故申達候大目付中同断

一文六小頭代り之場ニ遣ひ郡次立合今夕甚藏追込申付候

一 竹内兵助江部屋目付仮役申付候

一 今夜備中守助江返書認飛脚江相渡明早朝為立候

一 牢内万助針治申付ル

三月廿六日 雨

一 牢抜一件松次郎文藏等取計明廿七日取計可申旨粗申上置候故大雨

ニ付延引可仕旨与兵衛殿大目付へ申遣候伴左衛門江も中間取計之

義懸合置候故延引申遣候

一 田中関貫破損之旨昨日廻り申出勘八江申付置候様申遣候

三月廿七日 朝晴晚小雨

三月廿八日 小雨 登城

一新魚町作人福太郎借屋佐次郎去午十一月罷出行方不相知百日余ニ相成候ニ付人別除願出今日及御沙汰候承り届候

一 松平上野介様御朱印廿六日立先触到来警固雲州広瀬天野龍右衛門細倉庄九郎寺尾太郎太夫之旨大年寄御城江申出廿六日立ニ而ハ今日御通行之日積り候へ共霖雨川留も可有之哉一向様子不相知依之

坪井久世当り迄問屋方聞合可遣哉之旨相伺候ニ付其通り取計候様申付候尤御用番与兵衛殿へ申上候而差当り上野介様御朱印通行之

例も分り兼候ニ付先例無之候ハ、出羽守様御朱印之例ニ取計可申旨申上候取調可然様取計相乱可申事も有之候ハ、追而可申上旨被

仰聞候尤大目付中江同断達置

門

一 二階町南口関貫番人去ル廿三日之夜九ツ時後メ切り不申候ニ付遂吟味候処番人勘七井月行事武兵衛兩人共無念無調法ニ付叱過料例

之通取計尤三百文先例ニ候処今般者兩人之無調法ニ付三百文之義兩人江可申付哉相伺候処者人三百文ツ、ニ取計候様被仰聞其段孫

左衛門江申付晚方叱過料取計大目付中江も申達候

一 二階町作人弥兵衛方江林田村喜兵衛伴三次郎内縁之者故引請度願出今日引合濟承り届候  
一 戸川町作人藤次家守東屋藤七方江太田村浜田屋左助借屋直次後家家内六人引請願出右同断

一 西新町大黒屋藤藏借屋善兵衛親子兩人林田上ノ町清六方江引越願右同断

一新魚町作人万次郎家守乙八姪山北村喜七方江差遣し置候処此度離縁ニ付帰住願同断

一 中ノ町松田屋治助借屋伊勢松林田村勘吉引請同村治兵衛借屋江引越願右同断

一 京町味噌屋清六兵衛夫婦子三人都合五人山北村善右衛門引請罷越度願右同断

一 松平相模守殿久世守屋弥三右衛門殿御代官所江囚人四人被差出候ニ付宿申付具候様ニ問屋江申来り左之通宿申付候段孫左衛門申

出明和五年三月之例を以即刻是又左之通申付ル  
因州郡奉行 馬場十左衛門

宿元魚町紙屋助右衛門 右下役囚人差添  
宿伏見町大坂屋利七 高田和助

一 伏見町并京町材木町火用心夜廻り申付候事 囚人四人  
一 両町年寄旅宿江見廻用事有之候ハ、被申聞候様申達事

一 一万一出火有之候ハ、町年寄差心得東西何方江成共相応之宿江案内

為致候様心得之事申聞候尤差支無之様人足等問屋江申付置候事

右之趣申付置候此間三宅藤左衛門備中倉敷江被指出候節も先達而

一 石屋伝次同所江被差出候節も道々役人或者庄屋指突など出候趣  
ニ御座候今般因州之囚者及其義申問敷。相伺候処ケ様之義者諸家々

々ニ而違ひ可申候先例之通ニ而可然旨ニ付其余取計無之

三月廿九日 曇

一因州知頭郡惣地村文左衛門四国遍路帰りに相煩他領皿村古城東村江送り来り候段郡代権六ノ通用ニ付大年寄江送り出候時夜申付候処及深更町分送り出シ林田村江相渡候段申出而御方江相届ル

一因州囚人四人付添之面々無滞出立之旨孫左衛門届出候ニ付右同様一所ニ両御方江相達候

一二月中生死書上左之通

出生拾六人男子拾貳人  
女子四人 死拾壹人 人別入拾五人 人別除八十八人 死失メ九人 差引メ四人 増

臆胎メ拾人

右者 昨廿八日与兵衛殿江差出ス

一中之町高尾屋新藏播州網干余陸屋惣七塩もの八百屋ものおろし売罷越宿切手昨廿八日差出ス

一船頭町船本屋権右衛門後家役介七大夫宿願ニ付真言宗門靈場參詣罷越宿切手右同断

一勝間田町通谷屋榎之丞勝山金田市郎右衛門方へ当未年々酉ノ年迄当中中出立来申ノ五月中ニ罷帰り度願出承り届候尤昨廿八日

一三ヶ年奉公罷越度願承り届候

一東新町延屋重次郎家屋敷表口五軒裏行十七間本役町内水口屋茂兵衛取次ニ而質入銀札五百目借り受願出承り届候四月六日証文出ル

一右同家下地赤屋忠兵衛取次ニ而銀札三百目借受居申候処今般元利

返弁請返し願勿論承届候

一暮時分坪井江遣し置候遠見帰り

上野介様御判物今夕当町止宿之旨申出候ニ付御先扨次登八筋違橋迄差出ス直ニ元魚町出宿申付候夜九ツ時兵助又兵衛代り合夫より明朝之先扨相勤候事

御朱印止宿元魚町紙屋助右衛門隣町戸川町元魚町元魚町年寄旅宿江見舞挨拶ニ罷出ル大年寄同断通り筋掃除町保頭出ル

先例奉行所旅宿江見廻候ニ付宝曆十年十一年之間相調置十一年十二月廿六日雲州御判物通行此分広瀬之御分と相見江候処差懸り候止宿及深更候ニ付町奉行罷出ニ及ふ間敷下役之者差出し可然之旨

御差図有之右等之振合与兵衛殿江相伺候処今般も止宿之義ハ差懸り候ニ付右例ニ取計可然候処当時下役無之ニ付其段大目付へ拙者

右申達候御役人右町奉行下役として差出候様ニ及対談可申被仰聞平井郷左衛門御城泊リニ付直ニ登城右之段申談御勘定奉行伊藤

伊左衛門へ町奉行下役御役人右人治部助差図を以相勤候様被申越并下役供之者中間右人是ハ中間頭ニ浦伴左衛門江郷左衛門右同断

差図有之候然ル処及深更井口恵左衛門手前江罷越御用向有之ニ付下紙差図を請相勤候様被仰付罷越候由ニ付右御判物旅宿江見舞挨拶

之大意先例考合及差図尤平太兵衛罷出候時分も強而断ニ而不致

対面趣共も有之振合申聞差遣候尤立宿斎藤孫右衛門立宿孫右衛門方へ紙屋助右衛門呼寄恵左衛門挨拶ニ罷越是迄罷出候段申遣候処

難所多く殊之外勞シ候ニ付之由申来り又候助右衛門へ申聞候ハ恵

左衛門義も大年寄方迄罷出候義為指タ故障ニも無之候ハ、一寸御見舞も申度旨申遣候処猶又右之通ニ而強而断申越段々入御念候被仰付候義共町御奉行中江も宜敷御挨拶被下候様ニと申越候故夫方引取ル

四月御月番

御家老安藤丹後殿

大年寄月番

御年寄伊達与兵衛殿

玉置源五兵衛

大御目付渡部惣右衛門

朔日 晴

殺害  
以及見可認略

一 大年寄罷出同役玉置源五兵衛昨夜備中早嶋方罷帰り同倉敷守助方書状差越藤左衛門事去ル廿五日人殺之旨致白状先一ト安堵之旨先達而江戸表ニ而岡村懸合之趣ハ順次者倉敷へ被差出門太ハ不被差出候而可相済之処先此節之之様子ニ而者順次も不被差出候而可相済様ニも相聞へ其外人別之事も手狭ニ可済趣何角江戸岡村へ懸合書状封無之ニ相越御用所江伺思召等も無之候ハ、江戸表江相廻し可申旨申来り即刻与兵衛殿へ罷越候処朔日故登城之旨依之御城江持参相伺候処何之御存寄も無之急ニ相廻し候而可然旨申上大坂迄時廻候大坂方五日切ニ而添状致し岡村要助江飛脚差立相廻ス尤大目付中へ委細談

一 広瀬御判物今朝五ツ前当町出立町分無滞通行相済先弘兵助又兵衛罷帰り承り置候御朱印持夫四人宰領兩人寺尾太郎大夫ハ駕籠若堂

壹人其余兩人者乘懸鎗三本都合拾三人程と見ル由御朱印無滞出立之段大年寄も相届ル右之段登城之席与兵衛殿大目付中江も相届ル惠左衛門罷出候振合も大抵申達置候

一 牢抜一件明二日取計可申且又先此申上候通大谷甚兵衛妻義ハ勝手次第立返候様申付候其外盗人松次郎者長法寺仏具盗取五十敲之上

御領分追払申付候文藏義ハ三度立帰りニ付鼻をそき同断追払申付候此段ハ前日相届候様ニ与兵衛殿被仰聞候故今日書付入一覽置候大目付中江も右等取計候段申達候勿論立合之義も申達候はハ松次郎文藏取計ニ付立合

郎文藏取計ニ付立合

一 牢抜一件弥明二日取計且又文藏取計之義も申達候段郡代権六江為念申遣候

念申遣候

一 牢番中間取計之義吉田文左衛門江申遣候

一 牢屋手配等ハ惣而部屋目付那次方申付ル

一 江戸岡村要助江御用状小勤者吉田文左衛門へ為持遣候

一 牢番助兩人明二日代り合石并金次堀内茂八罷出ル

一 明二日御裁許ニ付同心組加入六人入用之処御使組人少ニ付四人相廻り二人者牢番助兩人之者同心組へ召仕候様取計持前之牢番兩人

共詰切り相勤候様ニ申付ル尤一昨日近藤伊左衛門へ委細談置候

四月二日 曇

立合御徒目付石坂紋夫未目付組壹人

一 牢内松次郎文藏取計ニ付六ツ半時書役又六小頭部屋目付之場郡次

兵助出番善次保頭差出ス

一 牢番中間取計ニ付吉田文左衛門へ

中間弥助ハ牢内ニ罷在ニ付出番

牢屋江遣し直ニ吉田文左衛門江遣ス追付右申渡取計候段文左衛門  
ノ案内申来ル

一牢番大谷甚兵衛呼出候権七(空白) 罷越請人差添罷出ル

一牢番松岡左助呼出候新平(空白) 罷越請人不快ニ付名代差添罷  
出ル

一右申渡シ玄関ニ差置出番兩人付添郡次兵助立合書役談渡し相濟牢

拔文七百捕帰候ニおいてハ帰住勿論其品ニ寄褒美等可申付旨拙者

ノ申渡

一大谷甚兵衛妻白洲江呼出し夫甚兵衛義今日御城下一里四方追払申

付候依之其方義勝手次第立退可申旨申渡ス

一甚兵衛左助兩人請人之宅江差向欠所取計候事右者又六郡次兵助并

当番々登八差遣し当番代寺杜方下代元右衛門を呼出置候事

一牢屋ニて番庄屋長名穢多頭九郎右衛門大兵衛江談渡候又六郡代ト

代并郡次兵助立合

右相濟候段与兵衛殿惣右衛門へ手紙ニて申遣候

一勘吉并湯原屋庄助妻加茂屋平左衛門呼出し遂吟味暮時分迄ニ相濟

四月三日 晴曇

一戸川町赤崎屋文四郎夫婦去月十八日罷出行方相知候ニ付百日尋

申付候段及御沙汰

一茅町坂本屋佐助久世森屋弥惣右衛門殿御支配下原村新助娘同人悴

庄蔵親子共妻子ニ引請申度願出及御沙汰承り届候三月分江入四月

十五日証文出ル

一勘吉義昨日遂吟味候処贖札同類見込候処紛無御座候ニ付何れニも

先永く牢舎可申付ものニ御座候故御給ふち取上牢屋賄ニ可仕旨尤  
御勘定奉行中へも談し置候旨申達候処其通ニ申付猶御勘定奉行中

へ申談候様与兵衛殿被仰聞惣右衛門江も達し置候

一周助義ハ贖札制札之懸り合ハ無之盜取并勘吉衣類盜取候事故是又

牢屋賄ニ右同断申上候尤周助御裁許之義ハ追而御伺可申上旨申上  
置候

一湯原屋庄助妻義ハ申口同様ニ而陳シ候趣ニも無之乍然只今ニ而取

計方も無御座候ニ付追而御伺可申上候

一加茂屋平左衛門義是又申口相替候義無御座候尤強而疑敷ものニ無

御座候間組合預ケ差免他参留申付置度伺之通取計候様被仰聞候

一万人講建札之義及御沙汰大目付中江申達候

一万人講先入用五百目拝借例之通勘定奉行江申談奥書致し井口恵左

衛門江渡し置候

一船積致し候ニ付又六見分差出瓜生原屋平吉買請小麦七拾五俵小豆

三拾俵同式拾五俵

一中ノ町甲屋幸助播州綱干浜菊屋源次郎小間物おろし売昨日罷越宿

切手差出ス

一中ノ町甲屋幸助播州綱干新在家伊部屋清六塩もの并鯉節おろし売

ニ昨日罷越宿切手差出ス

一玉置外左衛門親恵吉用事有之備前岡山江三日罷立往来十五日之迄

留願昨日差出承り届候

四月四日 雨

一雲州嶋根郡西もち田村新七并同人母そめ摂州大坂下福嶋村ノ婦リ

懸右そめ足痛致シ播州佐用郡三ヶ月町を宿送り致し来り右書付写を以源五兵衛伺出候ニ付送り渡し候様ニ申付候

四月五日 曇

一右宿送り之者坪井駅江送り渡し候段昨夜及深更届出候ニ付今朝与兵衛殿江以手紙御届惣左衛門右同断

一中之町福茂屋武助備州津宇郡妹尾村木綿屋太兵衛同倅紋次郎兩人疊表元結木綿売昨日罷越宿切手差出

一中之町高尾屋新藏播州網干高屋彦右衛門小間物嵐売昨日罷越宿切手差出候

一備中倉敷江組中る飛脚差越候由ニ付去月廿七日之返書其外少々御用向申遣候尤明六日立之由

四月六日 晴

一玉置栄次郎所持之他国請酒株去ル辰ノ歳西新町水野屋義助江貸置候処今般取戻願承届ル

一西新町玉屋栄藏坪井町浜屋五右衛門所持之他国請酒株当四月より来ル西ノ三月迄借請願承届ル

一中之町豊久屋伊三郎家屋敷表口三間半裏行十七間四歩役同町今勢屋惣兵衛口入ニ而同町わら屋文次郎江質物ニ入銀札式百五拾目借

り受願出承届候十八日本証文出ル寛政二戌十二月廿二日返済濟一  
一新魚町林田屋次右衛門後家屋敷表口式間裏行拾三間三歩役代銀

札四百目ニ相極町内三沢屋平吉江売渡し願出承り届候廿一日証文出ル

一関貢番所入用定帳請取手形二袋出シ請取置候

四月七日 晴

四月八日 曇 登城

一湯谷村岩右衛門并下高倉村又兵衛被盜もの註進書大目付を被相渡町触取計

一高瀬屋勘右衛門小麦六拾六俵買請船積致候故善次見分ニ差出候

一高松屋夫兵衛小麦五拾七俵右同断

一御藏米九拾三匁町米八拾九匁相場書出

一牢内万助清藏申聞度事有之由ニ付兵助又兵衛昼廻り者差越候処去ル五日牢番助勤之石井金次六日堀内又助追々備中倉敷ニ而藤左衛門拷問之上人殺致白状守助も急ニ罷帰り御仕置も九日十日此ニ有

之杯順次妻并順次江も申聞せ右ニ付順次縊ハ舌を喰など致申趣相聞候条申聞候ニ付早速牢番勤者呼出し右躰ニ粗相聞候間下番中間

番子共儲ニ遂不寝番油断致間敷惣而牢舍人江通路無之様委細申含同役儀助兩人相談ニ而助勤之兩人役所江罷出候様申含歸ス追付金

次又助罷越候ニ付郡次兵助兩人を五日以来之様子相尋候処右万助清藏申口とハ少々違ひも有之候へ其他之風説牢内へ通路致し候事

相違無之ニ付牢屋江出勤ニ不及候帰宅致し候様申聞夫より御勘定奉行栗田唯次へ罷越委申達候牢番助御使組兩人相廻り候様申談且

又金次又助は右之趣叱之上追込三日も被申付候様ニ談し置右之段与兵衛殿并惣右衛門江も申達ス牢番助鈴木忠太参り候ニ付委細申

含今夕泊りニ出ル明朝中村栄次罷出候由ニ付具ニ申送候様申付

ル

四月九日 晴

一備中倉敷方笹岡与兵衛罷歸り守助方来状藤左衛門白状之後去ル五日七日吟味有之処同人申口門太被頼嘉助を及殺害候趣三人申合之事之由申口を違へ手間取候旨且又今般ハ勘定奉行中江金子之事申越候由

一坪井町谷屋佐七与申者方ニ又候遊女躰之者差置候由相聞へ昨夜善次新平差遣候処弥二三日差置候旨ニ付組合之者江預ケ置罷歸り今朝届出ニ付佐七義追込七日可申哉窺書認与兵衛殿へ持参同之通取計候様被仰付候尤守助方来状持参委細申達書状差出置候右両条共大目付惣右衛門江も申達候

一今五ツ時御供揃ニ而若殿様院庄江御出被成候旨昨日中奥目付方申来り大年寄江申達ス今日御先私善次新平差出暮過無滞御歸り被遊候旨申出ル

一谷屋佐七追込申付候義大年寄源五兵衛江申渡候立合兵助差越候申渡之趣両御方へ手紙遣ス

一堺町稻美屋義七郎商向用事ニ付大坂大川町錢屋佐兵衛方江廿二日計り之逗留願出承り届候

一福渡町浜野屋嘉一郎屋守忠助金田伊右衛門長屋儀平を引請渡世為致相願承り届候

一京町河内屋孫平方江本多左門殿長屋くにと申女由緒有之候ニ付引請度人別入相願承り届候

四月十日 晴

一与兵衛殿方昨日之書状被相戻惣右衛門へも為持遣ス是又昼過被相戻返書相認候

一備中倉敷方去ル五日之返書晚方飛脚歸り相達ス藤左衛門岡山請人と申のミニ而当所取計候趣之儀并妙願寺呼出ニ相成候共社役人懸りニ不及且院代ニ而も相済可申なと申来り与兵衛殿江も申達し存寄も有之候其段問合旁昨今之返書相認明朝立ニ而与惣兵衛差返ス

四月十一日 晴 夜雷雨

合、挨拶迄  
御当番中様 藏合孫左衛門

以手紙申上候然ハおけや町桶屋清吉留主故妻延新魚町備中屋甚七二町目福永屋栄三郎相糺別紙口書ヲ取り差上申候間此段宜被仰上可被下候以上

一御藏米九拾壹匁五分町米八拾七匁五分

一瓜生原屋平吉小麦七拾七俵買請船積致候ニ付善次見分指出ス

一二町目安原屋太兵衛方江紀州御葉匙松村養貞与申者上下三人五六日逗留為致願書差出候承り届候

四月十二日 曇

一昨今町中溝見分大年寄諸吟味那次兵助差出候処何方も障り無之由申出ル

一出羽守様御判物俄に問屋場へ着ニ付大年寄源五兵衛罷越兼而御判物御通行之節ハ御先私被仰付候ニ付可申出旨被仰付置候今暫御見合も被下候ハ、早速可申達之旨申候処入御念候事ニ御座候差急キ候間不及其儀候旨被申聞候故京町々東町々保頭之義ハ申付置候旨申出候ニ付登廻り候早速差向候処橋本町ニ而追付夫々東新町迄御先私相勤候旨差添佐々木治大夫酒井弥右衛門入御念候義江戸表江

罷出候上早速可申達旨同心組江致挨拶有之由町分無滞通行相濟候旨与兵衛殿惣右衛門へ以手紙申達ス

四月十三日 晴

一 出羽守様御判物俄ニ通行之趣差添而人々同心組江挨拶有之趣委細申達候

一 一宮市町ニ付御触書出ル組中牢屋三間屋江相達ス

一 材木町車屋源兵衛久世村百姓篤五郎与申者親類ニ付引請渡世為致

度願出及御沙汰承届候 廿一日 証文出ル

一 備中倉敷江銀子相廻り候持夫暮方罷歸り守助方十日之答藤左衛門

人別之事とても先比申来り候様ニ者無相成実事之通り人別一件者

松之丞不埒第一爰元寺社役之無念ニ者相成間敷申来り与兵衛殿江

以手紙差出置候

四月十四日 晴

一 和泉屋源兵衛小麦五拾九俵船積致し候ニ付見改メ権七差出ス

四月十五日 晴

一 備中倉敷方昨日立急飛脚到来妙願寺并美濃職人町岡田屋嘉助家内

之者同町年寄右之もの三宅藤左衛門事喜兵衛一件引合ニ付早々差

出候様御代官万年七郎右衛門殿々差図之旨申来り即刻大年寄源五

兵衛呼出シ岡田屋嘉助母年寄等出立之用意申付ル并寺社下代植月

元右衛門呼出し妙願寺へ委細申含遣し置郷左衛門江罷越委細申達

候夫方直ニ与兵衛殿江罷越申達明朝七ツ時差立可申尤差添御徒目

付同心等之義も以書付相伺候処之通取計候様ニ御差図有之夫々

大目付渡部江罷越又候右之段申達候差添等伺済之趣申達御使組加

人中間等之義も申達候且又栗田唯次江使組之義ニ付入用銀之事等申候御徒目付藤田弥市差添被仰付候旨見江委細申談候同心組者

壹人竹内兵助申付ル差添罷越候もの共八ツ半時罷出候様ニ申付ル

藤田弥市七ツ時前拙宅江被參候様申談妙願寺并嘉助母町年寄等も

同刻呼出ス尤寺社兼役筋ニ付惣而手都合能夫々取計候事

四月十六日 晴

一 今晚七ツ時何れも相揃夫々申渡候七ツ時過差立候其段与兵衛殿惣

右衛門江手紙ニ而届ル妙願寺義八届郷左衛門江申遣候昨晚内今日

出立之人數左之通 タツノシユ

駕籠 壹挺

御徒目付

藤田弥市 若若堂老人 草り取老人 中間老人

同心組式人

駕籠 壹挺 岡田屋嘉助母

町年寄

油屋与惣兵衛

同心組式人

中間式人

一 昨夜宿継人足町方之分四人弥市分兩懸挨拶共三人都合七人先触之

義勘定奉行中江申達候但し妙願寺院代ハ駕籠手人油屋与惣兵衛も

かこニ而罷越候岡田屋嘉助母兄甚藏道中為介抱罷越度大年寄昨晚

申聞勝手次第之旨申付候

一 坪井町谷屋佐七義追込今朝差免候其段向御方江以手紙相届候

一夜ニ入片便ニ而備中倉敷方藤左衛門吟味十四日取計申口書ニ而差詰り有之間敷久世御代官信州江參候ニ付而ハ御会釈等之義申来り候

四月十七日 晴

一昨夜之来状与兵衛殿江入一覽候久世御代官守屋弥惣右衛門殿出立之様子問合之義問屋共方取計せ可申之旨伺之上源五兵衛江申付候  
一高瀬屋勘右衛門小麦三拾八俵小豆拾六俵買請船積申出権七見改罷出ル

一米屋藤右衛門小麦八俵船積右同斷

一安岡町岡屋忠七小嶋次三郎長屋ニ罷在候治助夫婦親ニ付引請申度願出承り届候

(戌九月相落)

一東新町樽屋清八玉置栄次郎所持他国請酒株当四月方来ル戌ノ四月  
迄借請商売致申度願出承届濟

一西今町住屋弁藏所持家屋敷表口三軒裏行十五間五步役去ル寅歳方質物ニ書入銀札六百目借り請候処請返し候旨斷出承り届候

四月十八日 晴 登城

一伏見町小田屋伊平次備中阿賀郡水田宮地村百姓重右衛門甥柳吉内縁も有之候ニ付養子願差出及御沙汰承り届候

一三町目原田屋長兵衛倅龜次郎森对馬守殿御預り所勝南郡蓮見村弥右衛門方江養子ニ差遣度相願今日及御沙汰承り届候

一当二月播州方送りものニ相成罷帰候元二階町ニ罷在候新吉病氣介抱之ため小性町久米次引請願承り届候処此節全快ニ付備前西大寺山水屋杉右衛門と申者伯父ニ付引請候間差遣し度願出候ニ付今日

其段申上候而勝手次第之旨申付候

一御巡見別帳可有之ニ付取調相伺候ヶ条も有之候ハ、可申出之旨大目付惣右衛門被申聞候

一日上村勘七被盜もの註進書惣右衛門被相渡町触取計

一三階町組屋源左衛門用向ニ付岡山片上町大和屋清右衛門方江明十九日出立往来十日余逗留罷歸り度願大年寄承届当人持參承り置候  
二二町目安原屋太兵衛方ニ逗留致し候松村養貞昨晚出立罷歸り候段届出候

一備中倉敷方引合之ものニ差添遣候使組惣八罷歸り妙願寺引請之願書由緒と由縁との違相聞候由ニ付本書差越候様ニ申来り并御徒目付も陣屋差添罷出候事も無之旨申来り郷左衛門江も申達候夫より与兵衛殿江申達し惣右衛門江も申達候今日六ツ過中間飛脚差立妙願寺願書差越候尤御徒目付も引取候様守助方江申遣候

四月十九日 曇昼より小雨

一京町海老屋長右衛門京都二文字屋九兵衛手代清次郎宗兵衛兩人呉服物売昨日罷越宿切手差出

一山田兵助扶持米式拾俵追々廻米致し度ニ付川下ヶ之義長沢右源次被申聞候ニ付源五兵衛江申付ル尤昨日也

一備中倉敷方飛脚到来昨十八日妙願寺并岡田屋嘉助母吟味有之候処同人義ハ尋之趣相答此上は口書一ト通りと相聞候妙願寺ハ藤左衛門身元之義不奉存出九大夫堅ク請合候故引請候旨申之九大夫鉄次郎吟味書御差出被成候様七郎右衛門殿方御達し之旨早速申上御吟味之上御差出シ被成候様ニ申来り早速其段与兵衛殿江申上郷左衛

門江も申達候彼是及相談兩人弁書等点作も致し候

四月廿日 小雨曇

一 早朝郷左衛門江罷越尚又申談吟味書御次祐筆渡部五左衛門相認登後九大夫鉄次郎御呼出シ立合御吟味有之印形相濟右御吟味書出来暮前罷帰候尤東西飛脚等之義も惣右衛門江申談甚他用ニ付与兵衛殿江者不罷越其段郷左衛門惣右衛門江も申談候備中江之返書相認飛脚も参り相待罷在候処夜九ツ時分迄ニ吟味書御用席御一見相濟御差図有之候ニ付飛脚差立候尤明廿一日日中ニ参着候様ニ飛脚江申付ル

一 江戸表岡村要助江三月廿日以来之守助与懸合之文通往返相廻ス尤去ル十四日ニ者藤左衛門吟味も片付可申趣妙願寺院代岡田屋等も御差シニ成尚九大夫鉄次郎御吟味書等今夕飛脚差立候旨右ニ付候而ハ最早無程倉敷江江戸伺ニ可相成も難計ニ付尚其表御振合可然様ニ取計有之候様ニ申遣ス尤夜八ツ半時分小勘者ニ浦伴左衛門江為持遣候

一 今日平井郷左衛門宅ニ而兩人之御吟味立合之面々大御目付渡部惣右衛門御使番佐藤彦右衛門組頭鈴木忠之進中奥目付柴山十治御徒目付池部平太目付組御次祐筆渡部五左衛門吟味書読渡シ印形相濟尤兩人共兼而弁書有之ニ付其文段少々点作差詰り之場所郷左衛門方被相詰手間入無之相濟

一 上紺屋町備前屋善次郎一宮市町ニ付神主方世話被相頼参り懸り八人連舞子芝居世話願出例之通一札申付差出ス  
一 安岡町神場屋伊兵衛一宮市町ニ付九人連之竹田小供芝居世話願出

右同斷

一 西新町江見屋久米次義林田町藤本屋長八後家持来り之旅籠屋株勝手ニ付久米次譲りを請相勤度願出承り届候

一 東新町かぢや新藏所持之家屋敷南側廻り角表口三軒半裏行十七間半役右之家七年以来組合之内松本屋源七江質入ニ致し銀札沓貫目借り受候之処元利相濟シ請返し候旨断出承り置候

一 在方盗人沙汰有之殊ニ一宮市町ニも罷出候ニ付非人加廻り可申付旨昨日与兵衛殿へ申上今夕より申付候尤大目付中江も申達候

四月廿一日 曇

一 江戸御留主居岡村要助方已ノ刻書状到来三月十七日之返書也江戸表ニ而も相応手配有之猶又委細守助江申遣候由書状到来備中倉敷方も去ル十八日夜差立候飛脚歸り岡田屋嘉助母再吟味も有之明日ニ相分り候旨等申来ル藤田弥市も帰着対面右之趣与兵衛殿へ申上岡村方之書状備中江差越候ニ付飛脚之事惣右衛門へ申達伴左衛門へも懸合候而午ノ半刻飛脚差立候

一 渡部惣右衛門方江戸表ニ而御届有之候御用状共三通被相廻写し取返却尤今日飛脚差立候故重便守助へ可差越旨申遣候

一 大守様道中益御機嫌克去ル十日御参府被遊為御歡廿三日御帳付候旨廻文到来組中牢屋三軒屋相達候大年寄江も例之通申達ス

四月廿二日 晴

一 明廿三日方牢番加入更り合日笠惣八神原元〔案内ニ罷出ル  
一 昨夜深ケ廻り致し候処町関貫四十間宮部ノ横小田中土橋之前小沢横四ヶ所且又細工町小門開キ寝入罷在候由ニ付町分ハ吟味大年寄

江申付ル

四月廿三日 曇

一 三月中生死書上左之通

出生<sup>男子四人外ニ七夜ノ内</sup>人別入十九人人別除十八人

死失七人差引<sup>女子八人</sup>六人増

懐胎<sup>六人</sup>七人

一 西新町大黒屋藤藏方江備前国警梨郡釣井村安兵衛倅文吉内縁有之

ニ付引請人別入願及御沙汰候上承り届候

一 正米并雜穀川留申付置候先達而小麦小豆差免申候尚又今般大豆川

下ケ差<sup>申度</sup>申度段及御沙汰候而今日差免町触取計候様源五兵衛江申渡

ス尤御勘定奉行中へも及相談候

一 揚り屋老番<sup>七番迄</sup>境之板損同五番迄之土台且又百姓牢之内所々

堀笠膳申立先達而有之候間取繕無之猶又申立其外所損シ并牢番和

田勘七居宅屋根損等牢番<sup>五番</sup>書付差出大目付渡部江申達候書付相渡

ス

一 備中<sup>方</sup>供方之内老人罷歸り候由去ル廿日夜差立候飛脚廿一日相達

し今夕取調致し候ニ付右飛脚ハ留置候旨申来り来状与兵衛殿へ為

持差遣ス

一 備中<sup>方</sup>飛脚老人罷歸り去ル廿一日守助へ相廻候要助書状尚又相戻

し江戸表之御振合委細申越早速与兵衛殿へ為持遣候

一 御藏米九拾三匁町米八拾九匁相場書出ル

四月廿四日 曇小雨夜大雨

一 御藏米九拾四匁町米九拾目相場書出ル

一 備中倉敷<sup>方</sup>飛脚歸り藤左衛門牢問追々有之昨日も牢問有之筈之処

雨天ニ而延引之旨且又岡村江之返書差越今日御飛脚仕廻ニ付差遣

ス尤岡村江下拙方も返書差越候

一 戸川町紙屋嘉助市町ニ付参り懸り十人連之輕業芝居世話役之義一

宮神主<sup>方</sup>被相頼候ニ付世話致度願出承り届例之通一札申付差出ス

四月廿五日 雨

四月廿六日 晴

一 大豆七拾七俵小麦四俵船積ニ付善次民次廻り<sup>る</sup>見分

一元魚町美濃屋彦兵衛去午十二月大坂菜積代掛銀出入今般内濟相濟

断出大坂御留主居村尾彦左衛門江も及文通置候処是又相濟候付訴

状返納致候段申来去ル廿四日及返答今日濟口書付差出ス

一 玉置源五兵衛方江備中加陽郡帶江村平松秀次郎役介六人縁家之処

昨日罷越候ニ付十日計り逗留願書差出シ承り届候

四月廿七日 晴

同 廿八日 晴 登城

一 京町吉田屋喜八持家林田町南側家屋敷表口式間裏行六間壹尺壹歩

七厘役代銀札八拾目相極居懸り入江屋構助後家ひちニ壳渡シ申度

去ル廿四日之比願書差出シ承り届候五月十三日壳券状出ル

〔被下〕一 美濃職人町山家屋吉兵衛借屋若木屋与平次当未八十一歳同人妻せ

き七十歳ニ罷成四五年已前迄豆腐商壳致し近年綿打致候処及老衰

手足不叶ニ付此間孤独ふち願出候処夫婦ものニ而者孤独之名目ニ

叶ひ不申町方ニ者例無之候由相聞候得共何れ御救無之候而ハ不相

濟候もの故孤独ふちと申名目者除キ願書認させ委細及御沙汰候御

聞届相済御勘定奉行中江申談候尤右躰之例者在方ニ有之候

一 福渡町田外尚益鍼術相止メ外科致し度旨断書差出し及御沙汰承り届候

四

一 去ル廿一日更廻り申付候処田町分関貫四十間并宮部園右衛門横上

代町土橋之際小沢諸鈴横右四ヶ所九ツ時後〆切り不申ニ付今日及御沙汰例之通三日分番賃過料申付候尤小頭代り郡次宅ニ申渡ス

一 備中々直屋市郎左衛門歸り候便りニ書状到来藤左衛門吟味者相済

口書一ト通り相成病氣申立未相済夏服差越候様ニ申来り御用状与

兵衛殿江差出ス御中間老入申立差添継人足ニ差越候積り大御目付中へ申達候伴左衛門江も懸合明廿九日晚立ニ申付ル

一 藤左衛門諸道具先達而伴左衛門合封致し置候処開封引渡し相済候段守助右伴左衛門江申来り其段与兵衛殿大御目付江も申達候

一 餅米川下ヶ申付候様ニ与兵衛殿被仰付候尤上ニ餅米有之候処望候ものも無之御勘定奉行方も相談有之勿論町方ニ餅米無之共当時

飢渴ニ及筋無之事故相応及返答候事川下ヶ之義触書例之通源五兵

米穀一筆

衛江申達候

御藏

一 能勢屋源助大豆百六拾俵買請瓜生原屋宗兵衛同拾俵米屋藤右衛門御藏大豆百拾老俵高松屋夫兵衛大豆百貳拾俵川下ヶ船積ニ付権七兩度見分ニ罷出ル

一 美濃職人町岡田屋嘉助母同町年寄油屋与三兵衛備中倉敷五ツ時分罷歸り守助右書状到来与兵衛殿へ為持差上候尤与三兵衛届出大年寄々も手紙ニて当番へ相届越候

四月晦日 晴

一 源五兵衛孫左衛門罷出御巡見ニ付伺書差出ス

一 備中々昨廿九日申ノ下刻出飛脚今申ノ上刻相達し候一件御裁許之事ニ付江戸岡村要助江可差越旨書状相廻シ御用所江申上大目付江申達取計候様与兵衛殿御差図ニ付明朔日朝立ニ而七日切飛脚差立

要助江相廻ス尤備中飛脚者荒増返答認西ノ上刻差返ス

一 材木町正木屋甚右衛門借屋作人伊助縁類ニ付佐々木清見長屋ニ居申候伝助并同人妻母子家内六人引請相応之渡世致させ度相願承り届候

一 西今町住屋弁藏表口三間裏行町二拾五間五步役右家屋敷代銀札六百目ニ相極町内神田屋宇兵衛江壳渡申度願出承届候 五月十四日壳券状出ル

一 東新町から屋新藏家屋敷表口三間半裏行拾七間半役西新町木和屋源兵衛江質入銀札壹貫貳百目申三月切借り受度願出承届候五月八日証文出ル寛政二庚戌年二月十五日相済

五月御月番

御家老永見造酒助殿

大年寄月番

御年寄伊達与兵衛殿

斎藤孫右衛門

大御目付太田舍人

朔日 曇

一 林田町梅屋卯助願元魚町伊丹屋安次郎所持之自国受酒株去ル辰二月廿三月迄私借り受商売致候処猶又来ル戌ノ歳二月迄三ヶ年借り受商売致し度相願承り届候

一夜亥ノ刻孫右衛門罷出三浦備後守殿来ル十一日当所止宿之旨先触  
到来之旨申出ル

五月二日 小雨

一御蔵米九拾七匁米九拾三匁相場書出ル

一備中倉敷方廿九日差立候飛脚罷歸り昨朔日妙願寺も口書相濟候筈  
ニ而左候へハ今日ハ出立も可致積り并仙波門太浅路順次出九大夫  
森本鉄次郎是迄被仰付置候様子書付差出し候様万年七郎右衛門殿  
御申ニ付差出候積之旨下家相廻ス右書面下家共与兵衛殿へ差出し  
且又備後守殿十一日止宿之旨先触到来之段申達候

一備中倉敷申ノ刻妙願寺罷歸り御代官所吟味ニ付答候者此方ニ而  
申上候通り然ル処由緒も無之もの由緒有之旨相願且備中倉<sup>（下）</sup>罷在  
候旨乍承同所江懸合も無之且鉄次郎罷歸り候而備中倉敷人別之も  
のと申義乍承津山役所江も不申出候段不調法之旨被申付候右等申  
訳無之段申達候尤他參止メ被仰付候相尋候処他国へ罷越候事不相  
成旨被申聞候由猶又守助方書状到来九大夫鉄次郎門太順次是迄被  
仰付置候振合今朝申越候通差出候之旨門太義無摺無録之旨先達而  
掛合候義者内談相濟右書付取戻し候旨差返ス即刻右之段与兵衛殿  
舎人江も申達候

五月三日 曇晴 登城

一三階町三保屋弥兵衛借屋家守長兵衛借屋ニ罷在候作人権兵衛横山  
村ニ田地所持致し候処勝手ニ付右村方江引越度人別除願出今日引  
合相濟承り届候 四月分江入

一三寶院御門主御内報昇寺正大先達先触到来之段申出承り置候尤高

倉村石松院迄と有之

一竹田村半兵衛草ヶ部村弥兵衛被盜もの書付舎人より相渡され町触  
申付ル

五月四日 曇小雨

一新魚町野田屋孫三郎妻懷胎難相分断書差出ス  
一船積之儀申出候処拔米有之ニ付晚方改差出可申之処雨天ニ付延引  
其外拔米之吟味手配も及延引候事

五月五日 雨

一船積ニ付晚方又六差出シ瓜生原屋平吉大豆百九拾俵餅米七拾五俵  
一拔米吟味之ため院庄町外レ玉林分レ道塚原組三人目明三人人足兩  
人差越候事

五月六日 曇

一今曉川下ケ之船再改之ため丸渕之下辺へ組三人目明兩人人足兩人  
差添遣ス  
一今津屋伊右衛門大豆六拾五俵福本屋新右衛門大豆百五拾俵和泉屋  
銀兵衛大豆百七拾俵餅米三拾四俵船積見分之ため又六差出ス  
一晩方七ツ過又六玉林辺江目明源八差添候而拔米改之ため差越候  
事

一石松院方へ京都醍醐三寶院御門主御法<sup>〔一〕</sup>用向ニ付正大先達報昇寺  
俊海与申僧上下五人罷越候処宿坊手狭ニ付二階町境屋伊右衛門方  
へ五日之間逗留為致度願書差出ス尤伊右衛門方も改書差出ス  
一戸川町元屋吉兵衛家屋敷表口三間裏行拾弍間半役代銀札六拾目ニ  
相極境町丸龜屋文六へ壳渡申度願出承り届候

〔普通行〕

五月七日

晴

御判物差添大村勘次郎

幸徳一人  
若堂一人

一 関備前守殿御判物通行之旨聞屋々申出候段大年寄申出掃除御先払  
等漸く間ニ合町分無滞通行相済両御方へ手紙ニ而相届ル尤先例之

通御先払内町計り

キヤツ  
ツマツ

一 備中倉敷方飛脚戌ノ刻到来妙願寺印相廻シ相廻候様申来同寺呼  
出し印形請取相廻ス尤寅ノ刻立飛脚差返ス兼役筋有之故便利ニ取  
計

五月八日

晴 登城

一 拔米之義去ル三日比より之義昨日も与兵衛殿へ申達シ昨夜孫右衛  
門方にて吟味申付候吟味書与兵衛殿へ差出猶又林田辺并在分ニも

有之ニ付郡代中相談致し今日預ケ申付置追々吟味之上可申上旨達  
し置候尤拔米致し候もの。聞出し今日預ケ申付候ハ西新町きわや徳  
去ル三日  
去ル三日

四 郎東新町はかね屋惣兵衛同町こと屋善八いつな屋石右衛門吟味  
書差出候者林田町〔間屋和助京町平野屋次兵衛坪井町折屋清次山  
際屋平六三町目浅川屋与七橋本町豊後屋和助西新町菊場屋亀次郎

林田町龍野屋喜助

一 材木町幸助伴佐二十二歳右之者同町ニ有之候哉承り糺候様先日  
舍人被申聞候ニ付大年寄へ申付遂吟味候処無之ニ付其余幸助と申

ものへ名面兩人書出し今日舍人江相渡ス尤上州辺にて右名面之も  
の盜致し召捕有之当町止宿之旨且又真鏡院様御一周忌為御知廻文  
出例之通牢番三間屋組中并町触申付ル

一 備後守殿止宿ニ付例之通取計候様舍人被申聞候旅宿へ見廻ニ罷越  
候間御貸人馬之義申達置候尤勘者へも談置候事

一 西今町鳥羽屋源十郎弟新十郎押入村嘉七後家へ養子ニ差遣度町内

人別除願引合相済申達候

四月分へ入

一 伏見町大工武助方へ原田中村平次郎娘ふミ内縁ニ付養女ニ引請度  
願及御沙汰承り届候

一 御飛脚仕廻ニ付岡村へ去月晦日妙願寺口書相済去ル二日帰り候事  
門大順次九大夫鉄次郎是迄被仰付置候書付差出し候之義門太無扱  
無録之懸合内分ニ相成候段申達候

一 御巡見之義ニ付當時牢舍人名面十六人書付渡部惣右衛門へ相渡ス  
一 御巡見ニ付町方下見分今日郡次并大年寄等申付ル

一 石松院方客僧俊海罷立候段孫右衛門ノ届来ル

五月九日

晴 夜雨

一 高松屋夫兵衛大豆百三俵小麦六俵船積見分権七登八差出ス  
一 三浦備後守殿先番之由東山九左衛門并下役二人到着来ル十一日弥

御止宿之由孫右衛門申出候故与兵衛殿舍人江手紙ニ而申達候尤弥  
相知れ候ハ、申聞候様昨日舍人被申聞候

五月十日

曇

一 三町目古手屋久次郎商売用事ニ付因州鳥取へ十一日立にて三十日  
計り逗留罷越度願大年寄承り届承ル

一 京町美濃屋平五郎越中富山松井屋源兵衛伴伊八吉兵衛伊兵衛与申  
三人反魂丹売昨日来着之旨宿切手差出ス

五月十一日

晴曇夜雨

一 伏見屋茂七御払餅米式百式拾五俵町餅米拾八俵小麦式拾式俵高瀬  
屋勘右衛門大豆拾式俵町大豆七拾八俵船積見分兵助差出ス

一安岡町三右衛門後家娘そめと申者茅町作人佐助へ鎌ニ而手疵負せ候処近辺之者取静め今日者備後守殿通行ニ付指出置候御先弘同町之義故罷越手負介抱申付右女ハ前付ニ致し預ケ申付置候旨申出ル大年寄々も申出外様等も申付候

〔諸通行〕

一備後守殿御止宿ニ付七時立宿藏合孫左衛門方へ罷越暮前本陣玉置源五兵衛方江御着同人案内ニ而御旅宿江為御窺罷出玄関詰片山久治与申仁案内ニ而通り河村金五郎と申仁被出致応対候処別人大須賀金右衛門と申仁被出御出之趣取次を以備後守江申聞候処被入御念段々御役人中被差出用事等も有之候ハ、可申達之旨難在存候御目録金式百疋被下之御目録へキノセ坊主持出ル退出金右衛門玄関式台江下り候ニ付及挨拶玄関敷居際ニ而致辞義合罷帰ル尤立宿ニ暫く扣ル引取与兵衛殿大御目付中江手紙ニ而相届ル

馬口付 箱挑灯二ツ一人御貸人 若堂一人替八 鎗扶箱  
馬二人 一人牢屋中間 七 草子取 合羽箱

御先弘十一日又兵衛善次十二日朝登八權七

馬駅十一日兵助保次十二日善次那次

御使者千本繁士備後守殿御使者隠岐要左衛門御取次一場茂右衛門院庄兼田共御船御供船出ル

五月十二日 晴曇

一大般若ニ付六ツ時登城例之通無滞相済

一昨夜備後守殿御旅宿罷出候義并安岡町そめ一件与兵衛殿へ申達大御目付中同断大御目中付江ハ御目録頂戴之義も申達候

一安岡町三右衛門後家娘そめ晩方呼出し一通り吟味之上牢番預ケ申付候御日柄拝受 茅町作人佐助義ハ疵見分として兵助差遣一札取り夜二人候故旁

罷帰ル医師本道渡部三外治田外尚益様躰書申付差出ス  
一右牢番預ケ申付候段舍人江手紙ニ而申達候尤与兵衛殿江ハ罷越候処門ノ有之候故其儘罷帰ル

一高松屋夫兵衛御藏餅米七拾五俵町餅米壹俵小麦式拾三俵大豆拾四俵船積候ニ付權七見分差出ス

五月十三日 朝曇昼後雨 登城

一京町さかい屋新七方江林田村善七同人妻并悴共三人引請相応之渡世為致度郡代引合相済

一吹屋町金屋次郎左衛門借屋作人忠助同人妻夫婦共去月五日罷出行方不相知候段届出百日尋申付候条今日及御沙汰置候

一今朝登城前与兵衛殿へ罷越安岡町そめ取計之義申上見分一札様躰書ニ通吟味書差出ス御城ニ而被相戻大目付中へ入一覽置候

一瓜生原屋平吉御藏大豆六拾俵町大豆百拾俵餅米壹俵小豆式俵船積ニ付那次見分差出ス

一御藏米九拾九匁五分町米九拾五匁五分相場書出ル  
一美濃職人町与平次夫婦御救ふち去月廿八日と三日分五月と七月迄内貸四拾目請取孫右衛門へ相渡ス

一大守様倍御機嫌能被成御座先月廿八日御參勤為御礼御登城可被成候処御足痛ニ付以御使者被献物首尾能相済来ル十五日為御歡御帳付廻文到来例之通組中牢屋三間屋大年寄へ申達ス

五月十四日 曇折々白雨

一伏見町紙屋茂七昨晚罷帰り候ニ付拔米吟味申付与兵衛殿へ申達シ橋本町豊後屋和助再吟味申付候

一西新町并筒屋善助沖屋庄助東新町わらや与七拔米有之趣ニ付組合預ケ申付候

五月十五日 朝曇夕晴

一先触廻状問屋場々差出内米状去ル十三日口書相濟日々立方付次第出立趣ニ付即刻与兵衛殿へ手紙添為持遣候

一御帳ニ付辰ノ中刻登城

一豊後屋和助再吟味書昨日預ケ之もの三人之義申達置候

一午上刻守助帰着一件引合之者口書并吟味口大意考之趣等即刻与兵衛殿へ申達江戸御留主居岡村要助江委細申遣候七日切飛脚差立候

事

一御蔵米九拾八匁町米九拾四匁相場書出ル

五月十六日 曇小雨

一伏見屋茂七御蔵餅式百俵米屋藤右衛門小豆百式拾俵小麦七拾俵餅米拾式俵船積ニ付見分兵助差出ス

一大豆百五拾俵船積ニ付見分中村善治

五月十七日 昼方晴ル

一雑穀并餅米他江出候儀御免被成候処船積夥數有之人氣も不穩依之拙者存寄を以先ツ津出之儀相見合候様大年寄孫左衛門へ申渡守助申付之

五月十八日 夕立登城

一御蔵米九十七匁町米九十三匁

一備中倉敷方帰着ニ付御用所面謁有之候

米穀

一雑穀并餅米勿論先日他出勝手次第申渡候へとも猶又津出堅停止御

触達御座候様致度相同候処考之通申渡候様与兵衛殿方御下知有之惣町へ触流シ候様孫右衛門へ申渡大御目付士へ相達候守助取計之

五月十九日 雨

五月廿日 晴

一江戸表方飛脚到来大守様益御機嫌能被遊御座去ル八日御老中御連之御奉書到来増上寺火之御番上杉弾正大弼殿御代り立花左近將監殿被仰合御勤仕被遊候様被仰出候段為御知大目付廻状到来組中并牢屋ニ軒屋大年寄江為相知候守助取計之候

五月廿一日 晴

一奈良今并岡嶋源助墨卸二階町美濃屋平五郎宿切手

一出羽守様去ル九日江戸御立被成来ル廿五日土居御泊御城下御通行同廿六日ニ而御座候御積之由然ル処土居騷動致御宿難成趣御断申候趣左候へハ廿五日佐用駒御泊被成翌廿六日津山御泊ニも可相成哉之趣御先番衆中今日通行物語之由大年寄ニも申出差懸候而ハ取計も差支候条聞合差出候様与兵衛殿へ相同候処其通可取計旨被仰聞孫右衛門へ申渡猶又源五兵衛江も御本陣用意相心得候様申渡尤大御目付太田氏へも相達候假役治部助并郡代岸権六へも為相知候

一茅町佐助疵所平癒之段届出ル

五月廿二日 曇

一御蔵米九拾六匁町米九拾貳匁

五月廿三日 晴 出仕

一橋本町豊後屋和助伏見町紙屋茂七正米他領売いたし矢張組合預其

外少々宛売出候者永々預ケ置候而ハ及難義候間預ケ差免禁足申付候様与兵衛殿江相窺候上執計候大御目付士江も相達候

一 東南条郡太田村源兵衛倅儀ハ与申者新魚町うを屋長助養子引取人別入願郡代所へ引合承届ル

一 東南條郡下押入村七郎右衛門倅友藏義新魚町かしの屋茂市養子引取人別入願郡代所引合候而承届ル

一 田渕宇源太長屋七兵衛与申者夫婦とも家内式人中ノ町広戸屋勘助方江引請人別入願差出候付渡辺五左衛門江懸合候処宇源太手前差構無之慥成者之由ニ付承届ル

一 細川丈助長家茂七与申者五十一才妻とわ三十四才同人倅藤吉七才同娘きち四才以上四人鍛冶町拝屋伝兵衛方江引請相願丈助手前引合候処差構無之慥者候由ニ付承届ル

一 東南条郡林田上町喜八借屋太兵衛未三十五才同人妻ふゆ廿三才以上式人上紺屋町灰屋善十郎家守和助縁家ニ付此度引請人別入願ニて郡代所引合之上承届ル

一 播州今市綿屋嘉一郎手代武兵衛伊兵衛伝兵衛三人呉服物売二階町さかい屋伊右衛門宿切手出ス

一 今七ツ半時大年寄孫右衛門源五兵衛罷出申聞候ハ何となく二丁目小倉屋茂兵衛同丁尾高屋善七西新町妹屋平兵衛打潰候よし風聞いたし候段註進申出依之今夜町方手当之儀町々年寄組頭辻固片側行燈出惣側貫抜心を付候様申渡同心組相廻ス御使組加入十五人請取是又相廻ス

一 昨夜出羽守様御止宿聞合之者罷帰候処弥土居駅ニ而御止宿御請い

たし相済来ル廿六日御城下御通行而已之由申出尤御関札之者も参御道中御滞も無御座候由相聞出仕之上今日与兵衛殿へ申上御通行ニ付万端取計御先格之通ニ相同候且又出役御貸人馬之義舎人へ申談候

一 出羽守様御通行ニ付町触先例之通出ス

一 宮川橋筋違橋今町橋立留涼申間敷旨例年之通町触取計

五月廿四日 雨

一 昨夜御静謐之段両御方江相届ル

一 町方昨晚風聞之儀ニ付大年寄始同心組目明とも江も様子承合可申出旨申付置候処不穩取沙汰相聞不申候申出尤今朝与兵衛殿を思召茂被仰聞候へとも差当不穩義も無之候ニ付今夕辻固等相止手組而已町廻申付候様相同候而申付ル尤万々一及狼藉候義も有之候ハ、召捕若手にあまり候ハ、打捨可申旨同心組江及差凶候旨も与兵衛殿江申上候処兼而御触も有之候上者狼藉之場所へ立入候者者誰人たり共用捨無之候事之由被仰聞惣側貫抜も変事方之砌ハ其町を為相知次第閉候而年寄組頭人足召連貫抜江相詰御用之外通路差止申候様申付ル大御目付士へも相達

一 出羽守様去ル九日江戸御発駕御先触状到来人足百七十人継馬三十五疋書面之通手配申付寄馬十三疋郡代所へ被仰渡候様大御目付士へ相達人馬手配申付候段与兵衛殿へ御届申達候

五月廿五日 天氣

一 四月中生死人別出入書上左之通

出生七人男五人 女二人 人別入十三人人別除四人死失七人差引而九人増腹

胎十人

一安岡町三右衛門後家娘并茅町佐助喧嘩一件遂吟味立合大年寄諸吟味奉行所役人相揃出ル

一橋本町豊後屋和助伏見町紙屋茂七津留被候一件遂吟味立会同断

一町方御静謐ニ相聞候条今夕々平日之通ニ致候段与兵衛殿へ申上ル

五月廿六日

一出羽守様御通行ニ付五時出宅立宿山本屋与三七供立先格之通九時

御通行被成先格之場所ニ而御目見申上ル御供頭披露有之為御会釈

金式百疋御目錄添被下置然ル処駒次郎様御同道被成候由御会釈之

義今朝出懸ニ与兵衛殿へ相伺候ニ付出羽守様御行列挨拶人江駒次

郎様御一緒御通行被成候由出羽守様御同様御会釈申上候一緒ニ手

札相渡可申哉と申候処請取可申由ニ付二枚手札相渡候処出羽守様

御駕籠脇江持参又候立戻駒次郎様者出羽守様方御跡ニ而御座候間

御跡江可差出申聞御通行相濟御目錄持参候仁江相尋候処直ニ御跡

江御一緒ニ御通行相濟候段申聞候ニ付立宿ニ扣打分御通行相濟候

註進安岡町々申出引取与兵衛殿委曲御届申上候大目付士江者以手

紙相届ル御先私同心組江も被下物先格之通被下

一因州石井郡大谷村山伏法性院芸州巖島参詣路次ニ而病氣ニ罷成備

後国方送出候由御領分新田村より送来町分無滞送出候

一東新町和氣屋才右衛門禁足申付追而可遂吟味候事

五月廿七日 晴

一安岡町三右衛門後家娘そめ茅町左助喧嘩一件遂吟味

一橋本町豊後屋和助伏見町紙屋茂七米他所者へ拔シ候義ニ付引合組

屋源左衛門車場源藏俱ニ遂吟味立合例之通

五月廿八日 晴 登城

落拾

一西今町金川屋茂吉去ル廿一日夜西大番所前ニ而風呂敷包内ニ衣類有之候処拾イ取候段断書出ス及御沙汰東西橋関貫張紙申付大御目付士へも達

一昨廿六日出羽守様御通行ニ付自分并同心組江被下物御先格之通

ニ御座候旨大御目付舍人へ申達候

一尾州嶋崎神職吉田左右上下三人永見造酒助殿祈禱いたし候ニ付十

五日逗留願堺町西川屋善助十五日加日願

一二階町不動堂表門及大破壱間半北之方へ寄せ建立いたし度且堀覆

修覆等も差加候間御堀足代下シ候旨断書石松院々出寺社方引合之

上承届ル

一右同院不動堂并鎮守前へ来月七日々十四日迄燈明燈し本尊前ニお

いてハ除疫祈禱護摩修行いたし度相願是又引合之上承届ル

一下紺屋町不動院祇園御戸開除疫之祈禱修行いたし度来月七日々十

四日迄相願寺社方引合之上承届ル

一下紺屋町万性院来月八日々十日迄金毘羅除疫之祈禱護摩修行願引

合之上承届ル

一越中富山板屋理兵衛役介伊助重助与申者京町菊屋清左衛門召抱当

年中売葉為仕度相願承届ル

一西今町金川屋茂吉妻出産月取聞違断出此置候様大年寄孫右衛門申

付

一去年十二月十一日万人講残雖十一番取主二階町組屋源左衛門家来

政五郎当役小頭代杉本郡治并郡代下代木村勘八い合相改無相違候  
間銀札式百五拾七匁六分八厘政五郎江相渡去ル十九日書記ニ可有  
之事

五月廿九日 雨 雷

米穀

一諸国米価過分ニ引立候由相聞弥拔ケ米無心元ダリ方之儀与兵衛殿  
相同町触執計候并拔米<sup>レ</sup>之者当分被差添相勤候様元魚町米屋和助  
桶屋町虎屋佐助江申渡尤相勤候内為手当老人扶持遣之出精之品ニ  
ケ余時褒美可遣旨小頭代郡治手前ニ而申渡勤方宜追而増半扶持遣  
候八月八日新穀も最早程納いたし候哉在方々米買ニ参候者も無之  
趣ニ付差免御用番一学殿へ及御沙汰候

六月御月番

月番大年寄

御家老安藤丹後殿

藏合孫左衛門

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付黒田織江

朔日丁酉 晴

一八時安岡町三右衛門後家ろく并娘そめ茅町左助并同人妻まつ遂吟  
味

一橋本町豊後屋和助伏見町紙屋茂七遂吟味候

一東新町和氣屋才右衛門佐良村高尾村ニ而正米買集メ川下山王江差  
出船積いたし候義ニ付遂吟味候同九日呼出右躰之稼致間敷申渡候

六月二日 少白雨

一右豊後屋和助紙屋茂七吟味詰り候間口書申付右引合ニ階町組屋源  
左衛門召仕源藏宮川尻車場ニ而右兩人米拾式俵預置候義ニ付口書  
付候

一御藏米九拾七匁五分町米九拾三匁五分

六月三日 出仕 少白雨

一豊後屋和助紙屋茂七始其外米他所売いたし候者とも一件口書ニ下  
ケ札を以御用番与兵衛殿へ相同置候同八日窺書之通御下知有之候  
去月廿三日夜町方不穩風聞ニ付町々手当申付候節勝間田町出人  
儀同町才治郎右年寄善七郎江対し不礼及不法候上刺悪口いたし候  
段断出依之禁足申付置候処今日宝曆六子七月桶屋町源六右躰之儀  
有之手鎖追込与兵衛殿へ相同大御目付黒田江も達候上申付但取計  
ハ孫左衛門へ申付相濟兩御方江及御届候同十日差免其段御届申達  
候

一久米南条郡一方村権松義ミの職人町うちわ屋金七借屋佐右衛門養  
子引取人別人引合之上承届ル

一因州八上郡米岡村佐五郎娘まつ四国遍路途中ニ而親佐五郎死別れ  
幼年ニ付人足付添相送候依之町分人足老人差出在分送達

一米価格外之高直ニ付物成取之面々別而難義之筋可有之思召右ニ付  
而ハ御手当等も被下度程之思召ニ御座候へ共火之御番臨時過分之  
御入用相嵩不被任思召候一統朝夕之儀迄無油断難取欠義も取欠候  
而令儉約取続候様被仰出

右之趣江戸表御家中へ被仰出候由為心得為御知御座候様御用所被  
申候由大目付触有之組中江も相違候

米穀

一江戸表米価一石三百目余大坂百七十五匁右両都共米屋数件打潰候  
由相聞前代未聞之米価ニ付記置後年之心得ニも可相成哉と被存候  
御当地ハ去年以来津留張弛度ニ中り候哉米価余国ノ賤御下一統安  
穩ニ有之候全太守様御仁徳被為在候故トハ被存候へ共猶當役津留  
張弛考專一ニ可有之事歟後世可恐ニ候へとも田しゆんこふ女之言  
たに不弄と申候へハ爰ニ記置

一来ル八日土用中御機嫌為伺御帳付候間已刻登城候様御奏者番太田  
舍人ノ廻状到来

六月四日 白雨

送物

一因幡国石井郡大谷村山伏法性院右村方へ送達候処其村之者ニ而無  
之尚又送戻候由依之町方無滞在分へ送渡

六月五日 晴

一茅町佐助遂吟味候立合例之通

六月六日 晴

一安岡町三右衛門後家娘御免并相手方茅町佐助吟味口書取極出番一  
組立合例之通

一町方へ取置候俵物質之儀當時津留ニ付其質屋之江酒改之者共へ申  
付入込帳相調書拔大年寄共へ取置候上差引之節誰夫江相渡候段断  
出候へハ大年寄方ノ印形差出夫を以津出いたし候積ニ大年寄共申  
談

六月七日 晴

一御藏米九拾九匁五分町米九拾五匁五分  
一材木町万屋才吉借屋喜兵衛夫婦之者先月十七日出奔断出百日尋申

付候段与兵衛殿へ御届申達候大御目付断

一伯州片入郡未長村甚左衛門播州ニ而相煩明石ノ送出候間当町へ送  
来無恙町分送出

一播州印南郡生石子村次兵衛足痛ニ而伯州米子ノ送出候間当町へ送  
出無恙町分送出候

六月八日 晴 出仕

一土用中御機嫌為窺御帳付

一守屋弥惣右衛門殿当月中旬久世御代官引出立之趣相聞先達而伺  
之通御使者被遣候哉之段与兵衛殿へ申達候御奏者番中へ懸ケ合  
候様御申聞ニ付舍人へ申談候処来ル十三日御使者被遣候趣相究ル  
手代兩人金式百疋ツ、奉文を以遣候様申談候

一豆腐直段只今迄老挺拾七文壳商いたし候処大豆相場高直ニ付十九

一文式文上ケ惣とふ屋願立遂吟味候無余儀趣相聞伺候候  
聞濟候ニ付大目付士へ相達ス

一来ル十二日惇信院様廿七回御忌ニ付泰安寺ニおいて御法養被仰付  
候段為御知有之候右ニ付町方并組中牢屋三軒屋へも相達候

一惇信院様御年回ニ付十里四方座頭替女共御布施頂戴相願与兵衛殿  
へ相同候御聞届被成候大目付士へも相達候

一安岡町三右衛門後家娘そめ茅町左助喧嘩一件吟味詰御裁許相伺候  
同十三日御下知有之同十六日申渡

一山ノ内ニ罷有候盜賊共久世領勝山領申合右小家焼払追立候由ニ而  
勝間田河原ニ小家數罷有候ニ付立際なと御城下働候程難計目明共  
申出依之非人加廻式組申付候様伺候大目付士へも達候

六月九日 晴

一橋本町豊後屋和助伏見町紙屋茂七過料錢式貫文戸ノ申付申出番一組  
大工壱人町棟梁江大年寄ノ申付持夫壱人同断町役ニ而申出又貫六丁  
釘廿本作事方より相廻ル右引合ニ階町組屋源左衛門召仕源藏急度  
叱同十九日差免及御届但出番并大工壱人差越

一林田町龍野屋喜助他領者へ米売渡候ニ付追込申付候同十四日差免  
御届申達候

一西新町沖屋莊助同町木和屋源兵衛同町并筒屋善助東新町飯綱屋石  
右衛門同町菊屋与七同町榎屋善八同町はかね屋惣兵衛右七人自他  
無差別米売候ニ付追込申付候同十四日差免御届申達候

一京町平野屋治兵衛白米他所売いたし去ル辰年も相背候旁追込申付  
候同十四日差免御届申達候

一坪井町山際屋平六同町おり屋清治郎林田町高間屋和介西新町菊場  
屋龜治郎右四人売先不吟味白米売出候ニ付追込申付候同十二日差  
免及御届候

一三丁目浅川屋与七御領内者之由被欺米売候へとも名所等委細相記  
置不念ながら龜略無之ニ付叱置  
右之通取計候上与兵衛殿江御届申達候大目付同断

一津留法度破之者咎候段町中江為相知候猶又御近領江米出買いたし  
其最寄之他領ニおいて直ニ積下り候稼者御城下入米之故障ニ相成  
諸人難義之筋候条自今可令無用旨町触候右之趣類之上取計大目付  
へも達候

一同心組部屋目付福田甚藏義杉本郡治於宅竹内兵助立合番代申渡候

先達而仙波門太浅路唯治牢渡之儀御用所御内意も有之治部助取  
計申付候処甚後聞キ取計之始末不調法之至ニ付番代申付

右執計之趣先達而治部助方与兵衛殿へ御内分申候ニ付猶又御内意  
申候上申付勿論從上始末御吟味等不被仰付義ニ付取計始末御届者  
無之候

一竹内兵助年順ニ付部屋目付役申付杉本郡治立合申渡

一京町南側喜右衛門屋敷地表口式間半裏行十七間但三步役代銀札拾  
匁ニ相極町内岩佐屋善七へ売渡願承届ル同廿四日売券状出ス

六月十日 晴

一泰安寺ニおいて御供養有之候ニ付今夜不動院石松院万松院三ヶ所  
表向懸ケ行燈等之儀者如先格之差留寺社方江も引合候

雜 六月十二日 晴

一惇信院様御供養ニ付辻固メ同心組大番所脇へ差出仲介権七  
一明十三日久世御代官江御使者被遣右手代原此右衛門茂手木大八右  
兩人江先達而三宅藤左衛門一件ニ付内々聞合拙者ノ取計候ニ付金  
式百疋宛被下置奉文取計右御使者持參之御進物宰領へ属候積ニ御  
奏者番舍人江申談候間小勤者吉田文左衛門江右之品為持遣候御使  
者藤堂忠右衛門ニ相越候由御代官衆江之御進物晒言匹御肴一折被  
遣申候由是も右分同様御会釈ニ而候

六月十三日 晴 出仕

一江戸表ニ而五月十八日同廿四日比之迄御府内之米屋とも不残昼  
夜打潰候由上杉弾正大弼殿米車白昼ニ途中ニおいて奪取松平土佐

米穀

守殿御米千俵町方ニ預ケ有之候処是又奪取兵器動さるる乱世之由  
同廿四日御救等之御沙汰有之静ニ相成候由右ニ付当時御城下町人  
氣之様子被為聞度よし書上候様申來書上相認御用席へ差出御披見  
之上江戸表へ相廻ス

一 暑中為御機嫌窺披露状御小納戸迄差出候

一 御米三百俵江戸廻ニ相成候川下之儀勘定奉行中ノ申來御藏元へ申  
付

六月十四日 晴

(貼り紙)  
一 江戸表岡村要助ノ來状去月十五日夜時廻ニ而差出候書状相届右返  
翰即刻与兵衛殿へ差出候

一 久世御代官所手代原此右衛門茂手木代八被下物奉文之御請到來是  
又与兵衛殿へ差出候

雜  
一 播州林田建部内匠頭殿御領分百姓騒動之由同国龍野ノ五頭加勢出  
同州姫路ノ七頭去月十一日被差向候由未治り候哉否相知不申取沙  
汰有之虚実難計候へとも御隣国之義与兵衛殿へ内々相達候処不急  
度立様町方ノ聞合候様被仰聞幸大年寄孫右衛門親類播州朧月ニ有  
之同所ノ林田へ隣草子之義承合遣候様申含候

六月十五日 晴

一 髮結頭小性町善助病死ニ付船頭町伊八江申付

六月十六日 白雨雷少々

才許  
一 八時安岡町三右衛門後家むすめ居町払申渡茅町左助追込申渡  
出番一組右居町払先格他町へ払其町年寄一札取之候処安岡町境ニ  
而払候同町一札取之差出候処先例無之義此已後入念候様申付出番

中村善治又ハ笹岡与三兵衛当分加人ニ而候故不及察度右御裁許申  
渡候段与兵衛殿へ御届申達大目付同断

六月十七日 白雨

雜  
一 今曉播州林田百姓徒党一件聞合之者帰同国新宮迄參承合候処騒立  
候義無相違御加勢姫路酒井雅楽頭殿龍野脇坂淡路守殿乃并野森对  
馬守殿安地小笠原殿山崎本多殿御人数出姫路本徳寺龜山本徳寺両  
院ノ和進人惣百姓へ金子千両を与へ穩ニ成候よし右問合書付与兵  
衛殿へ差出候

(貼り紙)  
一 江戸御留守居岡村要助ノ去ル九日夜中出之御内密用状今暮時相達  
同増兒右門方も同断早速与兵衛殿へ差出ス

六月十八日 少々雨 出仕

一 岡村要助江返書之儀ニ付存寄候趣御用席へ申達候御同意之由ニ  
付晚刻迄下案調次第ニ差出候様与兵衛殿ノ被仰聞夜々中下案指出  
候

六月十九日 晴

一 雲州神門部久村藤十病氣ニ而送ものニ相成町分無恙送出

一 御藏米九拾九匁町米九拾五匁

觸  
一 公儀御触左之通

道中宿々困窮之上此節米穀高直ニ付賄方差支諸家其外往来之内前  
々之振合ニ而旅籠払いたし候輩有之依之米諸色高直之内其勘弁ヲ  
以旅籠払いたし候様被仰出候

一 世上米穀払底ニ付諸人及困窮米穀貯置候ものハ武家寺社町方共ニ  
一統救合之筋ニ而飯米之余慶ハ早々売出候様被仰出候

右之趣従公儀被仰出銘々相慎於御当地御触達之趣相心得候様被仰  
出惣町并組中牢屋三軒屋へも相触候

一下高倉村多左衛門出牢郡代中ノ手形相廻立合同心組差出候

一昨日江戸岡村要助増兒右門ノ御内密用状返翰之義相伺候処御一  
席思召も無之旨ニ付明日立二日五日切仕立御用所々も御用状出三  
浦伴左衛門へ差遣ス

六月廿日 白雨夜又降ル

一御蔵米九十五匁町米九十匁

一戸川町福本屋佐助家屋敷表口三間裏行八間半但式步役也五人組相  
談之上代銀札百目ニ相極鍛冶町江戸屋源治へ売渡願承届ル

一西新町北側谷藏家屋敷表口三間半裏行十七間但半役也五人組相談  
之上代銀札三百目ニ相極中ノ町米沢屋次助江売渡申度相願候ニ付  
承届候七月六日売券状差出ス

六月廿一日 晴

一船頭町瓜生原屋重兵衛病氣為療用当国湯郷跡見仙柳与申医師三十  
日計逗留願承届

一尾州嶋崎高橋伊豆宿境町小鳥屋次郎右衛門

一大坂北久宝寺町菱屋理兵衛手代宇八小間物売宿右同人

一御蔵米九拾壹匁町米八拾貳匁

六月廿二日 白雨

一御蔵米八拾九匁町米八拾五匁

六月廿三日 白雨 出仕

一御蔵米八拾六匁町米八拾貳匁

一同心組石名佐五兵衛病身ニ而久々引込養生いたし候へ共其駿無之  
候依而番代相願無扱趣故承届ル

六月廿四日 雨

一細工町差物屋平治借屋和助林田大隅下にて御蔵切手式枚内一枚ハ  
三斗一枚ハ壹斗式升拾イ取断出但宛所大目付組と有之即刻黒田氏  
へ達候

六月廿五日 白雨

一御蔵米八拾五匁町米八拾壹匁

一細工町和助拾イ切手大目付組大塩和右衛門落候由黒田氏申来御  
定法通四歩一相渡和右衛門へ請取候様可申付旨御用人江及懸ケ合  
候

一盜賊働候趣ニ付外町当分立番いたし内町閑貫入念候様一躰ニ致用  
心候様可相達申付

諸通行

一久世御代官守屋弥惣右衛門殿信州江御越ニ付而所明後廿七日出  
立継馬七匹人足三十人先触ニ通行被致候節御先格通御会釈之儀相  
伺候

六月廿六日 白雨

一茅町左助追込今日伺之上差免兩御方江御届申達候

一未ノ半刻頃北西ノ風烈敷大雨半時計田中川殊之外出水西今町橋危  
ク大年寄共出役いたし罷有候段註進申出可致出役哉と見合候内水  
落候故不罷出猶又御堀掃除仕懸有之候処藻水門へ流寄水堰キ留材  
木町へ溢出家之内へ水入及難儀候段訴出作事方へ申遣ス

六月廿七日 雨

一 五月中生死人別出入左之通書上候

出生八人男式人女六人人別除三人死失拾式人差引而  
八人増懐胎十五人

一 御代官守屋弥惣右衛門殿町方無恙通行先弘善治右相濟兩御方江  
御届申達候

一 伊達与兵衛殿孫女死去遠慮引込被申候

一 小須賀一学殿江戸表と帰着与兵衛殿引込ニ付月番御勤之由織江  
為知手紙到来

六月廿八日 晴 出仕

一 宿式拾五匹被下置候御扶持大豆壹人大豆壹俵ツ、拝借之儀願出例  
年之通相伺候処御聞届被成候ニ付大目付士并御勘定奉行中へも相  
達ス

配当場

一 公方様將軍宣下御祝儀十里四方之座頭暨女頂戴之義配当場と願立  
候ニ付御先例も有之義ニ付一学殿へ相伺候処御聞届ニ而大目付士  
へ相達候

一 当秋安国寺において大会有之候処此節柄ニ付衆僧共大勢寄集扶持  
米等買調候義町方故障等有之間敷哉之旨此間御用番中と御尋被成  
下方承札候処当時ニ而ハ故障之義も無之乍然此已後いヶ様御座候  
哉之程難計当時差留候而ハ故障無之趣一学殿へ申上候

一 銀札式百八拾九匁壹分四厘御堀払除料作事方西村治太夫へ相渡手  
形取置候

一 摂州有馬辻堂茂兵衛墨筆御壳中ノ丁甲屋幸助宿切手出ス

一 西新町并簡屋和兵衛仕来候式歩中買株不勝手ニ付西今町并口屋理

助へ讓渡願承届ル

一 近辺盜賊有之趣ニ付内町関貫番所別而入念候様申付林田六丁西今  
町茅町安岡町当分立番申付其外他所非人追払候様申付右之趣七月  
三日及御沙汰候八月八日外町立番相止ル

七月御月番

月番大年寄

御家老永見造酒助殿

玉置源五兵衛

御年寄伊達与兵衛殿

大御目付平井郷左衛門

朔日丙寅 晴

七月二日 晴

一 錢相庭百七文通用

七月三日 晴 出仕

一 東新町平砂屋兵藏他所へ白米壳渡候義不埒至極ニ付咎之義相伺

追込三日申付但取計大年寄へ申付同六日差免兩御方御届申達候

一 安岡町作人甚右衛門紛多七義絶勘当願書差出伺之上申付大目付士  
へも相断ル

一 白神宮神主秋山典膳方へ去月廿四日夜盜賊這入紛失物有之書付大  
目付士と被相渡町触致候事

一 安国寺大会ニ付東西橋建札之義御聞届御座候よし大目付士と被申  
聞大年寄へ申付

一 勝部村蓮池之蓮葉御払入札之儀町触いたし具候様御郡代所と申来

ル

鑑中へ相達候

七月九日 晴

一 今夜子ノ下刻林田上丁秦邑右衛門家自火一軒焼失町火消出ル即刻  
出馬いたし候処大目付平井郷左衛門且又御郡代中も出馬消留引取  
懸ケ御用番与兵衛殿へ御届申達大御目付士江者組遣相届ル

一 盜賊幸助佐一新藏伊太郎郡代所において被召捕牢舎被申付手形相  
廻立合組忝人差向

一 鍛冶町甚八後家家屋敷北側表口式間裏行拾彦間但半役也五人組相  
談之上町内同職幸吉へ売渡相願承届代銀札四百目也

一 雲州神門郡八日村弥平太与申者娘みよ東新町鍋屋甚右衛門下女ニ  
召抱置去ル七日出産いたし候処産後不相勝死去いたし同人従弟田  
町長家住武八与申者看病として罷越病死之段ハ一同及見罷有候へ  
共雲州親元へ申遣一左右有之候内林田上ノ町浄土真宗淨円寺へ仮  
葬いたし度段斷出先承置社取次中江も及懸合候昨夜取計ニ付今  
日記置

一 橋本町松井屋和七所持候旅籠宿株勝間田町油屋才治郎方へ讓願承  
届ル

七月四日 晴  
七月五日 晴

一 京都出町丹波屋藤兵衛躬喜兵衛四国遍路ニ罷出病氣ニ而上弓削方  
送出町分無恙在郷へ送渡

一 如先規盆中火之元并諸事相慎候様御触書被仰出候ニ付組中并牢屋  
三軒屋へも相達馬見組番人へも申聞候様小頭代江申達

一 林田町年寄かと屋又治病身ニ付役免相願無扱趣ニ付願之通差免候  
右跡役常盤屋丈右衛門江申付候事

一 御藏米八拾三匁町米七拾九匁  
七月十日 晴

一 関東將軍宣下御祝儀今日配當場頂戴相濟書付差出ス

一 去月廿六日夜出之江戸御留守居岡村要助より御用状到来即刻与兵  
衛殿へ差出

七月六日 晴  
七月七日 晴  
七月八日 晴 出仕

七月十一日 晴  
七月十二日 晴

一 宗門帳判取之儀来ル十八日方廿日迄町寺院廿一日方廿三日迄在寺  
院右書付差出寺社取次へ相廻ス

一 銀百四拾三匁五分三厘当春久世行御内用筋ニ候請取  
一 仙波門太浅路唯治再吟味取計口書ニ詰文言書加差出候様江戸表方

〔國貫〕一 盆中三夜九時迄惣町并西大番所脇関貫大扉開置候段与兵衛殿并大  
目付士及御沙汰候

〔殺害〕一 申来今申下刻詮議場出役口書爪印申付立合中奥目付浜田平太夫御  
徒目付荒井安左衛門下目付江田多七出番三人小頭部屋目付

一 来ル十四日盆中ニ付例年之通町廻之儀及御沙汰候御貸人馬之儀大

七月十三日 晴

一門太唯治吟味書昨夜及深更候故今朝江戸返翰共ニ与兵衛殿へ御伺申上候処何之御存寄も無御座候旨被仰聞御一席御披見御差戻今晩仕舞二日五日時廻飛脚差立大御目付士へも申談候

七月十四日 晴

一例年之通七半時出宅町廻罷出五過時相済与兵衛殿へ御届申達大御目付士使を以相届供番那次金藏

七月十五日 晴

七月十六日 晴

七月十七日 晴

七月十八日 晴 出仕

一因州高草郡大森村重治郎女房四国扁路帰相煩送者ニ而町罷通無滞在方へ送渡候

一御藏米八十目町米七十六匁

一玉置卯左衛門備中矢懸宿中西与四郎右衛門方へ十九日立十五日計

逗留願御用席へ相伺候

一二かい町松葉屋市右衛門元うを町福掛屋与四郎去ル十二日夜月行事ニ相当候処無念之義有之過料錢三百文ツ、申付候段御用席へ申上候而申付大目付士へも達候

一京町桶屋勘左衛門御堀端壁繕いたし候ニ付足代下シ申度旨断書出大目付へ相達候而作事方へ及通用候

一下高倉村孫四郎方へ去月廿八日盗人入込紛失品々且又寺元村兵助方へ去月廿六日盗人這入紛失品々町触候様大目付士に被申聞取計候

一下高倉村惣九郎吉見村長藏盗人懸合ニ付入牢被申付候由郡代所方手形相廻立合郡治

七月十九日 夜雷雨

七月廿日 晴

一林田町北側表口四間裏行十六門但半役也五人組相談之上代銀札五百五十目ニ相極西新町川島屋十兵衛売渡申渡かと屋龜藏願承届ル同廿八日売券状出ス

一小性町塩田屋平吉妻出産月取間違断書出叱置候様申渡候

七月廿一日 晴

一無宿周藏与申者盗人於郡代所被召捕入籠手形相廻立合新治出ル

七月廿二日 晴

一御藏米七十八匁町米七拾四匁

七月廿三日 晴

一当六月中生死人別出入左之通書上候  
出生十式人男七人女五人人別入七人人別除十一人死失十五人差引  
七人減シ臍胎式拾壱人

一石州大森御代官川崎平右衛門殿大坂江被相越候由ニ付去廿日立来ル廿五日当町罷通候条先触到来与兵衛殿へ相同道筋払除先払等申付大目付士へも相達

一西新町福富屋安次旅籠宿いたし渡世送然ル処鳥散成者為泊候ニ付以後相嗜候様毎々申付候へ共不聞入不埒ニ付宿株取上五日追込伺之上申付尤組合叱

一東新町槇屋善八米穀他所売いたし咎問もなく又候他所売いたし不

埒之至過料錢老貫文追込五日御用所伺之上申付

一伏見町戸田屋忠三郎安岡町篠屋市右衛門西今町永延屋彦右衛門米

穀他所売いたし候段不埒ニ付追込三日伺之上申付同廿六日差免及御届候

右何れも於大年寄宅小頭部家目付立合ニ付申渡御用番中并大御目

付士へ相届ル

七月廿四日 晴

一御蔵米七十四匁町米七十目

一餅米三百七十俵御廻米川下之儀勘定奉行植木左士右申来ル御蔵元

へ申付

七月廿五日 晴

一石州大森御代官川崎平右衛門殿今夕勝山泊明廿六日津山泊追触到

来御役介一緒ニ被相越候由手広之宿被相望候由ニ而三船八郎右衛

門江申付近町宮脇町上紺屋町福渡町三丁目坪井町火之廻申附通り

町払除申付且又拙者為見廻旅宿へ罷越候先格ニ付其段与兵衛殿へ

相伺候而貸人馬大目付平井郷左衛門へ申達火事之節除場東大信寺

西本源寺是又御同人江申渡候当日翌日同心組兩人ツ、先払申付旅

宿辺立宿夜中相詰大文字付挑灯差出候様申付

一船頭町土橋損し候ニ付繕中渡舟取計候ニ付其段御用番中へ相届ル

大御目付へも相届

七月廿六日 晴

〔諸通行〕一御代官川崎平右衛門殿七ツ半時着夜ニ入案内有之御旅宿へ為御見

廻罷越柴田源藏与申手代挨拶平右衛門殿ニ逢段々丁寧之挨拶有之

退出帰懸与兵衛殿へ御届申置大御目付士以手紙相届立宿川口藤左

衛門但着服繼肩衣供立例之通御使者村瀬常右衛門立宿宮脇町阿賀

屋助治郎先払当日兵助才治明ヶ詰軍治与三兵衛

一左之通上書宿繼御状箱送来即刻坪井駅へ相送ル

出雲国大社 国造北嶋殿 松平和泉守 豊前国宇佐八幡 松 和泉守 稲葉丹後守 宮成太夫 稻 丹後守

国造千家殿 松平右京亮 土井大炊頭 到御中務 土 右京亮 大炊頭

御用物一固從江戸至出雲国大社国造北嶋国造千家所迄急度可相届

候也

天明七未

七月十一日

豊前国宇佐八幡宮へ之御書面同断之文躰略之 右宿中

七月廿七日 晴少夕立

一五時川崎平右衛門殿出立兩御方江及御届候

一諸国造酒之儀去歳も半石造与被仰出候へ共当年も米穀払底ニ付尚

又減少被仰付三步一造ニ被仰出候旨從公儀之御触大目付士右被相

渡大年寄江御書付相渡候

七月廿八日 少白雨 出仕

一御蔵米七拾七匁町米七十三匁

一東新町榎屋善八西新町福富屋安次追込差免御届申達候

七月廿九日 晴少雨

七月晦日 晴

一御蔵米八十匁町米七十七匁

一安岡町神目屋和吉役介齊治去月廿三日出奔断書差出百日尋申付候

八月八日及御沙汰候

八月御月番

御家老安藤丹後殿

御年寄小須賀一学殿

大御目付渡辺惣右衛門

朔日丙申 晴 出仕

一松之間御縁側ニおいて御家安藤丹後殿為御名代調有之候以後類役

一統御用席へ罷出御祝儀申述候

若殿様江御祝儀御附古谷其治を以申上候

一安岡町大黒屋理兵衛伏見町能勢屋源介元魚町豊屋喜兵衛等米穀買込候ニ付町方困窮者共意趣を合候由宮川大橋ニ張文有之よし大年寄差出尤明二日夕仇をなし候由依之一学殿へ申上候

八月二日 晴

雜上筆も

一去ル卯年町騒動之節者為見物大勢罷出妨ニ相成全躰變義之場へ罷出間敷処不埒成事ニ付其節触書出候忘失無之様大年寄場合惣町及演達候同心組加入七人大目付惣右衛門へ申立手組合十五人今夕三ヶ所へ忍差出候様一学殿へ申上思召無之由ニ而右之通手当いたし候処別条無之候ニ付翌三日御用所へ其段申上候

一御蔵米八十四匁町米八十日

八月三日 出仕

一孤独者平次同人妻御救扶持三十九匁四分七厘且又まつさん御救扶持六十九匁五分七厘受取相渡

月番大年寄

斎藤孫右衛門

一仙波門太浅路唯次御裁許書予伺候様被仰渡書差出候

一上紺屋町南側津嶋屋安之丞家屋敷表口五間裏行十四間但半役五人組相談之上代銀札五百匁ニ相究船頭町今津屋伊右衛門へ売渡願差出承届ル同日売券状差出ス

一井伊玄蕃頭様御病氣之処去月十二日御卒去被成候自是昨今明日三日之内鳴物高声御停止被仰出候町方并組中牢屋三軒屋番へも相達候 但昨二日可相記事

變死

一申下刻白雨夜ニ入強雷四五十計戌刻相止然ル処大年寄孫右衛門罷出申聞候ハ林田町豊国屋十右衛門宅へ雷落候処家内一同畏驚何方へ落雷候哉見及茂不致候内上ノ丁庄八与申者通り懸往還ニ何者やらん打倒居候由表口ノ十右衛門へ為知候ニ付十右衛門立出及見候処打倒居候ニ付高声ニ而呼いり候処近辺方皆々出合一同見改候処東新町藁屋与七手代治兵衛与申者ニ而左ノ肩先方背通着物破唇少摺疵有之候得共外ニ疵所等も無之候息も絶々ニ相見即刻与七方へも申遣医師等相招針灸藥療治差加へ候共不相叶及落命全雷声闇ニ而死候様子之段断出依之同心組三船新治原才治差越様子為見候処十右衛門々申出候通無相違相見候間与七方へ引取勝手次第ニ申付尚又与七方も断出候ハ右治兵衛土岐美濃守殿御預分英田郡万前村幸吉伴之由手代ニ召抱親元へ懸合死骸引渡度申出尚又勝手次第ニ申付同五日親類無滞引渡候段断出ル

八月四日 夜雨

諸通行

一雲州御判物俄ニ当町止宿ニ相成同勢多之由ニ而手広之宿申付具候様申来玉置源五兵衛へ申付御先私金藏新治堺町夜中出張候近町火

二筆

之用心申付旅宿当役所下役為見廻御役人井口恵左衛門へ被仰付下宿藏合孫左衛門へ申付夫々案内いたし旅宿へ罷越候処御判物守護役高岡美組と申仁応対段々被為入御念候段帰着出羽守様へ早速可申上旨挨拶有之候旨夜更引取届出ル右之趣一学殿へ御伺之上先格を以取計候大御目付惣右衛門江も申談候

八月五日 雨

一右御判物今朝無滞出立筋違橋迄同心組御先私相勤兵助才治昨今御先私四人へ鳥目式百銅ツ、被下候右相濟候段一学殿へ御届申達大御目付士同断御判物守護役高岡美組佐藤十藏下役渡辺伝五兵衛森田陽介之由

一町方宗門帳奥書印形を以宗門奉行中へ差出候

一わら屋与七手代治兵衛伯父海田村繁八并同従弟万善村岩五郎世話人倉敷村庄吉御当地ニ而親類吹屋町福本屋清六請人橋本町松屋忠助立合繁八岩五郎へ死骸并衣類等引渡相濟候段届書出ス

八月六日 晴ル

一京都伏見海道五条上ル町森下町近江屋勘兵衛小間物御売二かい町さかい屋伊右衛門宿切手出ス

八月七日 晴夜雨

八月八日 白雨 出仕

一御年貢先私之儀御停止之段町触いたし候様例年之通御触書御用所と相渡触達ス

一船頭町土橋繕出来去ル四日通行相始候処届之儀月番孫右衛門失念いたし不調法恐入候段同役孫左衛門を以申出失念候段乍不調法先

此度ハ急度叱自来入念候様可申付哉之段一学殿へ相窺候処思召も無御座旨被仰聞孫左衛門同道罷出候様申達右之趣孫右衛門へ申達一学殿へ御届申達惣右衛門江其段相届ル

八月九日

一定右衛門と申盗人郡代所ニ而被召捕入牢被申付立合新治

一江戸表と飛脚到来大守様益御機嫌克被成御座先月廿八日増上寺火之御番御免被為蒙仰右御代り松平豊後守殿へ御引渡被為濟候旨申来御知せ廻状到来組中并牢屋三軒屋番人江も相知せ猶又大年寄江も知せ候

一御藏米八拾式匁町米七拾八匁

八月十日 雨

一一宮牛馬集候ニ付博奕停止触大年寄へ相渡

一雲州神門郡大津村百姓九兵衛与申者夫婦連ニ而京都日蓮宗本寺参いたし下向路次ニ而右女房相煩東大番所脇行倒伏居候段材木町と訴出大目付構ニ付渡辺惣右衛門へ為知手紙遣ス

八月十一日 雨

一鑑中と見分被差向候処相違も無之間近町と手当取計候様被申聞材木町へ申付近辺ニ而中村易庵療治いたし遣候食物等も同町と遣候

一橋本町黒栗屋娘げん古市兔毛方ニ奉公いたし罷有懐胎ニ相成主人方ニ而致出産候処月取間違ニ付急度叱置候

八月十二日 くもる夜雨

一雲州神門郡大津村行倒九兵衛女房医療加候而も急々全快歩行ニ而

帰国いたし候程難計左候へハ一刻も早く帰国致度相歎候故九兵衛願書爪印取之材木町を差出天明四辰四月廿七日桶屋町を送出之例を以相窺候処一学殿御間濟惣右衛門江も申達新田村へ送渡候尤郡代所へも通用申達候

八月十三日 雨 出仕

諸通行

一御代官早川八郎左衛門殿檢見為御用去ル十日浪都出立久世陣屋へ被相越今十三日津山町泊之旨昨夜先触状到来即刻一学殿へ触状写差出置今日出仕之上先格之通相窺候処追触到来ニ而勝間田泊ニ而津山ハ明十四日通行而已ニ相成猶又其段一学殿へ申上明日町方通筋掃除并同心組先私申付右之趣惣右衛門江も申達触状両度共郡代所江も為相知候事

一船頭町土橋又候損所有之繕申渡昨取計候段断出而御方へ御届申達候然ル処繕間もなく損候段請負無念等有之候而ハ往来之義如何ニ付遂吟味候様大年寄へ申付置

八月十四日 晴

洪水

一昨昼夜大雨夜ハ風強亥刻頃大川宮川共出水之由註進申出即刻大目付渡辺氏へ相達出役いたし候処塩津屋横丁之雁木土俵ニ而堰留不怪出水ニ而堤通惣鉢少々ツハ水乗越船頭町へ水入候へとも此方ハ最早雨やミ申候間格別之義有之間敷被存大年寄共へ委置林田東新町へ罷越候処百間敷上ノ石垣雁木々敷際迄十八間程石垣押流林田玉琳江水先向敷を中ニ挟ミ二タ川ニ相成候故東新町堤下ハ水家ノ軒丈ニ相成西新町曲り迄水入一向様子相知不申怪我人等無覺束

ニ付町へ舟入レ同心組中村善治室并新平兩人舟ニ乘東西新町并地子居之場所迄為相改候処怪我人等も無之様子五六人計二階へ上り居候ニ付舟ニ載せ帰其外玉琳辺迄改候へとも老人も怪我人無之候堤通少々水越候場所ハ堰留候へとも右押流候所ハ一向難相知少々水落候迄見合其内御用番一学殿出水之趣以手紙申上猶又大目付中へも見分有之度段申遣候処惣右衛門出役ニ而見分有之候七時頃水落候ニ付押流候場所ハ瀨踏入候処凡四五尺計石垣押流夜明候迄相見合町人足申付郡代中へも右之段申遣候処出役ニ而在人足も罷出石籠土俵等ニ而堰留九時前引取一学殿へ御届ニ參上委細申上大目付士へ者以手紙相届ル

一昨夜出水ニ而船頭町土橋流失御用番中江御届申達大目付士同断

一七時前頃兼田川明御代官早川八郎左衛門殿当町通行相濟先私同心組兩人差出通り町掃除申付相濟候段両御方へ御届申達候

八月十五日 晴

一加治場ニ而渡舟相始其段両御方へ御届申達候

八月十六日 昼ノ内晴

諸通行

一上野介様御判物從江戸表御在所へ被差越候由差懸当町通行右ニ付先私同心組差出漸間屋場々筋違橋迄御先相勤御朱印守寺尾太郎太夫人御念候段挨拶有之候右之趣一学殿へ御届申上大御目付士へも同断

一出水ニ付加治場舟渡留御届申達  
八月十八日 晴

一加治場舟渡今朝之相始御届申達候

八月廿一日 晴

一東新町川堤此間出水之節押流候場所川除御普請方之儀而役申談之

一若殿様御発駕前御道見分小頭代り大年寄共差出

上相窺候様一学殿より被仰聞候其段大御目付惣右衛門江も申達

一講場見分小頭代り差出郡代下代立合

一西今町桶屋市右衛門梓辰次郎石川左文太ニ付添江戸表へ罷越度来

一町方宗門帳直し出来長沢右源治江為持遣ス

申五月迄逗留相願承届ル

八月廿二日 晴

一二丁目福永屋藤助所持之他国請酒株来申正月迄京町米子屋文次郎

八月廿三日 不正 出仕

貸申度願承届ル

一御蔵米七拾九匁町米七拾五匁

一桶屋町宝錢屋其治借家松尾屋源之丞母子共去ル六日出奔断出百日

一若殿様御発駕ニ付町触大守様御発駕之通ニ而差出大御目付へも対

尋申付

談之上取計候

八月十九日 晴夜雨

一東新町堤流失場所御普請郡代中同道見分罷越先川表石垣出来候様

一茅町土橋破損有之段断出大御目付士へ相達

申付一学殿江も其段申上ル

一七月中生死人別出入左之通

一林田町北側茅野屋伊助家屋鋪表口三間裏行十六間半但半役也五人

出生十四人男子十一人女子三人人別除六人死失三十一

組相談之上代銀札三百目ニ相極同町梅屋卯助へ売渡段相願候ニ

人差引而十九人減胎胎十九人

付承届ル同廿六日売券状出ス

一来ル廿七日八幡宮遷宮有之東西橋建札之義寺社取次中右噂有之大年寄へ申渡

八月廿日 雨

一元橋本町松井屋孫四郎躬与吉去ル六年前寅勘当いたし当時無宿之

一雲州神門郡大池村礼之助当国勝北郡之村送りニ来り町分無滞送渡

者飯綱茶屋辺ニ而出来かたり取不届ニ付召捕吟味中入牢申付尤今

八月廿四日 雨

日御日柄ニ候条牢番預ケ申付

一若殿様来ル廿八日御目見被仰付候御徒以上并大役人已上隠居之面

一大坂玉水町尾張屋七兵衛手代権兵衛御用ニ付御当地へ参京町わた

々肩衣着用辰ノ中刻登城可有之旨御奏者廻状到来

屋源七宿願

一若殿様来月三日御発駕之節大守様御発駕被成候節之通部屋住隠居

一桶屋町大坂屋次郎助所持他国請酒株東新町茶屋武左衛門へ来年中

ニ至迄登城可有之候旨御奏者廻状到来

貸願

一御蔵米七拾六匁五分町米七拾式匁五分

八月廿五日 不正

一 材木町年寄武兵衛改印願之通申付

一 穀川留之儀新穀も入込候ニ付差免候儀一学殿へ相伺候処御聞届被成候惣右衛門へも相達町方へ相触候

八月廿六日 雨

一 元魚町浜本屋利右衛門へ二かい町組屋次左衛門所持他国請酒株来ル十一月迄貸願承届ル

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代勝右衛門腕折敷売京町田戸屋惣十郎宿切手出ス

八月廿七日 雨 出仕

一 若殿様御首途ニ付七間廊下へ罷出御通懸御目見申上候御用席へも罷出恐悦申上候若殿様御附古谷其治を以恐悦申上候

一 越中富山船脇町松井屋源兵衛反魂丹売京町ミの屋平五郎宿切手出ス

一 奈良今井岡島忠兵衛粉庄右衛門墨売宿切手右同人出ス

八月廿八日 晴 出仕

一 松之間ニおいて御奏者ヲ御奏番格迄若殿様御目見被仰付罷出ル番外外小従人格迄組付嫡子子小役人格迄畢而隠居之面々於檜ノ間御徒目付付御徒格迄繼肩衣着用月次次已下小役人麻上下着用

一 若殿様御発駕ニ付出役人馬之儀大御目付へ申達

一 御発駕ニ付火之用心之儀大目付触到来組中牢屋三軒屋へも相達

一 御発駕ニ付京町二階町材木町伏見町御堀石垣草取之義申出大御目付士相達

一 橋本町豊後屋和助所持屋敷地南側表口三間八寸七步式厘裏行十七間但七步五厘役五人組相談之上代銀札六拾目ニ相極林田町大工与

一 播州新在家伊部屋清六塩物鯉節卸売宿中ノ丁甲屋幸助切手出ス

一 西今町山際屋和兵衛所持他国受酒株来酉年迄三ヶ年勝間田町杉屋伊助へ貸渡願

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代勝右衛門与申腕折敷売痢疾相

煩養生不相叶今朝致落命国元親類共へ申遣候得共遠方日数相懸候間其内西寺町本覚寺へ仮埋申度断出寺社取次松岡治部助へ懸合之上翌廿九日承置候段申渡

八月廿九日 晴 九月十一日国元親類共ニ相願候

一 西今町井口屋利助女房七月キ振女子死躰出産吟味申付候処紛敷義無之依而一札取出ス翌月八日御用所へ出ス

九月御月番

御家老永見造酒介殿

大年寄月番

御年寄小須賀一学殿

藏合孫左衛門

大御目付黒田織江

朔日乙丑 晴 出仕

一 若殿様御発駕前ニ付御用席有之候

一 当七月十三日津山仕立飛脚江戸着其節廻ル仙波門太浅路唯治口書万年市十郎殿へ内々岡村要助方差出候処口書存寄之通ニ而宜候旨

挨拶之由先濟口一ト通ニ相成候趣要助方来状同二日御用席へ差出  
御披見後大目付士へも披見ニ入候尤右返翰ハ及相答候

九月二日 晴 出仕

一若殿様御発駕ニ付於御居間御用所并芥子之間御衆中大目付町奉行  
郡代御目見被仰付候但御勘定奉行兩人共病氣ニ而無出仕

一御藏米七拾目町米六拾六匁

一京都烏丸六角下ル丁二文字屋九兵衛手代太助呉服物売京町海老屋  
長右衛門宿切手出ス

九月三日 晴

御参府

一若殿様御発駕ニ付曉七時東新町立宿茂渡藤右衛門方迄罷出辰ノ上  
刻頃御機嫌能御発駕被遊例之場所ニ而御目見申上御附方披露有之  
候引取御用番一学殿江御届参上大目付士江於御城御届申達候尤御  
悦廻勤候事

九月四日 晴

一来ル八日浚明院様御一周忌ニ付於地藏院御供養被仰付候御知せ有  
之組中并牢屋三軒屋番ニも相違町方江者七日ハ八日迄諸事相慎自  
身番申付触書大年寄へ相渡

一御藏米六拾七匁町米六拾三匁

一錢相場百五文通用申出ル

一東新町堤川際御普請積見分岸権六同道罷出ル

一嶋崎周永役介水嶋養春堺町三津屋故三郎借家貸シ候断書承届ル

一筑前遠賀郡柏原浦小平治手代新兵衛瀬戸物売京町田戸屋惣十郎宿

切手出ス

九月五日 晴

一浚明院様御一周忌ニ付十里四方座頭暨女共御布施頂戴之儀申出一  
配当場 学殿へ相伺候処被下置候段被仰渡大御目付士へも相達

一町方買入米或ハ米質取候儀人氣を相同差扣候族も有之趣粗相聞候  
去午閏十月も申達候得共猶又心得違無之様大年寄共演達いたし  
候様申談置右之趣一学殿御噂ニ及置候

九月六日 晴

一久世御代官早川八郎左衛門殿檢見御用巡村有之東吉田昼休当町通  
行掃除并同心組先払申付候尤御用番一学殿へ相伺候上取計大鑑士  
へも達候

一盗人与吉吟味爪印申付候右引合ニ而船頭町馬形和吉吟味取計同八  
日御用所へ差出置

九月七日 晴

九月八日 晴 出仕

一浚明院様御一周忌之御布施十里四方座頭暨女共昨日被下頂戴一札  
差出御用所へ差出大目付士へも出候

一茅町伝吉女房当七月出奔断出百日尋申付御用所へ及御沙汰置大御  
目付士同断

一吹屋い左衛門硝子屋代助御用向有之三木角之進方へ罷出御用承候  
様可申付旨大御目付黒田織江方被申聞即刻申渡

九月九日 晴

一大隅宮祭礼ニ付例年之通警固四人出候軍治兵助善治権七

一御藏米七十匁町米六拾七匁

九月十日 晴

一 大坂心齋橋筋南式丁目小西清藏手代切子

一 三丁目井筒屋弥三郎所持他国受酒株并簡屋喜助へ貸置候処取戻候  
断

一 東新町尻堤損所向八出分川浚受負候儀相望候もの有之候ハ、可申  
出旨惣町へ相触ル

九月十一日 曇ル

一 伏見町南側近江屋和助後家家屋敷表口四間裏行式拾六間但半役也  
五人組相談之上新魚町竹嶋屋七三郎へ代銀札七百目ニ相究売渡申  
度段相願承届ル同十八日売券状出ス

一 石名左五兵衛番代人本沢寿助与申者只今佐久間兵右衛門殿ニ相勤  
罷在此者差出度相願小頭月番真平与兵右衛門殿執権へ懸合候処故  
障無之候ニ付承届候

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代勝右衛門去月廿八日病死ニ付  
仮埋置国元へ申遣候処親類理右衛門七左衛門与申兩人来遠路之儀  
故御当地西寺町本覚寺取置相頼度申之候段断出寺社取次中尚又懸  
合承届ル京町田戸屋惣十郎断之 翌十三日御用所へ申上候  
大目付士同断

九月十二日 晴

一 大般若御祈禱御執行ニ付宇治橋之間へ相詰候畢而御用所へ恐悅申  
上ル御札御供物相廻ル

一 石名寿助目見請之盃出ス小頭部屋目付立合

九月十三日 晴 出仕

一 播州安栗郡中野村平助後家当国久米南条郡西幸村ニ而煩歩行難叶

依之同所より送出候由当町へ参町方無滞送出候

一 備中津宇郡妹尾木綿屋太兵衛手代岩治郎豊表元結木綿売中ノ丁福  
茂屋武助宿切手出ス

一 播州網干新在家かり屋善七手代忠次郎小間物御売宿同人

九月十四日 晴

一 播州網干丸尾屋六三郎荒物塩物御売中ノ丁小山屋与三右衛門宿切  
手出ス

一 右同国同所平松屋宗九郎小間物并晒蠟売宿同人

一 右同国同所余陸屋武兵衛八百屋物并纏節売宿同人

一 来ル廿一日惣生院様十三回御忌ニ付此段為相知候様被仰出候旨廻  
状到来

一切金之儀先年也被仰出候通御定切ハ通用いたし候様又々御触有之  
大目付廻状到来何も町方始支配之者共へも相達

九月十五日 晴

一 林田町北側鍋屋治之助家屋敷表間半裏行十六間半但三步七厘五毛  
役也五人組相談之上代銀札百匁相極同町茅野屋伊介へ売渡申度相  
願承届候同廿三日売券状出ス

一 林田町北側大工与十良家屋敷表口壹間裏行八間式步五厘但壹步式  
厘五毛役也五人組相談之上代銀札六十匁ニ相究茅野屋伊介へ売渡  
申度相願承届ル同廿三日売券状差出

一 桶屋町南側長十郎家屋敷表口五間半裏行十間半但五厘役也五人組  
相談之上代銀札四拾匁ニ相極西今町菱屋市之丞取次ニ而家賃ニ入  
申度本証文出ス

一上紺屋町灰屋善十郎家守和介借家弥五郎并妻粉長吉共家内三人去月廿六日出奔致候段断出百日尋申付

一桶屋町年寄大坂屋治郎助治郎左衛門と改号承届ル

一播州網干余子浜菊屋弥七郎源治郎小間物卸売中ノ丁甲屋幸助宿切手出ス

九月十六日 晴

一御蔵米六拾八匁町米六拾四匁

一坪井町南側草津屋彦助家屋敷表口六間裏行十七間但彦軒役也五人組相談之上三丁目古手屋久治郎取次ニ而來申二月切銀札三貫目家賃入願承届ル尤本証文出ル寛政二戊年極月落

九月十七日 晴

一播州加古川ねし粹細工人九郎兵衛長治郎当十二月迄逗留願

九月十八日 晴 出仕

一徳守宮祭礼ニ付而今夕鍛冶町戸川町宮脇町二階町元魚町上紺屋町細工町関貫夜子刻迄開置候義例年之通及御沙汰候

九月十九日 昼時と雨

一徳守宮祭礼ニ付昨今共誓固差出夜ニ入引取御用番中へ御届申達ス大御目付同断

九月廿日 晴

一昨夜雨強ふり鍛冶場渡舟留御用番中及御届大御目付士同断

九月廿一日 晴

一今朝川明渡舟始候段両御方へ及御届候

九月廿二日 不正

一御蔵米七拾目五分町米六十六匁五分

一信州木曾数原宿古屋善吉木櫛売中ノ丁小山屋与三右衛門宿切手出ス

一播州網干塩屋伊兵衛荒物塩物卸売中ノ丁高尾屋新藏宿切手出ス

九月廿三日 寒

一町方関貫取建料三步銀之内壹貫目町方へ拝借いたし候処追々通り町関貫取建候ニ付五ヶ年之手延相断候御聞届被成候ニ付来ル子年方廿年賦上納候様証文相改勘定所へ差出大御目付士へも達候

一山本与一久々相煩候処差重養生難叶躰ニ相成御役義御免被下置候様願出承置候

一坪井陣屋吉田八右衛門伊藤郡兵衛交代参着郡兵衛ハ帰府之由為挨拶来状及相答

一山本与一養生不叶死去候段届出ル

一茂渡莊右衛門実母病死忌中引込届出ル

一下紺屋町為本屋義平悻伝吉博奕いたし色々異見加候而も不相用御制被下置候様内々相歎昨今召出相糺候船頭町片田屋市右衛門方へ参博奕いたし候旨申之候市右衛門吟味中組合預ケ申付伝吉義ハ手鎖懸置御用番中并大御目付士へも相達ス十月十三日手鎖差免候義 同之上差免候

一山本平右衛門同性与一従弟之由ニ而忌中引込候

一八月中町方生死人別出入書上左之通  
出生五人男三人女式人外壹人死躰 人別入五人入人別除五人死失三十七人差引而三十式人減シ臍胎十三人

九月廿四日 みぞれ雪ふる昼時と晴

九月廿五日 晴

一盜賊与吉牢屋門前において百敵之上御領分追立合御徒目附石垣  
伝太夫目付組彦人小頭部屋目付書役出番式人古城御境目迄送出同  
村庄屋一札取之差出候右相濟御用番中江御届申達候大鑑中同断

九月廿六日 晴

九月廿七日 晴

九月廿八日 晴 出仕

一御用番一学殿御不参ニ付差懸候義者富次郎殿へ可相違差延可相濟  
義ハ来月三日迄差延候様織衛被申聞

九月廿九日 晴

九月卅日 晴

一明朔日被仰渡之儀有之候間四時登城いたし候様大目付廻状到来且  
明日不時御用場有之段為知手紙到来

〔文通〕一久世御代官早川八郎左衛門殿方拙者名宛ニ而来状之趣ハ御同人手  
代小野良四郎と申もの時疫相煩思敷医師無之療治難行届依之当家  
中丸尾道勇療治相頼度尤差合候ハ、増兎右門江相頼度此段拙者方  
相通呉候様来状ニ付即刻御用番一学殿江罷越相伺候処道勇死去右  
門江戸詰之儀ニ候ヘハ其外ニ而ハ川嶋桃庵可然ニ付大御目付士へ  
可被仰渡旨被仰聞猶又八郎左衛門殿へ返翰之義ハ先役鈴木喜右衛  
門久世御代官藤本甚助殿方来書返翰之例を以返書取計候右之趣大  
目付中へも申談

一元魚町伊丹屋安治郎自国請酒株式丁目鍋屋万助借請来申九月商売  
いたし度旨相願候 翌申極月相濟

一播州網干余陸屋惣七八百屋物卸売中ノ丁高尾屋新蔵宿切手出ス  
一摂州大坂島之内大宝町万屋善次郎華足袋するのふ金通売中ノ丁福  
茂屋武助宿切手出ス

一丁紺屋町年寄仁右衛門病身ニ付役免願承届跡役亀屋勘右衛門

十月御月番

御家老安藤丹後殿

月番大年寄

御年寄小須賀一学殿

玉置源五兵衛

大御目付平井郷左衛門

朔日 晴 出仕乙未

〔雜〕一於七間廊下頭分江御用番一学殿被仰渡立合大目付平井郷左衛門御  
右筆佐治勘右衛門左之通御書付続之候

御勝手向兼而御不意ニ付追々歳敷御儉約被仰付依之御家中御擬作  
年々引方被仰付可為難渋之処取続相勤一段之義被思召候然ル〔去  
歳作物不熟ニ而余程之御損毛有之其上御物入多猶又引続増上寺火  
之御番被為蒙仰候処時節悪敷江戸表別ニ而米高直旁以格段之御物入  
差潰大坂表御新借過分ニ相成候ニ付又候歳敷御儉約被仰付候へ共  
御借物も筋付兼候間御家中下地難渋之上弥取続も難相成可有之候  
得共無御扱当未十月方来ル西九月迄兩年一統五歩之増引被仰付候  
此上乍難渋令艱難取続御奉公可相勤候

一大目付郷左衛門方被相渡候御書付左之通

覚

一御勝手方必至御差支ニ付不被得止事御差支ニ付増引被仰出候儀候  
間銘々随分致艱難兩年之内いヶ様共取続御奉公相勤候心得專要ニ  
候尤家内人数多御擬作人別扶持ニも不相当類者其様子ニ寄御評議  
も可有之候事

一御役料附人半渡り 一御手当薬種料半渡り但江戸表御七八只今迄  
之通 一寺社御寄附半渡り 一勤金半渡り 一捨扶持半渡り但老人扶持

〔引〕 一足輕中間昼扶持相止御藏立番者是迄之通 一作事方之儀

ハ無扱場所計御手人切ニ可取計事 一諸御門之事左之通 一裏下  
御門暮六時ハ切明ケ六時分只今迄之通 一裏鉄御門右同断

一冠木御門只今迄之通 一表鉄御門右同断 一二階町御門是迄之  
通 一北口御門暮六時ハ切明六時分只今迄之通 一京町御  
門田町御門只今迄之通

右何茂出火之節只今迄之通相詰無滞様可取計事尤諸組共余時勤方  
ハ大目付差図次第為相勤可申事 一御家中之面々御仏詣ニ不  
及御証月計可致参拜事 一年頭八朔ハ格別五節旬月並等内山下不  
及廻勤事 一諸役所御用日之外出仕相止メ尤差向候儀ハ格別之事

右之通今日ハ諸事相改候以上

十月朔日

一六人扶持ツ、大年寄三人半渡右同断札茂渡庄右衛門川口藤左衛門

茂渡藤右衛門三人扶持妹尾平兵衛山本平右衛門玉置宇左衛門右之

面々於役所申渡三人扶持木屋太兵衛式人扶持塗師勘平右同白銀屋

安兵衛米三俵ツ、御藏元兩人米六俵ツ、人馬問屋兩人右何れも半

渡大年寄於宅申渡撰津国屋みね御扶持方ハ狩野系図差出候義別段

之訳ニ付引無之事鍵屋茂介勘定所ニ而申渡ニ付此方無構

十月二日 雨

一御藏米六拾九匁町米六拾五匁

十月三日 時雨 出仕

一船頭町片田屋市右衛門博奕宿いたし候為咎手鎖追込廿日過料壹貫  
文同組合両隣広嶋屋清七船本屋權右衛門後家当向今津屋伊右衛門

新屋忠次郎月番年寄藤右衛門追込可申付候処永々船留漸此間川明

此節船稼最中之儀ニ付以用捨過料三百文ツ、申付同廿四日市右衛

門手鎖差免候

一下紺屋町為本屋儀平粉伝吉博奕御制之儀相歎父子之儀人情ニ背候  
段不埒之旨叱追込組合月番年寄儀平不埒候処取扱不宜不調法之段

叱置候右一件御用所相同候上今日於役所取計候相濟両御方へ及御  
届候

一万人講拜借道具大目付士申達候

一植木左士勘定奉行本役被仰付候

十月四日 晴

十月五日 晴

一久世御代官早川八郎左衛門殿檢見御用相濟明六日同所出立之由津

山泊ニ相成候段先触到来候旨写大年寄共々差出候処拙者風邪罷在

候ニ付郡代添役松岡治部助諸事相頼一学殿へ同人々相伺早川殿旅

宿江も町奉行代被相勤候咎大目付士江も相達

十月六日 晴

一御代官御旅宿三丁目浜野屋重郎兵衛同町一文字屋同心組式人安岡

諸通行

博奕

町方先払いし同所へ出張近町五町火之用心夜廻申付除場大信寺  
本源寺通行筋払除申付七ツ半時着候由

一先頃早川殿手代小野良四郎重病ニ付医師之儀頼来川嶋桃庵差遣さ  
せ候処日増病人快方ニ向候由ニ付大慶之旨為挨拶来状依而可及相  
答哉之旨不快ニ付以紙面一学殿へ相伺候処思召も無御座返翰遣候  
猶大目付士へも相達候

一久世御代官所手代小野三郎次貝塚五郎藏方来状当月十五日方同晦  
日迄上中下米価付之義申来初早相答候

十月七日 雨  
一今晩早川殿出立御先払兵助新治届出ル両御方へ御届申達候

十月八日 晴 登城  
一下紺屋町為本屋儀平追込今日指免御届申達候

一阿部周益去ル五日病死今日御用所へ申上候尤大目付士へも申達ス  
一来月十八日万人講建札ちらし之儀講元共方窺出及御沙汰候処御聞  
届相濟大目付士へも相達候

十月九日 晴

十月十日 晴

十月十一日 晴

十月十二日 雨

一明日御用日十五日へ御差延之趣大目付方申来ル  
一京町ゆはら屋庄助盗札懸り合周助且又去々巳年盗札手伝候法釈院  
猶又盗人清藏御裁許一学殿へ御窺申置候  
一来ル十五日万人講例年之通諸事取計候様及御沙汰候

一万人講之節鍛冶場土橋無之候へハ前々茂助船差出候処当時今津屋  
伊右衛門請負ニ相成候故増舟之儀申付当日三艘翌日一艘差出候筈  
ニ申付尤舟賃等候義堅無用ニ申付

十月十三日 晴

一若殿様益御機嫌能去月廿八日御着府被遊候段申来恐悦之御事ニ候  
依之為御怡来ル十五日御帳付候間辰中刻方巳中刻迄之内登城候様  
ニ御奏者小嶋新五右衛門方廻状組中牢屋三軒屋并大年寄へ為知候  
一来ル十五日加人揃之上四人供式人ひゝる場四人町廻六人都合十六  
人申立且又出役ニ付御貸人馬之儀大目付士へ申達置候  
一下紺屋町為本屋儀平世悴伝吉手鎖差免両御方江御届申達候尤差免  
之段伺候

十月十四日 晴晚方雨

一御藏米七拾目町米六拾六匁

一今明夕講ニ付惣町関貫開置立番付置候

十月十五日 曉雨風烈夜雪

一万人講ニ付四時出役郡代添役松岡治部助被出御徒目付石垣伝太夫  
目付組小頭平彦人ツ、井口恵左衛門当役所小頭代り中山金藏平不

残加人四人神原庄藏飯田弥作寺坂幸八前原才治

寄札高九千九百九拾式枚此銀札四拾九貫九百六十匁内十四貫九百  
八拾八匁三步ニ引残而三十四貫九百七十式匁五十番ニ割一番壹貫  
九百九拾八匁四分拾番壹貫七百九拾八匁五分六厘廿番同三十番五  
貫九百九十五匁五分四十番壹貫七百九拾八匁五分六厘五十番三貫  
九百九十六匁八分間々三百九十九匁六分八厘以上右興行相濟引取

一学殿へ御届申候大御目付士江以手紙相届ル同十八日寄札高書付御用所へ差出候

十月十六日 雪寒

十月十七日 時雨

十月十八日 晴 出仕

一此間之風烈ニ付牢屋壁矢切吹落候段申出牢番書付大御目付へ差出候

一城州正法寺万人講来ル申酉兩年ニ而十ヶ年相済尚又十ヶ年相願度内分申出然ル処元来寺社修覆之ため有来之儀其段公辺申取候ハ、御手前切ニ興行可相成方ニ御用所ニ而も御存含猶又御発駕前右同様之思召ニも御座候而左門殿御供ニ付御同人申達候様ニとの御意も有之旁其段岡村要助へ懸合可然様一学殿へ被仰聞文通下案を以同大目付士へも談之上書状江戸表へ差越候

一 来月米相庭書諸向へ相廻候扶板差札油紙青繩夫々申達受取候

一 当八月十三日夜大水之節町方へ舟入候ニ付相働候もの共東新町初屋善吉同吉次郎同定吉中ノ丁沢田屋勇介同丁備前屋幸藏西新町倉敷屋長吉右六人へ酒代式匁ツ、遣候様大御目付平井郷左衛門へ相談欠所銀之内へ遣ス

一 若殿様御機嫌能御出府被遊候為御祝儀自他座頭暨女共へ被下右伺相済申渡大目付士へも相達候

一 此間請候節中須賀ニ而百目札膺有之候段向方々差越御役人中へも懸合吟味申付

一 河原町関貫番人去ル十四日夜九時後へ不申不念之段為咎過料三百

文申付候段一学殿へ伺之上申付大目付士へも達

一 吹屋町船頭町林田筋大川堤石垣損所御繕下方歎書ニ役申談候様御用番中へ先日平井郷左衛門江も被仰聞候由右御同人へ申談候上勘定奉行植木左士へ書付渡置

十月十九日 雨

一出雲大社西村神太夫上下三人且廻坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手出ス

一 東新町茶屋武左衛門不勝手ニ付造酒相止申度旨断書出承置候

一 京都中江弥左衛門万人講興行中逗留願書ニ階町境屋伊右衛門差出

一 下紺屋町不動院病氣ニ付為見廻同人兄備前岡山森本院来月上旬迄逗留願

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代新七長佐半次郎茶碗売宿切手出ス

十月廿日 晴夜雨少雷

一 播州姫路西塩町紅粉屋惣助古道具売境町小鳥屋次郎右衛門宿切手出ス

一 御蔵米七拾目五分町米六拾六匁五分

十月廿一日 雨

一 吉野郡五明村文治郎真嶋郡美甘村ニ而相煩歩行難叶送者ニ相成当町無滞送渡候

十月廿二日 雨

一 昨夜々之雨ニ而少々出水鍛冶場渡船留御方へ御届申達候廿二日之書記也

十月廿三日 晴

一 御蔵米七十目町米六拾六匁

一 下田邑川東勘三郎盜賊ニ逢紛失之色品町触取計候尤大御目付与書付被相渡

一 九月中生死人別出入左之通書上候

一 出生十三人男十人女三人人別入六人人別除六人死失三十七人差引

而廿四人減シ懐胎十三人

一 妹尾平兵衛悴平吉妻去ル十八日出産いたし候処出生赤子虚弱ニ而

同日相果吟味申付紛敷義無之条一札取之一学殿へ今日差出候

一 茅町かミ屋伊助当九月十日出奔候段断出定法尋申付候段御用所并

大御目付士へ達置候

一 鍛冶場渡船相始候段両御方へ御届申達候

一 太神楽岡田忠太夫御城下徘徊候段大御目付士へ相届ル

十月廿四日

一 船頭町片田屋市右衛門手鎖差免両御方へ及御届候

十月廿五日

一 西今町下横丁直屋山三郎所持家屋敷表口三間裡行七間半但壹歩式

厘五毛役也代銀札式百目ニ相究大工屋三右衛門へ売渡申度相願承

届ル十一月七日売券状出ス

一 京町加茂屋平左衛門御用宿申付置候処不勝手ニ付相願差免候

十月廿六日 十月廿七日 晴

一 伊達与兵衛殿昨夜御帰着

一 御蔵米六十九匁町米六十五匁

一 御蔵米六十八匁町米六十四匁

十月廿八日 晴

一 東新町富野屋定七借家中村屋源六妻狂氣いたし困窮者永々介抱難行届依之借牢相願及御沙汰承届大目付士へも達

一 林田堤下男非人行倒死御徒目付下目付見分之上取捨之儀申付候様

大目付郷左衛門より差図有之□□へ申付ル夜ニ入相濟翌朝相届ル

十月廿九日 晴

一 御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

十一月御月番

御家老永見造酒介殿

月番大年寄

御年寄伊達与兵衛殿

斎藤孫右衛門

大御目付渡部惣右衛門

朔日 出仕昼時少雨

一 御吉事日ニ付御譜代之面々登城日参御役人出仕被下物無之

一 勝山膝付源太兵衛下村善右衛門南城又左衛門与来状当十月十五日

与晦日迄当地米平均相場書之儀申来調遣候且又例歳相場書相廻候

ニ付志摩守殿与御目録金式百疋被下候右返翰御礼之儀申遣候同八

日大御目付中迄御目録頂戴之趣申達ス

一 久世御代官所貝塚五郎蔵与上中下米相庭書申来差遣候

一 乃井野御預り所福居市郎左衛門津田与一左衛門白櫻儀右衛門上中

下米相庭書申来差遣候

十一月二日 晴

一坪井吉田八右衛門より来状米相庭書之儀申来平均直段付相廻ス  
一西川斎藤六藏米平均直段付差遣ス

一水谷但馬守殿鈴木甚大夫へ米平均直段付相廻江戸屋敷へ相達候ニ  
付御留守居岡村氏へ相遣ス

一錢三拾四箇從銀札場川下裏印之儀山野十郎兵衛より申来調遣ス

十一月三日 少雨 出仕

一去ル卯年町騒動之節狼藉いたし候ニ付御領分追掃ニいたし候喜代  
助立婦町方徘徊いたし難見捨候旨昼廻り届出召捕入牢申付与兵衛  
殿御届申達大御目付同断

一御藏米六拾八匁五分町米六拾四匁五分

十一月四日 晴

一御城米今日より高尾村河岸より積下有之段御郡代所より通用有之番申付  
一久世御代官所手代高田喜太郎より来状船頭町今津屋伊右衛門御藏元  
相勤御米積立候ニ付出火之節手当て之儀申来申付

一京町北側塗師甚六後家家屋敷表口三間裏行拾七間但半役五人組相  
談之上代銀札式百目「」相究同町檜物屋源四郎へ売渡

一東新町北側河内屋仁兵衛後家家屋敷表口式間裏行十七間但四歩役  
五人組相談之上代銀札「」匁相究同町佐伯屋銀藏へ売渡同七日売  
券状出ス

十一月五日 晴

十一月六日 晴

一紀州高野山万性院使僧齋暁上下式人旦廻宿坪井町桔梗屋莊右衛門  
切手

一船頭町土橋出来今より通行相始鍛冶場渡舟相止与兵衛殿へ御届申達  
大御目付同断

十一月七日 晴

一浅路唯治父円藏儀病氣之処今昼相果候段断出去午十二月出牢親類  
へ預置未裁許中之儀仮埋可申付哉之旨与兵衛殿へ相窺候処御聞届  
被成候日那寺妙願寺院内ニ仮埋取計翌八日申出与兵衛殿へ御届申  
達大目付惣右衛門江も相達候但上紺屋町林嘉七後家円藏姉ニ而此  
者方ニ而相果候事

十一月八日 晴 出仕

一五十四艘之舟持共及困窮去午歳拝借米相願候処壹艘ニ付銀札五十  
目宛拜借被仰付当未御登米舟賃米を以可致上納候処当春来諸色高  
直其上津留ニ而船稼一向無之猶又及困窮右上納之儀「」歳御登米舟  
賃ニ而御引取被下置候様舟持惣代相願勘定所相談之上御用所へ相  
伺候処御聞届被成大鑑所江も相達候

一來月五日万人講建札ちらし伺書差出御用所へ及御沙汰候処御聞届  
被成候大鑑所へも相達

一新魚町弓削屋太助妻出産いたし候処月取間違断書出以後入念候様  
叱置

一摂州豊嶋郡池田村自軒町植木屋平兵衛新魚町鳥屋与三兵衛宿切手  
一越中富山向河原町松井屋佐兵衛反魂丹売中ノ丁小山屋与三兵衛宿  
切手出ス

一來正月廿一日誓海院様廿七回御忌ニ付来ル廿一日於泰安寺御茶湯  
被仰付

来正月十四日梅香院様三十三回御忌被為当候ニ付来ル十四日於奉  
安寺御取越御法事被仰付右之趣為御知廻状到来候付惣町自身番申  
付組中并牢屋三軒屋へ相触候様小頭へ申付

一来ル十八日万人講興行ニ付家格下々ニ至迄不参候様被仰出候是又  
組中并牢屋三軒屋へ相触ル

一錢相庭百四文通用立替

十一月九日 晴

十一月十日 雪

一錢五十五箇從銀札場川下裏判調遣ス

一錢相庭九十八文通用立替

一橋本町黒茶屋けん所持之造酒株元魚町伊勢屋長右衛門方へ讓願承

届ル

一二かい町善七妻月取間違断書出以後入念候様叱置

一御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分

十一月十一日 寒

十一月十二日 同

十一月十三日 同 出仕

一錢相庭九十四文通用立替

一御蔵米七拾壹匁町米六拾七匁

一来ル十八日万人講ニ付先月十五日之通取計候様相同御貸人馬加人

等之儀大御目付士へ申達候

配当場

一梅光院様御法事御取越ニ付十里四方座頭暨女御布施頂戴之儀申出  
御用所へ相同御聞届済大御目付士へも達

一昨日夜ニ懸り兵助権七野介代村肝煎四郎并同人弟弁次両人大札  
膺御吟味召補助兩人差遣昨夜召捕無宿平八同断

一天野郡太勘定奉行御蔵奉行山野十郎兵衛銀札場奉行関十治右之通  
被仰出

一昨十一日夜戸川町孫兵衛方ニ而博奕いたし候町家之者共預申付  
追込調之上可申上候様与兵衛殿へ及御沙汰大御目付士同断

一太守様益御機嫌能被成御座先月廿八日御鷹之雁御拜領被成恐悦之  
段申来来ル十五日御怡御帳付候段御奏者小嶋新五右衛門方廻状到  
来

十一月十四日 晴

一梅光院様御法事ニ付西大番所固同心組兩人例之通差出候九時引取

届出ル

十一月十五日 晴 出仕

一御鷹之雁御拜領御怡御帳出仕御用所江も相揃罷出恐悦申述候

一錢相場九十四文通用立替

一嶋屋弥吉札元見習被仰付依之三人扶持被下之旨申渡候様大目付惣

右衛門出席御用番与兵衛殿方被仰渡右ニ付惣右衛門へ苗字門松御

相印之儀被差免哉之段相尋候処追而御沙汰可有御座候被申聞

一東新町因幡屋新七所持之旅人宿屋株町内船本屋兵助へ五ヶ年之内

預候願承届ル

十一月十六日 晴寒

一錢相場九拾六文通用ニ立替

一去ル十三日曉同心組方預置候戸川丁孫兵衛方ニ而博奕参会之もの

共々廿人召出遂吟味孫兵衛ハ手鎖申付置翌十七日御裁許相窺

一新職人町白銀屋岩治家屋鋪南側ニ而表口三間裏行十四間半但本役也五人組相談之上山本屋忠右衛門へ代銀札百目ニ相極壳渡申度旨

相願承届ル十二月十六日壳券状差出ス

一紀州高野山宝蓮院旦那材木町桶屋忠右衛門宿切手

十一月十七日 晴

御書至

一明十八日御判物御城着之旨惣右衛門方申来御通行道筋掃除申付然  
処万人講ニ付可為群集依之同心組御先払四人差出可然申来加人尚  
又申立

十一月十八日 晴

一九月時御判物御城着田中八郎左衛門守護付添可児七左衛門江村市兵  
衛石丸紋吾御先払無滞相動引取届出ル

構

一万人講場出役いたし郡代添役松岡治部助其外例之通出役也御徒目  
付荒井安左衛門

寄札高式万三千八百式枚 但五匁札

此銀札百拾九貫拾匁

内三拾五貫七百三匁三步引

残而八拾三貫三百七匁六十番ニ割

壹番三貫五百七十匁三分拾番式貫三百八十匁式分廿番同断三拾番  
拾四貫式百八拾壹匁式分四十番式貫三百八十匁式分五十番同断六  
十番五貫四百七十四匁四分六厘間々九百五十式匁八厘ツ、

一備前三石清三郎ト申者贖札を以ひゝる相調候ニ付差押申出然ル処  
同国和氣友ト申者ニ被相頼候銀札之由申之和氣へ承合同心組可遣

哉之趣与兵衛殿へ相伺候上善治金藏兩人罷越候様申付大御目付士  
へも達候右ニ付加人式人申立一件落着之儀ハ同廿六日ニ記

十一月十九日 晴

博奕

一戸川町孫兵衛方ニ而博奕いたし候もの咎之儀相伺候処昨日権六被  
仰渡今日左之通取計而御方へ御届申達候

手鎖懸戸ノ過料錢壹貫文 宿 孫兵衛

一ふく渡町松山屋 清助 一ふく渡町 ミなきく屋 甚助

一安岡町 村永屋 甚吉 一坪井町 ひの屋 万治

一上紺屋町 桶屋 孫兵衛 一上紺屋町 たはこ屋 善治

一鍛冶町 か治 熊藏 一鍛冶町 かつら屋 源治

一同丁 か治 幸治 一元うを町 さし屋 門四郎

一下紺屋町 宝珠屋 市六 一同丁 福岡屋 巳之助

一桶屋町 甚治 一二階町 左官 十兵衛

一新魚町 勘兵衛 一材木町 大元屋 伊勢松

一同丁 助左 一西新町 徳兵衛 五七郎

一同丁 徳兵衛

右廿人十二月十日差免候

一孫兵衛北隣福渡屋平吉向両角土佐屋十蔵江戸屋源吉年寄新治郎同  
廿一日差免及御届

一戸ノ貫釘御作事方へ申遣請取大工持夫ハ大年寄へ申遣町棟梁々大  
工差出ス

十一月廿日 晴

一細工町大工太郎兵衛家屋敷表口四間裏行十壹間但半役也五人組相

談之上代銀札五百五拾匁ニ相極中ノ丁藁屋熊吉へ壳渡願承届同廿

六日壳券状差出候

十一月廿一日 曇

一愛岩山長床坊使僧柳意旦廻小姓町ひわ屋茂宿切手

一勢州朝熊嶽明王院使僧宝藏坊休加坊悦中坊義忠坊上下八人日廻右

同人宿切手

十一月廿二日 晴

十一月廿三日 雨 出仕

一十月惣町生死人別出入左之通書上候

出生十七人男六人女十一人外ニ赤子一人七夜之内死人別入三人人

別除五人死失十式人差引而三人増懐胎十六人

一嶋屋弥吉苗字御相印門松被指免候旨大目付出席御用番与兵衛殿被

仰渡奉書を以召出申渡相濟両御方御届申達候

一無宿喜代助立帰候段不届ニ付五十敲御領分追払候様大目付出席御

用番与兵衛殿方被仰渡候

一寒紅梅之実御用ニ候間霜覆等いたし置為差出候様御小性頭小嶋新

五右衛門方被申聞惣町へ相達候様孫右衛門江申付

十一月廿四日 折々雨

一新職人町塗師喜平治病身ニ而年寄役難勤旨相願候ニ付聞届跡役塗

師孫三郎へ申付

一伊勢内宮藤波神主名代松井奎兵衛日廻二階町さかい屋伊右衛門宿

切手

一御留場においてはこ網殺生致間敷旨御触書出ル惣町并組中牢屋三

軒屋相達

十一月廿五日 曇

一公料御廻米積切被成依之郷藏火消差免

十一月廿六日 雪

一来ル廿八日寒氣御機嫌為窺御帳付候段小嶋新五右衛門より廻状到

来

一去ル十八日万人講之節備前三石清三郎与申者贖札四匁正札壹匁合

五匁を以ひゝる買候ニ付差押置申出候ニ付京町源七ト申者客ニ付

宿預申付候上相糺候処同国和氣村友治ト申者ニ被頼候由申之翌十

九日伺之上同心組善治金藏両人和氣へ差越名主孫三郎与申者へ懸

合遂吟味候処友治義ハ右贖札ハ正札ト存途中ニ而壳物致シ候代銀

ニ受取候由申之又候相糺候内右申口ハ偽ニ而実ハ同村鍛冶万兵衛

与申者方富入札組合之義申合四匁同人方請取候銀札之由申之左候

へハ偽申立候段如何と差詰候処御吟味を恐入途中取之由申候段相

答依而万兵衛相糺候処当春壳物致候代物ニ受取正札ト存込罷有何

方共覚不申候旨相答候ニ付名主孫三郎并組頭喜右衛門兩人へ右友

次万兵衛預置善治金藏去ル廿一日夜帰着依而右之趣与兵衛殿へ相

親候処贖札板行持主も未相分儀其役人中へ懸合候而も末々落着之

程無覚束ニ付又候時節相待遂吟味可然趣被仰聞翌廿七日朝立ニ而

善次金藏方和氣村名主孫三郎へ以書状先此度ハ内分ニいたし候間

猶穿鑿も致呉候様頼遣候尤大目付惣右衛門江も申談但清三郎儀ハ

同心組帰着之上三石江差返宿源七差添候様申付候処親類之者内々

罷越同道帰候由申之候由ニ付書付宿源七へ受取置差返ス

一 錢通用百文ニ相場建替

十一月廿七日 雪折々

一 福渡町但馬屋忠右衛門家守忠七借家幾之丞去月十六日出奔之段斷出百日尋申付翌廿八日及御沙汰置

一 江州多賀成就院使僧玄乗坊上下三人日那廻逗留宿切手二階町堺屋

伊右衛門

一 阿州藍玉売例年之通參候旨宿切手出ス船頭町今岡屋淺右衛門

一 鍛冶町から庄右衛門悴繁藏英田郡土居村百姓太兵衛ト申者方へ來ル酉年迄三ヶ年切奉公差遣度段相願承届ル

一 撰州有馬辻堂茂兵衛墨筆御売中ノ丁甲屋幸助宿切手出ス

一 城州正徳寺役僧自深庵二階町堺屋伊右衛門方へ參暫逗留願承届ル

十一月廿八日 曇 出仕

一 寒中御機嫌伺御帳付御奏者謁之事

一 町役人共暮御褒美書付与兵衛殿へ差出

十一月廿九日 晴

一 阿州藍玉売例年之通京町今出屋半兵衛宿切手出ス

十二月御月番

御家老安藤丹後殿

御年寄小須賀一学殿

大御目付黒田織江

朔日 晴 甲午

大年寄月番

藏合孫左衛門

十二月二日 晴

十二月三日 雨 出仕

一來ル五日万人講ニ付諸事先月之通取計可申候旨一学殿へ申達候出役ニ付御貸人馬之儀織江へ申達候加人十七人は又申達

一 馬持共廿五人老人ニ付御扶持大豆之内式俵半ツ、拜借之儀馬持頭共ノ願立候ニ付今日御用番中へ相同候処御聞届被成大目付士へも相達勘定奉行士へも及懸合候

一 札元妹尾平兵衛及老年物覺眼力薄相成御用向無覺束御役免之儀相願勘定奉行郡太対談之上御用番一学殿へ差出候処御請取置被成候

一 大笹村善心寺へ盜賊這入紛失物有之ニ付町触いたし候様色品書付織江へ被相渡触出候

十二月四日 曇

十二月五日 曇少々雨

一 城州正法寺万人講ニ付町奉行郡代添役松岡治部介出役御徒目付河村市兵衛下目付井口恵左衛門同心組十人其外例之通ニ而興行無滯相濟婦懸御用番一学殿へ為御届罷越大目付士ハ手紙届

寄札高八千五百九拾四枚但シ五匁札

此銀札四拾貳貫九百七十匁

内十貳貫八百九十匁三歩引

残而三拾貫七十九匁六十番割

壹番壹貫貳百八拾九匁壹分拾番八百五拾九匁四分廿番同三十番五貫百五拾六匁四分四十番八百五拾九匁四分五十番同六十番壹貫九百七拾六匁六分貳厘間々三百四拾三匁七分五厘ツ、

十二月六日 晴

一 芸州下武川村徳右衛門と申者因州入湯戻道中ニ而致怪我行歩不叶  
播州路々送出候由ニ付当町無滞在分へ送渡候

一 吹屋町孤独まつ下紺屋町さん美濃職人町与平次夫婦御救扶持九拾  
七匁七分八厘孫左衛門へ相渡

一 撰州大坂北久太郎丸屋藤兵衛大工道具壳京町海老屋長右衛門宿切  
手出ス

十二月七日 晴

雜

一 上紺屋町桔梗屋莊右衛門家守作人久右衛門娘さん当未十才罷成然  
ル処昨日四時頃与風罷出行方不相知昨夜中も近在迄所々相尋候而  
も居所相知不申候依之鉦太鼓ニ而尋申度願書差出御用番一学殿相  
伺候処承届候様被仰聞大年寄孫右衛門へ申渡候之処只今金谷村人  
家ニ吟ひ罷有候由申出即刻一学殿へ其段申上相濟

十二月八日

一 西今町山際屋和兵衛下女去ル二日出産いたし候処出生之小兒虚弱

ニ而同日相果遂吟味候処疑敷趣不相聞一札取一学殿へ今日差出候  
同日

一 岡村要助去月廿一日出極御内密用状去ル五日着内々御用番一学  
殿へ差出候御用席へも申參何分隱密相心得可罷有被仰聞今日御  
飛脚便一学殿御存所承候上及相答候

十二月九日 雪

一 藤屋村百姓利右衛門從郡代所入牢立合金藏出ル

一 從銀札場錢三拾箇当川下手形合裡判相渡

十二月十日 晴雪

一 去月十九日咎申付候博奕いたし候者共いつれも呼出差免候御用番  
中江御届申上大御目付同断

一 西今町直屋山三郎今年々造酒相止メ候段断書出承置

一 西新町南側玉屋栄藏家屋鋪表口式間半裏行十七間但半役也五人組  
相談之上代銀札五百八十匁ニ相極同町紙屋幾右衛門へ壳渡願承届  
ル同十八日壳券状出ス

十二月十一日 晴

喧嘩

一 昨夜及深更大年寄孫右衛門罷出申聞候ハ一昨九日晚方材木町竹屋  
勘兵衛借家鏡磨藤屋理七林田東新町辺へ參候処兼而上ノ丁御中間  
庄助悴宇兵衛と申者鏡磨代差引有之由ニ而東新町福富屋安治へ同  
町延屋岩藏參居候而右利七江彼之鏡磨代差引之義挨拶等いたし候  
内相手宇兵衛取合ニ相成安治前後不存義迷惑之段相断候処兩人と  
も同所立出同町岸田屋忠介方へ引連參取合理七ヲ打擲いたしよし  
ニ而罷痛強出今夕甚不相勝死命之程も難計段申出即刻部屋目杉  
本郡治平組彦人差添理七疵所為見分差越候彼是いたし候内夜も明  
今朝及見分候処少々疵所痛も甘候方ニ而正氣ニ相成候趣医師中村  
益庵容鉢書并御医師渡部雪斎申聞候容鉢年寄共書付出取之帰候右  
ニ付延屋岩藏福富屋安治岸田屋忠介大年寄孫左衛門へ吟味申付口  
書出ス相手方御中間庄助盼宇兵衛右頭三浦伴左衛門江及懸合候処  
親庄助へ預申付候由右取計者及晚更候ニ付翌十二日御用番一学殿  
へ申上候

一 吹屋町木屋伝七悴伝吉父伝七当三月四国遍路罷出願日教立候而も  
帰不申候ニ付尋ニ罷出四国遍路廻候而も尋逢不申候ニ付無摺罷帰

尚又路用等才覚之上罷出候ハ、可願出旨承置

十二月十二日 晴

一 御蔵米七拾貳町米六拾八匁

一 中ノ丁西屋治三郎借屋作人半治郎妻子共去月廿一日出奔いたし候

一段断書出定法尋申付同十三日相達置候

十二月十三日 出仕 雨

一 御家中之面々名前之儀御代々様之御幼名遠慮可有之義ニ候得共猶

又心得違無之様演達可有之旨御用所被申候旨大目付廻状到来組中

牢屋三軒屋江も相触ル

一 御蔵米七拾三匁町米六十九匁

十二月十四日 晴

囉嘩

一 鏡磨理七を打擲いたし候庄助当時宇兵衛と相改此者去ル卯年五月

林田村ノ出奔人別除相濟無人別之由ニ付取計方御用番一学殿相同

候処役所ノ手鎖申付親中間庄助へ預ケ置候様御指図依之呼出申付

候大御目付士へも相達候尤御勘定奉行江も及通用候

十二月十五日 雲

一 元魚町西側米屋喜兵衛家屋敷表口式間半裏行十七間但三歩四厘七

毛役也代銀札式百八拾目ニ相究町内豊後屋伝次へ売渡申度旨相願

承届候本証文出ル

一 元魚町西側米屋喜兵衛家屋敷表口式間半裏行十七間但四歩六厘七

毛役也代銀札四百七拾匁ニ相極町内紙屋太兵衛へ売渡申度旨相願

候旨承届候本証文出ル

一 戸川町南側紙屋嘉助持分家屋敷表口式間裏行十七間但四歩役也代

銀札式百匁ニ相極元ウを町稲屋みよへ売渡申度旨相願候ニ付承届  
候同廿三日売券状出ス

一 戸川町紙屋か助借家杉屋茂吉申者先月下旬出奔いたし候段相断  
定法尋申付

變死

一 当春元桶屋町当時無宿か平次盜賊いたし召捕□□□へ預置候処自  
殺いたし候非人とも覺血ニまミれ右覺代相願三覺代十式匁欠所銀  
ノ下渡但大目付織江へ達聞届之上申付

一 鏡磨理七疵所未平癒無之候へ共組合預ケ申付置候

一 先日博奕いたし候者共過料廿人分式百九拾四匁取立相収

十二月十六日 晴曇

一 城州正法寺万人講助力銀九貫目講元共ノ同寺役者月溪庵并中江弥  
左衛門へ相渡濟尤手形差出御用所御披見ニ入

一 上紺屋町桔梗屋莊右衛門家屋敷表口式間裏行拾間但六歩七厘役也

五人組相談之上代銀札九十目ニ相究同町作人平七へ売渡申度旨相

願承届ル同十九日売券状出ス

一 材木町北側大和屋熊藏家屋敷表口式間半裏行十七間但半役也五人

組相談之上伏見町筑後屋安右衛門取次ニ而百目之家質入願届ル同

十八日本証文出ス

一 安岡町車屋理介錦織村伝左衛門方へ去ル巳年相願出職いたし罷有  
当暮願年数相立猶又来ル戌年迄同所ニ而退職いたし度願出承届ル

十二月十七日 晴

十二月十八日 晴 出仕

一 御用番一学殿方左之通大目付出席ニ而被仰渡奉書を以召出小頭代

并大年寄立合ニ而申渡相済両御方へ及御届候

町奉行江

札元妹尾平兵衛儀年罷寄眼力薄相成候ニ付役義難相勤ニ付願之  
通札元役被差免候右平兵衛勤功ニ仍而悴平吉義札元役申付候出  
精可相勤候尤御擬作是迄之通被下候且又平兵衛儀役義無恙相勤  
候ニ付帶刀被差免候

一大目付出席ニ而御用番一学殿方盜賊清藏百敲之上御領分追払親之  
通被仰渡候且又無宿盜人共郡代所之窺有之候分申談取計候様大御  
目付織江方被申聞候

一小性町たはこ屋久米治去月十八日川筋得意者之銀錢受取銀札兩替

いたし不埒ニ付兩替之員数五拾三匁取上追込申付候様一学殿方被

仰渡大目付士へも達取計大年寄へ申付相済両御方御届申達候

一因宗寺村嘉三郎方紛失物町触取計候様大御目付方被申聞取計候

一牢舍人仕着せ物之義相同候処取計候様被仰聞仕着せ申付

一京町小豆屋与平次御堀端塀繕いたし候ニ付御堀へ足代おろし申度

相断大御目付士へ相達候

一伊勢山田大炊太夫名代西佐助日廻二階町塀屋伊右衛門宿切手出ス

一伊勢山田御秘屋四郎太夫名代高井庄吉右同断

一伊勢山田村田三太夫名代高田重藏右同断

十二月十九日 晴

一今六半時牢屋前ニおいて盗人共御裁許左之通取計候立合御徒目付

河村市兵衛目付組彦人小頭代月番中村善治出番杉本郡治竹田兵助

藤森権七中山金藏誑渡書役川端又六

百敲之上御領分追払

盗人 清藏

右同断

同 伊太郎

右同断

同 佐一

右同断

同 和助

百敲之上田部村親類へ

同 周藏

御領分追払

同 周助

鼻そき候上御領分追払

同 幸助

度々立婦依科五十敲追払

盗人 新藏  
無宿 喜代助

右之者共古城御境目外へ追払庄屋為立合一札差出候御月番一学殿

并大目付士御届申達候

一鍛冶町南側忠右衛門家屋敷表口三間半裏行十七間但シ七步役也五

人組相談之上代銀札五百目ニ相究同町鍛冶藤吉へ売渡願承届ル同

廿二日売券状差出

一月迎ニ付町触例歳之通大年寄へ相渡

十二月廿日 晴

一今曉御厩ニ而首縊候者有之早速見付綱を切落シ未及存命依之町医

師申付候様大御目付織江方被申聞即刻北山修斎申付候処罷越診脈

候処氣遣敷趣ニも相見不申候段申出其段織衛へ申遣無程懸參候様

申来罷越候処右首縊候者言舌不相分何方之者共不相知ニ付当役へ

被引渡候段被申聞為請取出番郡治新治御厩へ差向候尤步行難叶ニ

付町人足申付手鎖懸牢屋へ連越牢番へ預置然ル処口舌不最通ニ候

へ共執筆ハ相叶候様子ニ付紙筆相渡候処羽出村文助と相認依之右

村方心当りも候哉之段二階町年寄手前より書状差遣候様大年寄江申付

一去ル五日万人講式番残り札播州網干喜八与申者ニ而請取ニ罷出中

ノ丁小山屋与三右衛門請人ニ而相渡小頭代善治差出

一西新町大坂屋宇兵衛所持之古道具取壳株材木町三家屋幸三郎へ讓渡願承届ル

極月廿一日 晴

一造酒之儀去年才半石造被仰出猶又当未去月三步一造被仰出候処造来之株石数ニ不拘只今迄造候高之内三步一可致酒造旨従公儀被仰出候旨御触書大御目付士方被相渡郡代所江も申談候上町方造酒屋共へ申触候

極月廿二日 少宛雪

一久世御代官所手代貝塚五郎藏方当未歳中錢相場書之儀申来及相答候

一小性町たはこ屋久米治追込指免候

一当十一月人別出入左之通書出候

出生十八人男九人女九人外ニ流産者人人別入廿二人人別除十九人死失十六人差引而五人増贖胎十式人翌廿三日一学殿へ差出ス

極月廿三日 晴れ 出仕

一御蔵米七拾五匁町米七拾壹匁

一石松院兼住所二階町不動堂長家建候儀願出寺社方引合承届ル

一一大目付出席一学殿方被仰渡左之通

役義人物

一役義出精相勤候ニ付

諸吟味

一苗字被差免候

久米屋勘八

一役義出精相勤候ニ付

同

一米三俵被下置候

坪屋藤十郎

一役義出精相勤候ニ付

問屋目付

一御相印門松被差免候

豊屋喜左衛門

一御相印門松被差免ル

白銀屋安兵衛

一右四人之者大年寄へ奉書差越召出申渡而御方へ御届申達候

一四拾貫式百六拾目三分式厘当未歳万人講三会三歩銀納証文奥印を以御金蔵江相收受取証取御用筆筒江入置候

一同心組室并真平病身ニ罷成奉公難相勤番代願差出承届候

極月廿四日 晴

雜

一此間御厩ニ而首給候羽出村文助右村方申遣候処親庄助并組合兩人

二階町年寄方江一昨晚罷越庄助申聞候ハ去ル十九日初夜頃不斗罷出行方不相知心懸り之所ニ相尋候へ共不相知候処庄屋方へ為御知

ニ付早速罷越候旨ニ付何角承候処相違無趣ニ候へ共名面丈助と申候由依之当人江相尋候処文助与申候得共三四年以前々狂氣いたし

其後丈助と相改候由其外双方申分も符合いたし右庄助請取申度并書等差出昨日御用番一学殿江相伺候処乱心ニ而一向内山下へ這入

右躰ニおよひ候義も不覚病氣之儀聊咎方も無之事ニ付相違も無之候ハ、一札取相渡可然被仰聞二階町年寄手前へ一札取今日引渡一

学殿江御届申達大御目付士同断

一室并真平番代人近藤伊左衛門家来安井重助と申者相願承届ル

一福田甚蔵番代人渡部惣右衛門家来日下門治と申者相願承届ル何れ

も主人方へ引合候処差構無之候ニ付申付

一西川斎藤六藏方通谷紙千枚被相送候

一朝鮮種人參御壳弘之儀紛敷義も有之候ニ付極印被仰付猶又直段付を以求安様被成度段公儀御触有之候同廿六日組中并惣町江相触候事

極月廿五日 晴

極月廿六日 晴

一坪井吉田八右衛門方来状寒中為見廻鯉節二十被相送候

極月廿七日 晴

一夜半頃江戸岡村要助方急御用状到来即刻御用番一学殿へ差出候

極月廿八日 晴朝雪

殺害  
案死

一大目付出席御用番一学殿被仰渡左之通

仙波門太浅路唯治出九太夫森本鉄治郎今般公辺御吟味ニ相成

候ニ付来正月下旬迄ニ江戸表へ差出候右ニ付出府被仰付候方

事引受可取計候

一戸川町藤右衛門并町役人右同断公辺御吟味ニ付江戸表へ差出候様

可申付旨大目付退座之上一学殿方被仰渡大年寄へ其段申渡候尤此

者共ニ差添無之事

一道中同心組十人目付組式人被差添候旨ニ付手組ニ而四人竹内兵助

三船新治中山金藏小野田門治申付六人使組方差遣候様申談笹岡与

三兵衛加藤五郎八前原才次渡部忠藏河村久藏神原庄藏被申付

一公辺御差出ニ相成候趣備中倉敷役所へ飛脚差越候文段ハ別帳ニ有

尤一学殿へ相伺候

一とふ丸籠式つ申付ル

一右御指出ニ付中奥目付柴山重治御医師村山三立弘方吉村周助御徒

目付河村市兵衛

一札元妹尾平吉親名平兵衛と改平兵衛ハ宗治ト改度願出及御沙汰承

届ル

一御藏米七拾七匁五分町米七拾三匁五分

極月廿九日 晴

一播州福沢村元山伏当時無宿先達厩札手伝いたしつゝも以御憐愍出

牢之上御領分追払同之通昨日被仰出今日取計両御方へ御届申達候

一京町ゆはら屋庄助妻ニ宮村久治与申者娘ニいたし候ニ付郡代中へ

懸合之上右久治へ預置申候此段此間伺候相濟今日取計

一作事中間元相勤町払ニ相成候喜八徘徊被差免同人母安岡町ニ罷在

呼出申渡

一元使組川端喜六徘徊被差免親類ニ階町もめん屋伊助呼出申渡候

極月晦日 雨

未正月ヨリ人別出入

(中表紙)

未正月 人別入

- 一元魚町磯屋利兵衛借屋江川合豊之助長屋市右衛門家内七人引請
- 一元魚町加茂屋長七方江小沢又右衛門長屋室井作右衛門家内四人引請

同月 人別除

- 一京町筆屋六郎兵衛幸助本多左門殿へ出入奉公差遣度人別除
- 一東新町岸根屋伊八借屋作人久米次郎去午十月出奔人別除
- 一茅町熊野屋源八同人弟万吉右両人去午十月出奔致し人別除
- 一小性町作人庄助倅庄吉御厩中間被召抱人別除
- 一安岡町尾上屋久平家内四人広原庄屋伊兵衛方江引越人別除

〆九人

二月 人別入

- 一新職人町坂本屋政次郎方へ足山村九兵衛引請
- 一細工町大工勘六吉田喜助長屋伊助并母二人引請
- 一戸川町打穴屋長七倅種村と妻引請
- 一茅町坂本屋佐助方へ松田縫ひ屋敷七助妻倅三人引請
- 一茅町作人善吉田熊次兵衛娘妻ニ引請
- 一二階町丸尾屋長兵衛方へ海老原助一長屋宇助引請
- 一京町阿わ屋龜太郎小嶋新五右衛門暇ニ付帰住
- 一元魚町作人仁助方へ田中郡藏家来文吉引請
- 一茅町玉嶋屋八十七方へ上ノ町作人惣吉妻倅三人引請
- 一坪井町小嶋屋平右衛門方へ備前益原村と養子引請

〆拾五人

二月 人別除

- 一京町辻屋五三郎家内三人倉敷へ引越

- 一下紺屋町作人龜之助借屋安兵衛家内六人村山三立江引越
- 一安岡町村永屋恵助方と四人佐用江引越

- 一戸川町新内倅多三郎黒田右近江出入奉公

- 一東新町嶋屋十兵衛役介長七并娘林田上ノ町へ兩人引越
- 一安岡町はりま屋利八借屋重吉出奔人別除

- 一元魚町朝屋太助倅義助大坂へ養子引越

〆拾八人

三月 人別入

- 一東新町橋本屋後家相統御家老組山本茂次右衛門娘引請
- 一二町目林田屋又次郎父中村庄右衛門を引請
- 一東新町久米屋伊兵衛中北下村善六引請
- 一東新町平と屋兵藏宮尾村重助娘妻ニ引請 享和元 西六月 三日人別除済
- 一林田町作人長七御城代組井汲甚右衛門渡り屋敷伊助を引請
- 一茅町鉄山屋六太郎妹倅二ノ宮勘次郎と離縁ニ付帰ル
- 一美濃職人町常盤屋善兵衛蓮光寺家来婦夫もの引請
- 一二階町作人弥兵衛方へ林田村三次郎を引請
- 一戸川町東屋藤七方江太田村直次後家内六人引請
- 一新魚町乙八姪山北村喜七方と離縁帰住
- 一茅町坂本屋佐助下原村新助娘倅妻子ニ引請

〆十九人

三月 人別除

- 一元魚町福永屋幸三郎借屋其吉小嶋新五右衛門出入奉公

一 上紺屋町河本屋吉兵衛借屋喜助御殿中間召抱  
一 上紺屋町新兵衛林田鍛冶伝四郎へ養子掣引越

一 福渡町阿ワ屋借屋文助妻倅三人川崎外内長屋へ引越

一 中ノ町広戸屋伊右衛門倅伊之助御手廻り被召抱

一 新魚町市郎右衛門借屋喜八御手廻りニ被召抱

一 新職人町作人清八妙願寺江引越

一 新魚町佐次郎午十一月出奔百日探人別除

一 西新町善兵衛親子兩人林田上ノ町清六方へ引越

一 中ノ町松田屋治助借屋伊勢松林田村勘吉引請

一 京町味噌屋清六兵衛夫婦子五人山北村善左衛門引請

ノ十八人

#### 四月 人別入

一 福渡町忠助方金田伊右衛門長屋儀平を引請

一 京町河内屋孫平方へ本多左門殿長屋国と申女ヲ引請

一 材木町車屋源兵衛方江久世村親類篤五郎引請

一 安岡町岡屋忠七方江小嶋次三郎長屋治助夫婦引請

一 伏見町小田屋伊平次備中宮地村柳吉養子ニ引請

一 西新町大黒屋藤藏方へ備前鉤井村文吉を引請 同七月  
本証文出ス

一 材木町作人伊助方へ佐々木清見長屋伝助家内六人引請

#### 四月 人別除

一 三町目原田屋長兵衛倅龜次郎蓮尺村弥右衛門方へ養子ニ遣ス

一 二階町作人権兵衛横山村江引越

一 西今町新十郎押入村喜七後家へ養子ニ遣ス

一 鍛冶町中田屋甚兵衛娘小田中村与平次方へ引越  
五月 人別入

一 伏見町大工武助方へ原田中村平次郎娘引請

一 京町境屋新七方へ林田村善七妻倅三人共引請

一 東南条郡太田村源兵衛粉儀八新魚町うを屋長助養子人別入

一 右同郡下押入村七郎右衛門粉友藏新魚町檜野屋茂一養子人別入

一 田淵宇源太長屋七兵衛并同人妻中ノ町広戸屋勘助方へ人別入

一 細川丈助長屋茂七家内四人鍛冶町拜屋伝兵衛方人別入

一 東南条郡林田上ノ町喜八借家太兵衛并同人女房上紺屋町灰屋善十郎家守和助方へ引取人別入

一 久米南条郡一方村猿松美濃職人町佐右衛門方江引請人別入

一 川崎登内長屋多助同人母共兩人福渡町弁吉方へ引請人別入

#### 五月 人別除

一 小性町作人安次借屋ニ罷在候庄助同人妻倅家内三人当正月十一日出奔二月八日百日尋申付置候処人別除

#### 未六月

一 東南条郡林田村長七倅治助戸川町左吉引受人別入

一 下目付田下繁右衛門地子居半治郎夫婦ニ子供式人ノ四人中ノ町桶屋勘九郎方へ人別入

一 伏見町倉敷屋孫三郎倅忠藏同心組竹内兵助方江引取人別除

一 二階町油屋八郎右衛門娘森対馬守殿御預り所倉敷入田屋佐七郎養女ニ遣置候処離縁いたし罷帰候得共八郎右衛門先達而出奔除帳然

ル処玉置源五兵衛姪ニ而御座候間同人方へ引取人別入

一 東新町かち新藏借家松本屋源七夫婦孫共ニ三人太田村持屋敷へ引越人別除但六月廿二日引合

一 林田町鍋屋治兵衛借屋宗七御城代組前原十助地子屋敷へ引越人別除願承届ル

一 久米南条郡一方村猿松美濃職人町団屋金七方へ引越人別入

一 安岡町作人甚右衛門紛多七義絶勘当人別除六月七日本証文出す

一 東南条郡太田村源兵衛紛富藏福渡町松山屋岩右衛門養子引取人別入七月三日引合

未七月

一 東南条郡林田村幸吉夫婦二人之者東新町鍛冶新藏借家へ引越人別入三日引合

一 右同郡同村弥七俵庄吉当未式拾四歳同人妻よね十七歳二階町茂渡庄右衛門家守孫兵衛借家笠屋安右衛門方へ引取人別入

一 林田町門屋又治并同人妻共ニ海老原又吉家来ニ被召抱人別除

一 戸川町赤崎屋文四郎借家藤藏当二月出奔人別除相願及御沙汰差離候

一 戸川町伝三郎借家七助家内三人鉄炮町松田給治屋敷へ引移人別除

未八月

一 林田町豊国屋十右衛門借屋長兵衛広川義左衛門長屋へ引越人別除  
一 新魚町かち屋助七借屋嘉助俵字之助兼而不所存者打寄異見加候而も不相用剩家出いたし居所不相知依之義絶勘当相願御用所へ申上承届ル八日取計

一 乃井野御預り所吉野郡粟井村浄助与申者娘山本平右衛門引受人別入十八日御断申上候

一 中ノ丁玉野屋藤十郎紛龜右衛門戸川龜助与改号伊達与兵衛殿へ出入奉公人別除

一 ミの職人町常盤屋善兵衛役介幸吉并同人妻東南条郡林田村佐右衛門借屋へ引越人別除

一 一宮村西山方儀右衛門当未五十才同人妻同人紛娘ノ四人元うを町河内屋与七方へ人別入廿八日引合

九月

一 近藤伊左衛門長屋勇八并同人女房共ニ中ノ丁檜物屋伝助方引受人別入

一 京町菊屋清左衛門娘儀乃井野御預り所英田郡倉敷村橙屋恵佐妻ニ遣人別除十八日申上ル

一 材木町万屋才吉家守清兵衛借家喜兵衛夫婦とも当五月出奔人別除  
一 吹屋町金屋治郎左衛門借屋作人忠介夫婦先達而出奔人別除

一 宮脇町松野屋伝助嫁離縁院庄村伊助方へ指帰候人別除

一 中ノ町坂原屋甚兵衛借屋へ林田上ノ丁作人岩次郎家内四人引請人別入

十月

一 坪井町浜屋五左衛門娘たミ方へ東南条郡押入下村七郎左衛門俵源十郎養子ニ引請人別入

(貼り紙)

一 東新町久本屋新兵衛俵吉妻ニ宗永寺長屋佐右衛門娘引取人別入  
一 富沢良藏長屋庄七中ノ丁檜物屋伝助方へ人別入

一ミの職人町作人伝右衛門役介七郎右衛門家内三人打穴村六兵衛方へ引越

十一月

一西今町田丸屋何平倅文助真嶋郡垂水村大福屋徳藏養子ニ相望指遣度人別除願 三日相断

一備前赤坂郡是里村幸助娘堺町阿部川屋源左衛門妻ニいたし置候処此度離縁人別除 三日相断中上候

一酒井雅楽頭殿御領分播州印南郡魚崎村十右衛門從弟源吉元うを町とよ屋喜兵衛由緒ニ付引取養子 本証文出ル

一材木町万屋才吉家守清兵衛借家さよ并同人娘共仙石鉄之助殿御領分勝南郡金井村権四郎妻ニ差越人別除 十三日

一水谷信濃守殿御知行備中阿賀郡小坂部村権八倅吉兵衛東新町紺屋十次郎方へ引受人別入同廿六日住宅証文出ス

一雲州大原郡飯田村庄八倅喜兵衛東新町十三郎後家方へ引取人別入十二月六日住宅証文出ル

一東南条郡林田村兼先和助家内六人二階町木屋太兵衛方へ引受人別入

一下紺屋町亀之助借家乙治家内六人大橋十太夫殿長屋へ引越人別除

一安岡町明石屋源六孫永治林田村鍛冶伝助方へ引越人別除

一中ノ丁玉野屋藤十郎倅亀右衛門伊達与兵衛殿へ奉公いたし先達而人別指離候処此度暇被出候ニ付人別入

一御使組福嶋佐長次男熊吉中ノ丁藁屋文次郎方へ引請人別入 廿三日

一坪井町浜屋五右衛門娘養子ニ下押入村七郎右衛門倅源十郎賞請人 廿三日

別入引合相済申渡

一土井大炊頭殿御領分久米南条郡下弓削村弥七役介平吉与申者安岡町福吉屋長八方へ引請人別入 十二月廿日本証文出ル

一東新町か治六右衛門借家幸助家内四人土岐老之助殿御領分小原村松右衛門方へ引越人別除廿三日

一安岡町神目屋和吉役介弁治先達出奔人別除 廿三日

一海老原又吉ノ下人長左衛門并同人妻共ニ式人桶屋町木挽平兵衛方人別入 七月八日

一備前国磐梨郡田原村彦四郎娘東新町わた屋忠兵衛嫁ニ引取人別入 同日

一雲州大原郡二王村長右衛門躬善三郎夫婦共中ノ丁玉野藤十郎方引受式人共人別入

一二かい町ニ而豊屋喜左衛門借家鉄炮屋斎吉河野良助与相改北郷門兵衛方へ出入奉公ニ出候ニ付人別除

一永見造酒介殿組松井市右衛門娘堺町安部川屋源左衛門妻ニ引取人別入

一東新町野村屋忠介躬忠藏割場中間奉公ニ出候ニ付人別除

一橋本町喜八借屋佐吉広原村喜助後家方へ引越人別除十三日引合

一茅町作人宗助借屋伝吉女房当七月出奔いたし人別離十三日御断出候

一林田町鍋屋治之助借屋平七御中間ニ被召抱人別除

一御領分粉山村九郎右衛門倅新八戸川町文次郎方へ引請人別入

一院庄村善吉後家くら并娘べん京町味噌屋広松借家平五郎方へ引請 廿三日

人別入

一 東新町加治六右衛門倅喜一夫婦共林田兼先久米吉方へ引越人別除  
十八日引合

一 桶屋町宝珠屋其治借屋松尾屋源之丞母子共当八月出奔人別除十八  
日御断申上候

一 三浦志摩守殿御領分真嶋郡高屋村三治郎娘新職人町松野屋十吉養  
女人別入十八日御断申上候

一 備前和氣郡矢田村龜右衛門娘新魚町姫路屋彦兵衛娘引取人別入廿  
三日同断

一 備前和氣郡龍ヶ鼻村長右衛門倅藤右衛門林田町舛屋新助後家養子  
引取人別入廿三日同断

一 西々条郡古川村坂手元仲後家倅馬之助福渡町植月友輔養子人別入  
一 東新町あたらし屋源助借家又七井同人妻共ニ林田村文助方へ引越  
人別除引合濟廿六日

一 東新町加治治左衛門倅伝吉家内三人林田村長助方へ引越人別除  
引合濟同日

一 上紺屋町灰屋善十郎借屋守和助支配弥五郎家内三人共当九月出奔  
人別除廿八日同断

一 西今町直屋善吉役介齋治内藤山城守殿御領分坪井村貞清軍太養子  
ニ遣人別除同日同断

津山郷土博物館紀要第十六号

津山松平藩町奉行日記十一

平成十五年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地  
美成

印刷 岡山県津山市平福一七七―二

